

千歳市  
祝梅川上田遺跡(2)

千歳市  
祝梅川上田遺跡(2)

— 道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書 —

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書  
第300集  
平成24年度

平成24年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

千歳市

# 祝梅川上田遺跡(2)

— 道央圏連絡道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成24年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



UHD-43 鉄斧出土状況



UHP-17 炭化木製品出土状況



古銭出土状況 (S-41区)



土層断面



UHD-40 鎌・鋤・磔出土状況



GP-1 青磁平皿 (内面)



GP-1 青磁平皿 (外面)



UHD-50 漆塗碗



GP-1 漆塗碗



UHP-15 鉄鍋

# 例 言

1. 本書は、国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部が行う道央圏連絡道路工事に伴い、財団法人 北海道埋蔵文化財センター（平成24年度から「公益財団法人」）が平成20（2008）年度に実施した、千歳市祝梅川上田遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書（『千歳市 祝梅川上田遺跡（2）』北理調報300）である。

なお、南側は平成18（2006）年度に調査し『千歳市 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡』（北理調報238）を刊行している。

2. 本書の執筆は付篇を除き、三浦正人・越田雅司・愛場和人・末光正卓・広田良成が分担し、文責は各項目の末尾に括弧で示した。編集は末光が行った。
3. 写真撮影は、現場写真は各担当者が行い、報告書掲載遺物の撮影は菊池慈人が行った。

4. 自然科学的分析の内容と委託先機関は、次のとおりである。

水洗選別微細遺物について：株式会社 バレオ・ラボ（平成18年度）

黒曜石産地推定：株式会社 バレオ・ラボ（平成18・20年度）

放射性炭素年代測定：株式会社 加速器分析研究所（平成20年度）

5. 本調査の概要報告は、平成20（2008）年度に当センターが刊行した『調査年報21』があるが、検討・修正を経ているため、本報告書の内容を優先する。

6. 調査・報告にあたり、下記の諸機関及び各氏から御指導・御協力をいただいた。

（順不同・敬称略）

北海道教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課 千歳市教育委員会埋蔵文化財センター

恵庭市郷土資料館 厚真町教育委員会 苫小牧市博物館

千歳市教育委員会：大谷敏三（当時）・田村俊之（当時）・高橋 理・豊田宏良・松田淳子

久原直利

恵庭市教育委員会：松谷純一（当時）・上屋真一・森 秀之・長町章弘・大林千春

厚真町教育委員会：乾 哲也・奈良智法・小野哲也（現 標津町ポー川史跡自然公園）

平取町教育委員会：森岡健治

新ひだか町教育委員会：葦中剛司

札幌市埋蔵文化財センター：仙庭伸久 柏木大延

北海道北方博物館交流協会：野村 崇

奈良大学文学部文化財学科：植野浩三

早稲田大学文学部：長崎潤一

中央大学文学部：小林謙一

## 記号等の説明

1. 確認した遺構は下記の略号を用い、連番を付し本文及び図表中に用いた。

樽前c降下軽石・スコリア層(IV層)より上位のIII層は「U」を、下位のV層・VI層の遺構は「L」を付し、次に記す遺構種別ごとのアルファベット記号を組み合わせた。番号は平成18(2006)年度調査の連番とした。

H : 住居跡	(HD : 平地式住居跡	HP : 竪穴住居跡	H : 建物跡等)
GP : 墓墳	P : 土坑	A : 灰集中	F : 焼土
PS : 土器集中	F : フレイク集中	S : 礫集中	R : 道跡
SP : 柱穴・杭穴	TP : Tピット	SB : 旧石器ブロック	

2. 遺構図面等の縮尺

住居跡・建物跡 : 40分の1	大きな住居跡・建物跡 : 50分の1または60分の1	
墓坑・土坑 : 40分の1	灰集中 : 40分の1	礫集中 : 25分の1
柱穴・杭穴 : 200分の1	遺物出土状況図 : 20分の1	
Tピット : 40分の1	地形測量図・遺構位置図 : 任意	

各図にスケールと方位記号(座標北)を付した。

なお、遺構平面図の「+ (十字) と記号」はグリッド名で、遺構平面図等の「・ (ドット) と数値」は、その地点の標高(m)を表す。

3. 遺物図の縮尺は次のとおりでスケールを付した。

復原土器 : 4分の1	拓本土器 : 3分の1	
剥片石器 : 2分の1	礫石器 : 3分の1	石製品 : 2分の1
鉄製品 : 2分の1	(鍋 : 3分の1	古銭等 小型のもの : 等倍)
ガラス玉 : 等倍	旧石器 : 2分の1	

4. 本文及び図表中で遺構の規模は次の要領で示した。一部破壊されているものは現存する計測値を(丸括弧)で示した。

住居跡・土坑 : 確認面の長径×短径/床面・坑底面の長径×短径/確認面からの最大深(m)
焼土 : 分布範囲の長径×短径/最大厚(m)
遺物集中 : 分布範囲の長径×短径(m)

# 目 次

口絵

例言

記号等の説明

目次

図目次

表目次

写真図版目次

## I 章 緒 言

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| 1. 調査要項                 | 1 |
| 2. 調査体制                 | 1 |
| 3. 調査の経緯                | 2 |
| (1) 道央圏連絡道路千歳市新千歳空港関連工事 |   |
| (2) 寿～祝梅地区の遺跡の範囲確認調査    |   |
| (3) 寿～祝梅地区の遺跡の発掘調査      |   |
| 4. 祝梅川上田遺跡の調査の概要        | 5 |

## II 章 遺跡の立地と周辺の遺跡

- |                 |    |
|-----------------|----|
| 1. 位置と立地        | 7  |
| (1) 位置と地名       |    |
| (2) 周辺の地形・地質・環境 |    |
| 2. 周辺の遺跡        | 12 |
| 3. 掩体壕          | 17 |

## III 章 調査の概要

- |                   |    |
|-------------------|----|
| 1. 発掘区の設定         | 21 |
| (1) 平成18年度 調査区の設定 |    |
| (2) 平成20年度 調査区の設定 |    |
| 2. 基本層序           | 25 |
| 3. 調査の方法          | 27 |
| 4. 整理の方法          | 27 |
| (1) 一次整理の方法       |    |
| (2) 二次整理の方法       |    |
| 5. 遺物の分類          | 28 |

## IV 章 III層の遺構

- |  |    |
|--|----|
| 1. 概要  | 31 |
| 2. 住居跡・建物跡   | 32 |
| (1) 平地住居跡 UHD  |    |
| UHD-1 (UH-1) UHD-13 UHD-14 UHD-16 UHD-21 UHD-22 UHD-24 UHD-25  |    |
| UHD-26 UHD-28 UHD-36 UHD-37 UHD-38 UHD-40 UHD-41 UHD-43 UHD-44 |    |

UHD-45 UHD-46 UHD-48 UHD-49 UHD-50 UHD-52 UHD-53 UHD-55 UHD-56 UHD-60	
(2) 竪穴住居跡 UHP	
UHP-15 UHP-17 UHP-23 UHP-31	
(3) 建物跡 UH	
UH-18 UH-19 UH-20 UH-27 UH-29 UH-30 UH-32 UH-33 UH-34 UH-35 UH-39 UH-42 UH-47 UH-51 UH-54 UH-57 UH-58 UH-59 UH-61 UH-62 UH-63	
3. 墓坑	135
GP-1	
4. 土坑	135
UP-4	
5. 灰集中	135
UA-5 UA-6 UA-7 UA-8 UA-9 UA-10 UA-11 UA-12 UA-13 UA-14 UA-15 UA-16 UA-17 UA-18 UA-19 UA-20 UA-21	
6. 焼土	151
UF-15~63	
7. 遺物集中	151
(1) 土器集中 UPS-1~3	
(2) フレイク集中 UFC-1	
(3) 礫集中・方割礫 US-5~13	
(4) 貝殻集中・骨片集中	
8. 畑跡	158
9. 柱穴・杭穴	158
SP-1~1954	
<b>V章 V・VI層の遺構</b>	
1. 概要	197
2. Tピット	197
TP-1 TP-2	
3. 焼土	197
LF-63~72	
4. 石斧集中	197
<b>VI章 遺構・包含層出土の遺物</b>	
1. 概要	203
2. 土器・石器等	203
(1) 復原土器	
(2) 破片土器	
(3) 石器等	
<b>VII章 金属製品・木製品等</b>	
1. 金属製品	265
(1) 鉄製品	
(2) 銅製品	
2. 木製品	281



(1) 木製品	
(2) 漆塗製品	
3. ガラス玉	283
4. 陶磁器	283

## Ⅷ章 旧石器時代の遺物（Ⅴ～Ⅶ層）

1. 概要	289
(1) 調査の経緯と方法	
(2) 調査の概要	
(3) 石器ブロックの設定と遺物の分布	
2. 石器ブロック	306
ブロック3・4・5・ブロック外出土の石器	
3. 母岩別接合資料	336
4. まとめ	346

## Ⅸ章 成果と問題点

1. 調査区接合点検について	351
2. 分析の目的と結果の評価	351
(1) 微細遺物 動物遺存体同定 種子同定（付篇1 本報告書Ⅵ章1節）	
(2) 放射性炭素年代測定（AMS）（付篇1 北埋調報238 Ⅵ章1節）	
3. コタン跡について	356

## 付篇 自然科学的手法による分析結果

1. 平成18（2006）年度 祝梅川上田遺跡 水洗選別微細遺物について	363
2. 祝梅川上田遺跡出土黒曜石の産地推定（平成18年度）	377
3. 祝梅川上田遺跡出土黒曜石の産地推定（平成20年度）	382
4. 祝梅川上田遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）	385

## 写真図版

## 引用参考文献

## 報告書抄録

# 目 次

図Ⅱ-1	遺跡の位置 (1)	8	図Ⅳ-43	UHD-48 (2)	81
図Ⅱ-2	遺跡の位置 (2)	9	図Ⅳ-44	UHD-49 (1)	84
図Ⅱ-3	遺跡の位置 (3)	11	図Ⅳ-45	UHD-49 (2)	85
図Ⅱ-4	遺跡の位置 (4)	13	図Ⅳ-46	UHD-50 (1)	86
図Ⅱ-5	掩体壕	18	図Ⅳ-47	UHD-50 (2)	87
図Ⅲ-1	調査区周辺の地形	22	図Ⅳ-48	UHD-50 (3)	89
図Ⅲ-2	調査区設定図	23	図Ⅳ-49	UHD-52 (1)	90
図Ⅲ-3	基本層序柱状図	26	図Ⅳ-50	UHD-52 (2)	91
図Ⅳ-1	Ⅲ層遺構位置図	33	図Ⅳ-51	UHD-53 (1)	92
図Ⅳ-2	UHD-1	34	図Ⅳ-52	UHD-53 (2)	93
図Ⅳ-3	UHD-13 (1)	36	図Ⅳ-53	UHD-55 (1)	94
図Ⅳ-4	UHD-13 (2)	37	図Ⅳ-54	UHD-55 (2)	95
図Ⅳ-5	UHD-14 (1)	38	図Ⅳ-55	UHD-56 (1)	96
図Ⅳ-6	UHD-14 (2)	39	図Ⅳ-56	UHD-56 (2)	97
図Ⅳ-7	UHD-16 (1)	40	図Ⅳ-57	UHD-60	98
図Ⅳ-8	UHD-16 (2)	41	図Ⅳ-58	UHP-15 (1)	100
図Ⅳ-9	UHD-21 (1)	42	図Ⅳ-59	UHP-15 (2)	101
図Ⅳ-10	UHD-21 (2)	43	図Ⅳ-60	UHP-15 (3)	102
図Ⅳ-11	UHD-22 (1)	44	図Ⅳ-61	UHP-17 (1)	103
図Ⅳ-12	UHD-22 (2)	45	図Ⅳ-62	UHP-17 (2)	104
図Ⅳ-13	UHD-24 (1)	46	図Ⅳ-63	UHP-17 (3)	105
図Ⅳ-14	UHD-24 (2)	47	図Ⅳ-64	UHP-17 (4)	106
図Ⅳ-15	UHD-25 (1)	48	図Ⅳ-65	UHP-17 (5)	107
図Ⅳ-16	UHD-25 (2)	49	図Ⅳ-66	UHP-17 (6)	108
図Ⅳ-17	UHD-26 (1)	52	図Ⅳ-67	UHP-23	110
図Ⅳ-18	UHD-26 (2)	53	図Ⅳ-68	UHP-31	111
図Ⅳ-19	UHD-28 (1)	54	図Ⅳ-69	UH-18	112
図Ⅳ-20	UHD-28 (2)	55	図Ⅳ-70	UH-19	114
図Ⅳ-21	UHD-36 (1)	56	図Ⅳ-71	UH-20	115
図Ⅳ-22	UHD-36 (2)	57	図Ⅳ-72	UH-27	116
図Ⅳ-23	UHD-36 (3)	58	図Ⅳ-73	UH-29	117
図Ⅳ-24	UHD-37 (1)	60	図Ⅳ-74	UH-30	119
図Ⅳ-25	UHD-37 (2)	61	図Ⅳ-75	UH-32	120
図Ⅳ-26	UHD-38 (1)	62	図Ⅳ-76	UH-33	121
図Ⅳ-27	UHD-38 (2)	63	図Ⅳ-77	UH-34	122
図Ⅳ-28	UHD-40 (1)	64	図Ⅳ-78	UH-35	123
図Ⅳ-29	UHD-40 (2)	65	図Ⅳ-79	UH-39	125
図Ⅳ-30	UHD-41 (1)	67	図Ⅳ-80	UH-42	126
図Ⅳ-31	UHD-41 (2)	68	図Ⅳ-81	UH-47	127
図Ⅳ-32	UHD-41 (3)	69	図Ⅳ-82	UH-51	129
図Ⅳ-33	UHD-43 (1)	70	図Ⅳ-83	UH-54	130
図Ⅳ-34	UHD-43 (2)	71	図Ⅳ-84	UH-57・58	131
図Ⅳ-35	UHD-43 (3)	73	図Ⅳ-85	UH-59・61	133
図Ⅳ-36	UHD-44 (1)	74	図Ⅳ-86	UH-62・63	134
図Ⅳ-37	UHD-44 (2)	75	図Ⅳ-87	GP-1・UP-4	136
図Ⅳ-38	UHD-45 (1)	76	図Ⅳ-88	UA-5 (1)	138
図Ⅳ-39	UHD-45 (2)	77	図Ⅳ-89	UA-5 (2)・6	139
図Ⅳ-40	UHD-46 (1)	78	図Ⅳ-90	UA-7・8	140
図Ⅳ-41	UHD-46 (2)	79	図Ⅳ-91	UA-9・10	141
図Ⅳ-42	UHD-48 (1)	80	図Ⅳ-92	UA-11・12・13	143

図Ⅳ-93	U A-14・15・16	145	図Ⅶ-10	金属製品(8)・ガラス玉	277
図Ⅳ-94	U A-17・18	146	図Ⅶ-11	金属製品(9)	279
図Ⅳ-95	U A-19	147	図Ⅶ-12	G P-1 出土青磁平皿	282
図Ⅳ-96	U A-20	149	図Ⅷ-1	ブロック設定図	292
図Ⅳ-97	U A-21	150	図Ⅷ-2	全接合分布図	293
図Ⅳ-98	U S-5・6・7・11・12・ 方割碟	153	図Ⅷ-3	遺物点数分布図・遺物重量分布図 ・器種別分布図(1)	297
図Ⅳ-99	U S-8・10・13	154	図Ⅷ-4	器種別分布図(2)	298
図Ⅳ-100	U S-9	155	図Ⅷ-5	器種別分布図(3)	299
図Ⅳ-101	U P S-1・2・3、 U F C-1、貝殻集中	157	図Ⅷ-6	器種別分布図(4)	300
図Ⅳ-102	骨片集中、畑跡	159	図Ⅷ-7	層別分布図・ 石材別分布図(1)	301
図Ⅳ-103	S P(1)	160	図Ⅷ-8	石材別分布図(2)	303
図Ⅳ-104	S P(2)	161	図Ⅷ-9	被熱石器・原礫面の残存する石器・ 石質別分布図(1)	304
図Ⅳ-105	S P(3)	162	図Ⅷ-10	石質別分布図(2)	305
図Ⅳ-106	S P(4)	163	図Ⅷ-11	ブロック3遺物分布図・ 遺物接合状況図	307
図Ⅳ-107	S P(5)	164	図Ⅷ-12	ブロック3石材別分布図(1)	308
図Ⅳ-108	S P(6)	165	図Ⅷ-13	ブロック3石材別分布図(2)・ Ⅶ層調査範囲図	309
図Ⅳ-109	S P(7)	166	図Ⅷ-14	ブロック3の石器	311
図Ⅳ-110	S P(8)	167	図Ⅷ-15	ブロック3器種別分布図(1)	312
図Ⅳ-111	S P土層断面	169	図Ⅷ-16	ブロック3器種別分布図(2)	313
図Ⅴ-1	V層 遺構位置図	198	図Ⅷ-17	ブロック4遺物分布図・ 遺物接合状況図	315
図Ⅴ-2	T P・石斧集中	199	図Ⅷ-18	ブロック4石材別分布図(1)	316
図Ⅵ-1	土器分布図(1)	210	図Ⅷ-19	ブロック4石材別分布図(2)・ Ⅶ層調査範囲図	317
図Ⅵ-2	土器分布図(2)	211	図Ⅷ-20	ブロック4の石器	318
図Ⅵ-3	土器分布図(3)	212	図Ⅷ-21	ブロック4器種別分布図(1)	319
図Ⅵ-4	土器分布図(4)	213	図Ⅷ-22	ブロック4器種別分布図(2)	320
図Ⅵ-5	土器分布図(5)	214	図Ⅷ-23	ブロック5遺物分布図・ 遺物接合状況図	322
図Ⅵ-6	石器分布図(1)	216	図Ⅷ-24	ブロック5石材別分布図(1)	323
図Ⅵ-7	石器分布図(2)	217	図Ⅷ-25	ブロック5石材別分布図(2)・ Ⅶ層調査範囲図・土層断面図	324
図Ⅵ-8	石器分布図(3)	218	図Ⅷ-26	ブロック5の石器(1)	326
図Ⅵ-9	石器分布図(4)	219	図Ⅷ-27	ブロック5の石器(2)	328
図Ⅵ-10	石器分布図(5)	220	図Ⅷ-28	ブロック5の石器(3)	329
図Ⅵ-11	石器分布図(6)	221	図Ⅷ-29	ブロック5器種別分布図(1)	330
図Ⅵ-12	石器分布図(7)	222	図Ⅷ-30	ブロック5器種別分布図(2)	331
図Ⅵ-13	石器分布図(8)	223	図Ⅷ-31	ブロック5器種別分布図(3)	332
図Ⅵ-14	遺構出土復原土器	224	図Ⅷ-32	ブロック5器種別分布図(4)	333
図Ⅵ-15	包含層出土復原土器	225	図Ⅷ-33	ブロック5器種別分布図(5)	334
図Ⅵ-16	遺構出土破片土器	226	図Ⅷ-34	ブロック外の石器分布図 ・出土石器	335
図Ⅵ-17	包含層出土破片土器(1)	227	図Ⅷ-35	母岩1(1)	338
図Ⅵ-18	包含層出土破片土器(2)	228	図Ⅷ-36	母岩1(2)・母岩2	339
図Ⅵ-19	遺構出土石器	229	図Ⅷ-37	母岩6・7	341
図Ⅵ-20	包含層出土石器(1)	230	図Ⅷ-38	母岩3・4	343
図Ⅵ-21	包含層出土石器(2)	231	図Ⅷ-39	母岩5	345
図Ⅶ-1	金属製品(1)	266	図Ⅸ-1	調査区接合座標図 1:1000	353
図Ⅶ-2	金属製品(2)	267	図Ⅸ-2	調査区線形図 1:2000	354
図Ⅶ-3	金属製品(3)	269			
図Ⅶ-4	小札集中区A・B・C 及び周辺小札出土位置図	271			
図Ⅶ-5	鋸留板物甲破片出土位置図	272			
図Ⅶ-6	金属製品(4)	273			
図Ⅶ-7	金属製品(5)	274			
図Ⅶ-8	金属製品(6)	275			
図Ⅶ-9	金属製品(7)	276			

# 表 目 次

表Ⅱ-1	祝梅川・オルカイ川流域の アイヌ文化期の遺跡 …………… 15	表Ⅵ-13	UHP-17出土復原土器観察表 ……233
表Ⅱ-2	掩体壕出土点数表 …………… 19	表Ⅵ-14	I-24区出土復原土器観察表 ……234
表Ⅲ-1	祝梅川上田遺跡 採用基線・ 測量概要 …………… 24	表Ⅵ-15	E-37区出土復原土器観察表 ……234
表Ⅲ-2	祝梅川上田遺跡 基本層序 …………… 26	表Ⅵ-16	R-20区出土復原土器観察表 ……234
表Ⅲ-3	土器・土製品時期等分類基準 …… 29	表Ⅵ-17	K-24区出土復原土器観察表 ……235
表Ⅲ-4	土器部位分類基準 …………… 29	表Ⅵ-18	J-44区出土復原土器観察表 ……235
表Ⅲ-5	土器残存状態分類基準 …………… 29	表Ⅵ-19	N-30区出土復原土器観察表 ……235
表Ⅲ-6	石器等器種分類基準 …………… 30	表Ⅵ-20	I-21区出土復原土器観察表 ……236
表Ⅲ-7	石器等残存状態分類基準 ……30	表Ⅵ-21	Q-52区出土復原土器観察表 ……236
表Ⅳ-1	UHD一覧 ……………172	表Ⅵ-22	S-38区出土復原土器観察表 ……236
表Ⅳ-2	UH一覧 ……………172	表Ⅵ-23	遺構出土破片土器観察表 ……237
表Ⅳ-3	UHD・炉跡・灰集中他一覧 ……173	表Ⅵ-24	包含層出土破片土器観察表 ……238
表Ⅳ-4	堅穴住居跡 UHP 一覧 ……174	表Ⅵ-25	遺構・包含層出土石器一覧 ……239
表Ⅳ-5	堅穴住居跡 UHP 付属遺構一覧 ……………174	表Ⅵ-26	遺構出土礫三軸計測表 ……240
表Ⅳ-6	GP・UP一覧 ……………175	表Ⅵ-27	フローテーション 選別遺物(堅果・人工遺物) ……258
表Ⅳ-7	UA一覧 ……………175	表Ⅵ-28	フローテーション選別 炭化種子 ……………261
表Ⅳ-8	UA詳細一覧 ……………176	表Ⅵ-29	包含層出土自然遺物 ……264
表Ⅳ-9	遺物集中一覧 ……………177	表Ⅶ-1	出土鉄製品一覧 ……………284
表Ⅳ-10	礫集中・方割礫一覧 ……………177	表Ⅶ-2	出土銅製品一覧 ……………287
表Ⅳ-11	畑跡・畝間一覧 ……………177	表Ⅶ-3	出土木製品・漆塗製品一覧 ……287
表Ⅳ-12	焼土UF一覧 ……………178	表Ⅶ-4	出土ガラス玉一覧 ……………287
表Ⅳ-13	UHD・UH柱穴・杭穴 ……180	表Ⅶ-5	出土陶磁器一覧 ……………287
表Ⅳ-14	小柱穴・杭穴一覧 ……………185	表Ⅷ-1	旧石器出土地点・ 層位別点数一覧 ……………294
表Ⅴ-1	TP一覧 ……………201	表Ⅷ-2	旧石器出土地点・ 石材別点数一覧 ……………295
表Ⅴ-2	焼土一覧 ……………200	表Ⅷ-3	接合資料一覧 ……………337
表Ⅴ-3	石斧集中 ……………201	表Ⅷ-4	母岩別資料一覧 ……………337
表Ⅵ-1	U遺構出土土器点数表 ……205	表Ⅷ-5	旧石器掲載石器観察表 ……348
表Ⅵ-2	UHD・UHP・UH 出土土器点数表 ……………206	表Ⅷ-6	旧石器掲載接合資料一覧 ……349
表Ⅵ-3	UA出土土器点数表 ……………207	表Ⅷ-7	平成18(2006)年度 黒曜石産地推定分析試料一覧 ……350
表Ⅵ-4	US出土土器点数表 ……………207	表Ⅷ-8	平成20(2008)年度 黒曜石産地推定分析試料一覧 ……350
表Ⅵ-5	UF・貝殻集中出土土器点数表 ……207	表Ⅸ-1	調査区接合座標計算表 (世界測地系) ……………352
表Ⅵ-6	UPS・UFC出土土器点数表 ……207	表Ⅸ-2	工事基準杭・道路中心杭と 基線設定杭の誤差計算表 ……353
表Ⅵ-7	SP出土土器点数表 ……………207	表Ⅸ-3	放射性炭素年代測定一覧 ……357
表Ⅵ-8	包含層出土土器点数表 ……208		
表Ⅵ-9	包含層出土土器類点数表 ……215		
表Ⅵ-10	UPS-1出土復原土器観察表 ……232		
表Ⅵ-11	UPS-2出土復原土器観察表 ……232		
表Ⅵ-12	UPS-3出土復原土器観察表 ……233		

# 写真図版目次

## 口絵

- 口絵1 UHD-43 鉄斧出土状況  
古銭出土状況 (S-41区)  
UHP-17 炭化木製品出土状況  
土層断面  
UHD-40 鎌・鋤・磔出土状況
- 口絵2 GP-1 青磁平皿 (内面)  
GP-1 青磁平皿 (外面)  
UHD-50 漆塗椀  
GP-1 漆塗椀  
UHP-15 鉄鍋

## 写真図版

- 図版1 調査状況 (1)  
図版2 調査状況 (2)  
図版3 平地住居跡 (1)  
図版4 平地住居跡 (2)  
図版5 平地住居跡 (3)  
図版6 平地住居跡 (4)  
図版7 平地住居跡 (5)  
図版8 平地住居跡 (6)  
図版9 平地住居跡 (7)  
図版10 平地住居跡 (8)  
図版11 平地住居跡 (9)  
図版12 竪穴住居跡 (1)  
図版13 竪穴住居跡 (2)  
図版14 竪穴住居跡 (3)  
図版15 建物跡 (1)  
図版16 建物跡 (2)  
図版17 土墳墓・灰集中 (1)  
図版18 灰集中 (2)  
図版19 灰集中 (3)  
図版20 灰集中 (4)

- 図版21 土器集中・磔集中 (1)  
図版22 磔集中 (2)・畑跡  
図版23 遺物出土状況  
図版24 小柱穴 (1)  
図版25 小柱穴 (2)  
図版26 Tビット・旧石器ブロック  
図版27 遺構の土器 (1)  
図版28 包含層の土器 (1)  
図版29 包含層の土器 (2)  
遺構の土器 (2)  
包含層の土器 (3)  
図版30 包含層の土器 (4)  
遺構の石器  
図版31 包含層の石器  
GP-1 青磁平皿  
青磁平皿見込み  
UA-14 ガラス玉  
UHD-26 刀子柄
- 図版32 金属製品 (1)  
図版33 金属製品 (2)  
図版34 金属製品 (3)  
図版35 金属製品 (4)  
図版36 金属製品 (5)  
図版37 金属製品 (6)  
図版38 金属製品 (7)  
図版39 金属製品 (8)  
図版40 金属製品 (9)  
図版41 旧石器 (1)  
図版42 旧石器 (2)  
図版43 旧石器 (3)  
図版44 旧石器 (4)

# I 章 緒 言

## 1. 調査要項

事業名：一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成20年度）  
 道央圏連絡道路新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成21年度整理作業）  
 道央圏連絡道路千歳市泉郷道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成22年度整理作業）  
 道央圏連絡道路千歳市泉郷道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成23年度整理作業）  
 道央圏連絡道路千歳市泉郷道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査（平成24年度整理作業）

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

遺跡名：祝梅川上田遺跡（北海道教育委員会登録番号 A-03-50）

所在地：千歳市中央614ほか

調査面積：9,910㎡

調査期間：平成20年4月1日～平成25年3月31日（現地調査 平成20年5月7日～10月31日）

## 2. 調査体制

### 平成20年度

第1調査部長	越田 賢一郎	第2調査部長	西田 茂
第1調査部第2調査課長	三浦 正人（発掘担当者）		
主 査	越田 雅司（発掘担当者）		
主 任	愛場 和人	主 査	阿部明義
主 任	末光 正卓	主 任	広田良成

### 平成21年度（整理作業）

第1調査部長	越田 賢一郎	第2調査部長	西田 茂
第1調査部第2調査課長	三浦 正人		
主 査	越田 雅司	主 任	愛場 和人 末光 正卓 広田 良成

### 平成22年度（整理作業）

第1調査部長	千葉 英一	第2調査部長	西田 茂
第1調査部第2調査課長	三浦 正人		
主 査	越田 雅司	主 任	末光 正卓 広田 良成

### 平成23年度（整理作業）

第1調査部長	千葉 英一	第2調査部長	三浦 正人
第1調査部第2調査課長	鈴木 信		
主 査	末光 正卓	第2調査部第3調査課 主 査	広田良成

### 平成24年度（整理作業）

第1調査部長	千葉 英一	第2調査部長	三浦 正人
第1調査部第2調査課長	鈴木 信		
主 査	芝田 直人 末光 正卓 山中 文雄		
第2調査部第3調査課 主 査	広田良成		

### 3. 調査の経緯

#### (1) 道央圏連絡道路千歳市新千歳空港関連工事

地域高規格道路「道央圏連絡道路」は、道央都市圏の新しい交通・物流を担うために北海道開発局札幌開発建設部により計画された4車線道路である。新千歳空港を起点とし、北海道横断自動車道千歳東IC、北海道縦貫自動車道江別東IC、重要港湾石狩湾新港、北海道横断自動車道銭函ICを結ぶ延長約80kmの半環状道路で、千歳市、長沼町、南幌町、江別市、当別町、札幌市、石狩市、小樽市を連結している。事業は新千歳空港関連・泉郷道路・長沼南幌道路・中樹林道路・美原バイパス・美原道路・当別バイパスの7区間である。

このうち、当遺跡が調査対象となった新千歳空港関連工事は、新千歳空港と千歳東IC（中央ランプ）を結ぶ9.2km区間で、平成元（1989）年度に事業化された。

平成2（1990）年12月札幌開発建設部は千歳市教育委員会を経由して北海道教育委員会（以下、道教委）あてに、国道337号根志越道路整備工事に伴う千歳市柏台から同市中央までの路線内における埋蔵文化財保護のための事前協議書を提出した。協議を受けた道教委は平成3（1991）年6月、路線内の遺跡所在確認調査を実施した。その結果、周知の祝梅川・祝梅川矢島・祝梅川山田・祝梅川上田・アンカリトー6・アンカリトー7・キウス13号周堤墓（オリカ1遺跡）・キウス5遺跡と未登録の仮称祝梅砂丘遺跡（柏台1遺跡）・仮称キウス7～10遺跡の12か所、対象面積299,000㎡、全計画路線の半分程度について範囲確認調査が必要と判断、同年7月道教委から札幌開発建設部へ回答された。

平成7（1995）年5月、事業名の変更等により、再度事前協議書が札幌開発建設部から道教委に提出された。ここで事業名が「一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事」となり、事業地の面積約828,000㎡、工期は平成8（1996）年4月1日から平成12（2000）年12月15日、埋蔵文化財包蔵地保護について現状保存は困難なため範囲確認調査（試掘）を希望する旨協議された。

平成19（2007）年11月をもって終結した当事業用地内における範囲確認調査（試掘）の結果、発掘調査が必要と判断された遺跡は、新千歳空港近くの柏台1遺跡、寿～祝梅地区の梅川4遺跡・祝梅川小野遺跡・梅川1遺跡・梅川2遺跡・祝梅川上田遺跡・アンカリトー9遺跡・アンカリトー7遺跡、中央地区のオリカ1遺跡・オリカ2遺跡・チブニー1遺跡・チブニー2遺跡・キウス9遺跡・キウス5遺跡の計14遺跡である。

現在、千歳市新千歳空港関連工事は完了し、新千歳空港から横断自動車道千歳東ICまでの区間が供用され、「泉郷道路」について建設工事やこれに伴う埋蔵文化財調査（長沼町 南六号川左岸遺跡・幌内D遺跡等）が進められている。

#### (2) 寿～祝梅地区の遺跡の範囲確認調査

平成7（1995）年11月、道教委は当事業地内で初の範囲確認調査を千歳市柏台地区の柏台1遺跡で実施した。その後、用地買収の遅延等により、事業地内の埋蔵文化財関係調査は中断を余儀なくされた。寿～祝梅地区の範囲確認調査は以下に記す。

##### ・平成16（2004）年10月

祝梅川山田遺跡の一部実施。祝梅川上田遺跡の隣接地として判断保留。梅川4遺跡も対象となったが、以前別件のため道教委と千歳市教委により実施済でデータがあると判明し、調査が必要と判断（用地未買収による不確定部分あり）。

##### ・平成17（2005）年10月

祝梅川上田遺跡・梅川1遺跡・祝梅川小野遺跡の三遺跡、約43,000㎡を対象に実施。祝梅川上田遺

跡は平成16年10月の結果と合わせて調査が必要と判断。南側7,625㎡は梅川2遺跡とされ、北側の9,100㎡を祝梅川上田遺跡として調査対象（北側に試掘未了部あり）とした。梅川1遺跡は部分的な試掘未了区が多く判断が保留されたが、土器・木製品等が出土した。祝梅川小野遺跡は台地部の大半と低地の一部で遺物が出土し、調査が必要と判断されたが未買取地がある。

・平成18（2006）年9月

祝梅川小野遺跡の試掘未了区で実施。台地部はすべて調査が必要と判断される。

・平成18（2006）年10月

アンカリトー7遺跡の用地買取済部分10,600㎡を実施。少量の遺物が出土し、南側に試掘未了部分があり判断を保留。

・平成19（2007）年9月

祝梅川上田遺跡の北側11,300㎡で実施。平成18年度の当センターの発掘調査成果（北埋調報238）から、遺跡の広がりが見込まれたため、調査必要範囲を割り出すための追加の試掘で、結果、アイヌ文化期・縄文文化期の遺構・遺物の広がりや旧石器時代の遺物の存在が想定され、10,000㎡弱が要発掘調査となった。

・平成19（2007）年10月

祝梅川小野遺跡の北側の試掘未了区で実施。第Ⅱ黑色土層の状況から、祝梅川小野遺跡と梅川1遺跡は連続すると判断。平成17年度の試掘で木製品が出土した区域を梅川1遺跡、それより南側を祝梅川小野遺跡とし、発掘調査が必要と判断された。さらに、アンカリトー7遺跡の南側の試掘未了区約7,000㎡（のち、アンカリトー9遺跡）も実施し、散漫な遺物包含層を確認、北側との間に試掘未了区があるため判断保留。

・平成19（2007）年11月

アンカリトー7遺跡中央部の試掘未了区5,400㎡で実施。地中深部まで建設機械による損壊する部分が多く、調査対象外とされ、調査必要面積が概ね確定。北側はアンカリトー7遺跡で調査面積は約4,000㎡、南側をアンカリトー9遺跡として新たな遺跡として登載し、約7,000㎡が調査必要面積となった。

以上で、寿～祝梅地区の遺跡の範囲確認調査は完了した。

### （3）寿～祝梅地区の遺跡の発掘調査

道教委による範囲確認調査で発掘調査が必要と判断された遺跡は、平成13（2001）年度から、札幌開発建設部札幌新道建設事務所（平成16年度から「千歳道路事務所」）の工事計画に則って発掘調査を実施し、現在すべて完了した。寿～祝梅地区の発掘調査は以下に記す。

#### 平成18（2006）年度

- ・祝梅川上田遺跡：9,100㎡ 担当者：皆川洋一・山田和史

旧石器時代のブロック・縄文時代早期・中期・後期・アイヌ文化期の平地住居跡等を調査した。

報告書：北埋調報238集

- ・梅川2遺跡：7,625㎡ 担当者：皆川洋一・山田和史

縄文時代前期・晩期、アイヌ文化期の建物跡等を調査した。

報告書：北埋調報238集

- ・梅川4遺跡：5,000→6,350㎡に変更 担当者：鈴木信・宗像公司

縄文晩期後葉の土坑墓・土坑群を調査した。



報告書：北埋調報253

#### 平成19（2007）年度

- ・祝梅川小野遺跡：7,360㎡ 担当者：遠藤香澄・菊池慈人・山田和史  
縄文時代前期・後期、擦文文化期の竪穴住居跡、アイヌ文化期の平地住居跡等を調査した。  
報告書：第Ⅱ黒色土層 北埋調報285  
第Ⅰ黒色土層 北埋調報297（平成24年度 刊行）
- ・梅川4遺跡：8,655㎡ 担当者：遠藤香澄・鈴木信・宗像公司  
縄文時代前期・後期・晩期の住居跡、縄文時代晩期後葉の土坑墓・土坑群、縄文時代晩期～続縄文時代の土器等を調査した。  
報告書：第Ⅱ黒色土層 北埋調報269集  
第Ⅰ黒色土層は平成25年度報告予定 調査年報20参照

#### 平成20（2008）年度

- ・祝梅川上田遺跡：9,910㎡ 担当者：三浦正人・越田雅司  
旧石器時代のブロック、擦文文化期の住居跡、アイヌ文化期の集落跡（平地住居・倉庫・灰集中・墓坑・畑跡等）等を調査した。  
報告書：本報告書（北埋調報300）
- ・アンカリトー7遺跡：4,050㎡ 担当者：愛場和人・末光正卓  
旧石器時代ブロック、アイヌ文化期の集落跡（平地住居・倉庫・灰集中・墓坑等）を調査した。  
報告書：北埋調報268
- ・アンカリトー9遺跡：6,680㎡ 担当者：愛場和人・末光正卓  
縄文時代の遺物や戦時中の掩体壕を調査し、古砂丘を確認した。  
報告書：北埋調報268
- ・祝梅川小野遺跡：10,267㎡ 担当者：鈴木信・菊池慈人  
縄文時代前期・後期の住居跡、晩期後葉の土坑墓・土坑群、擦文文化期の住居跡、アイヌ文化期の道跡を調査し、低位部から木製品等が出土した。  
報告書：台地部；第Ⅱ黒色土層 北埋調報285  
台地部；第Ⅰ黒色土層 北埋調報297（平成24年度 刊行）  
低位部；平成25年度刊行予定 調査年報20・21参照
- ・梅川1遺跡：893㎡ 担当者：鈴木信・菊池慈人  
縄文時代晩期の焼土、低位部ではアイヌ文化期の多量の木材を調査した。  
報告書：台地部；第Ⅱ黒色土層 北埋調報285  
台地部；第Ⅰ黒色土層 北埋調報297（平成24年度 刊行）  
低位部；平成25年度刊行予定 調査年報21参照
- ・梅川4遺跡：13,550㎡ 担当者：鈴木信・鎌田望  
縄文時代中期の岩偶、アイヌ文化期の道跡、平地住居跡を調査した。  
報告書：第Ⅱ黒色土層 北埋調報269集  
第Ⅰ黒色土層 平成25年度刊行予定 調査年報21参照

#### 4. 祝梅川上田遺跡の調査の概要

本遺跡は道路計画時点で周知の遺跡で、行政刊行物等から知りえた経緯を記す。

千歳市教育委員会が昭和54(1979)年刊行の『千歳市における埋蔵文化財調査(上)』に「50. 祝梅川上田遺跡」(祝梅486-1・2, 620)、擦文文化期の遺跡とある。また、道教委作成・管理の「埋蔵文化財包蔵地調査カード」(平成7(1995)年7月1日)記載の情報では「A-03-50 祝梅川上田遺跡」(地番同上)、祝梅川右岸の低位段丘(標高12~15m)に立地し、土器片が出土、昭和49(1974)年と昭和53(1978)年11月に千歳市教育委員会による現地踏査が行われた」とある。一方、昭和54(1979)年、文化庁刊行の『全国遺跡地図 北海道Ⅲ』と昭和52(1977)年に北海道教育委員会がまとめた『埋蔵文化財包蔵地一覧表(付 指定文化財)(全道編)』では「祝梅川上田遺跡」の記載はない。

時系列で整理すると、昭和49(1974)年の千歳市教育委員会の踏査により発見されたが、その結果は国・道の刊行物には記載されず、市教育委員会は昭和53(1978)年に再踏査し、その結果を昭和54(1979)年に『千歳市における埋蔵文化財調査(上)』で遺跡として周知し、その後、道教委の「埋蔵文化財包蔵地調査カード」に掲載されたと考える。

平成17(2005)年度、道央圏連絡道路建設対応の範囲確認調査で、発掘調査が必要と判断された。そこで平成18(2006)年度に当センターが9,100㎡を調査し、同年度に『千歳市 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡』(北埋調報238)を刊行した。この調査により、遺構では、Ⅲ層でアイヌ文化期の平地住居跡・建物跡12軒(UH-1~12)、土坑3基(UP-1~3)、灰集中4か所(UA-1~4)、焼土11か所(UF-1~7・11~14)、集石4か所(US-1~4)、小柱穴552か所(USP-1~552)、道跡1条(UR-1)が、Ⅴ層より下位では、土坑2基(LP-1・2)、焼土62か所(LF-1~62)、旧石器時代のブロック2か所(ブロック1・2)を検出した。

遺物は、アイヌ文化期では内耳鉄鍋、刀子、鉈、マレット、古銭、錘石等が出土した。土器は、縄文時代早期後半の東銅路Ⅳ式、中期後半のものや擦文文化期後半のものが主で、須恵器の坏とみられるものもあり、石器は剥片石器では石磯、スクレイパーが多く、礫石器ではたたき石が多い。旧石器は湧別技法、峠下技法、忍路子技法による細石刃、石刃、搔器、削器等が出土している。

これらの調査結果から、遺跡が北側に続くことが考えられ、平成19(2007)年度、この北側部分11,300㎡について範囲確認調査が行われ、うち9,910㎡の調査範囲が確定した。

この北側部分は平成20(2008)年度に発掘調査し、本書(北埋調報300)がその報告である。調査では予想どおり、アイヌ文化期、擦文文化期、旧石器時代を主とする遺構・遺物が確認された。遺構の番号等は、小柱穴以外の遺構はすべて前回調査の連番とし、小柱穴は「柱穴・杭穴」とし、略号は「SP」で「1」から付した(詳細はⅢ章1節 参照)。

平成20(2008)年度の調査では、主たる時期はアイヌ文化期、擦文文化期、旧石器時代である。遺構は、Ⅲ層では、アイヌ文化期の平地住居跡・建物跡40軒(UHD・UH-13~56で15・17・23・31を除く)、墓坑1基(GP-1)、土坑1基(UP-4)、灰集中17か所(UA-5~21)、焼土36か所(UF-15~50)、礫集中9か所(US-5~13)、方割礫の集中1か所、貝殻集中1か所、骨片集中1か所、柱穴・杭穴1952か所(SP-1~1952)、浅い畝が数条残る畑跡を調査した。擦文文化期の遺構は、堅穴住居跡4軒(UHP-15・17・23・31)、土器集中1か所(UPS-1)で、これら以外の時期では、縄文時代時代の土器集中2か所(UPS-2・3)、縄文時代晩期のフレイク集中1か所(UFC-1)を確認した。

Ⅴ層より下位では、Tピット2基(TP-1・2)、焼土10か所(LF-63~72)、石芥集中1か所、旧石器時代のブロック3か所(ブロック3~5)を調査した。また、これらの遺構とは別に太平洋戦

争中の施設と考えられる掩体壕も調査した。

出土したアイヌ文化期の金属製品は、鉞・小刀・刀子・針等の工具類、鎌・鍬先等の農耕具、マレット、ヤス等の漁撈具、鍔小札、釘、鉤、古銭等がある。他には墓坑から検出した同安室系の青磁皿・漆塗椀（塗膜のみ）や住居域から数多く出土する鍾石がある。

擦文文化期は、UHP-15から片口の鉄鍋が出土した。土器は刻文や貼付円縄帯を特徴とするもので、石器はラウンドスクレイパーがある。また、UHP-17では炭化した皿状の木製品を検出した。続縄文土器は後北A式・C<sub>2</sub>・D式がまとめて出土した。

縄文時代では、早期後半の東銅路IV式、前期前半の綱文式、中期後半、晩期のタンネトウL式土器が、石鎌、つまみ付きナイフ、スクレイパー、磨製石斧、砥石、たたき石、石製品が出土した。旧石器は細石刃核、細石刃、搔器、彫器等があり、細石刃核は湧別技法札滑型である。

動植物の遺存体が住居跡の跡や灰集中にみられ、大きなものは手取りし、微細なものは浮遊選別法により回収した。動物遺存体は、陸上哺乳類、魚骨、貝殻等があり、植物遺存体は、米、ヒエ属、キビ属等のイネ科、ブドウ属の種子が多く、堅果はクルミが多い。

また、平成18（2006）年度に外部機関に依頼した「黒曜石産地分析」と「動植物遺存体の同定」（北理調報238 4頁）についても、平成20年度（2008）年度の成果と合わせて掲載した。

本遺跡は、旧石器時代、縄文時代各期と続縄文時代、擦文文化期、アイヌ文化期の遺跡であるが、特に擦文文化期後半からアイヌ文化期前半にかけての集落跡として重要な調査事例である。

（三浦正人・末光正卓）

## II章 遺跡の立地と周辺の遺跡

### 1. 位置と立地

#### (1) 位置と地名

祝梅川上田遺跡は千歳市の市街地から北東約3km、祝梅地区の中央部に位置し、馬追丘陵の西裾部の緩斜面が平坦化する付近を北流する祝梅川の右岸の低位段丘に所在する。千歳市街の東縁で南北方向にみられる更新世の古砂丘列の挟間にあたる。東側は市道祝梅2号道路と南長沼用水が並んで南北に通る、その東側は陸上自衛隊第七師団 東千歳駐屯地である(図Ⅱ-1)。

本遺跡の周辺には、南側に梅川2遺跡があり、北方向へアンカリトー9遺跡と標高21mの古砂丘、その先にアンカリトー7遺跡がある(北埋調報268)。

地名「シュクバイ」と「アンカリトー」の初出は、松浦武四郎が安政3(1856)年の蝦夷地廻浦、安政4(1857)年の東西蝦夷山川地理取調御用の際に手控として残した『石狩・テシホ・クスリ外十二所川々取調帳』(『武四郎蝦夷地紀行』所収 秋葉実解説 1988)にある。長都沼(ヲサツトウ)に流入する多くの河川のうち千歳川(シコツプト)に並んで西からシュクハイ・アンカリトウ・ウリウカ・ユーナイと記されている(北埋調報268 図Ⅱ-1)。

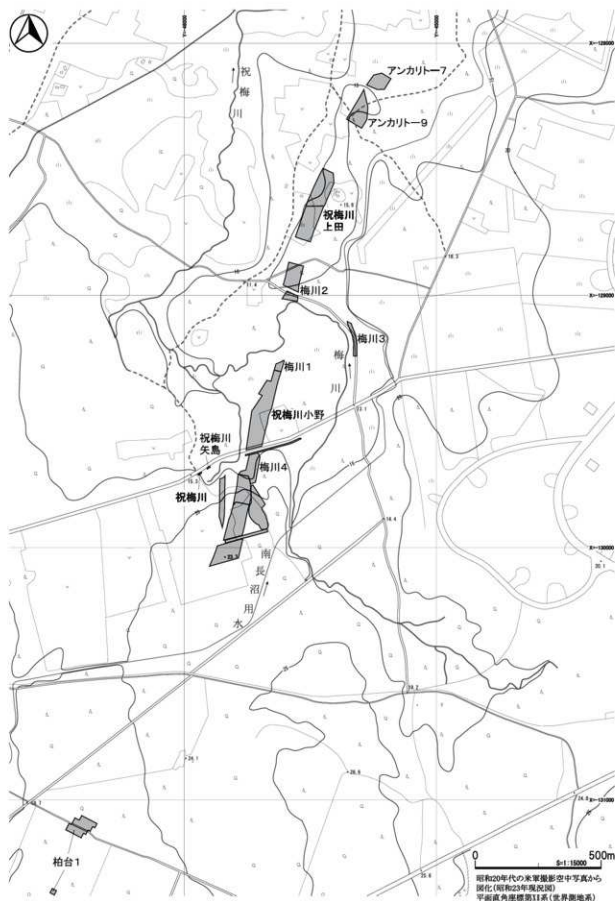
図Ⅱ-3に記載した「五万分一図」は、明治29(1896)年、明治43年、大正9年、昭和11年のものであるが、いずれにも「アンカリ沼」の表示はない。ただ「シュクハイ川」・「シクハイ川」が長都沼の東南の入江に流れ込んでおり、後三者の地図では「シクハイ川」や千歳川の周囲は長都沼までほぼ全域が湿地帯である(北埋調報268 図Ⅱ-2)。のちに「ネシコシ原野」と呼ばれた土地である。また、昭和11(1936)年大日本帝国陸地測量部発行の五万分の一地形図『恵庭』での本遺跡の立地は、標高は約16mで、祝梅川は「シクバイ川」と表記され、蛇行し周辺に湿地があったことがみてとれる。北へ流れる「シクバイ川」は由仁街道(旧国道337)と交差する付近で、湿原の表記が途切れ、そこから北へは別の湿原「ネシコシ原野」の中を千歳川と平行に流れ、長都沼に注いでいる。

このシクバイ川の周辺の湿地を、アンカリトー7・9遺跡の報告(北埋調報268 13頁)では「アンカリトー(アンカリ沼)」と解釈した、以下に引用する。

「長都沼の東南の入江は溢水期にはさらに南に広がり、現在の中央地区南端や根志越地区まで滞水していたものとみられる。流れ込んでいた川は祝梅川で、少水期にはこの滞水帯が祝梅川の続きとして流れていたであろう。この東南の入江と南に広がる滞水帯を「アンカリ沼・アンカリトー」と呼称したものと考える。」また、「アンカリ沼」を形成する祝梅川の「シクハイ」の地名解はどうか。「北海道蝦夷語地名解」では「シュクバイ 生長シタル葎麻」、「ちとせ地名散歩」や『増補千歳市史』では「sukup-pay成長した・イラクサ」、「データベースアイヌ語地名3 石狩Ⅱ」の踏査・検討で「スクブハイウシナイ 成長する・(エゾイラクサ)の繊維・群在する・川」などいずれも類似した意味に解されるが、川や湿地帯が特に意識されたものではない。これはアンカリトーの地名解も同様であった。この中において長見義三は全く別の語源があったのではないかと疑い、『ちとせ地名散歩』で前説のあとに「シコツパイエ(シコツへ行く)がなまった場合(略)古夕張川のため長都沼が増水すると祝梅川は逆流してメムセあたりから千歳川(シコツ)へぬけるようなことがあったのかも知れない。」と例を示した。これがまさにアンカリ沼の姿ではないだろうか。(引用 前掲書 同頁)



図Ⅱ-1 遺跡の位置(1)



図II-2 遺跡の位置(2)

祝梅川は水位があがると逆流し、流域の低地に滞水しこれがアンカリトー（沼）であると考えられる。このアンカリトーは、長都沼やネシコシ原野と一連の湿地で、これに面する低位段丘には多くの遺跡が立地し、本遺跡もその一つである。河川名は「シュクバイ（シクバイ）」、その流域の低位部は湿地、増水時は沼地となる「アンカリトー」と呼称されていたとみることができよう。

また、集落（コタン）の往来、さらにこの地域から外部への交通路としての河川・沼を考えると、アンカリトーは「音は「カル」で、松浦武四郎以来伝えられてきたアン「カリ」ではない。前掲の知里真志保『地名アイヌ語小辞典』には「kari」：「まわる；通う」とあり、さらに「an」には「われらの；われらが」といった意味がある。「an-kari-to」：「われらが・通る・沼」と水上通路としての存在を意識すると、近年の当センターの調査で明らかになりつつある近隣のコタンや道跡、チブニー2遺跡・オルイカ1遺跡・オルイカ2遺跡・アンカリトー7遺跡・祝梅川上田遺跡・梅川4遺跡それぞれや、美々越え・コムカラ越え・日本海側への交通路としての地域の姿が想像される。そういった意味では、長見の「シクハイ」＝「シコツパイエ（シコツへ行く）」説も千歳との交通路の意と考えてもよいかもれない。」（引用 前掲書 同頁）。

アンカリトー・祝梅川（シクハイ川）の地名解は、アイヌ文化期に、本遺跡や北東側に位置するコタンとシコツ方面を水上で往来する時に利用する沼・川の意味と考える。地名として現在に伝わることは、当時の水上交通の要所であったのであろう。祝梅川上田遺跡はこれら重要な交通路に立地しており、太平洋側から美々越えのルートで伝わる交易の重要なコタンであった可能性を指摘できる。

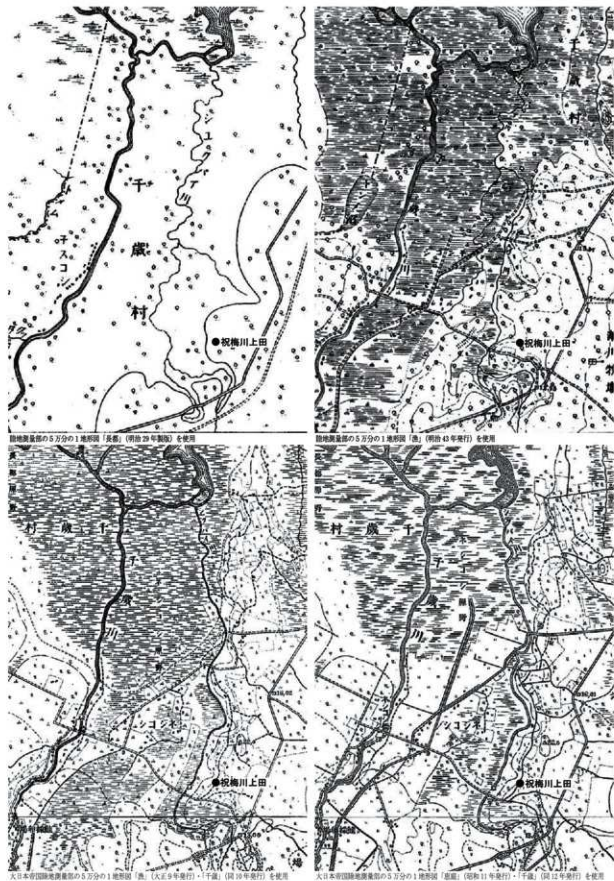
また、遺跡名の「上田」とは、遺跡登載時（昭和49（1974）年）の土地所有者名である。

## （2）周辺の地形・地質・環境（図Ⅲ-1他）

祝梅川上田遺跡の東側の馬追丘陵は、北から栗山町・長沼町・由仁町・千歳市・安平町（旧追分町と旧早来町）にまたがり、南北延長約30kmにおよんで隆起している標高150m前後の連なりで、273mの馬追山を最高地点とする。西側に広がる石狩低地帯は、支笏火山が形成した火砕岩台地により千歳市南部に分水界があり、千歳市街東南部の低い丘陵状山地や馬追丘陵西南裾の湧水を集め、日本海側へ北流するのが、祝梅川・梅川である。千歳市街で向きを変え北流する千歳川とこれに平行する複数の河川が、アンカリトー・ネシコシ原野・長都沼に注いでいた。

これらの沼は、古くは遺跡の北～北西側の千歳市祝梅・根志越・中央・泉郷地区や恵庭市漁太地区・長沼町の沖積低地に存在したもので、トンメ沼・長都沼（ヲサツト）・アンカリトーや馬追沼（マライト）・ボンユバリ沼・菱沼（イコクシ沼）・チカップセトシ沼・鶴沼などがあり、周辺には低湿地が広がっていた。蛇行の著しい千歳川・祝梅川・剣淵川（ケヌフチ川）・漁川・夕張川やそれらの小支流と馬追丘陵からの小河川も流入し、多雨や融雪期には広範囲で冠水する湛水地帯であった。往時は遺跡やコムカラ峠から西を眺めれば、湿地帯や水を湛えた沼が広がり、遠くに樽前山・恵庭岳・漁岳・空沼岳・札幌岳・無意根山・手稲山など標高1000～1500m級の山々が連なる眺めであった。

遺跡を取り巻く内陸古砂丘列である千歳古砂丘は、Spf1が母材の風成二次堆積物で更新世に成立がもめられる。後期旧石器以降の遺跡が立地し、後期旧石器でも古いものは丸子山遺跡のように砂丘下でも確認される。周辺の状況を見ると、まず32,000年ほど前の支笏カルデラ起源の降下軽石（Spfa2・Spfa1）が堆積し、これらを軽石堆積物Spf1の薄層とこれの風成二次堆積物が覆い古砂丘を形成している。Spfa2はクッラ火山起源のKt-b1とのみかたもある。このSpf1の風成二次堆積物の中間ほどに、約28,000年前とされる羊蹄第3軽石・スコリア層Yo-Ps-3が点在するところもある。この上を厚さ1.5～2mと厚く覆うのが約13,000年前の恵庭岳起源の降下軽石En-a（En-P）で、こ



図II-3 遺跡の位置(3)



の直上にこの風化ローム層であるEn-Lが20～30cm堆積している。この上は厚さ5～10cmの暗褐色粘質腐植土（漸移層）、5～15cmの黒色粘質腐植土（第Ⅱ黒色土層）とあり、これを2,000～2,500年前の樽前山起源の降下岩片Ta-c1が約10cm厚で覆っている。この上に10～15cmの黒色粘質腐植土（第Ⅰ黒色土層）が発達する。この腐植土層中には10世紀前葉の白頭山起源のB-Tmの薄層がくぼみなどに点在する。第Ⅰ黒色土層を厚さ30～50cmで覆うのが1739年降下のTa-a（樽前山起源の降下軽石）で約10枚のフォールユニットに分けられる。

道路用地になる前、本遺跡の場所は主に畑地として利用されており、調査区全体にブラウによる深度耕作痕がみられた。また、太平洋戦時中の掩体壕が1か所造られていた。樹木は落葉広葉樹と針葉樹の混交で、コナラ・ヤチダモ・オニグルミ・ヤマグワ・タラノキ・ヤマブドウ・ヤナギ・エゾマツ・イチイなどがみられた。調査中、掘削排土にはキタキツネの足痕がマークされ、糞も確認できた。表層のくぼみ等にはアオダイショウ・シマヘビが生息していることがあり、林辺ではエゾリスやノネズミも目視された。上空には常にノスリ・トビが飛翔旋回していた。祝梅川では現在魚等は確認できないが、低地帯の長都沼には、ワカサギ・フナ・コイ・エビなどが生息していた。また水鳥も多く、キジ・ガン・カモ・ハクチョウ・ツルなどが飛来生息していた。長都沼と連結する千歳川水系はサケの上る川で、ウグイなどの魚も大量に生息している。

前述した遺跡周辺から北側に広がる沼・河川を中心とする地形は、現在は治水と土地改良等を目的とした昭和26～44年(1951～1969)の国営灌漑排水事業やその後の圃場整備事業・土地改良事業によって、沼や低地の干拓・埋め立て、河川の直線化や排水路化等の整備が行われ、地下および表層の水位が低下し、水田や畑地として利用されている。祝梅川も遺跡南西1km強の地点から直線化が図られ、現在は緩やかな曲線で改修された千歳川に結合されている。

太平洋戦争中の昭和14年に、千歳海軍航空基地（第2・3滑走路）が現在の陸上自衛隊第七師団東千歳駐屯地におかれ、戦後は、上記の国営灌漑排水事業等による土地改良の農地化、平成になって道央圏連絡道路が建設され、近現代から現在まで、遺跡とその周辺を取り巻く環境や実相は、開墾・伐採・工事などで常々変化を余儀なくされている。（三浦・末光）

## 2. 周辺の遺跡

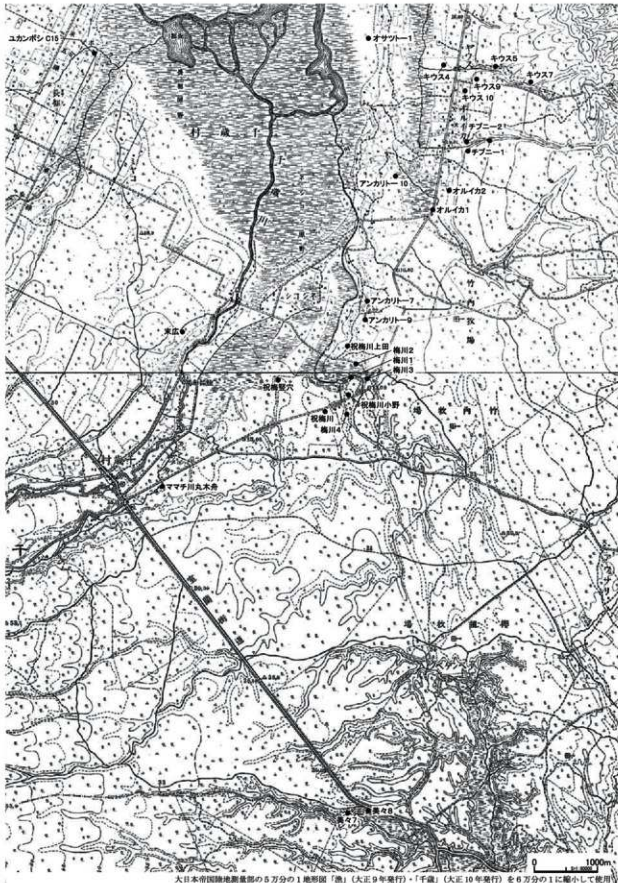
周辺の遺跡は、これまで刊行した本事業の調査報告書（北埋調報268他）を参照願いたい。ここでは、祝梅川と旧オリイ川流域、北の長都沼から南は美沢川遺跡群の範囲にあるアイヌ文化期の遺跡について述べる（図Ⅱ-4・表Ⅱ-1）。

### ・長都沼・旧オリイ川とその支流、ユナイトコ川・キウス川・無名沢・チブニー川流域

オサツトー1遺跡（269）では、焼土と集石を伴う土壇墓を調査した。

キウス7遺跡（265）では、遺跡を確認した。キウス4遺跡（92）は南北両側に低位部があり、建物跡と近くから「寛永通寶」が出土した。キウス5遺跡（93）では、横断自動車道建設用地内のA地区で、太刀（アイヌ刀）等が副葬された墓1基を調査し、道央圏連絡事業ではキウス川の低位部で畝が残る畑跡を確認し、キウス川旧河道から、農具等の木製品が出土した。対岸はキウス9遺跡（279）で、平地住居跡、灰集中、柱穴群を調査し、檜文文化期と判断した鍛冶遺構出土の試料のうち、1試料のみ14～15世紀の年代測定結果が得られており、アイヌ文化期まで使用された可能性がある。この南にはキウス10遺跡（286）があり中・近世の遺跡である。

チブニー川の右岸がチブニー2遺跡（278）、左岸がチブニー1遺跡（277）である。前者では平地



図II-4 遺跡の位置(4)

住居跡・建物跡、灰集中を調査し、青磁碗が出土した。後者では、灰集中を伴う焼土とⅦ層面で柱穴様ピットを確認し、これらの平面位置は近く、平地住居跡の可能性がある。チブニー1遺跡から西方向に中・近世のアンカリトー10遺跡(287)があり、南方向へオルイカ2遺跡(280)がある。大規模なコタンであったと考えられ、平地住居跡、建物跡、杭列、カワシンジュガイの集中を調査し、古銭、金属製品、植物種子、動物遺存体を多数確認した。現在のオルイカ川の左岸、オルイカ1遺跡(88)では平地住居跡を調査し、金属製品、火打石とみられるチャート(フリント)も出土した。

#### ・アンカリ沼・祝梅川、梅川流域

アンカリ沼・祝梅川を西に面する低位の段丘に、アンカリトー7遺跡(67)・アンカリトー9遺跡(283)、祝梅川上田遺跡(50)・梅川2遺跡(57)が連続する。アンカリトー7遺跡では平地住居跡、土坑墓等を調査し、刀装具等の金属製品、骨簾・骨針等の骨角器が出土した。自然遺物ではヒグマの犬歯を確認し貴重な発見例となった。小砂丘をはさんで南側はアンカリトー9遺跡で「開元通寶」の模銭銭が出土している。すぐ南は当報告の遺跡である。本遺跡では平地住居跡・建物跡で50軒以上、小柱穴や柱穴・杭穴で約2,400か所を確認できた。長期間にわたる大規模なコタン跡と考える。詳細は当報告にある。その南側の梅川2遺跡では建物跡を調査した。

梅川3遺跡(58)では、太刀、山刀(タシロ)、漆塗碗が副葬された墓が3か所調査されている(千歳市教委 1996)。祝梅壑穴遺跡(55)では、おがみ小屋跡と名付けられた平地住居跡と「正隆元寶」が調査された(千歳市教委 1979)。梅川1遺跡(56)の低位部では建材集中と名付けた加工建材の集中を調査し、南に接する祝梅川小野遺跡(48)では、平地住居跡、骨片集中、道跡を調査し、鉄鍋、刀の鐙が出土した(『調査年報20・21』2008・2009)。祝梅川遺跡(46)では集石が確認されている(千歳市教委 2003)。梅川4遺跡(59)は、千歳市教育委員会と当センターが調査し、平地住居跡、墓、カワシンジュガイの集中、道跡が調査され、陶磁器、鉄鍋、耳飾、土鈴が出土している(千歳市教委 2002・2003 『調査年報20・21』2008・2009他)。

#### ・美沢川流域

美沢川の左岸に美々7遺跡(217)・美々8遺跡(218)がある。美々7遺跡では山刀を伴う墓を調査した。美々8遺跡は分水界に付近に立地し、遺跡の範囲は低位段丘から斜面、旧河道にわたる。平地住居跡、墓、灰送り場(灰集中)、水場遺構を調査し、9種類の古銭、珠洲系すり鉢、伊万里系統、唐津皿等の陶磁器類、金属製品各種、旧河道部(低湿度)からはあらゆる種類の道具、材、繊維製品が出土した大規模な遺跡である。特記すべきことは、弘化三(1846)年に松浦武四郎が蝦夷地廻浦のさいに「ミミ惣所船乗場之図」として記録した、惣所(美々小休所)や舟着場を発掘調査し、文献史学の事実を考古学的に裏付けたこと、アイヌ文化期の多数の遺物の出土、「美々山道」(「シコツ越」・「ウフツ越」)を調査したことが挙げられる。美々山道は札幌本道の前身(北埋調報77)で、陸上、水上の交通路上、重要な地点であったことが解明できた。なお、低湿度出土の遺物は、平成17(2005)年に国の重要文化財指定を受けた。

以上、長都沼から南方向へと遺跡の概要を述べた。なお、自然遺物の出土の有無は、土壌水洗選別や浮遊選別法を採用したか等の調査方法の相違もある。このことを考慮して、規模の大きな遺跡を上げると、キウス川兩岸のキウス5・9遺跡、オルイカ2遺跡、アンカリトー7遺跡～祝梅川上田遺跡、美々8遺跡の四つの地点があり、これらは概ね2km間隔で位置しており、大規模な集落(コタン)が水系に規則的に存在したと考えられる。また、これらの遺跡のうち、オルイカ2遺跡以外の遺跡は擦

表Ⅱ-1 玖梅川・オルカイカ川流域のアイヌ文化期の遺跡(1)

遺跡番号	遺跡名	所在地	年代	調査年度	調査者	調査内容	調査結果		調査報告書	備考	関連する遺跡	
							調査範囲	調査結果			調査報告書	調査報告書
266	オホツルギ1号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
267	オホツルギ2号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
268	オホツルギ3号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
269	オホツルギ4号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
270	オホツルギ5号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
271	オホツルギ6号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
272	オホツルギ7号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
273	オホツルギ8号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
274	オホツルギ9号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
275	オホツルギ10号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
276	オホツルギ11号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
277	オホツルギ12号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
278	オホツルギ13号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
279	オホツルギ14号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
280	オホツルギ15号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
281	オホツルギ16号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
282	オホツルギ17号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
283	オホツルギ18号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
284	オホツルギ19号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999
285	オホツルギ20号遺跡	1000	1999	1999	国史院	1000	1999	1999	1999	1999	1999	1999

表Ⅱ-1 玖梅川・オルイカ川流域のアイヌ文化期の遺跡(2)

遺跡番号	遺跡名	時期	年代	出土品	調査	調査者	調査年度	調査内容	調査結果	調査機関	調査結果		調査年度
											調査内容	調査結果	
26	玖梅川流域 遺跡	縄文時代	縄文時代	土器 土器	玖梅川流域 遺跡	調査	1978	玖梅川流域 遺跡	玖梅川流域 遺跡	調査	玖梅川流域 遺跡	200	2000
27	玖梅川流域 遺跡	縄文時代	縄文時代	土器 土器	玖梅川流域 遺跡	調査	1978	玖梅川流域 遺跡	玖梅川流域 遺跡	調査	玖梅川流域 遺跡	200	2000
28	玖梅川流域 遺跡	縄文時代	縄文時代	土器 土器	玖梅川流域 遺跡	調査	1978	玖梅川流域 遺跡	玖梅川流域 遺跡	調査	玖梅川流域 遺跡	200	2000
29	玖梅川流域 遺跡	縄文時代	縄文時代	土器 土器	玖梅川流域 遺跡	調査	1978	玖梅川流域 遺跡	玖梅川流域 遺跡	調査	玖梅川流域 遺跡	200	2000
30	玖梅川流域 遺跡	縄文時代	縄文時代	土器 土器	玖梅川流域 遺跡	調査	1978	玖梅川流域 遺跡	玖梅川流域 遺跡	調査	玖梅川流域 遺跡	200	2000
31	玖梅川流域 遺跡	縄文時代	縄文時代	土器 土器	玖梅川流域 遺跡	調査	1978	玖梅川流域 遺跡	玖梅川流域 遺跡	調査	玖梅川流域 遺跡	200	2000
32	玖梅川流域 遺跡	縄文時代	縄文時代	土器 土器	玖梅川流域 遺跡	調査	1978	玖梅川流域 遺跡	玖梅川流域 遺跡	調査	玖梅川流域 遺跡	200	2000

文化期の遺構・遺物も多く出土しており、立地条件が同じであることは、遺跡を取り巻く自然環境も概ね同様であったと推測される。遺構の数や交易品とみられる遺物の出土から、祝梅川上田遺跡は美々8遺跡に次ぐ規模といえる。

長都沼に注ぐ河川は、他にメボシ川、千歳川、トメト川、ユカンボシ川等の河川があり、これらの流域にはユカンボシC15遺跡（ユカンボシ川流域 北理調報128・133・146・159・176・192）や末広遺跡（千歳川流域 千歳市教委1981・1982・1984・1996）等、同文化期の遺跡は多く、千歳市朝日町8丁目からは1667年以前（Ta-bの下位層）から丸木舟が発見された（千歳市教委 1979）。

現在は地形としてみられない、長都沼・馬追沼とこれらにそそいでいた河川、アイヌ文化期のコタンについて、今後の調査でさらに解明されることが期待される。（末光）

### 3. 掩体壕

表土層除去作業中、溝状の大規模な攪乱土がみられた。同時に調査をしていた北側のアンカリトリー9遺跡で2か所同様なものがあり、近隣の土地所有者から「戦時中、戦車を格納した壕である」との話聞き「掩体壕」と呼称し調査した（北理調報268）。千歳市域には昭和14年から旧日本海軍航空隊の基地がおかれ、これに関する構造物と考え調査した。また、平成19（2007）年度の梅川4遺跡A地区の調査で、溝状の攪乱（46×7 m）が縄文時代晩期の遺構を切ってみられたとの発掘担当者の話がある。

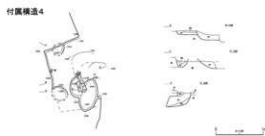
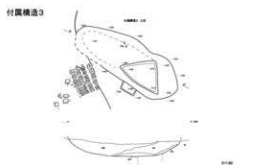
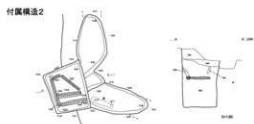
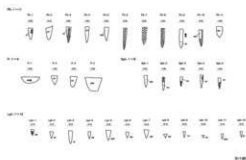
#### 掩体壕（図Ⅱ-5 表Ⅱ-2）

位置 D～G-22・24区 規模 12.3×4.9/1.20 m

調査 周辺の遺構・包含層調査完了後、Ⅴ層上面から行った。本体部分の壁・床面を検出し、西側は調査区外に続いており、この調査区壁で土層断面を記録し、付属構造を調査した。

#### 付属構造

- ・付属構造1 大型排水溝 4.60×2.76/1.35 m  
東側部分に位置し、内部に杭穴と木組みを確認した。
- ・付属構造2 排水溝 1.04×0.42/1.22 m  
南側壁の東よりに位置し、内部に杭穴と木組みを確認した。この周囲の床面は排水溝へと傾斜する。
- ・付属構造3 レンガ組・土坑 0.30×0.24/\* m 2.46/2.00×0.90/0.60/0.65 m  
南側壁に位置する。概ね半分には割られたレンガが、長方形を構成するように組み立てられ、数点が散在していた。出入口と推測する。近くには長楕円形の土坑があり、南西側部分は壁・床とも明瞭でなく、杭穴ph-2と重複する。
- ・付属構造4 複数の土坑等 全体：1.52×0.84/0.20 m  
南側壁に位置し、長方形を呈するⅡ層主体土を掘り下げたところ、レンガ、鉄、材、小さな土坑が複数認められた。
- ・付属構造5 大型排水溝への溝 1.42×0.20/0.08 m  
西側の大型排水溝へつながる溝である。
- ・杭穴
- ph-1～11 約0.10/約0.26 m  
主に壁際に列状に位置する杭穴で、一間（約1.8m）おきに定期的にみられる。
- sph-1～5 約0.08/0.25 m



図II-5 掩体壕

大型排水樹の周囲にみられ、比較的小型の杭穴である。

p-1~4 約0.36×約0.20/0.14~0.28 m

本体の中央付近で列状に位置し、楕円〜円形を呈する土坑で、柱穴と推測する。

Lph-1~12 約0.05/0.06~0.26 m

大型排水樹の木組みを支えていたと考える杭穴で、3×5の配列、1m強間隔で認められる。

**出土品** 杭や木組み等の構造材、ビール瓶等の飲料用の瓶等が出土している。また、土壌に詰めたセメントの塊もみられた。

**時期** 旧日本軍千歳海軍航空隊の施設であり、昭和14年~終戦頃の時期である。

**施設** これらは構造から兵舎・倉庫と判断する。レンガ組は出入口で、木組みを軽石で埋め戻した排水升は雨水等を集め流すための浸透樹と考える。(末光)

掩体壕 層位		層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)				備考	
断面図番号	層位名称		全体的な色調		粘着性	堅密度	種類	混在割合%	粒径mm	形状		風化の程度
			野外地土性	マンセル色名 マンセル黄色系								
Ⅱa	Ⅱ層二次堆積層	自然	砂土	黒褐色	10YR2/2	なし	しよ	Te-軽石	50以上	平均:10 最大:20	角~多角礫	未風化
Ⅱa	Ⅱ層二次堆積層	自然	堆積土	黒褐色	10YR2/2	強	堅					
WB	Ⅱ層主体で、黒色土層が混じる層	自然	砂土	黒褐色	10YR2/2	なし	しよ	Te-軽石	90以上	平均:5 最大:12	角~多角礫	未風化
WB1	・WB層のうち、黒色土層の混在が少ない層											
BW	黒色土層主体でⅡ層が見える層	自然	砂礫土	黒褐色	10YR2/2	弱	軟	Te-軽石	50以下	平均:5 最大:10	角~多角礫	未風化
BWY	・BW層のうち、黄褐色土層(礫層)が混在する層											
BW1	・BW層のうち、黒色土層の混在割合が少ない層											
BW2	・BW層のうち、黒色土層がブロック塊状で混在する層											
BW2Y	・BW2層のうち、黄褐色土層(礫層)が混在する層											
BW3	・BW層のうち、黒色土層の混在割合が多い層											
B	黒色土層主体の層	埋戻土	黒色	10YR1.7/1	強	軟~堅	Te-軽石	1	平均:最大	重円~多角礫	未風化	即層・V層
BR	黒色土層にIV層が見える層	自然	砂土~砂礫土	黒褐色	10YR2/2	弱~なし	軟~堅	Te-軽石	50	平均:2~3 最大:4	重円~多角礫	半風化
BY	黒色土層に黄褐色土層が見える層	自然~自然	堆積土~堆積土	黒褐色	10YR2/2	強	すこぶる堅	Te-軽石 Eo-軽石	20	平均:2~3 最大:15	重円~多角礫	未風化 風化
YB	黄褐色土層に黒色土層が見える層	自然~自然	砂礫土	灰黄褐色	10YR4/2	中~強	軟~堅	Te-軽石 Eo-軽石	15	平均:2~3 最大:6	重円~多角礫	未風化 風化
Y	黄褐色土層主体の層	自然	堆積土~埋戻土	明黄褐色	10YR5/6	強	堅	Eo-軽石	5	平均:3 最大:6	重円礫	風化

### 掩体壕 付属遺構 3・4 出土品 高さ

名称	番号	層位	標高 (m)	名称	番号	層位	標高 (m)
付属構造3 レンガ	1	W目1層	14.02	付属構造3 レンガ	20	W目層	13.69
	2	W目1層	13.90		21	WB層	13.68
	3	W目1層	13.90		22	WB層	13.67
	4	W目1層	13.90		23	WB層	13.67
	5	W目層	13.69		24	WB層	13.67
	6	W目層	13.70		25	WB層	13.69
	7	W目層	13.70		26	WB層	13.68
	8	W目層	13.70		27	WB層	13.68
	9	W目層	13.69		28	WB層	13.66
	10	W目層	13.69		29	WB層	13.66
	11	W目層	13.70		30	WB層	13.66
	12	W目層	13.69		31	WB層	13.66
	13	W目層	13.69		32	WB層	13.66
	14	W目層	13.70		33	WB層	13.47
	15	W目層	13.60		2	BW層	13.49
	16	W目層	13.68		3	BW層	13.39
	17	W目層	13.69		4	BW層	13.47
	18	W目層	13.68		5	BW層	13.47
	19	W目層	13.69				

表Ⅱ-2 掩体壕出土品点数表

遺物名 / 層位	掘土	付属構造掘土	坑穴掘土	土坑掘土	その他	合計	
構造材	杭		3	1		4	
	木組み	24				24	
	釘	5	6			11	
	レンガ	44				44	
	鉄製品(線)				9	9	
	パンセン	1	2		1	4	
	網	1				1	
	木材	3				3	
	陶器	ビール瓶				47	47
		煉瓦瓶				1	1
サイダー瓶		4			1	5	
飲料瓶		2				2	
ガラス製品							
その他	プラスチック板					0	
	鉄パイプ				1	1	
	鉄製品	16	7	1	3	27	
	電機部品	1	5			6	
	線	1				1	
	ガラス製品	1				6	
	ガラス製品	1				7	
合計	24	108	3	2	63	200	



## III章 調査の概要

### 1. 発掘区の設定

#### (1) 平成18年度 調査区の設定

平成18(2006)年度の調査区の設定は先の報告書『千歳市 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡』(北理調報238 1・2頁)に記載がある。その内容を箇条書きに書き出し再整理する。

ア:「祝梅川上田遺跡と梅川2遺跡にかかる共通のものとした。」

イ:「(前略)用地平面図を使用し、その工事設計の中央線上に設けられたSTA5,400とSTA5,500(STAはSPの誤り)のポイントを結んだラインを基軸線に2遺跡を網羅するグリッドを設置している。」

ウ:「横ラインに英字を縦ラインに数字を各あてている。」

エ:「先の基軸線はMラインに重なるように設け、縦ラインはMライン上のSTA(SP)5,400地点と直行(「交」の誤植)する縦ラインを25ラインとし、」

オ:「それらを基準に5×5mのメッシュを前面に設定した。」

カ:「各グリッドの呼称は横ラインと縦ラインの交点名をあてている。(中略)右下に位置するグリッドの名称となる(図I-2)」

キ:「座標値(世界測地系)

STA(SP)5,400 X=-128903,321 Y=-45563,466

STA(SP)5,500 X=-128806,054 Y=-45536,795

この記述に関連する図は、図I-2(5頁)とI-3(6頁)がある。

札幌開発部作成の用地平面図は「一般国道337号 千歳市新千歳空港関連用地測量調査 平成15年2月1:1,000」である。

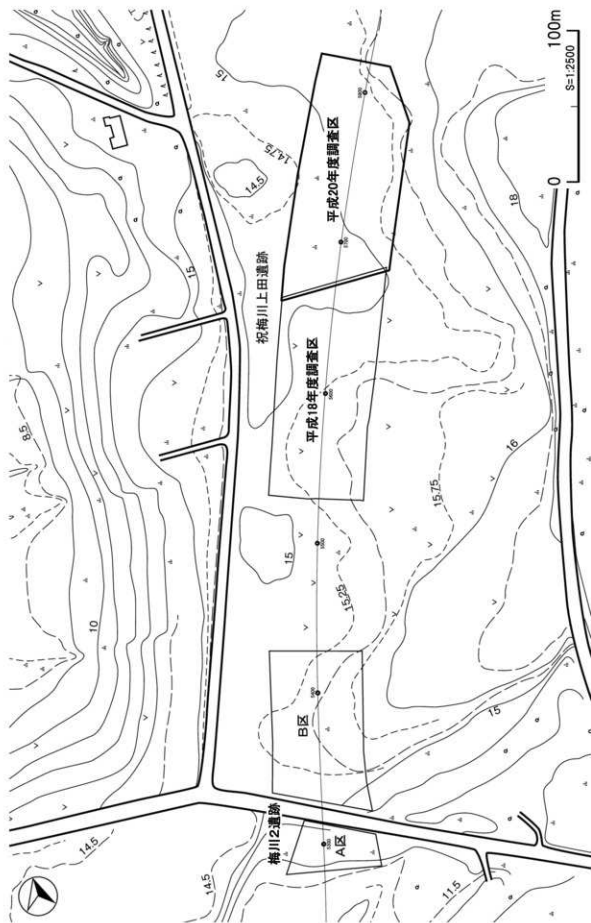
この区間の道路のセンターラインは、ゆるやかな曲線(半径:2,000mの円周)であり、設計道路の中心杭は、直線・曲線に関わらず100m間隔で設けられるので、中心杭SP5400~6000の区間には完全な直線部分はない。

当該年度では、梅川2遺跡B地区内のSP5400と、遺跡にかからないSP5500を結んだ南北方向の直線を基線とし、梅川2遺跡から祝梅川上田遺跡まで連続するグリッド区画を5mで設定した。基線の直線距離は99.997mでグリッド方向角は15°28'12.8"である。「図の天」は西とし、横(南北方向)に英字、縦に数字を付し、南北方向の基線をMラインとし、西へ降順、東へ昇順となる。SP5400で直交する東西方向は25ラインとし、北側(祝梅川上田遺跡の位置する方向)へ昇順とした。グリッド名称は南西側の杭名とした(図の天 左側)。

問題点は、図I-2・3(北理調報238 5・6頁)では、道路中心線の曲線を、杭間を直線で図化していること、本遺跡調査区内に位置する基準杭、SP5600の平面直角座標値が示されていないことである。

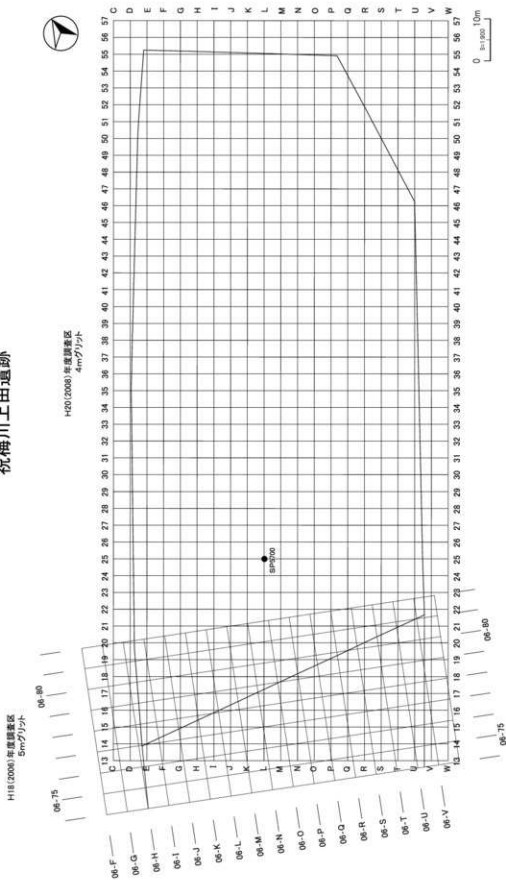
#### (2) 平成20年度 調査区の設定

平成20年度の調査区は、平成18年度のものとは別に設定した。すなわち、調査区内に位置する二つの中心杭、SP5700と5800を結んだ線を南北の基線とした。この区間も道路は曲線で、基線の直線距離は99.997mでグリッド方向角は24°03'51.9"である。SP5800とM-50杭はXが1cm、Yが3



図Ⅲ-1 調査区周辺の地形

# 祝梅川上田遺跡



図Ⅲ-2 調査区設定図

mmの誤差で同一点とみなせ、発掘調査に与える影響はないといえる。なお、グリッドは4mで設定し、南北基線をMライン(アルファベット)とし、S P 5700でこれに直交する東西方向の線を25(算用数字)とした。図の天は西とし、S P 5700を中心に、アルファベットは西へ降順、東へ昇順、数字は北へ昇順とした。グリッド名称は南西側の杭名とした。

なお、本遺跡の調査区内に座標が正確な道路中心杭、すなわち基線の基準点がなく、さらに、平成18(2006)年度の調査結果から、柱穴・杭穴が多数見つかることを予想し、遺構の実測を効率的に行うため、グリッドを4mで設定し直した(図Ⅲ-1・2)。

#### ・調査区の接合

両年度の調査区は、基線が異なるため両年度の調査区境界付近の杭の座標を、それぞれの基準点から計算し、CAD図で作図し点検・調整して接合した(Ⅹ章1節 参照)。

#### ・グリッドの呼称

両年度とも、グリッドはアルファベット大文字と数字をハイフンでつなぐ同じ表記であるので、本書では混同を避けるため、平成18(2006)年度調査区のものについては「06」を頭に付し、「06-M-25」と表わす。一方、平成20(2008)年度調査区は何も付さない。また、両年度にまたがる部分は、平成20年度調査区の南端、数字13グリッドラインまでの範囲は平成20年度調査区のグリッド呼称を用いる。

なお、両年度の測量の概要は表Ⅲ-1にまとめた。

(未光)

表Ⅲ-1 祝梅川上田遺跡 採用基線・測量概要

調査年度	グリッド規模	基線 グリッドライン	基線 中心杭	中心杭と グリッド杭の関係	直線距離	方向角	図の天	グリッドの呼称
		南北方向	東西方向					
平成18 (2006) 年度	5m	06-Mライン 06-M-25ライン	S P 5400 S P 5500	梅川2遺跡 06-M-25杭 06-M-45杭 近く	99,997m	15° 28' 13"	西	南西側の 杭
	測量の 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子基準点「長沼」・「忠政」・「厚良」を利用したGPS測量で、下記の3級基準点を2か所設置</li> <li>これら新設の3級基準点からグリッド杭を打設した。</li> <li>水準測量は一等水準点 点名「7319」(12,5429m)・「7320」(H=15,8245m)を基点とした。</li> </ul>						
	基準点 No.5 基準点 No.6	平面直内座標	X	Y	標高	H		
平成20 (2008) 年度	4m	Mライン 25ライン	S P 5700 S P 5800	M-25杭 M-50杭 近く	99,997m	24° 03' 52"	西	南西側の 杭
	測量の 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>S P 5700→5800のグリッド方向角を算出・計算結果(直線距離:99,989m 方向角:24-03-52)</li> <li>2級基準点「12」(12)と工事用既設の「H-13-3」(2級)、「H-13-07」・「H-13-08」(3級)からT.S測量を行い、下記の3級基準点を2か所設置した。</li> <li>これら新設の3級基準点からグリッド杭を打設した。</li> <li>水準測量は工事用に設けられた既設の仮BM「仮BM5」(15,515m)・「仮BM9」(15,087)・「仮BM12」(15,711m)を基点とした。</li> </ul>						
	H20-1 H20-2	平面直内座標	X	Y	標高	H		
調査 年度	中心杭	グリッド杭	平面直内座標 (m) 世界測地系		国土地理院 TKYJZJGDによる計算 直線距離 (m) 方向角 (°)		備考	
平成18 (2006) 年度	S P 5400	梅川2遺跡・平成18年度 M-25 基線 南側 基準杭	-128,903.321	-45,563.466	99,997	15-28-12.78	与点	
	S P 5500	06-M-45杭 近く	-128,806.954	-45,536.795	99,997	18-20-06.37	S P 5400→S P 5500を採用	
	S P 5600	06-N-65杭 近く	-128,712.041	-45,505.341	99,997	21-11-58.44	S P 5600 ≠06-N-65杭	
平成20 (2008) 年度	S P 5700	M-25 平成20年度 基線 南側 基準杭	-128,618.818	-45,469.183	99,997	24-03-51.91	与点	
	S P 5800	M-50杭 近く	-128,527.519	-45,428.411	99,997		S P 5700→S P 5800を採用	

## 2. 基本層序

土層の観察は、『土壤調査ハンドブック』（ペドロジスト懇談会 1984）・『標準土色帖』（小山・竹原 1967）を参考にし、基本層序柱状図（図Ⅲ-3）と表Ⅲ-2に示した。

### I層：現地表土

現地表土は耕作土で、黒褐色土にT a-a軽石が多く混入する。

### II層：樽前a降下軽石層（T a-a）

1739年に噴火した樽前山の火山噴出物から構成される。構成粒子の違いから、三つのフォールユニット（A～C群）が認識できた。A群は層厚で粗粒、B・C群は細粒で、火山灰が主体的である。上位は削平されI層に混ざるものも多く、さらに調査区全体にみられる深度耕作によるブラウ痕にはT a-a軽石が無作為に堆積し、深いものは黄褐色ローム層のVII層にまで及んでいた。

### III層：黒色土層

第I黒色土層で、縄文時代晩期後半、統縄文時代、擦文文化期、アイヌ文化期の遺物包含層である。

### IV層：樽前c降下軽石・スコリア層（T a-c）

約2,000年前（縄文時代晩期後半頃）に降下した樽前山の火山噴出物（軽石・スコリア）から構成される層である。粒径のまとまりはなく無作為にみられる。礫の混在割合から、IV1層とIV2層に分けた。

### V層：黒色土層

第II黒色土層で、縄文時代晩期後半～同早期、旧石器時代の遺物包含層である。上位のT a-c軽石が混入する部分をV1層、混ざらない下位をV2層としたが、調査ではV層でまとめた。

### VI層：漸移層

上位の黒色土層と下位の層の間に位置する漸移層で、縄文時代と旧石器時代の遺物が出土した。色調は上位が黒色に近く、下位は黄褐色に近い色調で変化は漸変である。

### VII層：黄褐色風化ローム層

「恵庭のローム層」と呼ばれている層で、堅密度から、上位をVII1層、下位VII2層に分けた。VII2層はE n-a軽石の混入が多い。VII層と表記したものは、通常VII1層を示す。旧石器時代の遺物が出土した。

### VIII層：恵庭a降下軽石層（E n-a）

約13,000～18,000年前に降下した、恵庭岳の火山噴出物（軽石）から構成される層である。

（末光）

表Ⅲ-2 桜梅川上田遺跡 基本層序

層名	名称	層厚 (m)	層序	砂・シルト・粘土			礫 (直径2mm以上)				備考	
				野外土質	色澤 マンガン酸化色	結核性	硬さ	埋入割合 (埋没割合)	時期 (M)	形状		発見の 種別
I層	Ⅰ層	平均:18	混然	砂壤土	黄褐色 (10YR2/2)	なし	平らな面 を呈する	T <sub>4-6</sub> 層位	50% 以上	平均: 6~8	底面 部	土器 類 ~土器化
	A群	平均:18	混然	火山礫 火山砂						平均:20	片~歪片	土器化
	B群	平均:14	混然	砂土 火山礫~ 火山砂主体	(埋没) ~軽石片 (埋没) =黄色部	—	—	T <sub>4-6</sub> 層位	(少量)	最大:10	片~歪片	土器化
	C群	平均:19	混然	火山砂主体								土器
II層 埋没部 制作・二次埋没の T <sub>4-6</sub> 層												
III層	Ⅲ層	平均:14	混然	硬粘土	黒色 (10B1.7/1)色	無	硬~強					Ⅲ層土層
	Ⅲ1層	平均:13	粘然	砂土	に少し黄褐色 (10YR7.5/4)	なし	硬~ しじょう	T <sub>4-6</sub> 層位	7%	平均:3 最大:10	歪片	土器化
	Ⅲ2層	平均:4	混然	砂土	に少し黄褐色 (7.5YR4.3)	なし	しじょう	T <sub>4-6</sub> 層位	50% 以上	平均:3 最大:5	歪片	土器化
	Ⅲ3層	平均:13	硬粘	硬粘土	黒色 (10B1.7/1 ~2/2)	無	強	T <sub>4-6</sub> 層位	10%	平均:3	歪片	土器化
	Ⅲ4層	平均:19	硬交	硬粘土		無	軟					Ⅲ層土層
	Ⅲ5層	平均:15	硬交	硬粘土	黄褐色~灰褐色色 (10YR2.2~10YR4.2)	無	軟	E <sub>10-8</sub> 層位	10%	平均:8 最大:15	歪片	土器~ 土器化
IV層	Ⅳ1層	平均:20	粘然	硬土~ 硬粘土	黄褐色 (10YR5.0/5)	無	強	E <sub>10-8</sub> 層位	5~20%	平均:7	歪片	土器~ 土器化
	Ⅳ2層	平均:32	混然	壤土		中	平らな面 を呈する	E <sub>10-8</sub> 層位	60%	平均:8 最大:12	歪片	土器化
	Ⅳ3層	—	—	砂土	黄褐色 (7.5YR4)	なし	平らな面 を呈する	E <sub>10-8</sub> 層位	90% 以上	最大:10 平均:10	歪片	土器 ~土器化

表Ⅲ-3 基本層序柱状図

層名	層厚	層序	土質
I層	—	—	砂土
II層	—	—	硬粘土
III層	—	—	硬粘土
IV層	—	—	硬土~硬粘土
V層	—	—	硬粘土
VI層	—	—	硬粘土
VII層	—	—	硬粘土
VIII層	—	—	硬粘土
IX層	—	—	硬粘土
X層	—	—	硬粘土

図Ⅲ-3 基本層序柱状図

層名 ———— 層厚 ———— 層序 ———— 土質 ————

### 3. 調査の方法

はじめに建設機械によりⅠ層～Ⅱ層下位までを除去し（表土・火山灰除去）、次に人力で残りのⅡ層を掘り、Ⅲ層上面を検出した。この面では、T a - a が厚く堆積する深度耕作によるプラウ痕が調査区全体に規則的にみられ、Ⅲ層とT a - a の縞状を呈していた。この段階でプラウ痕のT a - a を除去すると、凹凸が生じ、排土の搬出等の作業が行いにくくなると判断し、包含層調査で同時に下げることとした。

必要に応じ地山（Ⅶ層）まで先行してトレンチ調査・25%調査等を行い、事前に土量や遺構・遺物のあり方の情報を集約・検討し全体の調査計画をたてた。

遺構の名称は、小柱穴以外は平成18（2006）年度と同じ略号を用い、連番とした。小柱穴は柱穴・杭穴と呼称し、略号は「S P」を用いて1から付した。これは、S PがⅢ層（上位の意味の「U」）よりも下位で見つかるものが多いためである。

包含層を掘り下げ清掃し、遺構の確認に努めた。特に柱穴・杭穴等の小さな遺構に注意を払った。確認できた黒色土は平截し、土層断面で形状や覆土を確認し判断した。これらの柱穴・杭穴は黒色土中で見つけることが難しく、Ⅵ層より下位で確認できたものも多い。Ⅲ層で焼土、灰集中、礫集中を確認した場合は、平地住居跡である可能性を考え、周囲を精査し、柱穴・杭穴の発見に努めた。焼土や灰集中を囲むように柱穴・杭穴の配列がみられたものは住居跡と考え、みられなかったものは単独の遺構と判断した。炉跡の焼土や灰集中を中心に土壌を浮遊選別し、微細遺物の回収を行った。他に擦文文化期の住居跡、縄文時代の土器集中も調査した。

V層の調査は、旧石器時代のブロックの存在が予想される南西側、平成18（2006）年度調査区に接する、東西方向グリッドライン13～26・27の部分を調査した。縄文時代の遺構・遺物や旧石器ブロックを確認した。

地形測量図は調査の進行状況に合わせて作成した。Ⅲ層とV層の約1/4を調査し完了した。

本遺跡の主たる時期は、アイヌ文化期、擦文文化期、旧石器時代である。

### 4. 整理の方法

#### (1) 一次整理の方法

土器・石器の通常の遺物は、現場での遺物の取り上げは「遺跡名（略号：上） 出土地点（遺構名・グリッド） 出土層位 遺物種別（土器・剥片石器・礫石器・旧石器・その他に大別） 取り上げ番号（出土位置記録のもの） 取り上げ年月日」の情報を記したビニール袋に遺物を収納した。袋ごと「取り上げ台帳」に記録し、一次整理作業の流れを管理した。遺物は「水洗」・「乾燥」した後、「分類」し、出土地点・出土層位・遺物名等の遺物個別の情報を「遺物カード」に記し、遺物とともにビニール袋に収納した。また、その遺物カードの記載事項を一覧表にまとめ、Excel文書の「遺物登録台帳」を作成し、二次整理作業を進めるための基本情報とした。

接作業を行う土器や旧石器・礫石器・礫（片）は、遺物カードの情報の一部を直接遺物に「注記」した。内容は「遺跡名（上） 出土地点 出土層位 遺物番号」である。

金属製品、炭化木製品等の脆弱遺物、旧石器等は二次整理の方法も含めそれぞれの章で述べる。

#### (2) 二次整理の方法

##### ・土器

土器の接作業は、残存状態が「良好」・「剥離」のものを中心に行い、遺構出土土器の接合は遺

構内、遺構間、遺構が位置するグリッド、周辺のグリッドへと展開し、包含層出土のものは、破片が多いグリッドから周囲へ広げるように進めた。

接合した破片は復元可能なものを接着し復原し、立面図等の実測図を作成した。破片は、特徴が認識しやすい口縁部や底部の破片を中心に選び出し、拓影図と垂直方向の断面図を組み合わせ図示した。すべての掲載土器は観察表を作成した。

#### ・石器等

石器等は礫石器・自然礫は接合を行った。接合したものや、残存状態が「完形」・「準完形」のものを中心に、器種や形態の多様性を示せることを考慮し、掲載する石器を選び出し、実測図と観察表を作成した。

#### ・自然遺物

住居内あるいは単独の焼土や灰集中等に多くみられ、大きなものは手取りし、微細遺物は土壌ごとに取り上げ、浮遊選別法により、動植物遺存体の回収を主たる目的で行った。

これらの作業と並行して遺物の集計作業も行い、その結果を出土点数表・出土分布図にまとめた。

## 5. 遺物の分類

土器は、表Ⅲ-3「土器・土製品時期等分類基準」・表Ⅲ-4「土器部位分類基準」・表Ⅲ-5「土器残存状態分類基準」で、縄文時代の石器等は表Ⅲ-6「石器等器種分類基準」・表Ⅲ-7「石器等残存状態分類基準」で分類した。また、金属製品・木製品・旧石器は各章で記述する。

(未光)



表III-3 土器・土製品時期等分類基準

種別	時代	時期	群	類	土器群・型式名
土器	縄文時代	早期	I群	a類	貝殻文・条痕文・沈線文を有する土器群
				b類	東銅路式系土器群
		前期	II群	a類	縄文尖底土器群
				b類	円筒土器下層式 それに伴う土器群
		中期	III群	a類	円筒土器上層式・サイベ沢Ⅴ式 手稲前田式・萩々岡1式・萩々岡2式に相当する土器群
				b類	萩々岡3(天神山式)・柏木川式・北簡式に相当する土器群
		後期	IV群	a類	余市式・タブコブ式・入江式に相当する土器群
				b類	ウサクマイC式・手稲式・ホッケマ式に相当する土器群
				c類	堂林式・三ツ谷式・御殿山式に相当する土器群
		晩期	V群	a類	大洞B式・大洞BC式 それに伴う土器群
				b類	大洞C1式・大洞C2式 それに伴う土器群
				c類	大洞A式・大洞A'式 それに伴う土器群
	続縄文時代	VI群	続縄文式土器		
弥生時代	VII群	弥生土器			
時期不明・ 判断不可能なもの	不明	剥離や磨耗、小破片が多い			

表III-4 土器部位分類基準

部位・名称	内容
口縁部	・口唇部が残存するもの ・口唇部は残存しないが、これに近い部位と判断できるもの
底部	・底面が残存するもの ・底面は残存しないが、これに近い部位と判断できるもの
胴部	・口縁部・底部・不明・その他以外のもの
不明	・部位を特定できないもので、小破片に多い

表III-5 土器残存状態分類基準

呼称	内容	備考
良好	・器の形状を留める個体土器 ・破片の表裏面及び割れ口の残存状態が良いもの	・接合可能な破片 ・文様等が残り、時期判断等に有効な情報が多い
剥離	・破片の表裏面のいずれか、あるいは両面が約1/2以上剥離・剥落しているもの	・接合可能な破片 ・文様が残る場合、時期判断等に有効な情報を有する ・剥離面は粘土の観察に適する ・破片化した後、人為的に加工されたものもある(再生土製品)
磨耗	・破片が磨耗しているもの	・磨耗した割れ口は接合に耐えられない ・文様等の磨滅により、破片そのものの情報は少ない ・遺物の二次的な移動を考慮の上で有意な情報を有する ・破片化した後、人為的に加工されたものもある(再生土製品)
小破片	・大きさが長径2cm程度以下の小さな破片	・破片が小さいため接合に適さず、復原作業に与える影響も少ない ・破片そのものの情報は少ない ・小さいため注記できないものもある ・ある破片に接合した場合、接合関係についての情報が得られる

表Ⅲ－6 石器等器種分類基準

分類	器種・名称	備考	主要な石材
剥片石器	石鏃		黒曜石 頁岩 等
	石槍・ナイフ		
	石錐		
	つまみ付きナイフ	「石匙」	
	スクレイパー		
	U・Rフレイク	定型的な形態を有さないが、人為的な使用痕・加工痕が認められるフレイク U=utilized R=retouched	
	石核		
	フレイク・チップ		
	原石		
礫石器	磨製石斧		泥岩 片岩 等
	磨製石斧原石		
	たたき石		安山岩 砂岩 凝灰岩 等
	すり石		
	北海道式石冠		
	石錘		
	砥石		
	台石・石皿		
石製品	名称・通称	玉	各種
礫	加工・使用痕のある礫	人為的な使用痕・加工痕が認められる礫	各種
	自然礫	自然礫であるが、遺跡に人為的に持ち込まれたと考えられるもの	

表Ⅲ－7 石器等残存状態分類基準

分類	分類	内容
剥片石器・石製品	完形	残存する部分が90%以上のもの
	準完形	「完形」と「半形」の中間的なもの 完形に近いもの
	半形	残存する部分が50%程度のももの
	片	残存する部分が50%程度未満のもの
礫石器	完形	大きな割れ口が無いもの 割れ口を有しても機能部が損なわれていないもの
	準完形	割れ口があり、完形の状態を想定でき、残存する部分が75%程度のももの
	半形	割れ口があり、完形の状態を想定でき、残存する部分が50%程度のももの
	片	割れ口があり、完形の状態を想定し難く、残存する部分が50%程度未満のももの
礫	完形	割れ口のないもの
	片	割れ口があるもの

## IV章 III層の遺構

### 1. 概要 (図IV-1~111 表IV-1~14)

III層では、アイヌ文化期・擦文文化期・続縄文文化期・縄文時代晩期後半の遺構を調査した。調査数は住居跡・建物跡49軒、墓坑1基、土坑1基、灰集中20か所、焼土49か所、土器集中3か所、フレイク集中1か所、礫集中9か所、貝殻集中1か所、骨片集中1か所、畑跡1か所、後に住居跡・建物跡に組み込んだものも含めて柱穴・杭穴1,954か所である。

当初から調査の主眼は、アイヌ文化期集落(コタン)跡の検出にあった。調査区の北側から調査を開始し、順次南側に向け展開、途中からは平成18(2006)年度調査区との接続部も調査の進展を図った。重機で除去した1739年降下のII層(Ta-a)の残りを除去したのち、III層の上面を観察。特段の着目状態にない黒色土の平坦面であったため、上面から鋤簾による2~3cmの掘削を開始した。二度ほどの削りて、平地住居の炉とみられる焼土や、柱穴とみられる径10cm以下のしまりのない黒褐色土の範囲が現れ始めた。焼土周辺をさらに薄く削りつつ柱穴を探し、最初に検出したのがUHD-13・14である。

この状況から集落遺構はIII層を少し削り込んだ位置にあると判断、15~16世紀のコタン跡を想定した。以後は調査工程と期限と照合し、III層が下位のIV層(Ta-c)近くで褐色土化する面まで鋤簾がけを繰り返し、焼土や灰層、柱穴・杭穴を主とした遺構検出や遺物確認に努めた。また、UHP-17とした擦文文化期の堅穴は表土除去の段階で窪みが認識されたため、当該期の遺構検出にも対応した。基本的に遺構Noは平成18(2006)年度調査から続くものとし、調査時はUHP・UHD・UHともすべてUHとして通しNoで調査した。報告に際し時期と性格を考慮しUHP・UHD・UHに分割したがNoは調査時のままである。ただし建物として認定できなかった柱穴・杭穴(SP)は数が多いためNo.1から命名した。

結果、アイヌ文化期集落跡としては、平地住居跡(UHD)25軒、建物跡(UH)20軒、灰集中送り場遺構(UA)17か所、焼土(UF)49基や、畑跡、礫や貝殻・骨片の集中(送り場遺構か)、土坑(UP)1基を検出した。また、平成18(2006)年度調査で報告済のUH-1と柱穴のいくつかは、今回の調査区と接しており、住居跡として認識するには情報が不足していた。今回これらも整理したので合わせて報告する(UHD-1・60、UH-63)。さらに調査区全域では柱穴・杭穴のような小ピット(SP)をNo.1~1954まで検出した。杭列・柵・柵などの施設を構成するものであろうが、これらの遺構は現地・図上でも明確にとらえられるものは少なく、「柱穴・杭穴」として分類を設けた。建物跡を検討していく段階で、これら小ピット(SP)を住居や建物の柱や内外の施設構造として組み込んだものも多い。整理作業が錯綜したため、平地住居跡(UHD)や建物跡(UH)の掲載図上で取り込めていないものも多いが、本文中に記載したので、配置や断面図は本章9節「柱穴・杭穴」のSP図や全体図で照合願いたい。また、調査終盤で、UHD-28に重なって検出された、12世紀後半の青磁皿の副葬がある墓坑(GP-1)は、擦文文化期最終末かアイヌ文化期初頭の所産とみられる。

擦文文化期では堅穴1軒、最終末期の浅皿状堅穴(UHP)3軒を検出した。後期の土器集中(UPS)も1か所確認した。また、続縄文期の土器集中(UPS)2か所と、縄文晩期後半のフレイク集中(UFC)も検出している。以下、種別に報告する。なお、出土遺物の個別詳細は、種別の遺物報告であるVI・VII章に掲載してある。(三浦)

## 2. 住居跡・建物跡

### (1) 平地住居跡 UHD (図Ⅳ-2～57 表Ⅳ-1・3・13 図版3～11)

炉がある建物跡と、炉は確認できないが大型の建物跡合わせて27軒をここで扱う。平成18(2006)年度分の修正・追加も報告する。基本的に柱穴は、先を尖らせた柱を人力や屋根重量で地面に差した「差し込み柱」である。そのため、いわゆる外踏ん張りの柱頭側が内傾斜した柱穴が多い。建物の規模や柱の数・間隔などから柱間数を確定させ、主柱と補助柱を割り出した。建物構成上、柱穴が確認できていない部分もあるが、上部構造の重さで支え合う「置き柱」のような対応があったものと推定する。建物内外の所属の明確でない柱穴・杭穴(S・P)も、付属施設等の観点から報告で触れている。炉や付属の焼土・灰からは生活痕跡である動植物遺体が検出されている。金属製品が残された遺構も存在する。

#### UHD-1

位置：L・M・N-17・18、M-19区 軸方向：N-17° -W

規模：7.9×5.5m 柱間数：(3)×3

確認柱穴数 主：9 壁列補助：1 内部付属：6 外部付属：3以上

柱穴の検出状況：平成18(2006)年度報告の柱33本を整理し、UHD-1・UH-63・杭列とその他に分離。南西部と東長辺の間柱1本が確認できていない。長方形の大型建物と推定される。

炉等付属施設：中央北寄りに1.7×1.7mの範囲で灰床。

出土遺物等：被熱曝散在。炉から魚骨・カワシシユガイ貝皮。

付属遺構：南西2.5mのUH-63が付属倉庫。西壁2.5m外に杭列あり。

周辺遺構との関係：東6mにUHD-36、北北東9mにUHD-37。

#### UHD-13

位置：G・H・I-51・52、H-53区 軸方向：N-51° -W

規模：5.2×4.6m 柱間数：4×4

確認柱穴数 主：14 壁列補助：3 内部付属：6 外部付属：7以上

柱穴の検出状況：南西辺の主柱間隔に変異があるが、長方形の小型建物を構成している。HP-20・21が対応するかもしれない。南西辺に沿って内側にHP-3・18・17・16・15・14の列がある。内部構造の一部であろう。外のHP-26・27・28はSP-86と並んで櫛列を構成する。

炉等付属施設：中央やや西寄りに径50cmほどの焼土。

出土遺物等：南東外に鉄鈎1点。炉から骨片。

付属遺構：東北東5mにあるUH-19が倉庫。櫛列あり。

周辺遺構との関係：南東11mに同じ軸方向のUHD-14。

#### UHD-14

位置：K・L・M-48・49、K・L-50区 軸方向：N-41° -W

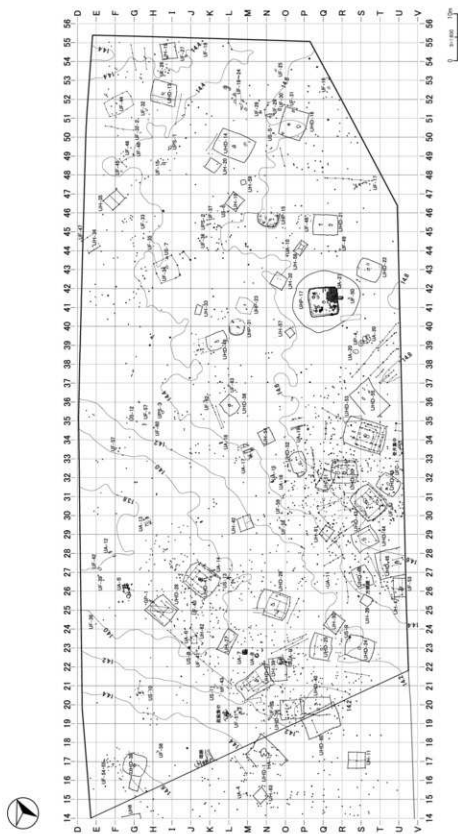
規模：7.5×5.0m 柱間数：4×4

確認柱穴数 主：15 壁列補助：8 内部付属：1 外部付属：6

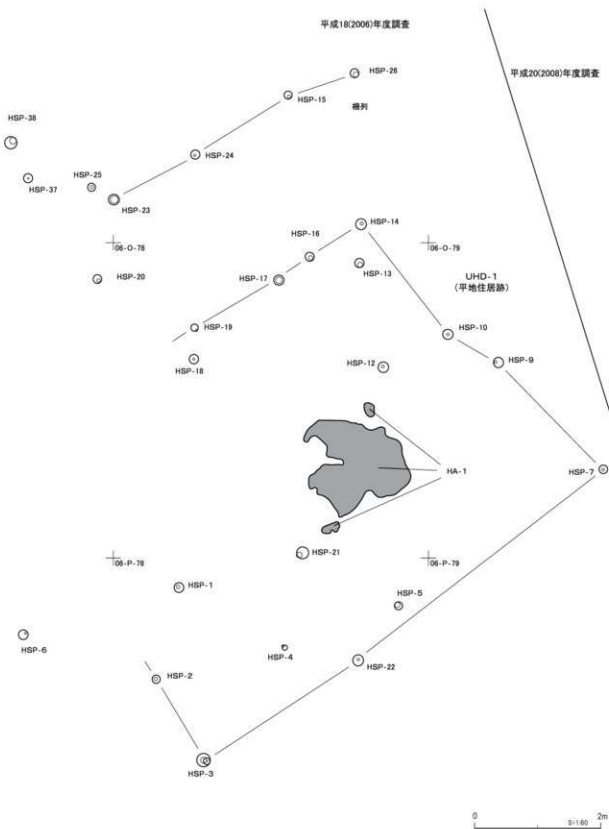
柱穴の検出状況：南西辺の南部の間柱が確認できないが、長方形の中型建物を構成している。外柱穴のHP-27・28・29・31は直線状に並ぶ外の付属施設である。HP-25はUH-20の角柱である。

炉等付属施設：灰を伴った80×60cmほどの炉。東角に3か所の炭化物集中がみられた。

出土遺物等：炉から針や骨片・カワシシユガイ殻・ヒエ属炭化種子などを検出。東隅に礫(鍾石)がややまとまった状態であるが、西側に散在もある。



図IV-1 III層遺構位置図



図IV-2 UHD-1

**付属遺構：**南西7mにあるUH-18が倉庫。その西辺外に鍾石とみられる礫14点の集積がある。UH-18との間の4本柱小規模建物UH-59は熊檻様の建築物か。

**周辺遺構との関係：**UH-20とは同軸方向だが1m以下と隣接しており、同時存在はしていないとみられる。同じ軸方向の建物が、北西11mにUHD-13、東6mにUHD-16と2軒ある。

#### UHD-16

**位置：**O-49、N・O・P-50・51区 **軸方向：**N-46°-W

**規模：**5.1×6.0m **柱間数：**3×4

**確認柱穴数 主：**11 **壁列補助：**1 **内部付属：**2 **外部付属：**7以上

**柱穴の検出状況：**南側の長短辺で間柱穴が確認できていない部分がある。炉の軸と90°の長軸をもつ横長の中型建物である。外のSP-140・141・143は直線状に並ぶ外の付属施設である。

**炉等付属施設：**軸ライン上に径85cmと50cmの南北2か所の炉。西隅に作業用とみられる焼土。

**出土遺物等：**柱穴列外で刀子出土。US-5とした鍾石19点も屋外に集積。炉HF-1・2から骨片・クルミ堅果殻片・ヒエ炭灰化種子などを検出。

**付属遺構：**上記のように東角の外にUS-5がある。屋外利用の鍾石集積である。

**周辺遺構との関係：**西6mに同じ軸方向のUHD-14がある。北側は建物や柱穴・杭穴の希薄地帯で、北西側には弧状の焼土列UF-19~24・28~30が延びている。

#### UHD-21

**位置：**P・Q-44・45区 **軸方向：**N-65°-W

**規模：**5.2×4.2m **柱間数：**4×4

**確認柱穴数 主：**15 **壁列補助：**4 **内部付属：**1 **外部付属：**4以上

**柱穴の検出状況：**北西辺の間柱が確認できないが、長方形の小型建物を構成している。炉HF-1の外端部長軸上にはSP-310が刺さっている。南側2.5mに散在するSP-313~319は関連する外部施設の可能性がある。

**炉等付属施設：**長軸上に長径80cmの焼土2か所が均等に配置されている。

**出土遺物等：**南角外部で針が2本と刀の茎部が出土している。北角外を主に鍾石の散在がある。炉HF-1・2から骨片・クルミ堅果殻片を検出。

**付属遺構：**やや離れているが西側11mのUH-32が付属倉庫か。その中間3mあたりにある8本柱の組み合わせUH-58も関連施設であろう。西5.5mにはこの家の送り場とみられるUA-10がある。東北東7.5mのSP-161~167・611の8本は直線状に並び、この家の長軸と平行である。敷地境界の柵列であろうか。

**周辺遺構との関係：**南7mにUHD-22がある。同じ軸方向の家屋は50m離れているUHD-50。

#### UHD-22

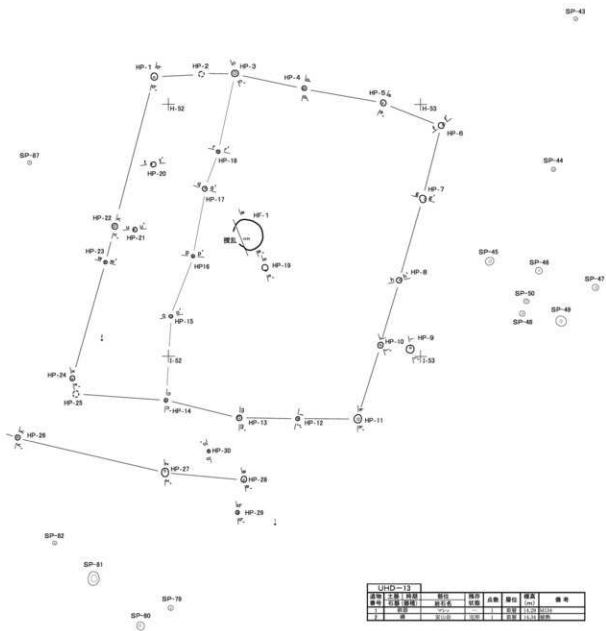
**位置：**R・S・T-42・43区 **軸方向：**N-47°-W

**規模：**5.1×4.2m **柱間数：**4×3

**確認柱穴数 主：**14 **壁列補助：**4 **内部付属：**なし **外部付属：**5

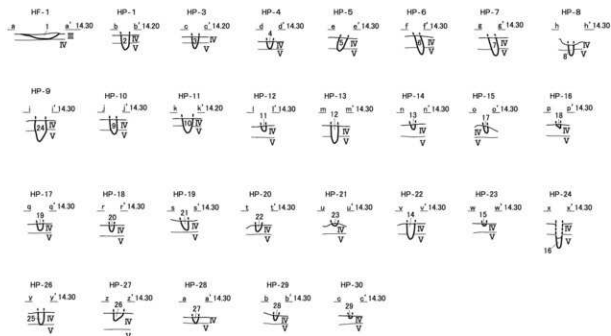
**柱穴の検出状況：**短辺がやや膨らむ長方形の小型建物。北角は離れた2本の柱で構成されている。東辺の間柱1本が確認できない。周辺には柱穴・杭穴がほとんど見られない。従ってSP-280・321~324は入口・干し台などの外部施設であろう。

**炉等付属施設：**灰を伴う炉は長径60cmでほぼ中央にある。その脇に炭化物のまとまりがある。炭化物は壁際にも点在している。



图IV-3 UHD-13(1)



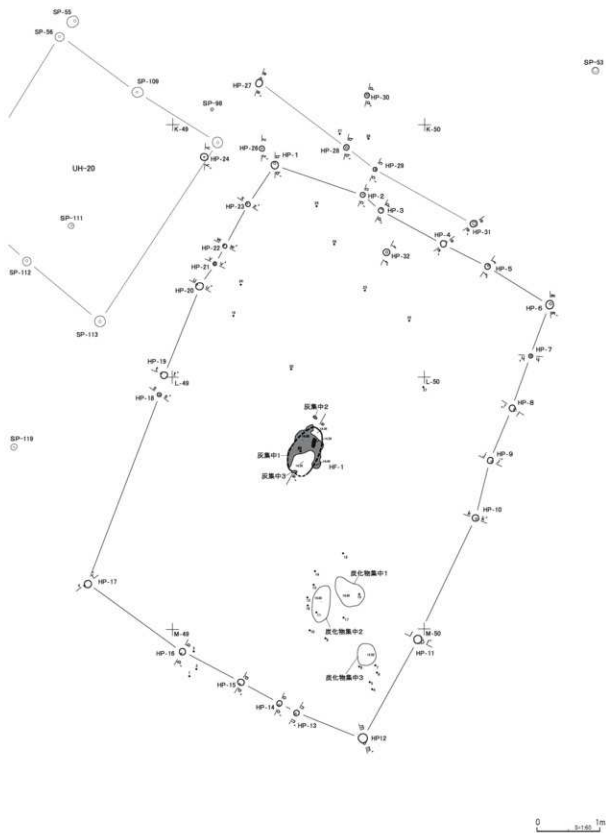


遺構 番号	相違 箇所	掘削名称	主体層	所在層	掘削	調査内容(掘削)結果				調査結果(掘削)結果		そのほか調査結果		備考		
						土質		野外地性	マンホール 敷設	粘着性	堅硬度	種類	割合 割合		種類	所在量
						色名	層名									
UHD-13	1	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	2	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	3	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	4	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	5	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	6	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	7	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	8	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	9	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	10	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	11	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	12	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	13	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	14	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	15	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	16	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	17	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	18	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	19	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	20	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	21	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	22	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	23	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	24	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	25	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	26	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	27	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	28	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	29	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			
	30	HP-1	III	III	掘削	黄褐色	粘着性	軟弱	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性	粘着性			

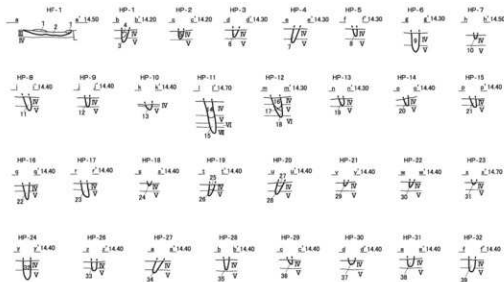
0 1m  
1:100

図IV-4 UHD-13(2)

UHD - 14



図IV-5 UHD-14(1)



遺構番号	調査年度	発見名称	主体部	遺存部	構造	UHD-14(1)の位置関係				UHD-14(2)の位置関係				
						野方	北	東	南	野方	北	東	南	
UHD-14	1	HP-1 穴	穴	—	両側	築地上	北西-東南向	1000/1	溝	テラス型	—	—	1000/1	溝
	2	HP-1 溝1	溝	—	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	3	HP-1 溝2	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	4	HP-1 溝3	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	5	HP-1 溝4	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	6	HP-1 溝5	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	7	HP-1 溝6	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	8	HP-1 溝7	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	9	HP-1 溝8	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	10	HP-1 溝9	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	11	HP-1 溝10	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	12	HP-1 溝11	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	13	HP-1 溝12	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	14	HP-1 溝13	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	15	HP-1 溝14	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	16	HP-1 溝15	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	17	HP-1 溝16	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	18	HP-1 溝17	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	19	HP-1 溝18	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	20	HP-1 溝19	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	21	HP-1 溝20	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	22	HP-1 溝21	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	23	HP-1 溝22	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	24	HP-1 溝23	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	25	HP-1 溝24	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	26	HP-1 溝25	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	27	HP-1 溝26	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	28	HP-1 溝27	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	29	HP-1 溝28	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝
	30	HP-1 溝29	溝	両側	両側	築地上	北南向	1000/1	溝	テラス型	溝	溝	1000/1	溝

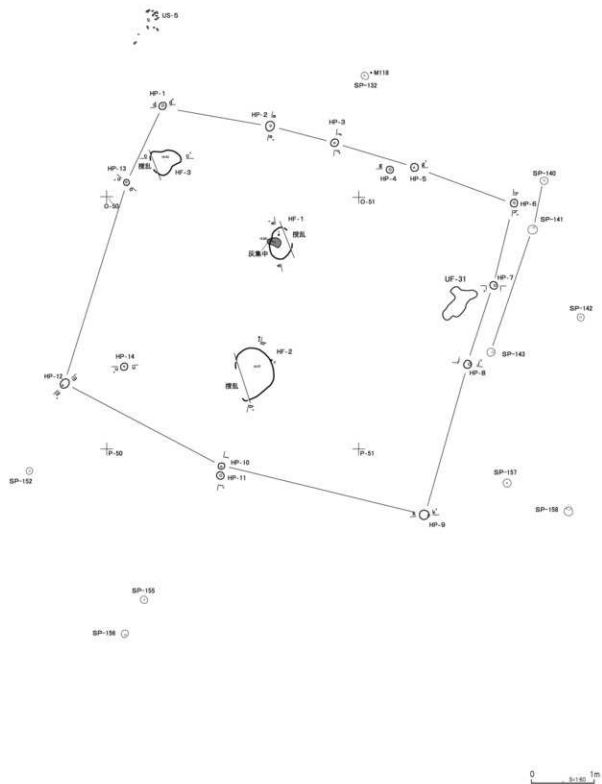
UHD-14										
遺構番号	主体部	構造	野方	北	東	南	深さ	備考	備考	備考
1	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
2	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
3	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
4	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
5	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
6	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
7	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
8	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
9	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
10	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
11	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
12	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
13	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
14	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
15	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
16	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
17	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
18	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
19	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
20	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
21	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
22	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
23	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
24	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
25	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
26	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
27	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
28	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
29	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝
30	溝	両側	北西	北	東	南	1.00	両側	溝	溝



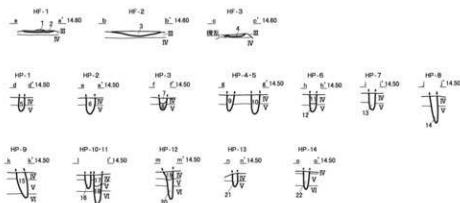
図IV-6 UHD-14(2)



UHD - 16



图IV-7 UHD - 16(1)



遺構 番号	構造 番号	部位名称	主体層	所在層	箇所	野帳 土層	骨子部コンクリート基礎(HP系表)				埋入基礎(コンクリート)	C10/15の埋込率		備考		
							色名	コンクリート 配合率	気密性	埋込率		種類	埋込率 %		所在量	
																埋込率
UHD-16	1	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	2	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	3	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	4	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	5	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	6	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	7	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	8	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	9	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	10	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	11	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	12	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	13	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	14	基礎	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

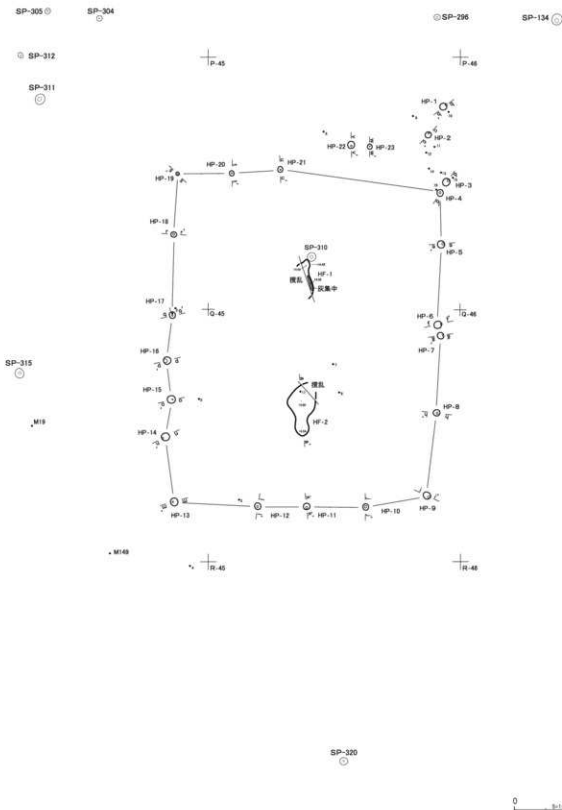
UHD-16						
遺構 番号	構造 番号	部位 名称	主体 層	所在 層	箇所	備考
1	---	基礎	---	---	---	---
2	---	基礎	---	---	---	---
3	---	基礎	---	---	---	---
4	---	基礎	---	---	---	---
5	---	基礎	---	---	---	---
6	---	基礎	---	---	---	---
7	---	基礎	---	---	---	---
8	---	基礎	---	---	---	---
9	---	基礎	---	---	---	---
10	---	基礎	---	---	---	---
11	---	基礎	---	---	---	---
12	---	基礎	---	---	---	---
13	---	基礎	---	---	---	---
14	---	基礎	---	---	---	---



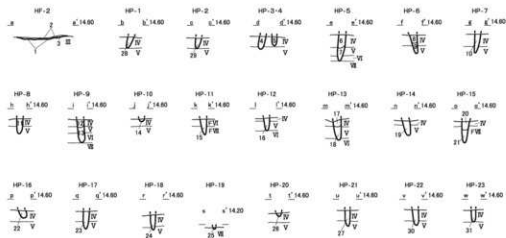
図IV-8 UHD-16(2)



UHD - 21



图IV-9 UHD-21(1)

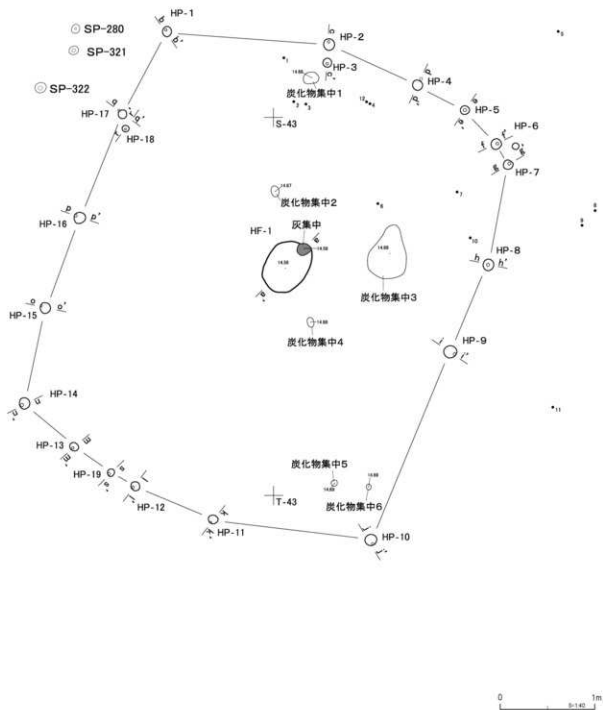


遺構番号	断面番号	階位名称	主体層	所在層	階別	内外	壁(基礎コンクリート壁型枠組築法)				床(基礎コンクリート)				備考
							名称	寸法	材料	状態	名称	寸法	材料	状態	
UHD-21	1	11F-1 廊下	壁	2F	廊下	外	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	2	11F-1 廊下	壁	2F	廊下	内	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	3	11F-2 廊下	壁	2F	廊下	外	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	4	11F-2 廊下	壁	2F	廊下	内	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	5	11F-3 廊下	壁	2F	廊下	外	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	6	11F-3 廊下	壁	2F	廊下	内	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	7	11F-4 廊下	壁	2F	廊下	外	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	8	11F-4 廊下	壁	2F	廊下	内	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	9	11F-5 廊下	壁	2F	廊下	外	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	10	11F-5 廊下	壁	2F	廊下	内	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	11	11F-6 廊下	壁	2F	廊下	外	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	12	11F-6 廊下	壁	2F	廊下	内	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	13	11F-7 廊下	壁	2F	廊下	外	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	14	11F-7 廊下	壁	2F	廊下	内	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	15	11F-8 廊下	壁	2F	廊下	外	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	16	11F-8 廊下	壁	2F	廊下	内	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	17	11F-9 廊下	壁	2F	廊下	外	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	18	11F-9 廊下	壁	2F	廊下	内	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	19	11F-10 廊下	壁	2F	廊下	外	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	20	11F-10 廊下	壁	2F	廊下	内	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	21	11F-11 廊下	壁	2F	廊下	外	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	22	11F-11 廊下	壁	2F	廊下	内	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下
	23	11F-12 廊下	壁	2F	廊下	外	コンクリート	14.80	20	コンクリート	14.80	20	コンクリート	20	廊下

UHD-21						
遺構番号	断面番号	階位名称	主体層	所在層	階別	備考
1	1	11F-1 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
2	2	11F-1 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
3	3	11F-2 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
4	4	11F-2 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
5	5	11F-3 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
6	6	11F-3 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
7	7	11F-4 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
8	8	11F-4 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
9	9	11F-5 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
10	10	11F-5 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
11	11	11F-6 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
12	12	11F-6 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
13	13	11F-7 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
14	14	11F-7 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
15	15	11F-8 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
16	16	11F-8 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
17	17	11F-9 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
18	18	11F-9 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
19	19	11F-10 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
20	20	11F-10 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
21	21	11F-11 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
22	22	11F-11 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート
23	23	11F-12 廊下	壁	2F	廊下	コンクリート



図IV-10 UHD-21 (2)



图IV-11 UHD-22(1)







UHD - 24

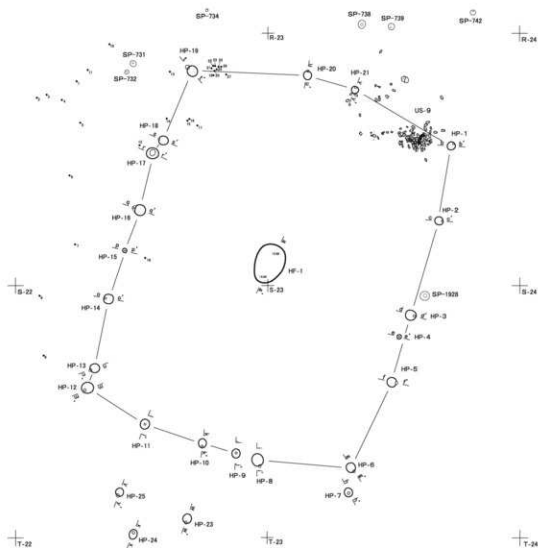
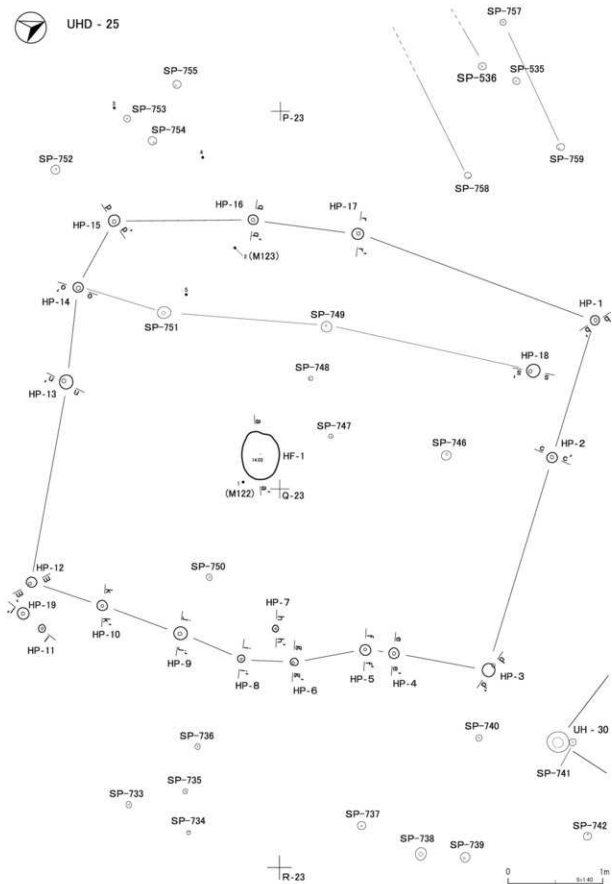


图 IV - 13 UHD - 24(1)

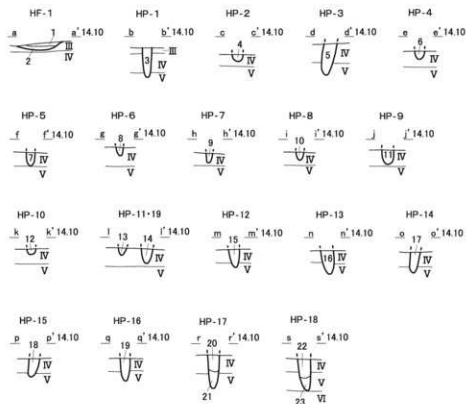




UHD - 25



图IV-15 UHD - 25(1)



遺構番号	断面番号	断面名称	主体層	調査期	調査	掘削範囲(掘削位置)				掘削範囲(掘削位置)		備考
						掘削範囲(掘削位置)	掘削範囲(掘削位置)	掘削範囲(掘削位置)	掘削範囲(掘削位置)	掘削範囲(掘削位置)	掘削範囲(掘削位置)	
UHD-19	1	HP-1 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	2	HP-2 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	3	HP-3 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	4	HP-4 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	5	HP-5 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	6	HP-6 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	7	HP-7 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	8	HP-8 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	9	HP-9 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	10	HP-10 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	11	HP-11 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	12	HP-12 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	13	HP-13 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	14	HP-14 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	15	HP-15 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	16	HP-16 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	17	HP-17 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	
	18	HP-18 掘上	掘上	—	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	掘上	

UHD-25						
遺構番号	断面番号	断面名称	主体層	調査期	調査	備考
1	1	掘上	掘上	—	掘上	掘上
2	2	掘上	掘上	—	掘上	掘上
3	3	掘上	掘上	—	掘上	掘上
4	4	掘上	掘上	—	掘上	掘上
5	5	掘上	掘上	—	掘上	掘上



図IV-16 UHD-25(2)

出土遺物等：炉から小鉄片や骨片・ブドウ属炭化種子のほか、炭化したコメ2粒を検出している。

付属遺構：付属する倉庫などは、南東側の調査範囲外に存在する可能性がある。

周辺遺構との関係：北7mにUHD-22がある。同じ軸方向の家屋はさらに北のUHD-13・14。  
UHD-24

位置：R・S-22・23区

軸方向：N-49°-W

規模：6.05×4.65m

柱間数：4×3

確認柱穴数 主：14 壁列補助：7 内部付属：なし 外部付属：10以上

柱穴の検出状況：両短辺の膨らみを持つ中型の長方形建物。内部には付属の柱構造を持たない。遺物の検出状況から、入口は北西側となる。外のHPやSPは直線的に並ぶものが多く、3m南西のSP-821・822・823・825・828は敷地境界の欄列であろう。

炉等付属施設：中央に長径65cmの焼土。

出土遺物等：US-9の鍾石集積と重なって鎌が出土している。鍾石と鎌が、道具置き場としての入口側隅に置かれていたものである。西角内外にも鍾石の散在がみられる。炉では骨片を検出。

付属遺構：北隅から屋外に拡散して鍾石を主とした磔85個の集積US-9がある。北2.5mのUH-30や北東6.5mのUH-29に付属倉庫の可能性がある。南西に敷地境界の欄列あり。

周辺遺構との関係：北西3mのUHD-25は近すぎて共存はないと思われる。北西14mのUHD-26が同じ軸方向で柱構造も似ていることから、共存の可能性が高い。

UHD-25

位置：P・Q-22・23区

軸方向：N-36°-E

規模：5.1×4.6m

柱間数：4×2

確認柱穴数 主：11 壁列補助：4 内部付属：7 外部付属：3~7

柱穴の検出状況：北西長辺と南西短辺に膨らみがあり、南東長辺の東側は上げた形状の小型の長方形建物。外のSP-740が補助柱となるのだろう。南東長辺は主柱間の補助柱が多いが、北西辺は間柱が1本確認できていない。内部のSPは直線的に並ぶ列がある。内部構造の一部であろう。

炉等付属施設：ほぼ中央に長径50cmの焼土。

出土遺物等：炉脇と北西壁際から刀子各1点出土。炉からは骨片・クルミ堅果殻片・ヒエ属炭化種子を検出。

付属遺構：断定できない。

周辺遺構との関係：北西や南東に隣接するUH-30やUHD-24とは共存しないだろう。40m西にある、同じ軸方向を持つUHD-38と共存するとみられる。

UHD-26

位置：M・N-24・25・26、O-24・25区

軸方向：N-49°-W

規模：6.5×5.4m

柱間数：4×5

確認柱穴数 主：17(18) 壁列補助：6 内部付属：19 外部付属：10以上

柱穴の検出状況：柱配置が規則的な中型の長方形建物。主柱間の補助柱も多い。西角は試掘穴で失われている。内部はSP-705(角)・717・719(718)・729(角)・720・721・722(角)・708(709)・707(角)・706・705と一周する壁際や、炉の周囲に直線的に並ぶSPがあり、床構造があったと想定される。内部の北東にはこのようなSPはなく、土間・入口となっていたとみられる。外のSPは多くはないが南~東に直線的に配置されるものがある。

炉等付属施設：炉は中央に径約65cmの焼土。北東壁際の中ほどに炭化物集中あり。

**出土遺物等：**HP-16の覆土から刀子の木柄片が出土している。炉からは棒状鉄製品の小片のほか骨片・クルミ堅果殻片・ヒエ属やブドウ属の炭化種子を検出。

**付属遺構：**やや離れているが、西7mのUH-27が付属倉庫か。北西15m、UHD-41に重なってあるUA-14が所属する送り場であろうか。

**周辺遺構との関係：**北西9mにUHD-41、南東7～8mにUHD-25・UH-30があり、南西8～9mにUHD-37・UH-39がある。同じ軸方向を持ち、柱構造も似ているUHD-24と共存しているものとみられる。

#### UHD-28

**位置：**G・H・I-24・25区

**軸方向：**N-23° -W

**規模：**5.3×5.0m

**柱間数：**3×3

**確認柱穴数 主：**11 **壁列補助：**5 **内部付属：**14 **外部付属：**10前後

**柱穴の検出状況：**南辺の間柱1本が確認できない。東側がややすばまる長方形の中型建物。内部のSPは直線的に並ぶ列が幾筋か確認でき、内部構造の一部を推定できる。

**炉等付属施設：**中央部を試掘穴で掘削されており、炉が確認できなかった。SP-683・682・681・689・685を結ぶ範囲に炉があったと推定。

**付属遺構：**南5.5mのUH-62が倉庫であればその周辺の鍾石66個の集積US-8や小規模送り場UA-6も所属する遺構となる。西辺の延長線上に南側に直線的な17m以上連なるSP-696・447・446・444・443・442・421・418・655・654・653・645からなる柵列は、畑などの境界であろうか。

**周辺遺構との関係：**北辺で墓GP-1と重複。13～14世紀のGP-1が古く、その存在が意識されないで当家屋が建築されたものと思われる。北5mに大型の送り場UA-5、東4.5mにUHD-41がある。西側はSPすらも確認できない遺構空白平坦地である。

#### UHD-36

**位置：**N・O・P-19・20区

**軸方向：**N-67° -W

**規模：**5.0×4.15m

**柱間数：**3×4

**確認柱穴数 主：**14 **壁列補助：**2 **内部付属：**10以上 **外部付属：**8以上

**柱穴の検出状況：**補助柱を含めて比較的柱間の狭い長方形の小型建物。内部のSPの規則性は捉えにくい。外部のSPは直線的列に見えるものがある。

**炉等付属施設：**小規模な焼土が北西寄りにある。

**出土遺物等：**北壁際で台石と棒状鉄製品の小片が出土している。北角外に鍾石のまとまりがある。

**付属遺構：**北西外2.5mには骨片を伴う焼土UF-52がある。

**周辺遺構との関係：**南東部は同じ軸方向のUHD-40と重複、南はUHD-60と隣接し、共存はしていないと思われる。北3.5mにUHD-37、4mにUH-39、西6mにUHD-1が存在した。

#### UHD-37

**位置：**L・M・N-20・21、M-22区

**軸方向：**N-81° -E

**規模：**7.4×4.9m

**柱間数：**3×3

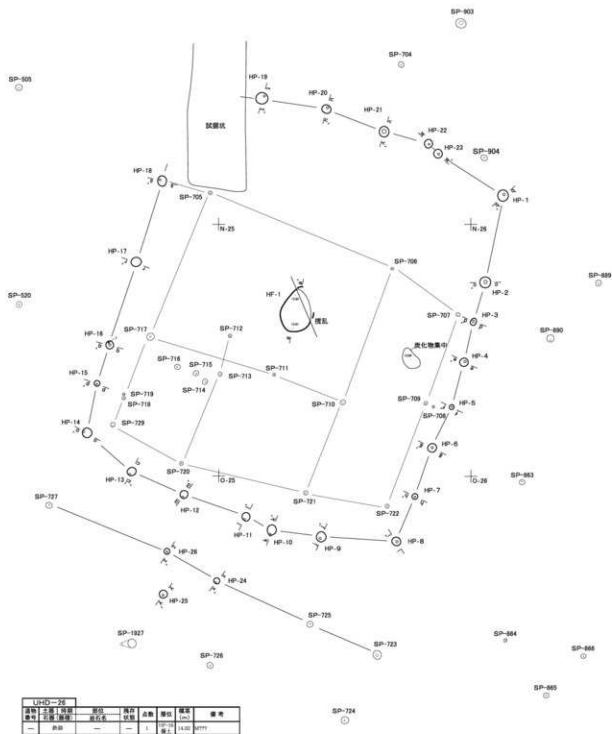
**確認柱穴数 主：**12 **壁列補助：**3 **内部付属：**23 **外部付属：**10以上

**柱穴の検出状況：**南北長辺の柱間が2mを超える大型の長方形建物。西側短辺がやや狭い。北西側の短辺の膨らみはHP-1と2、3と4、5と6の対応関係で入口構造を構成するものか。内部のSPは直線的配置が一部にみられる。

**炉等付属施設：**炉は中央東寄りに骨片を含む径40cmの焼土がある。焼土周辺と南角方向や建物東隅に



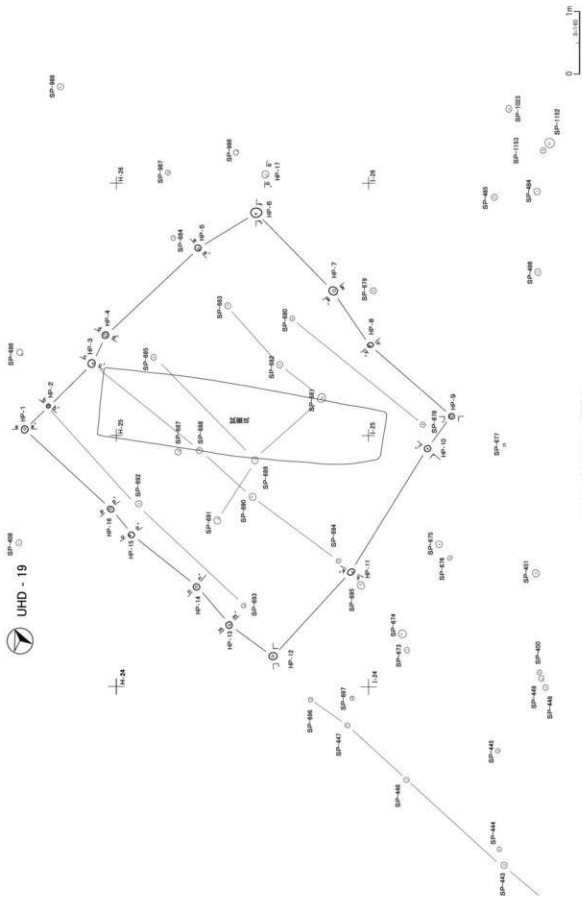
UHD - 26

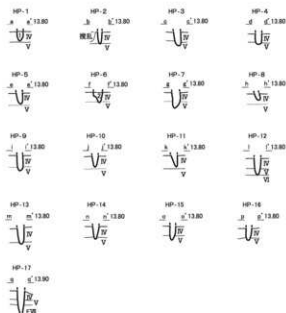


圖IV-17 UHD-26(1)









遺構番号	経過図番号	掘削名称	主体層	掘削層	掘削	計測方法				計測結果				
						計測方法	計測回数	計測精度	計測位置	計測結果	計測回数	計測精度	計測位置	
UHD-28	111	111-1	111	111	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	112	112-1	112	112	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

0 1m  
0:1.00

図IV-20 UHD-28(2)



UHD - 36

SP-619

SP-614

SP-618

SP-613

SP-612

SP-784

SP-785

SP-787

SP-788

SP-789

SP-788

SP-790

SP-791

SP-796

SP-783

SP-782

P-19

SP-791

SP-796

P-20

SP-1622

SP-1946

SP-792

SP-794

SP-589

SP-797

SP-590

SP-793

SP-795

HF-1

SP-1945

SP-1947

HP-16A

SP-807

SP-799

SP-798

HP-6

SP-1953

豊州地区

HP-16B

SP-808

SP-806

SP-804

SP-801

HP-7

SP-802

HP-14

SP-809

SP-806

SP-805

SP-803

HP-8

平成18(2006)年度  
調査区

HP-15

SP-808

SP-806

SP-804

SP-803

HP-9

P-19

(HP-8)

SP-810

USP-143

SP-800

HP-10

SP-567

USP-176

HP-13

HP-12

攪乱

(HP-9)

P-20

HP-11

SP-830

UHD-60

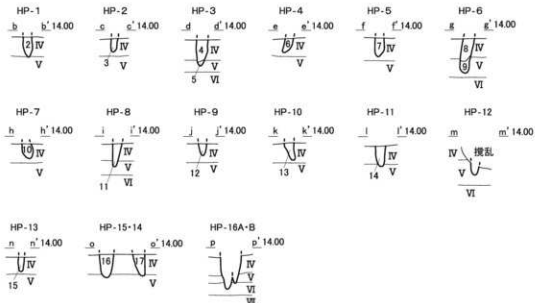
USP-161

SP-587

UHD-40

0 1m  
0:140

図IV-21 UHD-36(1)

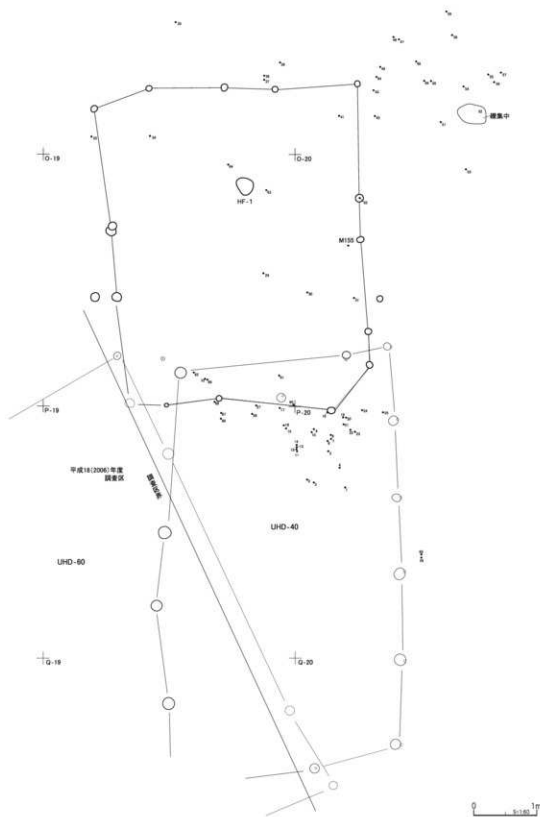


遺構番号	構造形式	階層名称	主体層	形状	階層	野地板	埋入部(コンクリート基礎等埋入部)		埋入部(土質埋入部)		その他埋入部		備考
							色	形状	形状	形状	形状	形状	
UHD-34	11F-1	11F	RC	床	11	埋入	コンクリート	埋入	埋入	埋入	埋入		

UHD-36		階層名称	主体層	形状	階層	野地板	備考	遺構番号	構造形式	階層名称	主体層	形状	階層	野地板	備考
番号	名称														
1	埋入	RC	床	1	埋入	埋入	38	RC	床	埋入	埋入	埋入	埋入	埋入	埋入



図IV-22 UHD-36(2)



图IV-23 UHD-36(3)

は炭化物集中が点在する。

**出土遺物等：**炉から針1点と骨片。床面には全面に鍾石の散在がみられ、炉と南東角の間にはカワシンジュガイ殻のまとまりがあった。

**付属遺構：**北2.5～4mにあるUA-7・8は付随する送り場とみられる。北西4mほどには鍾石5個の集積US-11と焼土UF-43、西側2mには小焼土群UF-51がある。これも関連遺構であろう。

**周辺遺構との関係：**東に重複するUH-39、北6mにUH-27、南西9mにUHD-1が存在した。西側は畑跡から連なる遺構空白平坦地である。南11mにあるUHD-60はほぼ同じ軸方向で、共存していた可能性がある。

#### UHD-38

**位置：**F・G-15・16・17区

**軸方向：**N-28°-E

**規模：**主屋4.5×4.8m・入口小屋3.0×2.0m

**柱間数：**主屋5×4・入口小屋2×2

**確認柱穴数 主：**18 **壁列補助：**1 **内部付属：**2 **外部付属：**30以上 **入口小屋：**7

**柱穴の検出状況：**狭い柱間で細めの柱が並ぶ小型正方形の主屋に、入口小屋（セム）が付属する建物。主屋は四辺とも膨らみを持つ。セムは主屋の柱と別立てで、主屋の南角と南西辺の中央で接続する。主屋とセムの面積を合わせると、中型以上の建物と同等の空間となる。外の付属柱穴には一部壁面周囲に並ぶものもある。

**炉等付属施設：**炉は主屋中央に灰を伴う径40cmの焼土がある。

**出土遺物等：**炉付近で刀子1点、炉から小鉄片、壁付近で平鏡1点が出土した。北西辺周辺に鍾石の散在がみられる。炉からは骨片・クルミ堅果殻片・ヒエ属炭化種子を検出。

**付属遺構：**倉庫は、大型だが南西3mにある平成18（2006）年度調査のUH-6の可能性ある。北東7～12mに規則的並びのSPと鍾石35点が拡散気味にまとまっているUS-10がある。関連施設かもしれない。北西にはSPと混在して小焼土群UF-54・55がある。

**周辺遺構との関係：**東側は畑跡の広がる遺構空白平坦地である。

#### UHD-40

**位置：**O・P・Q-19・20区

**軸方向：**N-65°-W

**規模：**6.5×4.95m

**柱間数：**5×3

**確認柱穴数 主：**13 **壁列補助：**1 **内部付属：**7以上 **外部付属：**10以上

**柱穴の検出状況：**前回調査の柱穴が工事で埋まってしまっているため、調査年度違いの柱穴を図面上で合わせて建物を設定した。そのためやや細長い長方形の中型建物と表現されている。長辺は柱が整然と配置されているが、南角の主柱が確認できなかった。遺物の出土状況も平地住居を想定させるので、UHDナンバーを与えた。北西短辺の間柱も不明である。内部構造を明確にとらえうるSPはない。外のSPもUHD-36や60との重複で捉えにくい。

**炉等付属施設：**炉は南西壁寄りに長径60cmを超える焼土がある。

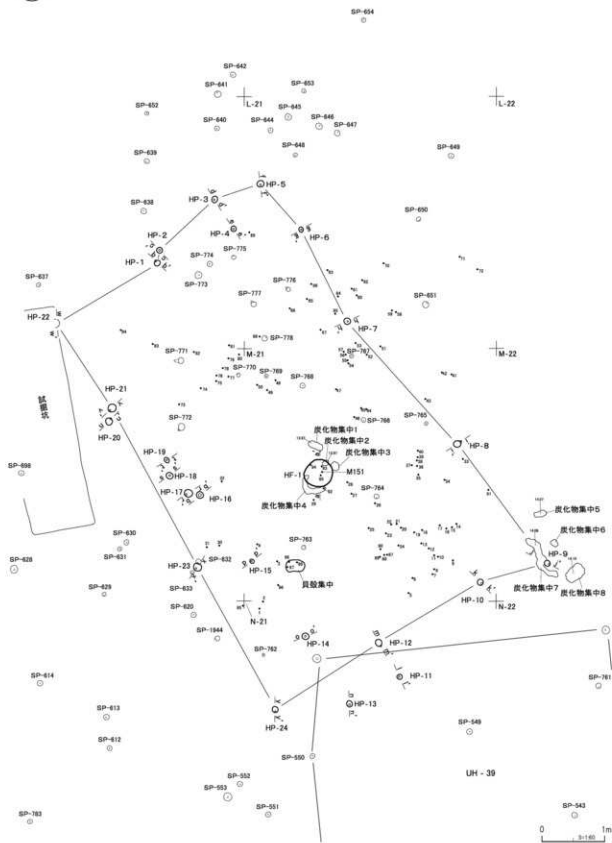
**出土遺物等：**北隅付近から鎌2丁と鍛先1本がほぼ同じ場所で出土している。家の入口付近の道具置き場に置かれていたものであろう。鍾石30個ほどのまとまりもここから西壁にかけて散在し、同じく道具置き場への取置とみられる。他に刀子・釣針・鉤・釘が各1点と鉄製品が豊富な家である。炉からは骨片・ヒエ属やブドウ属の炭化種子を検出。

**付属遺構：**断定できない。

**周辺遺構との関係：**UHD-36と60とは重複し共存しない。北4.5mにUH-39、北東8mにUHD-25が存在した。



UHD - 37

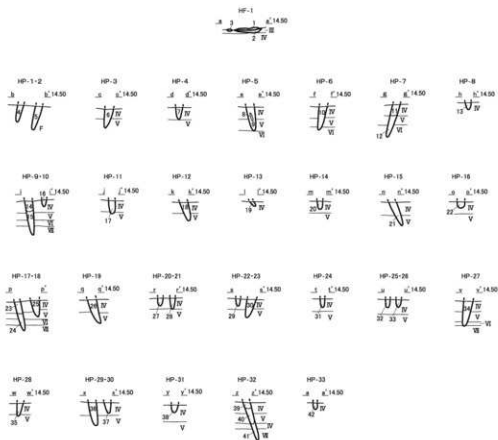


図IV-24 UHD - 37(1)









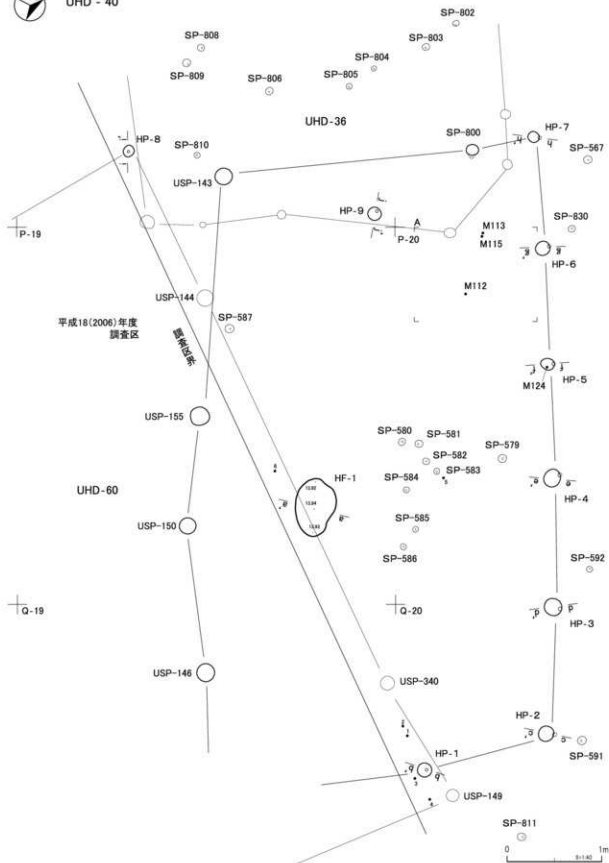
遺構番号	断面図番号	発見名称	主材料	所在層	層序	HP-モニタリング坑調査結果			埋入基準(2014.1)			その他の調査結果			
						野外地表性	土色	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質
UHD-34	1	HP-1-1 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	2	HP-1-2 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	3	HP-1-3 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	4	HP-1-4 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	5	HP-1-5 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	6	HP-1-6 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	7	HP-1-7 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	8	HP-1-8 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	9	HP-1-9 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	10	HP-1-10 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	11	HP-1-11 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	12	HP-1-12 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	13	HP-1-13 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	14	HP-1-14 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	15	HP-1-15 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	16	HP-1-16 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	17	HP-1-17 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	18	HP-1-18 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	19	HP-1-19 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	20	HP-1-20 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	21	HP-1-21 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	22	HP-1-22 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	23	HP-1-23 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	24	HP-1-24 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	25	HP-1-25 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	26	HP-1-26 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	27	HP-1-27 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	28	HP-1-28 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	29	HP-1-29 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	30	HP-1-30 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	31	HP-1-31 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	32	HP-1-32 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—
	33	HP-1-33 掘上	掘上	—	切跡	掘上	褐色	砂質土	HP1019	掘上	—	—	—	—	—



図IV-27 UHD-38(2)



UHD - 40



図IV-28 UHD-40(1)



#### UHD-41

位置：I-26・27、J・K-25・26・27区

軸方向：N30°-W

規模：7.6×5.85m

柱間数：4×4

確認柱穴数 主：16 壁列補助：16以上 内部付属：37 外部付属：多数

**柱穴の検出状況：**主柱16本が整然と配置された大型の長方形建物。主柱間に配置された補助柱も多い。壁全体に膨らみがあり、特に短辺の張り出しが大きい。HP-1・4・7・18・20・23のように、根固めとみられる補助杭が1～2本打ち込まれた柱が目立つ。東角は3本の柱で構成・補強されている。内部に構造体を示すSPの配置がある。SP-1157・1156・1166・471(470)・469(1162)とSP-1199(1183)・1184・1179・1180・1187・1188・1192・1191・1190・1198は両長辺の壁際に列をなし、SP-1157・1158・1172・1190は北辺内部に一直線に並ぶ。さらにSP-1158・1168(1169)・1165・1164・1163と1172・1174(1173)・1175・1176・1178・1194は炉の両側を長辺と平行に並ぶ。内部柱と床構造の遺構であろう。

外部は北東側を除いて周辺にSPは多い。直線的に並ぶものも多く、棚・干し台・櫛などの施設があったことがわかる。

**炉等付属施設：**炉は中央に灰を伴った1×0.65mの大型の焼土がある。

**出土遺物等：**立派な建物と豊富な関連遺構があるが、炉からの動植物遺体のほか出土遺物はない。炉からは骨片・カワシンジュガイ殻・クルミ堅果殻片・ブドウ属炭化種子などを検出。北隅で出土した小札は小札集中区Cの扱いとした。

**付属遺構：**倉庫は10.5m北東のUH-42か、南8.5mのUH-27、南西8mのUH-62であろう。UH-62であればその周辺の鍾石66個の集積US-8や小規模送り場UA-6も所属する遺構となる。東角の外1.5mにも鍾石数個と割れ礫の集まりUS-13がある。Ⅴ章1節の鉄製品の項で述べる「小札集中区A・B・C」の中心にあたる家屋で、何らかの関連を持つ。「小札集中区C」の北西～北にある大型の送り場UA-5・12・13も所属する可能性がある。

**周辺遺構との関係：**UA-14が西部で重複している。家屋廃棄後のものであろう。西5mにUHD-27、南東9mにUHD-26が存在した。

#### UHD-43

位置：S-29、R・S・T-30・31区

軸方向：N-19°-W

規模：6.85×5.7m

柱間数：5×5

確認柱穴数 主：18 壁列補助：2 内部付属：34 外部付属：多数

**柱穴の検出状況：**主柱間が1m前後にそろっている、長方形のやや大振りの建物。四辺とも膨らみを持ち、特に短辺の張り出しが大きい。西長辺と北短辺の間柱1本ずつが確認できていない。HP-6・7・9・11・16のように補強・根固めとして杭を重ねて差し込んだ柱穴もある。内部にはSP-1393・1395・1396・1401・1413など壁と平行し直線的に並ぶものも多いが、構造を特定するには至らない。

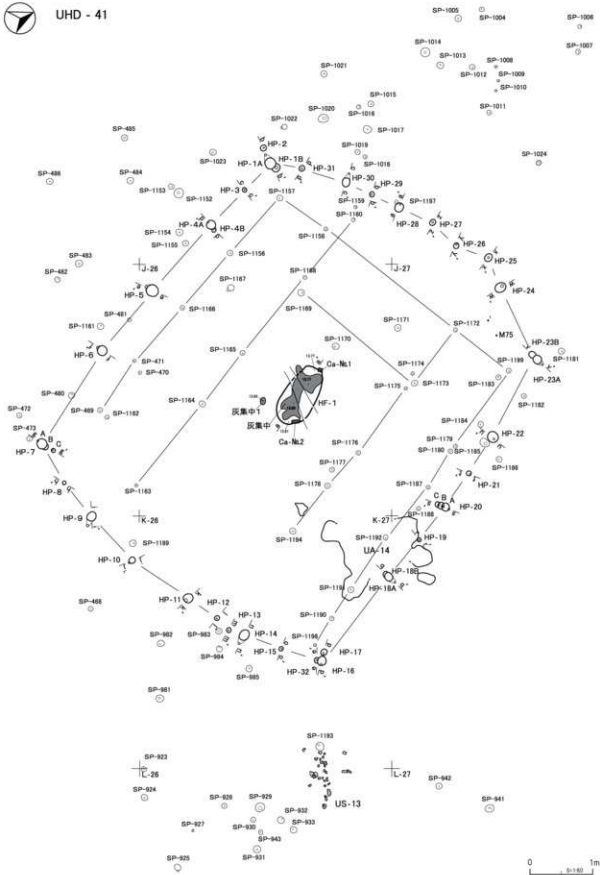
外部周辺はSPが多く所属特定は難しいが、両長辺の北側延長線上にある柱穴HP-1・5や南壁から東壁にかけて接するようにあるSP-1446・1125・1443・1442・1441・HP-12とSP-1440・1410・1447は建物の補強構造であろう。

**炉等付属施設：**炉は掘り窪めを含めて長径1.6mと大型のものが中心炉で、灰を伴う。南東隅近くに炭化物集中が残されている。

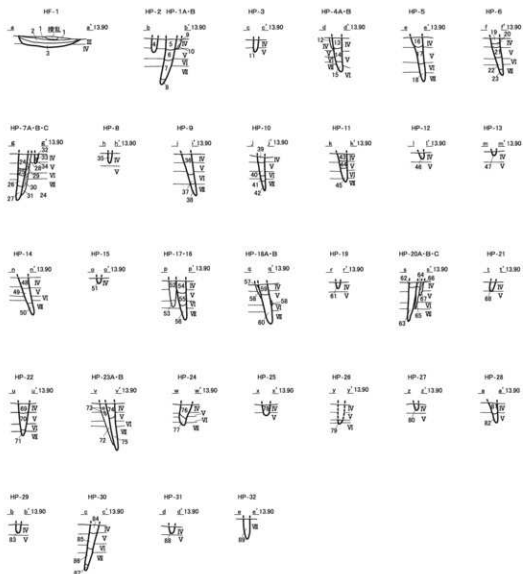
**出土遺物等：**西隅に鉞が3丁接して出土し周囲には鍾石も散らばっている。入口付近の道具置き場に



UHD - 41



図IV-30 UHD - 41(1)



0 1m  
0-140

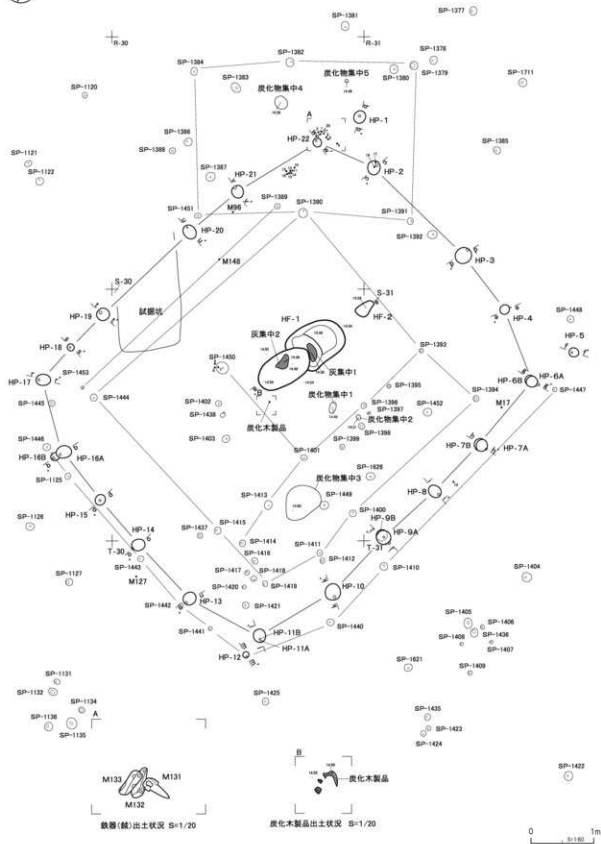
图IV-31 UHD - 41(2)



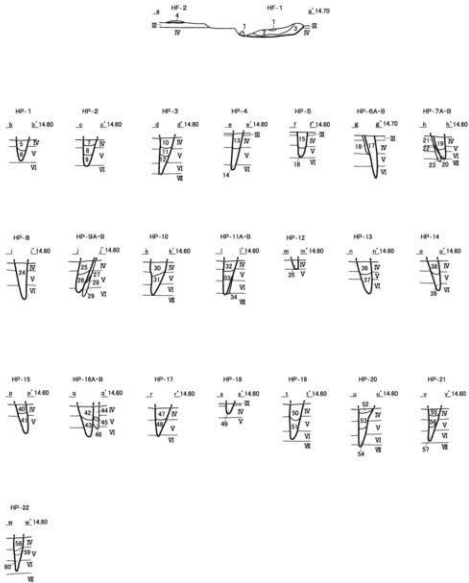




UHD - 43



図IV-33 UHD-43(1)



図IV - 34 UHD - 43(2)

置かれた状態であろう。鉄製品は他に刀子・小札片・棒状素材鉄が出土している。北隅からは鋼製の小柄も出土。炉脇の床面からは炭化したニレ属材製の刳物容器が検出された。炉HF-1・2から骨片・クルミ堅果殻片・100粒を超えるヒエ属やブドウ属の炭化種子などを検出。

付属遺構：北西5mのUH-51か西7mのUH-61が付属倉庫の可能性ある。

周辺遺構との関係：北・東・南西に隣接してUHD-50・48・44があるが、共存はあり得ない。

#### UHD-44

位置：R・S-28・29区

軸方向：N-87°-E

規模：5.3×4.0m

柱間数：4×3

確認柱穴数 主：12 壁列補助：4 内部付属：7 外部付属：3以上

柱穴の検出状況：短辺に膨らみを持つ、長方形の小型建物。北長辺と東短辺の間柱が1本ずつ確認できていない。南西角に補助柱がある。内部はSP-1280・1331・1330で北壁と東壁に沿った直角ラインを作る。棚のような内部構造とみられる。外部のSPは北～西側に多いが、施設は特定できない。

炉等付属施設：寄せた灰を含む長径90cmの炉。長軸上やや西よりにある。

出土遺物等：鋼製の装具片が1点壁外から出土している。炉からは骨片・クルミ堅果殻片・ヒエ属やブドウ属の炭化種子などを検出。

付属遺構：北西4mのUH-61が付属倉庫の可能性ある。

周辺遺構との関係：共存はしないが北東をUHD-43、南をUHD-45・UH-46に挟まれた位置にある。北11mのUHD-50と共存か。

#### UHD-45

位置：S・T・U-26・27・28区

軸方向：N-80°-W

規模：(推定6.7)×5.6m

柱間数：(推定5)×3

確認柱穴数 主：10 壁列補助：1 内部付属：10以上 外部付属：8以上

柱穴の検出状況：東側は調査範囲外だが、大振りの長方形建物と推定される。西短辺と南長辺の間柱各1本が確認できていない。西側の不整形はHP-10・8・7・6・5・SP-1225で西壁にほぼ沿った外柵列になるものとみられ、実際の西壁はHP-12・11・9・17で構成されたと考える。内部には炉を囲むようなSPの配置がある。

炉等付属施設：炉は灰を伴う長径90cmの主炉と径35cmの小炉が長軸上にやや離れて並んでいる。

出土遺物等：炉HF-1・2から骨片・クルミ堅果殻片・ブドウ属の炭化種子などを検出。

付属遺構：南西5mにあるUH-29が付属する倉庫か。

周辺遺構との関係：調査範囲境界以外の三方をUHD-44・46・UH-47で囲まれているが、其々の間隔から同時の存在は無い。

#### UHD-46

位置：R・S-26・27区

軸方向：N-2°-W

規模：4.5×3.75m

柱間数：3×2

確認柱穴数 主：10 壁列補助：なし 内部付属：5 外部付属：約10

柱穴の検出状況：柱間が不均一な歪んだ長方形の小型建物。内部のSP-1241・1243が補助柱か。

炉等付属施設：北東隅に偏って長径40cmの焼土がある。

出土遺物等：接合する被熱円礫などの礫片以外は検出されていない。

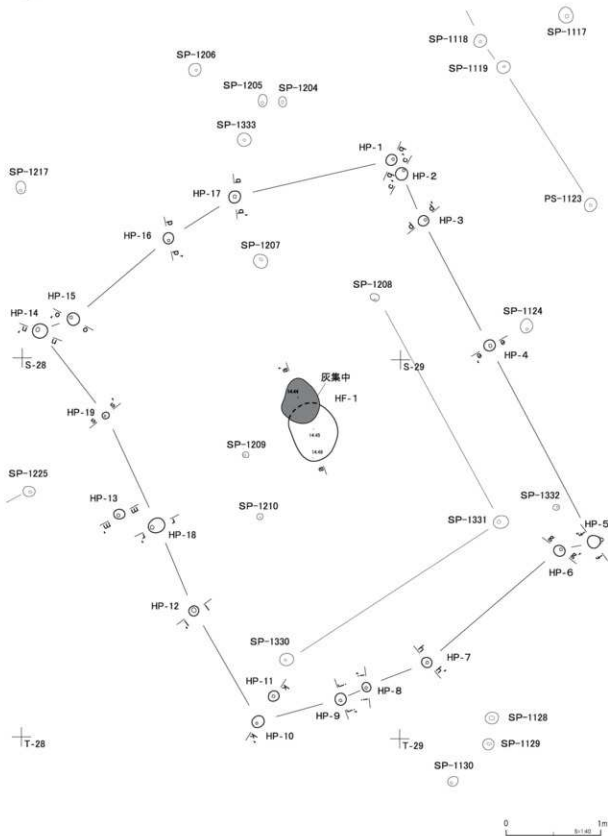
付属遺構：西6mにあるUA-11は付属する灰送り場であろう。

周辺遺構との関係：近接間隔から北東のUHD-44、東のUHD-45、南のUH-29とは共存しない。

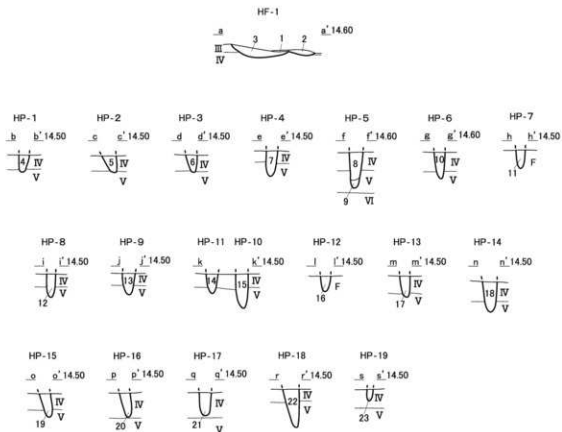




UHD - 44



图IV-36 UHD - 44(1)



遺構番号	断面番号	構造物名称	主体層	掘削層	掘削土質	掘削土質の性状				掘削土質の物理性状				その他の性状			
						色	形状	粒径	含水率	液性指数	塑性指数	圧縮係数	透水性	その他	性状	性状	性状
UHD-44	1	HP-1 沈積	沈積	原状	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	2	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	3	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	4	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	5	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	6	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	7	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	8	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	9	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	10	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	11	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	12	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	13	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	14	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	15	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...
	16	HP-1 掘削	掘削	掘削	軟土	沈積色	1.000/1.2	細中砂	無	50-60%	40	...	...	...	...	...	...

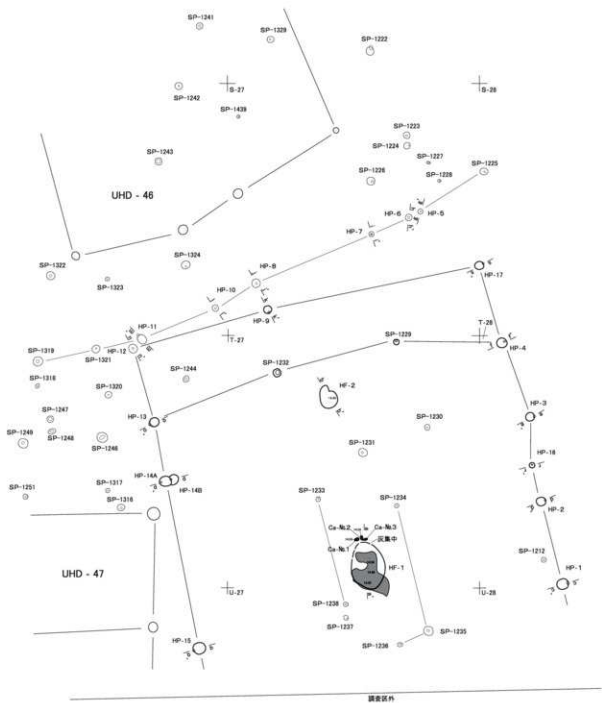
UHD-44						
断面	土質	性状	掘削	点検	掘削	備考
1	軟土	沈積	掘削	1	掘削	掘削
2	軟土	掘削	掘削	1	掘削	掘削



図IV-37 UHD-44(2)



UHD - 45



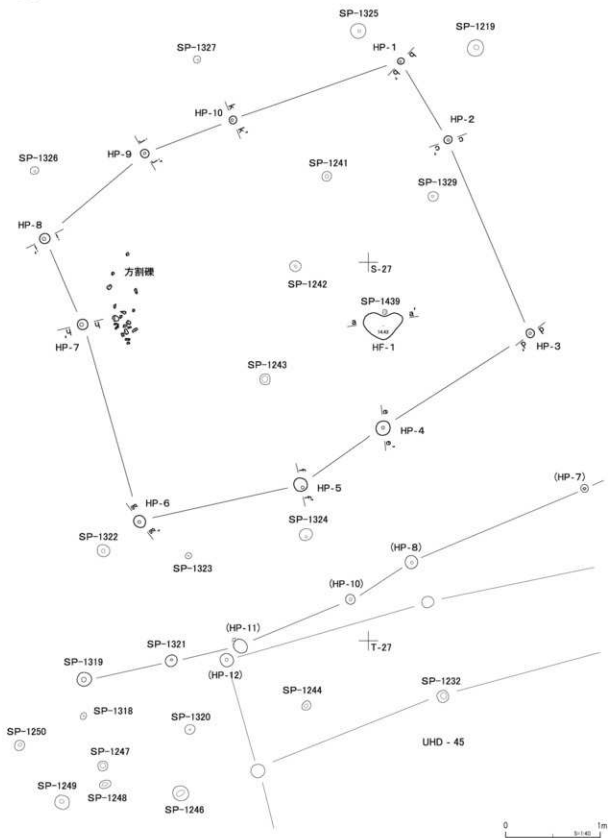
圖IV-38 UHD-45(1)



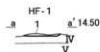




UHD - 46



图IV-40 UHD - 46(1)

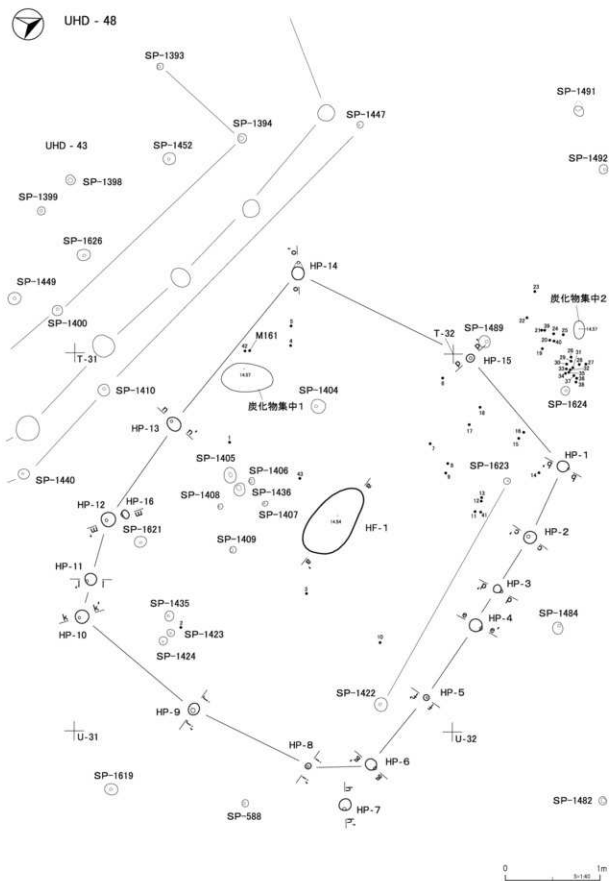


遺構番号	基礎番号	層位名称	主体層	遺石層	階数	部材・工法・材料等(標準)				補正係数(%)		その他記号(注)		備考
						部材名称	工法	材料名	規格	補正係数	割合	記号	注	
UHD-41	11	11F-11 礎土	基礎	外層	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無	100-補正	40	—	—
	12	11F-12 礎土	基礎	外層	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無	100-補正	40	—	—
	13	11F-13 礎土	基礎	外層	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無	100-補正	40	—	—
	14	11F-14 礎土	基礎	外層	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無	100-補正	40	—	—
	15	11F-15 礎土	基礎	外層	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無	100-補正	40	—	—
	16	11F-16 礎土	基礎	外層	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無	100-補正	40	—	—
	17	11F-17 礎土	基礎	外層	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無	100-補正	40	—	—
	18	11F-18 礎土	基礎	外層	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無	100-補正	40	—	—
	19	11F-19 礎土	基礎	外層	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無	100-補正	40	—	—
	20	11F-20 礎土	基礎	外層	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無	100-補正	40	—	—
21	11F-21 礎土	基礎	外層	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無	100-補正	40	—	—	

遺構   工法   内容		部材	規格	階数	材料	補正係数 (%)	備考
遺構番号	工法						
11	基礎	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無
12	基礎	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無
13	基礎	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無
14	基礎	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無
15	基礎	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無
16	基礎	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無
17	基礎	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無
18	基礎	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無
19	基礎	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無
20	基礎	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無
21	基礎	礎土	中層工	流砂防止	FRP20	鉛	無



図IV-41 UHD-46(2)



図IV-42 UHD-48(1)



軸方向が似ている北17mにあるUHD-52が共存家屋だろう。

#### UHD-48

位置：S・T・U-31、T-32区

軸方向：N-32° -W

規模：4.7×3.8m

柱間数：4×2

確認柱穴数 主：11 壁列補助：2 内部付属：11~14 外部付属：7以上

柱穴の検出状況：小型長方形の建物。西長辺の間柱1本が確認できていない。内部のSPには壁に並行して直線的になるものもあるが、構造を把握するまでには至らない。外部のSPはUHD-53・50・43との近接関係で判別が困難である。

炉等付属施設：中央に長径80cmの炉。西壁脇には炭化物集中が残る。

出土遺物等：壁および炭化物集中脇の床面から鉄製腕輪の半割れ品が出土している。北壁の外内に鍾石のまとまりがある。炉からは骨片・クルミ堅果殻片を検出。

付属遺構：倉庫は東側の調査範囲外にあると思われる。

周辺遺構との関係：調査区の南東縁にあり、周囲不明の点が多い。UHD-53・50・43とは近接しており共存しない。

#### UHD-49

位置：J・K-38・39区

軸方向：N-89° -W

規模：4.5×3.3m

柱間数：3×3

確認柱穴数 主：11 壁列補助：4 内部付属：3 外部付属：18

柱穴の検出状況：短辺に膨らみのある小型の長方形建物。南角の主柱穴が確認できていない。内部SPの位置から、南壁に沿った内部構造が想定される。HPやSPが西方向に家屋を延長するような配置で見つがっている。HP-19かSP-1611とHP-23を角の柱とし、SP-1605と1608の間柱とするような拡張があった可能性もある。

炉等付属施設：中央に85cmの長い焼土がある。

出土遺物等：炉から骨片・クルミ堅果殻片・ブドウ属の炭化種子などを検出。

付属遺構：北側5mのUH-33が付属倉庫であろう。

周辺遺構との関係：南10mにUHD-56がある。

#### UHD-50

位置：Q・R-31・32区

軸方向：N-66° -W

規模：5.7×4.7m

柱間数：4×5

確認柱穴数 主：18 壁列補助：2 内部付属：39 外部付属：多数

柱穴の検出状況：主柱の並びが規則的で、短辺の膨らみが大きい長方形の中型建物。短辺の方が柱間隔が狭い。内部のSP分布を見ると、壁際や炉周辺に壁と平行に直線的に並ぶものが多く、床構造などの施設があったものと推定される。例えば炉近くのSP-1517・1518・1520と直交するSP-1517・1516・1505・1515、北西壁や北東壁に並ぶSP-1709・181・1546・1548やSP-1542・1541・1524・1809・1512などである。外側周辺は建物とSPの密集地帯であり特定の付属施設を断定することは困難であるが、SPの直線的な配置は多い。

炉等付属施設：炉は掘り窪めがあり、灰を伴う1m近いもの。位置は中央からやや西に寄っている。同じ軸上に並び長径60cmの炭化物集中が連なる。北東壁近くにも炭化物集中がみられる。

出土遺物等：壁際床面から釘と棒状の鉄製品が各1点出土している。HP-3の覆土からは漆塗破片が検出されている。全域に鍾石とみられる円礫が散在する。炉からは骨片・クルミ堅果殻片・100粒

を超えるヒエ属やブドウ属の炭化種子などを検出。

**付属遺構:** 付属する倉庫が断定できない。

**周辺遺構との関係:** 北西でU H-51と重複しているほか、南2mにU H D-43、南東4.5mにU H D-48、北西5mにU H D-52、北東3mにU H D-53と図面上は他の家屋に囲まれた位置にある。10m北に大型の送り場U A-19がある。これらの前後関係をとらえると、コタンの発展・継続状況が把握できるだろう。

#### U H D-52

**位置:** O・P-32・33区

**軸方向:** N-9°-E

**規模:** 5.3×3.3m

**柱間数:** 3×3?

**確認柱穴数 主:** 10 **壁列補助:** 3 **内部付属:** なし? **外部付属:** 多数

**柱穴の検出状況:** 直線的な柱の並びがない不整長方形の小型の建物。東辺の間柱と南西角の柱が確認できていない可能性がある。あるいはS P-1570・1569・1359・1353が構造柱で、5.9×3.7mの長方形建物を想定すべきか。周囲には直線的に配置されるS Pも多い。柵列等関連するものがあるとみられる。

**炉等付属施設:** 中央やや東寄りに、建物の軸とは違う軸方向の長径70cmの焼土がある。南西壁近くには広範囲の炭化物集が残る。

**出土遺物等:** 炉から骨片を検出した以外、明確に伴う遺物はない。

**付属遺構:** 西側2mのU A-16と5mのU A-15は付随する送り場であろう。北4.5mのU H-54は家屋規模からみると大きすぎるかもしれないが、配置からは付属倉庫とみられる。

**周辺遺構との関係:** 南東3~5mにU H-51とU H D-50があるが共存はしない。

#### U H D-53

**位置:** R・S-33・34・35、T-33・34区

**軸方向:** N-48°-W

**規模:** 8.8×6.1m

**柱間数:** 4×5

**確認柱穴数 主:** 18 **壁列補助:** 1 **内部付属:** 71 **外部付属:** 多数

**柱穴の検出状況:** 短辺の柱間の方が密だが、長短辺とも柱間がほぼ均一な整然とした長方形建物。長辺の柱間は1.85~2.1mである。今回の調査でもっとも大型の建物である。四辺とも膨らみを持つが、特に短辺側の張り出しが大きい。

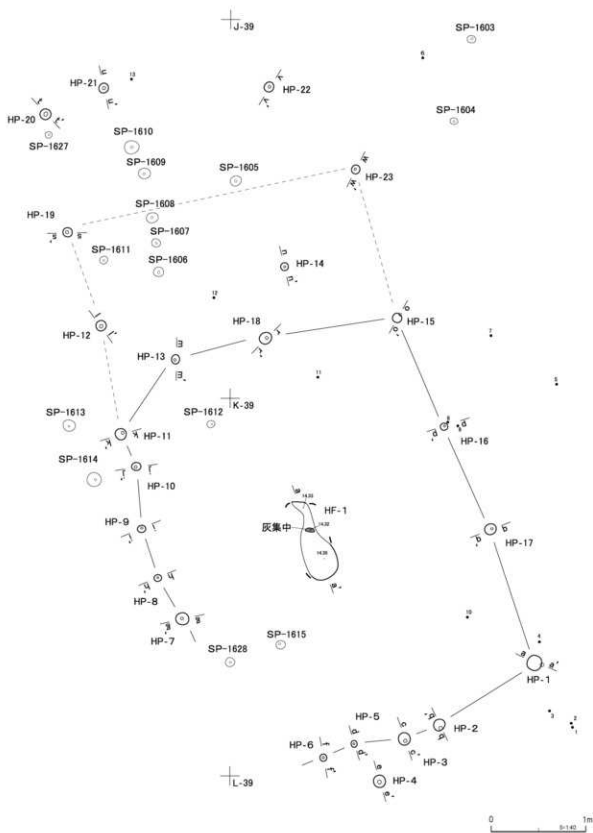
内部に構造体を示す直線的で密なS Pの配置がみられる。S P-1805・1661-1658-1645-1640などの12本とS P-1744-1741-1807-1718-1717などの9~13本は両長辺の壁際に列をなし、S P-1805・1756・1751・1744は北西壁内部に直線的に並ぶ。さらにS P-1756-1656-1652-1646-1638などの6~14本とS P-1752-1746-1733-1722などの7~14本は炉の両側を長辺に平行に並ぶ。南東壁の内側や炉奥限とみられるS P-1735と1860のラインの延長も直線的である。これらは内部柱穴と床構造の柱・杭といえよう。床構造が南東側に片寄ることは、S P-1805-1744のラインが炭化物集1の縁と重なることを見れば、このラインより北西側は炉と続く「土間」であったものといえる。従って入口も北西側に想定できる。

外部周辺にもS Pが多数存在し、他の建物も近接して多いことから、この家屋に直接付属するS Pとこれが形成する施設を特定することは難しい。しいて言えば、北西側のS P群に直線的な配置も多く、この家屋に付随する施設となるのであろう。

**炉等付属施設:** 炉は中央長軸上に2か所並ぶ。主たる焼土H F-1は中央の二連の掘り窪めがあるもので、灰層を含めて長さ1.25mを測る。H F-2は土間にあった焼土である。2か所の焼土の中間と、

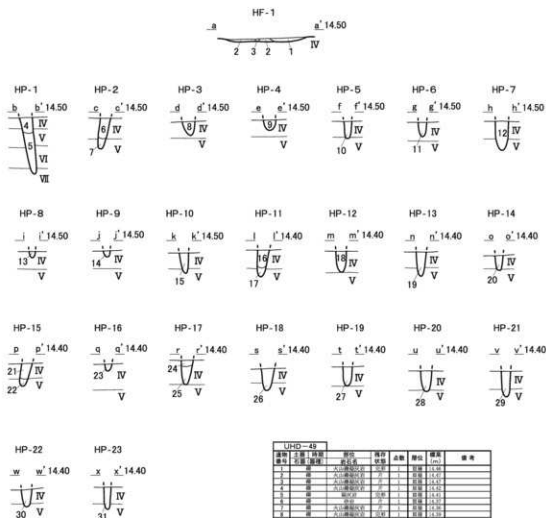


UHD - 49



图IV-44 UHD-49(1)



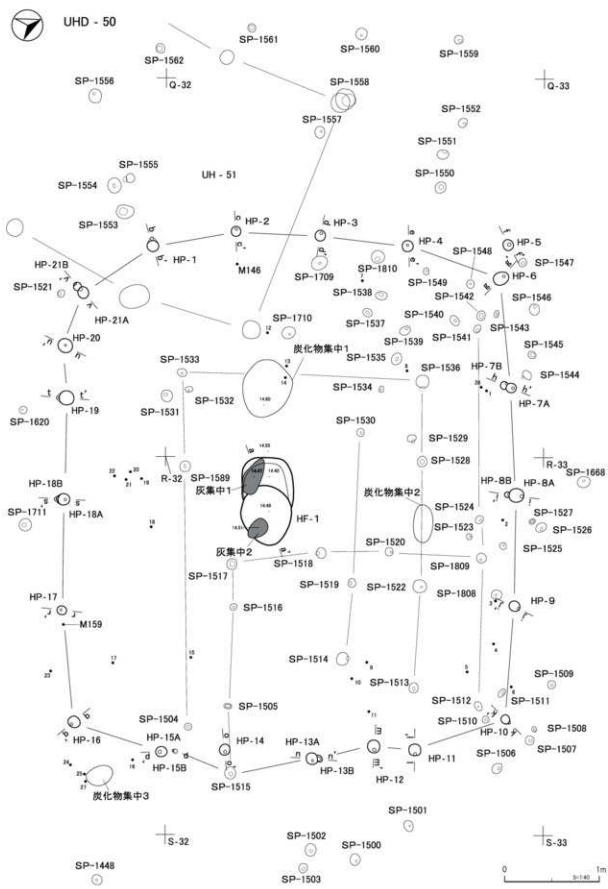


UHD-43										
管種	管径	材質	管種	管径	管種	管径	管種	管径	管種	
1	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
2	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
3	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
4	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
5	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
6	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
7	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
8	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
9	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
10	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
11	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
12	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
13	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
14	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
15	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
16	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
17	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
18	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
19	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
20	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
21	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
22	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
23	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
24	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
25	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
26	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
27	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
28	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
29	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
30	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼
31	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼	φ100	鋼

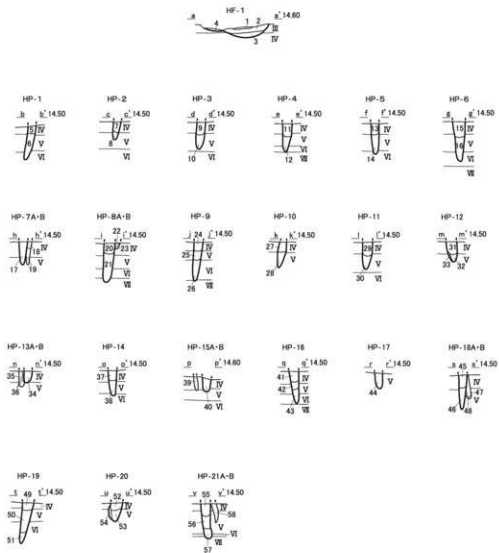
遺構番号	断面図番号	階位名称	主体種類	所在層	開口	開口部上の構造(開口部)				開口部上の構造(開口部)		備考
						開口形状	開口色	開口高さ	開口幅	開口形状	開口高さ	
1	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
2	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
3	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
4	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
5	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
6	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
7	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
8	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
9	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
10	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
11	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
12	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
13	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
14	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
15	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
16	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
17	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
18	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
19	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
20	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
21	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
22	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
23	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
24	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
25	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
26	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
27	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
28	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
29	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
30	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	
31	HP-1	廊下	コンクリート	1階	開口	開口	開口	開口	開口	開口	開口	



図IV-45 UHD-49(2)



图IV-46 UHD-50(1)



図IV-47 UHD - 50(2)

HF-2と南西壁との間にも炭化物集中がある。

**出土遺物等：**南東壁外に鈎、床面に棒状の鉄製品が各1点出土している。炉周辺を除く全域に錘石とみられる円礫が散在する。炉HF-1・2から骨片・クルミ堅果殻片・300粒を超えるヒエ属やブドウ属の炭化種子などを検出。

**付属遺構：**付随する倉庫は、SP-1715・1716やSP-1630・1920の太い柱列が南東調査範囲外に展開し構成するものであろう。南西7mのUH-51の可能性もある。また、北東7.5mにあるUA-19は広範囲の送り場で、コタン全体に対応する送り場とみられるが、ある時期の中心的建物とみられるこの家屋との関係も大きいものと推定される。

**周辺遺構との関係：**北東はUHD-55、南西はUHD-50が近接している。南4.5mのUHD-48ともども共存はない。

UHD-55

**位置：**R・S・T-35・36、S-37区

**軸方向：**N-16°-W

**規模：**(推定7.4)×5.4m

**柱間数：**(推定4)×3

**確認柱穴数 主：**9 **壁列補助：**1 **内部付属：**7 **外部付属：**8以上

**柱穴の検出状況：**主柱穴で確認できていないものが多く、規模は推定となる。南側のSP-1814・1815が主柱であれば、長軸7.4mの大振りの長方形建物となる。南西のSP-1816が角柱となれば、一辺5m前後のほぼ正方形の建物となる。北東のSP-1840が角の柱となり、SP-1839は補助柱であろう。SP-1825・1822とHP-5で内部構造となる。外部のSPは、北や東に東西方向の直線的配置が数条みられる。SP-1829から1054に至る列、SP-1055から1086、SP-1066から1061、SP-1838から1069、SP-1074から1073などである。いずれも関連するものとみられる。

**炉等付属施設：**90cmと長い炉がやや西寄りに存在する。

**出土遺物等：**刀子が1点出土している。北壁の内外には錘石が約50個散在する。炉HF-1からは骨片・クルミ堅果殻片・ヒエ属やブドウ属の炭化種子などのほか炭化コメ1粒を検出した。

**付属遺構：**北6.5mのUA-20は付随する送り場か。倉庫があるとすれば、南東の調査区外にあるものとみられる。SPのあり方から、東側に干し台・棚・柵列などが配置されている。

**周辺遺構との関係：**南西でUHD-53に接するため、共存はない。

UHD-56

**位置：**K・L-35・36区

**軸方向：**N-27°-W

**規模：**3.7×4.0m

**柱間数：**2×2

**確認柱穴数 主：**8 **壁列補助：**4 **内部付属：**1 **外部付属：**2~20以上

**柱穴の検出状況：**各壁列にやや不均一な感はあるが、ほぼ正方形の小型建物。内部SP-1948は中心柱か炉に関するもの。外部にはSPが散在している。西側のSP-1898~1859の列とSP-1897~1858の列は近接平行して柵や干し場を形成していると思われる。

**炉等付属施設：**中央に厚い灰層を伴う径60cmの焼土。

**出土遺物等：**東側外にマレット(魚突鈎鉋)、床面には棒状の鉄製品が各1点あり、北壁外際からは水楽通寶も出土している。

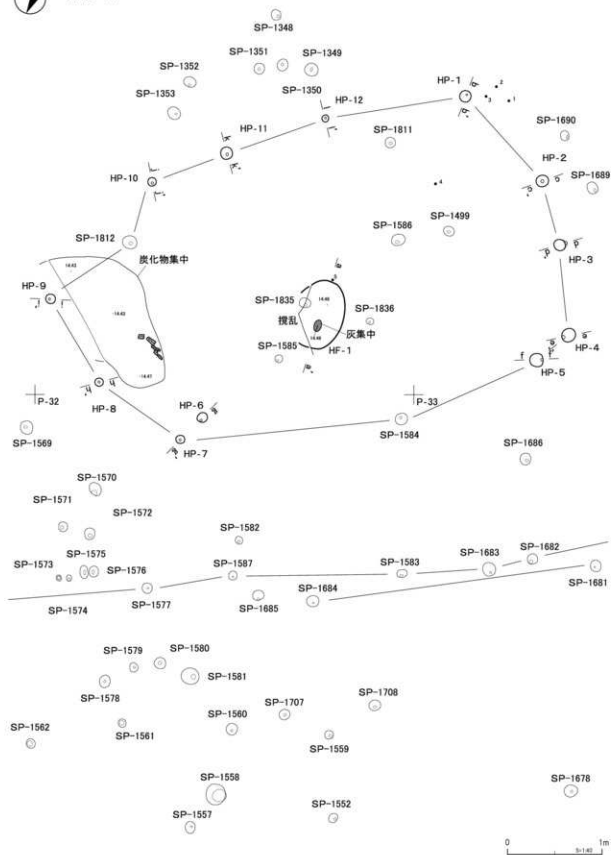
**付属遺構：**南西6mのUA-18は付随する送り場であろう。柵列や干し台のような施設もある。北西と北の外2mほどには小焼土UF-62・63がある。

**周辺遺構との関係：**南6.5mにUH-54、北10mにUHD-49があるが、共存はしないだろう。

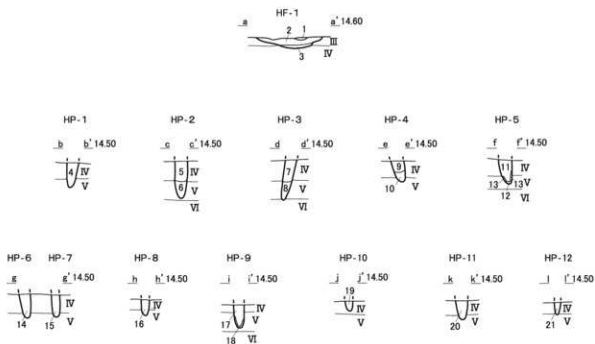




UHD - 52



图IV-49 UHD - 52(1)



図様番号	断面図番号	厚み名称	主体層	延床層	階別	新工法コンクリート造(新工法)				旧工法(従来工法)		備考		
						基礎部分		柱	梁	種別	割合		種別	割合
						名称	割合							
UHD-52	1	HP-1 式脚	鉄筋	---	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200627	脚	鉄-中	---	埋設工 完成		
	2	HP-1 式1	鉄筋	---	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200629	脚-中	脚	Ta+埋込	1	埋設工 鉄筋	
	3	HP-1 式2	鉄筋	---	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200630	脚-中	脚	Ta+埋込	10	埋設工 鉄筋	
	4	HP-1 式3	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200631	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	埋設工 鉄筋	
	5	HP-2 式1	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200632	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	6	HP-2 式2	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200633	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	7	HP-2 式3	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200634	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	8	HP-2 式4	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200635	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	9	HP-2 式5	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200636	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	10	HP-2 式6	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200637	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	11	HP-3 式1	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200638	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	12	HP-3 式2	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200639	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	13	HP-3 式3	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200640	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	14	HP-3 式4	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200641	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	15	HP-3 式5	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200642	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	16	HP-3 式6	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200643	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	17	HP-3 式7	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200644	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	18	HP-3 式8	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200645	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	19	HP-3 式9	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200646	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
	20	HP-3 式10	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200647	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---	
21	HP-3 式11	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200648	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---		
22	HP-3 式12	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工	比呂川橋工	工200649	脚-中	脚-中	Ta+埋込	10	---		

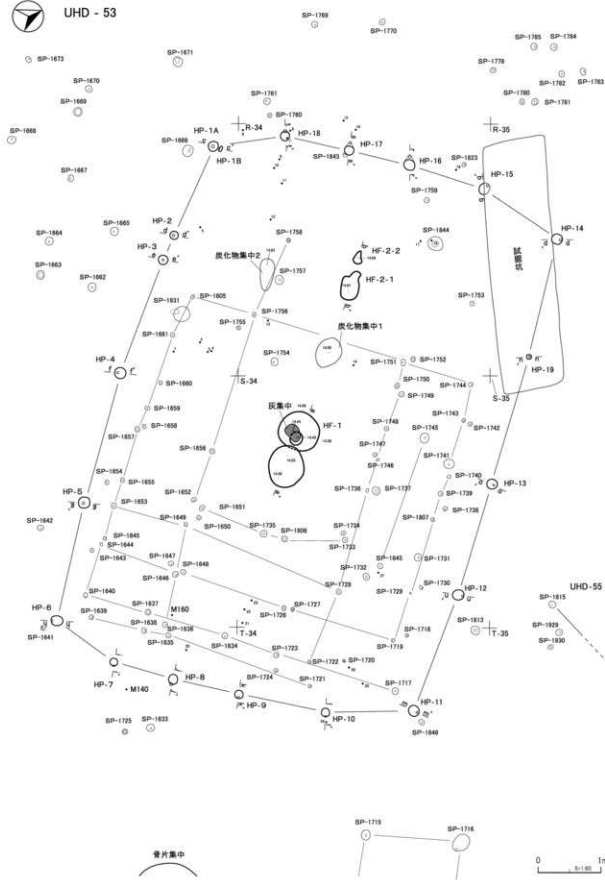
UHD-52						
図様番号	断面図番号	厚み名称	主体層	延床層	階別	備考
1	1	HP-1 式脚	鉄筋	---	鉄筋	埋設工
2	2	HP-1 式1	鉄筋	---	鉄筋	埋設工
3	3	HP-1 式2	鉄筋	---	鉄筋	埋設工
4	4	HP-1 式3	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
5	5	HP-2 式1	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
6	6	HP-2 式2	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
7	7	HP-2 式3	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
8	8	HP-2 式4	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
9	9	HP-2 式5	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
10	10	HP-2 式6	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
11	11	HP-3 式1	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
12	12	HP-3 式2	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
13	13	HP-3 式3	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
14	14	HP-3 式4	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
15	15	HP-3 式5	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
16	16	HP-3 式6	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
17	17	HP-3 式7	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
18	18	HP-3 式8	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
19	19	HP-3 式9	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
20	20	HP-3 式10	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
21	21	HP-3 式11	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工
22	22	HP-3 式12	鉄筋	鉄筋	鉄筋	埋設工



図IV-50 UHD-52(2)

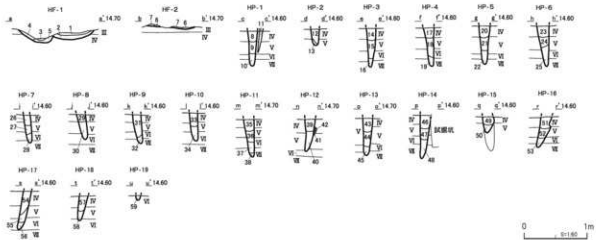


UHD - 53



図IV-51 UHD-53(1)





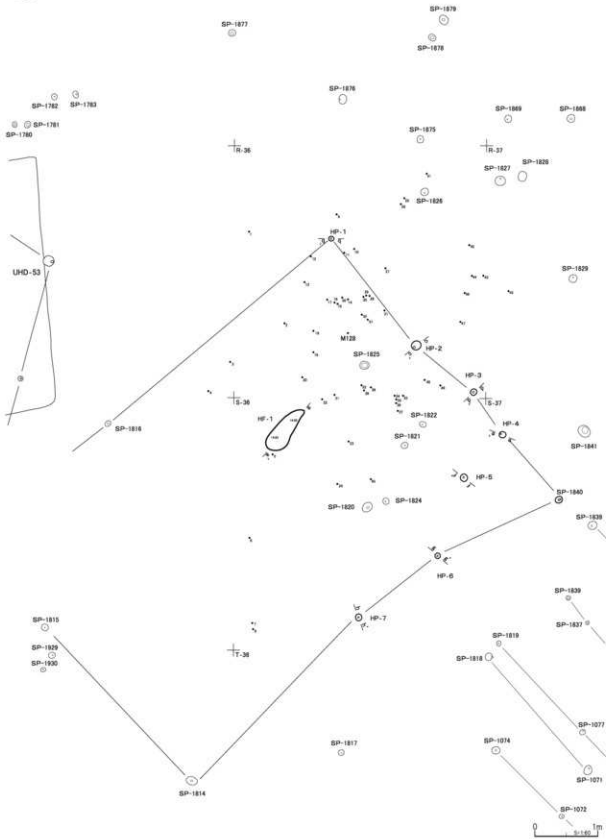
遺構番号	断面番号	層位名称	主体層	所在層	層厚	野面	地質学的性質				種類	所在層	備考	
							色	質感	強度	透水性				
UHD-53	1	HP-1 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	2	HP-1 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	3	HP-1 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	4	HP-1 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	5	HP-1 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	6	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	7	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	8	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	9	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	10	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	11	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	12	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	13	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	14	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	15	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	16	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	17	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	18	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込
	19	HP-2 礫土	礫土	—	約100	礫土	褐色	粗粒	1.0000	5~10	中~粗	10~40	11	埋込

遺構番号	断面番号	層位名称	主体層	所在層	層厚	野面	色	質感	強度	透水性	種類	所在層	備考
1	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
12	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
14	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
17	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
18	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
19	—	埋込	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

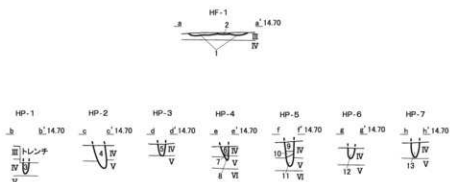
図IV-52 UHD-53(2)



UHD - 55



图IV-53 UHD - 55(1)



遺構番号	断面図番号	部位名称	主体層	現在層	層厚	部材の種類		部材の寸法		配筋性	配筋状況	種類	断面形状	種類	現在層	備考		
						名称	寸法	名称	寸法									
UHD-54	1	HP-1 橋上	橋上	—	0.00	橋上	橋上	幅員	14.70x1.9	部-中	部	U=橋上	14	—	—	—	—	
	2	HP-1 橋上	橋上	—	0.00	橋上	橋上	幅員	14.70x1.9	部-中	部	U=橋上	14	—	—	—	—	
	3	HP-1 橋上	橋上	—	0.00	橋上	橋上	幅員	14.70x1.9	部-中	部	U=橋上	14	—	—	—	—	
	4	HP-1 橋上	橋上	—	0.00	橋上	橋上	幅員	14.70x1.9	部-中	部	U=橋上	14	—	—	—	—	
	5	HP-2 橋上	橋上	—	0.00	橋上	橋上	幅員	14.70x1.9	部-中	部	U=橋上	14	—	—	—	—	
	6	HP-2 橋上	橋上	—	0.00	橋上	橋上	幅員	14.70x1.9	部-中	部	U=橋上	14	—	—	—	—	—
	7	HP-2 橋上	橋上	—	0.00	橋上	橋上	幅員	14.70x1.9	部-中	部	U=橋上	14	—	—	—	—	—
	8	HP-2 橋上	橋上	—	0.00	橋上	橋上	幅員	14.70x1.9	部-中	部	U=橋上	14	—	—	—	—	—
	9	HP-3 橋上	橋上	—	0.00	橋上	橋上	幅員	14.70x1.9	部-中	部	U=橋上	14	—	—	—	—	—
	10	HP-3 橋上	橋上	—	0.00	橋上	橋上	幅員	14.70x1.9	部-中	部	U=橋上	14	—	—	—	—	—

UHD-55												
遺構番号	断面図番号	部位名称	主体層	現在層	層厚	部材の種類	部材の寸法	配筋性	配筋状況	種類	断面形状	備考
1	1	大川橋脚(橋脚)	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
2	2	大川橋脚(橋脚)	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
3	3	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
4	4	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
5	5	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
6	6	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
7	7	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
8	8	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
9	9	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
10	10	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
11	11	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
12	12	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
13	13	大川橋脚(橋脚)	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
14	14	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
15	15	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
16	16	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
17	17	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
18	18	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
19	19	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
20	20	大川橋脚(橋脚)	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
21	21	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
22	22	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
23	23	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
24	24	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
25	25	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
26	26	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
27	27	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00
28	28	橋脚	橋脚	—	0.00	橋脚	幅員	—	—	橋脚	U=橋脚	15.00



図IV-54 UHD-55(2)



UHD - 56

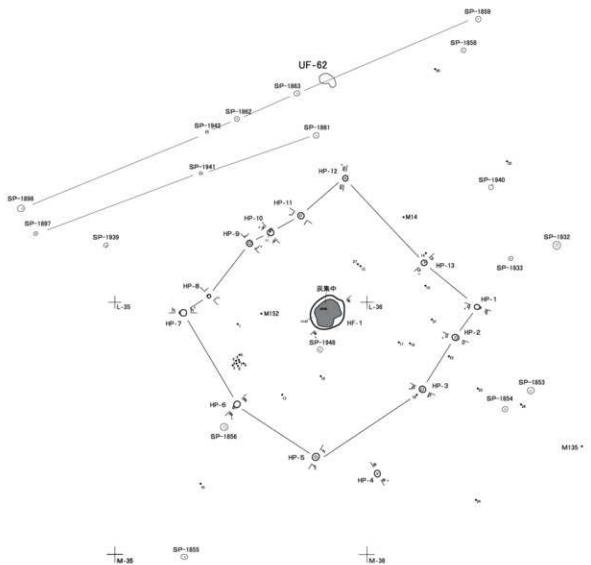
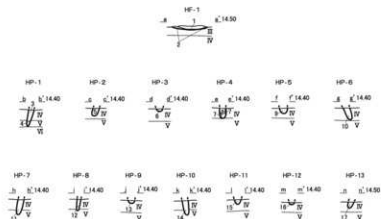


图 IV-55 UHD - 56(1)



遺構番号	断面図番号	階位名称	主体層	所在層	階別	管工種ごとの17種仕組区分			埋込管径以上		その他仕組区分		備考
						管径 寸法	管種 名称	仕組 区分	種類	所在 階位	種類	所在 階位	
UHD-56	1	11F-1 床下	床下	---	床下	埋込管	鋼管	1.070/3	埋	寸法以上	---	埋込管	11
	2	11F-1 壁下	壁下	---	埋込管	埋込管	鋼管	1.070/3	埋-中	寸法以上	---	埋込管	11
	3	11F-1 壁下	壁下	11層	埋込管	埋込管	鋼管	1.070/3	埋	寸法以上	---	埋込管	11
	4	11F-1 壁下	壁下	11層	埋込管	埋込管	鋼管	1.070/3	埋	寸法以上	---	埋込管	11
	5	11F-1 壁下	壁下	11層	埋込管	埋込管	鋼管	1.070/3	埋	寸法以上	---	埋込管	11
	6	11F-1 壁下	壁下	11層	埋込管	埋込管	鋼管	1.070/3	埋	寸法以上	---	埋込管	11
	7	11F-1 壁下	壁下	11層	埋込管	埋込管	鋼管	1.070/3	埋-中	寸法以上	---	埋込管	11
	8	11F-1 壁下	壁下	11層	埋込管	埋込管	鋼管	1.070/3	埋	寸法以上	---	埋込管	11
	9	11F-1 壁下	壁下	11層	埋込管	埋込管	鋼管	1.070/3	埋	寸法以上	---	埋込管	11
	10	11F-1 壁下	壁下	11層	埋込管	埋込管	鋼管	1.070/3	埋	寸法以上	---	埋込管	11
	11	11F-1 壁下	壁下	11層	埋込管	埋込管	鋼管	1.070/3	埋	寸法以上	---	埋込管	11
	12	11F-1 壁下	壁下	11層	埋込管	埋込管	鋼管	1.070/3	埋	寸法以上	---	埋込管	11
	13	11F-1 壁下	壁下	11層	埋込管	埋込管	鋼管	1.070/3	埋	寸法以上	---	埋込管	11

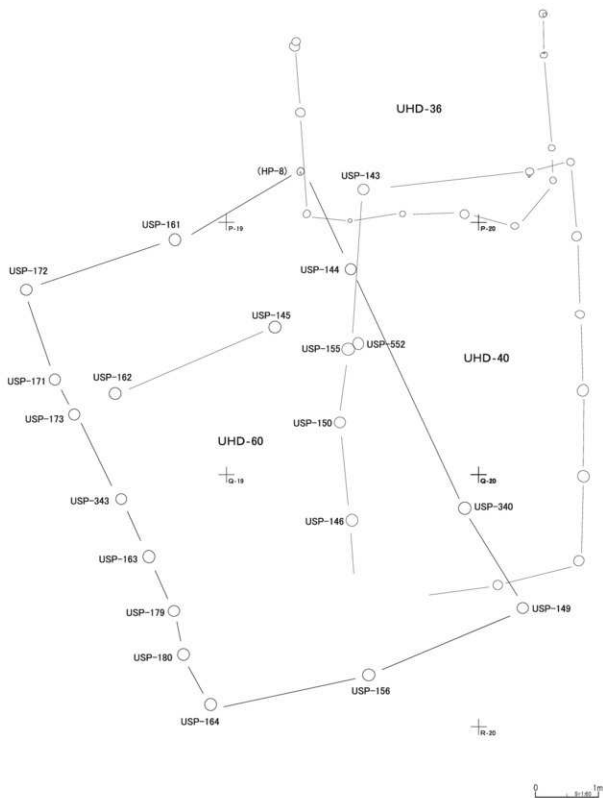
UHD-56										
遺構 番号	断面 図番号	階位 名称	主体 層	所在 層	階別	管径 寸法	管種 名称	仕組 区分	種類	備考
1	11	床下	床下	---	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
2	11	壁下	壁下	---	埋込管	1.070	鋼管	埋-中	埋込管	
3	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
4	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
5	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
6	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
7	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋-中	埋込管	
8	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
9	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
10	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
11	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
12	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
13	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
14	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
15	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
16	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
17	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
18	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
19	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
20	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
21	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
22	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
23	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
24	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
25	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
26	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
27	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
28	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
29	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
30	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
31	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
32	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
33	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
34	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
35	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
36	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
37	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
38	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
39	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
40	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
41	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
42	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
43	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
44	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
45	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
46	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
47	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
48	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
49	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	
50	11	壁下	壁下	11層	埋込管	1.070	鋼管	埋	埋込管	



図IV-56 UHD-56(2)



UHD - 60



图IV - 57 UHD - 60

## UHD-60

位置 O-19、P-18・19・20、Q-19・20区 軸方向：N-88° -W

規模 7.7×4.6m

柱間数：4×2

確認柱穴数 主：11 壁列補助：3 内部付属：2 外部付属：10以上

柱穴の検出状況：大半が平成18（2006）年度調査区に含まれる。柱穴もすべて平成18（2006）年度に検出されたものである。北辺の間柱1本が確認できていないが、南長辺の柱並びと対応する北長辺の柱や、内外部の付属SPのあり方から、大振りの長方形の建物として遺構認定した。規模からUHD扱いとした。外部SPは直線的に配置されたものが多い。

炉等付属施設：炉は確認できなかった。

付属遺構：倉庫は、南6mにある平成18（2006）年度調査のUH-11の可能性がある。

周辺遺構との関係：近接・重複からUHD-36・40とは共存しない。西7.5mには修正したUHD-1がある。北8mにある同じ軸方向のUHD-37と共存していたとみられる。

(三浦)

## (2) 堅穴住居跡 UHP (図IV-58～68 表IV-4・5 図版12～14)

## UHP-15

位置 M・N-45・46区 掘り上げ土 N-45区

規模 4.53×4.24 / 4.42×(4.09) / 0.17 m 平面形態 楕円形

確認 III層調査中、黒色土の堆積とその周囲に暗褐色土がみられた。ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し、堅穴住居跡と判断した。周囲の暗褐色土は掘り上げ土と考える。

調査 トレンチを掘り上げ、土層断面や遺物の出土位置を記録し完掘した。北東側のM・N-46区の部分は、遺構の存在に気付かず掘り下げたため、床面・壁は検出できなかった。覆土中には焼土、炭化材、炭化物集中が認められた。炭化材は形状を保つ大きなものを記録した。

覆土 覆土1層はIII層主体である。掘り上げ土(2)はIII・IV層主体である。

床面・壁 床面はIV層に位置し概して平坦、壁は曲線的に立ち上がる。

付属遺構 地床炉1か所(HF-1)、土坑1か所(HP-5)、柱穴・杭穴8か所(HP-1～4・6～9)を調査した。

遺物出土状況 遺物は概ね遺構全体から出土し、残存状態が良好なものについて出土位置を示した。また、北西側部分の覆土下位から鉄鍋が出土した。

時期 出土遺物から擦文文化期後期である。

## UHP-17

位置 P・Q-40～42、R-41区

掘り上げ土 O-40～42区、P・Q-39～42、R-40～42区

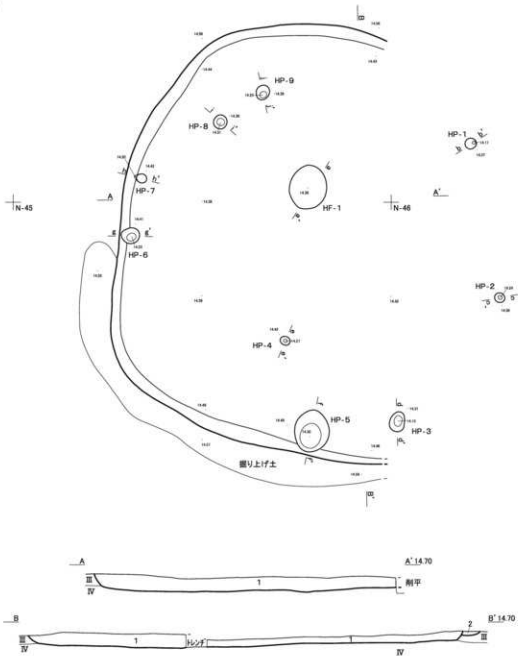
規模 6.30×5.70 / 6.29×5.56 / 0.61 m (カマド含まず) 平面形態 隅丸方形

確認 III層上面で、方形を呈するII層の堆積がみられ、これを除去したところ明瞭なくぼみとの周囲に暗褐色、黒褐色土がみられた。トレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認し、堅穴住居跡と判断した。周囲に掘り上げ土が堆積する。

調査 トレンチを掘り上げ、土層断面や遺物の出土位置を記録し、南東側でカマドを検出した。

覆土中には焼土、炭化材、炭化物集中が認められ、材の形状を保つものを図示した。

覆土 主体的な覆土はVI・VII層が混じる覆土2層で、上位の覆土1層はIII層主体である。

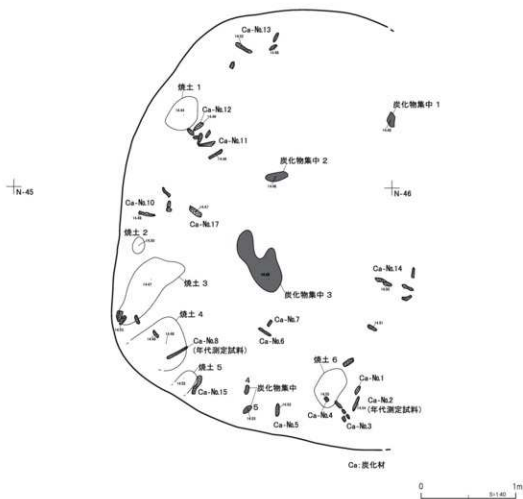
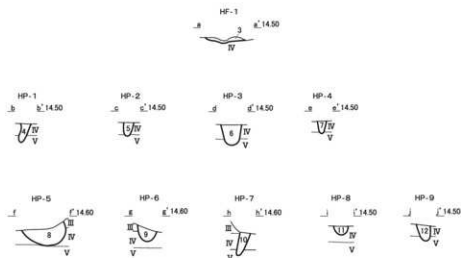


法線 番号	断面 番号	層位名称	主体層	所在層	境界	UHP-15(1) (長径20m以上)				その他の存在層		備 考			
						野的 土性	全体の性質 色名 マンモル 層名	粘着性	塑性	含水率 %	種類		存在層		
LHP-15	1	層1層	砂層	砂層	砂質	硬土	灰色	2.0(20.1)	固-中	湿	15-4層位	1	存在層	調査	
	2	層1層上	自然砂層	---	砂質	硬土	褐色	2.3(23.2)	固-中	湿	15-4層位	10-10	---	---	
	3	11P-1層上	砂質泥炭層	砂質泥炭層	砂質	硬土	褐色	2.2(22.4)	固-中	湿	---	---	10-10	調査	
	4	11P-1層上	砂層	砂層	砂質	硬土	黄褐色	10(10.2)	固-中	湿	15-4層位	10	---	---	
	5	11P-2層上	砂層	砂層	砂質	硬土	灰色	2.0(20.1)	固-中	湿	15-4層位	10	---	---	
	6	11P-2層上	砂層	砂層	砂質	硬土	黄褐色	10(10.2)	固-中	湿	15-4層位	10	---	---	
	7	11P-3層上	砂層	砂層	砂質	硬土	灰色	2.0(20.1)	固-中	湿	15-4層位	10	---	---	
	8	11P-3層上	砂層	砂層	砂質	硬土	灰色	2.0(20.1)	固-中	湿	15-4層位	10	---	---	
	9	11P-4層上	砂層	砂層	砂質	硬土	黄褐色	10(10.2)	固-中	湿	15-4層位	10	---	---	
	10	11P-4層上	砂層	砂層	砂質	硬土	黄褐色	10(10.2)	固-中	湿	15-4層位	10	---	---	
	11	11P-4層上	砂層	砂層	砂質	硬土	黄褐色	10(10.2)	固-中	湿	15-4層位	10	---	---	
	12	11P-5層上	砂層	砂層	砂質	硬土	灰色	2.0(20.1)	固-中	湿	15-4層位	10	---	---	



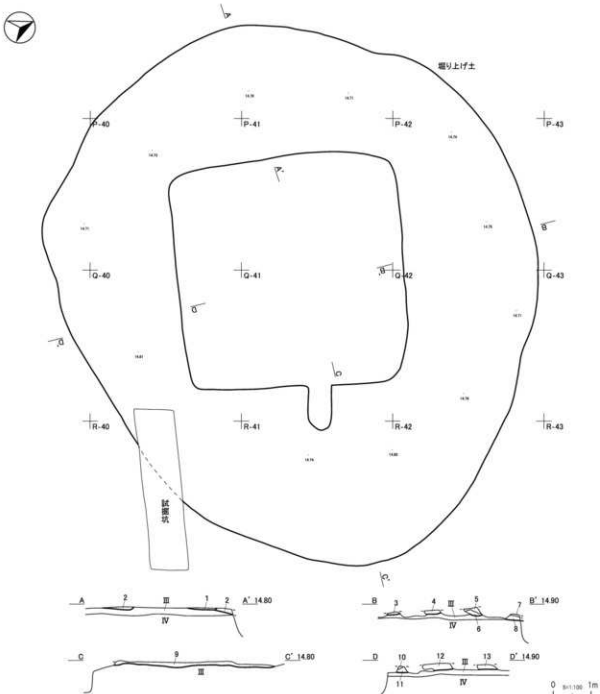
図IV-58 UHP-15(1)





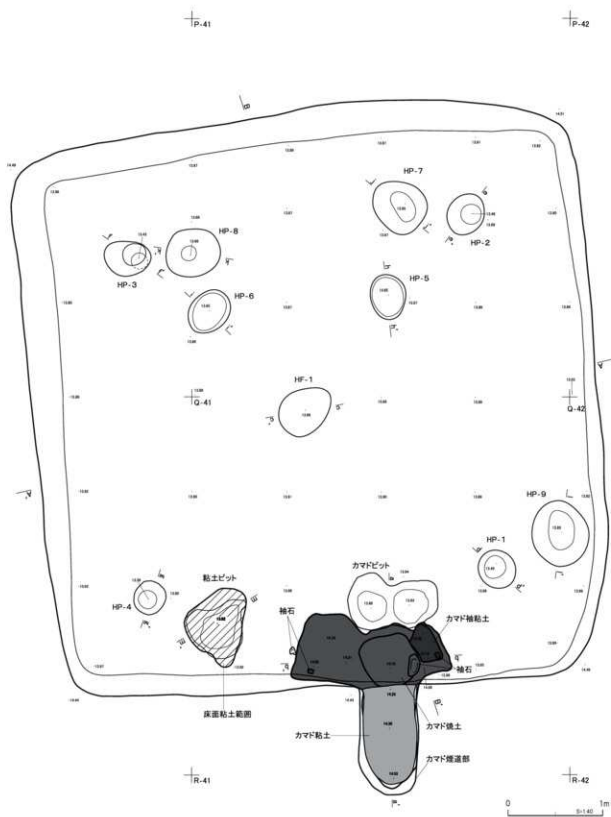
図IV-59 UHP-15(2)



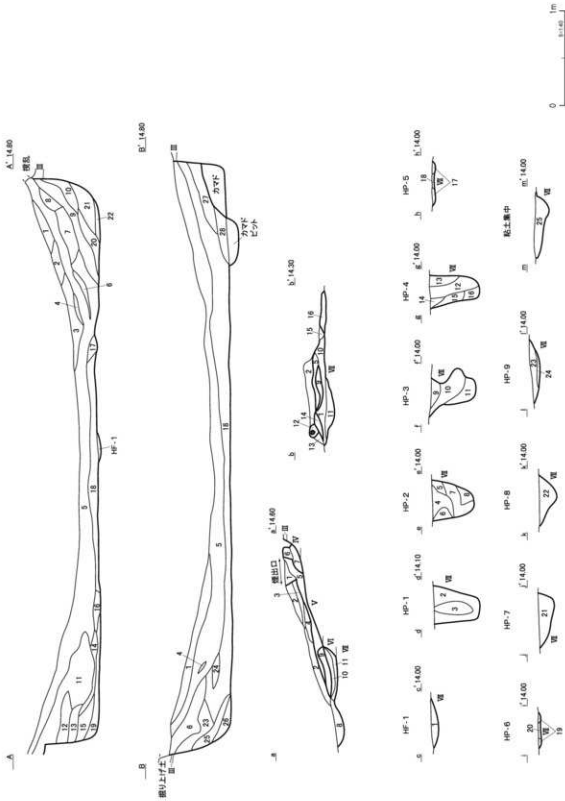


遺構 番号	断面 図番号	層位名称	主体層	所在層	層状	砂・粘エースト(長径200mm未満)				埋(長径200mm以上) 其の他の遺存物					
						野外 土性	色名 色名	粘着性	堅硬性	種類	割合 %	種類	量(枚)	備考	
UHP-17 盛り上げ土	1	盛り上げ土1層	瓦葺・土葺	片葺・瓦葺	焼物	中硬土	褐色	1000/1	固	強	Ta-焼石	20	—	—	
	2	盛り上げ土2層	瓦葺・土葺	瓦葺・瓦葺・片葺	焼物	硬土	黒褐色	1000/2	固-中	強	Ta-焼石	10	—	—	
	3	盛り上げ土3層	瓦葺・土葺・片葺	瓦葺・片葺	焼物	硬土	黒褐色	1000/3	固-中	強	Ta-焼石	1	—	—	
	4	盛り上げ土4層	瓦葺・土葺	瓦葺・瓦葺・片葺	焼物	硬粘土	褐色	1000/4	固	強	Ta-焼石	1	—	—	
	5	盛り上げ土5層	瓦葺・土葺	瓦葺・瓦葺	焼物	硬粘土	褐色	1000/5	固	中-硬	Ta-焼石	10	—	—	
	6	盛り上げ土6層	瓦葺・土葺・片葺	瓦葺	焼物	硬粘土	黒褐色	1000/6	固	中-硬	Ta-焼石	60	—	—	
	7	盛り上げ土7層	瓦葺・土葺	片葺	焼物	硬土	褐色	1000/7	固-中	強	Ta-焼石	10	—	—	
	8	盛り上げ土8層	瓦葺	片葺	焼物	硬土	褐色	1000/8	固-中	中-硬	Ta-焼石	10	—	—	
	9	盛り上げ土9層	瓦葺・土葺	片葺・瓦葺	焼物	硬土	褐色	1000/9	固-中	中-硬	Ta-焼石	2	—	—	
	10	盛り上げ土10層	瓦葺	瓦葺・片葺	焼物	硬土	褐色	1000/10	固-中	中-硬	Ta-焼石	1	—	—	
	11	盛り上げ土11層	瓦葺・瓦葺	片葺	焼物	硬土	黒褐色	1000/11	固-中	中-硬	Ta-焼石	3	—	—	
	12	盛り上げ土12層	瓦葺	片葺・瓦葺	焼物	硬粘土	褐色	1000/12	固	強	Ta-焼石	3	—	—	
	13	盛り上げ土13層	片葺	瓦葺・土葺・瓦葺	焼物	硬土	黒褐色	1000/13	固-中	中-硬	Ta-焼石	10	—	—	

図IV-61 UHP-17(1)



図IV-62 UHP-17(2)



図IV-63 UHP-17(3)

通車 番号	新設 区間	線名	種別	所在区	種別	車-軌士-シールド工法等2種未満				線長(約200以上) その他の工法在				備 考		
						工務 種別	全体の 有効 延長	軌道性	管架数	種別	割合	種別	割合			
UHP-17	1	藤上線	路線	片側	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	15	—	—	—	
	2	藤上線	路線	片側-両側	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	10	—	—	—	
	3	藤上線	路線	片側	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	7	—	—	—	
	4	藤上線	路線	片側	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	10	—	—	—	
	5	藤上線	路線	片側	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	3	—	—	—	
	6	藤上線	路線	片側	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	10	—	—	—	
	7	藤上線	路線-付帯-路線	付帯-片側	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	5	—	—	—
	8	藤上線	路線-付帯-路線	付帯	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	9	藤上線	路線-付帯-路線	付帯-片側	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	10	藤上線	路線	付帯-付帯-付帯	付帯	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	11	藤上線	路線	付帯	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	12	藤上線	路線	片側-付帯	付帯	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	13	藤上線	片側	付帯	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	10	—	—	—
	14	藤上線	路線	片側-付帯	付帯	盾上	両側	2,000/0	0	0	0	100%	10	—	—	—
	15	藤上線	路線	付帯-付帯	付帯	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	10	—	—	—
	16	藤上線	路線	付帯-付帯	付帯	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	50	—	—	—
	17	藤上線	付帯	付帯	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	18	藤上線	路線-付帯	付帯	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	2	—	—	—
	19	藤上線	付帯-付帯	付帯	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	20	藤上線	路線	付帯	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	21	藤上線	路線-付帯	付帯	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	22	藤上線	付帯-付帯	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	23	藤上線	路線-付帯	付帯-片側	付帯	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	3	—	—	—
	24	藤上線	路線-付帯	付帯-片側	付帯	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	10	—	—	—
	25	藤上線	付帯-付帯	付帯-片側	付帯	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	50	—	—	—
26	藤上線	路線-付帯	付帯	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—	
27	藤上線	付帯	付帯-付帯-付帯	付帯	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	5	—	—	—	
28	藤上線	路線	付帯-付帯	付帯	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
UHP-17 カマド	1	津波線軌上	軌上	両側	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
	2	津波線軌上	軌上	—	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
	3	津波線軌上	軌上	両側	地味	盾上	両側	2,000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—
	4	津波線軌上	軌上	両側	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—
	5	津波線軌上	軌上	—	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
	6	津波線軌上	軌上	—	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
	7	津波線軌上	軌上	—	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
	8	津波線軌上	軌上	—	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
	9	津波線軌上	軌上	—	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
	10	津波線軌上	軌上	—	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
	11	津波線軌上	軌上	—	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
	12	津波線軌上	軌上	—	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
	13	津波線軌上	軌上	—	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
	14	津波線軌上	軌上	—	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
	15	津波線軌上	軌上	—	地味	盾工 法	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—	
UHP-17 付属線路	1	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	10	—	—	—
	2	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	5	—	—	—
	3	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—
	4	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	2	—	—	—
	5	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—
	6	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	7	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	8	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	9	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	10	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	11	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	12	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	13	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	14	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	15	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—
	16	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—
	17	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—
	18	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—
	19	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—
	20	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—
	21	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—
	22	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	23	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	24	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	1	—	—	—
	25	10P-1線土	線土	—	地味	盾上	両側	1000/0	0	0	0	100%	—	—	—	—

図IV-64 UHP-17(4)







**床面・壁** 床面は概して平坦で、壁の立ち上がりはやや直立気味である。

**付属遺構** カマド1か所、地床炉1か所（HF-1）、土坑5か所（HP-5～9）、柱穴4か所（HP-1～4）、粘土ピット1か所で、カマドは煙道・焼土・ピット・構築粘土で構成される。袖部分には袖石と考える礫がみられ、カマドピットは二基が接する。粘土ピットはカマドの南西部分に位置し、覆土は粘土のみであった。

**遺物出土状況** 遺物は概ね全体から出土し、南東側がやや多い。残存状態が良好なものは出土位置を示した。また、住居跡の南側からは炭化木製品が出土した（口絵1）。

**重 複** 上位にはアイヌ文化期の灰集中（UA-21）があり、くぼみが利用されたと考える。

**時 期** 出土遺物から擦文文化期後期である。

#### UHP-23

**位 置** L・M-40・41区

**規 模** （柱穴の分布範囲）(3.42) × (3.52) **平面形態** 不明

**確認・調査** IV層上面精査中、焼土（HF-1）を確認した。周辺を精査したところ、これの周囲に、長径10cm程度の円形の黒色土が数か所みられた。これらを半截したところ、柱穴が7か所（HP-1～7）認められたので、住居跡と判断した。覆土は削平されて残存していない。また平地住居跡の可能性もある。

**付属遺構** 地床炉1か所（HF-1）、柱穴・杭穴7か所（HP-1～7）を確認した。

**遺物出土状況** 地床炉（HF-1）周辺から棒状の鉄製品が出土した。

**時 期** 遺構の形態や出土遺物から擦文文化期後期～アイヌ文化期と推測する。

#### UHP-31

**位 置** L・M-39区

**規 模** (3.46) × (3.30) / (3.23) × (3.03) / 0.11 m **平面形態** 楕円形

**確 認** III層調査中、黒色土がみられ、ベルトを設けこれ沿いにトレンチを掘り下げたところ、床面と壁の立ち上がりを確認したので、住居跡と判断した。

**調 査** トレンチを掘り広げ、土層断面や遺物の出土位置を記録し完掘した。北側のL・M-40区の部分は、包含層調査により掘り下げたため、壁は検出できなかった。覆土中には炭化材、炭化物集積が認められた。炭化材は形状を保つもの等を記録した。

**覆 土** 覆土は1層のみで、III層主体である。

**床面・壁** 床面は概して平坦、中央付近が若干低く、壁は曲線的に立ち上がる。

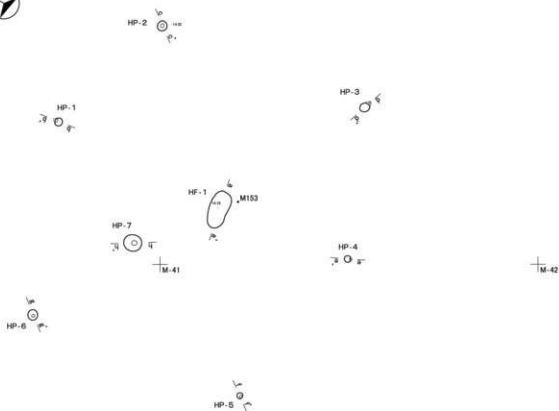
**付属遺構** 地床炉1か所（HF-1）、柱穴・杭穴7か所（HP-1～7）を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は概ね遺構全体から出土し、すべての出土位置を示した。

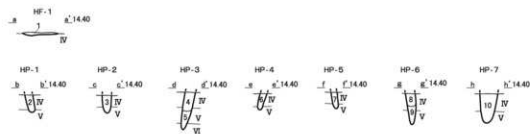
**時 期** 遺構の形態や出土遺物等から擦文文化期後期と推測する。 (広田良成)

### (3) 建物跡 UH (図IV-69～86 表IV-2・13 図版15・16)

炉のない平地建物跡で、柱数の少ない小型のもの21軒を扱う。家屋や集落に伴う倉庫(高床・平地)や熊檻に類する建物である。基本的に柱穴は、底をほぼ平坦にした掘方を設けて柱を生けた「掘立柱」や、掘方に柱先を尖らせた柱を差して固定した「掘り差し柱」と両者の組み合わせとなる。しかし「差し込み柱」が使われている例もある。建物構成上、柱穴が確認できていない部分もあるが、上部構造の重さで支え合う「置き柱」のような対応があったものと推定する。一部、所属の明確でない柱穴・杭穴（SP）も、付属施設等の観点から報告で触れている。



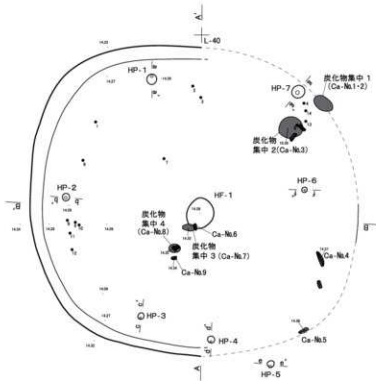
UHP-23						
通観 番号	断面 番号	観位 名称	主体 種類	観位 種類	観位 高さ	観位 位置
1	1	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—
2	2	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—
3	3	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—
4	4	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—
5	5	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—
6	6	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—
7	7	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—
8	8	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—
9	9	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—
10	10	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—



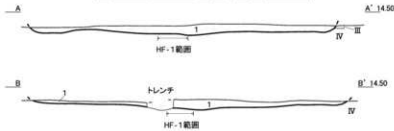
通観 番号	断面 番号	観位名称	主体種	観位種	観位 高さ	観測方向(方位)				観測距離(m以上)		その他の観位種		備 考	
						観測 方向	観測 距離	観測 距離	観測 距離	観測 距離	観測 距離				
UHP-23	1	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	10	10 <sup>上</sup>	観測	地上	14.40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—



図IV-67 UHP-23



層位	層名	層厚	層位	層名	層厚	層位	層名	層厚	層位	層名	層厚
1	層1	0.10	11	層11	0.10	21	層21	0.10	31	層31	0.10
2	層2	0.10	12	層12	0.10	22	層22	0.10	32	層32	0.10
3	層3	0.10	13	層13	0.10	23	層23	0.10	33	層33	0.10
4	層4	0.10	14	層14	0.10	24	層24	0.10	34	層34	0.10
5	層5	0.10	15	層15	0.10	25	層25	0.10	35	層35	0.10
6	層6	0.10	16	層16	0.10	26	層26	0.10	36	層36	0.10
7	層7	0.10	17	層17	0.10	27	層27	0.10	37	層37	0.10
8	層8	0.10	18	層18	0.10	28	層28	0.10	38	層38	0.10
9	層9	0.10	19	層19	0.10	29	層29	0.10	39	層39	0.10
10	層10	0.10	20	層20	0.10	30	層30	0.10	40	層40	0.10



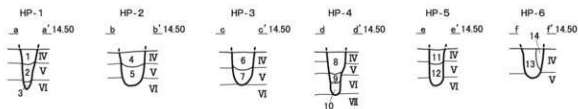
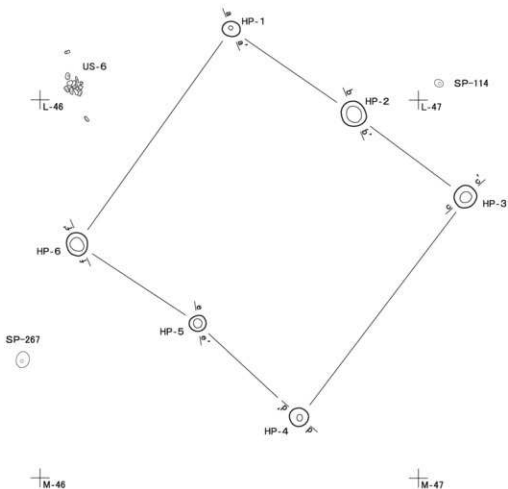
遺構番号	断面図番号	層位名称	主体層	所在層	層厚	群内土性	砂・粘土シルト(長径2mm未満)			礫(長径2mm以上)付の物の存在				
							全体割合(色別)	マンネル	粘着性	種類	層位	種類	存在層	
UHP-31	1	層1	砂層	—	0.10	砂上	砂色	1000/1	中	硬～弱	Ca-検0	7	—	—
	2	11F-1層1	砂	砂	0.10	砂上	砂色	1000/1	中	硬～弱	Ca-検0	15	—	—
	3	11F-1層2	砂	砂	0.10	砂上	砂色	1000/1	中	硬～弱	Ca-検0	16	—	—
	4	11F-2層1	砂層	砂層	0.10	砂上	砂色	1000/1	中	硬～弱	Ca-検0	18	—	—
	5	11F-2層2	砂層	砂層	0.10	砂上	砂色	1000/1	中	硬～弱	Ca-検0	19	—	—
	6	11F-3層1	砂層	砂層	0.10	砂上	砂色	1000/1	中	硬～弱	Ca-検0	20	—	—
	7	11F-3層2	砂層	砂層	0.10	砂上	砂色	1000/1	中	硬～弱	Ca-検0	21	—	—
	8	11F-4層1	砂層	砂層	0.10	砂上	砂色	1000/1	中	硬～弱	Ca-検0	22	—	—
	9	11F-4層2	砂層	砂層	0.10	砂上	砂色	1000/1	中	硬～弱	Ca-検0	23	—	—
	10	11F-7層1	砂層	砂層	0.10	砂上	砂色	1000/1	中	硬～弱	Ca-検0	40	—	—



図IV-68 UHP-31



UH - 18



調査 番号	観測 点 番号	観測名称	主体層	現在層	構造	観測結果(寸法)				観測結果(%)		その他観測結果		備 考
						野孔 上寸	野孔 色名	中心 色名	乾燥性	湿度度	種類	測定 割合	種類	
UH-18	1	HP-1 観測1	砂	砂	砂	14.50	黄褐色	黄褐色	乾燥	100	砂	100		
	2	HP-1 観測2	砂	砂	砂	14.50	黄褐色	黄褐色	乾燥	100	砂	100		
	3	HP-1 観測3	砂	砂	砂	14.50	黄褐色	黄褐色	乾燥	100	砂	100		
	4	HP-2 観測1	砂	砂	砂	14.50	黄褐色	黄褐色	乾燥	100	砂	100		
	5	HP-2 観測2	砂	砂	砂	14.50	黄褐色	黄褐色	乾燥	100	砂	100		
	6	HP-2 観測3	砂	砂	砂	14.50	黄褐色	黄褐色	乾燥	100	砂	100		
	7	HP-3 観測1	砂	砂	砂	14.50	黄褐色	黄褐色	乾燥	100	砂	100		
	8	HP-3 観測2	砂	砂	砂	14.50	黄褐色	黄褐色	乾燥	100	砂	100		
	9	HP-3 観測3	砂	砂	砂	14.50	黄褐色	黄褐色	乾燥	100	砂	100		
	10	HP-4 観測1	砂	砂	砂	14.50	黄褐色	黄褐色	乾燥	100	砂	100		
	11	HP-5 観測1	砂	砂	砂	14.50	黄褐色	黄褐色	乾燥	100	砂	100		
	12	HP-5 観測2	砂	砂	砂	14.50	黄褐色	黄褐色	乾燥	100	砂	100		



図IV-69 UH-18

## UH-18

位置：K-46、L-46・47区

軸方向：N-29°-W

規模：2.9×3.05m

柱間数：2×1

確認柱穴数 主：6 外部付属：1

柱穴の検出状況：掘立柱と掘り差し柱の組み合わせによる6本柱のほぼ正方形の建物。高床の倉庫と思われる。外側のSP-114か267が階段施設の柱穴だろう。

付属遺構：北東7mにあるUHD-14の付属倉庫。西に隣接する鍾石の集積US-6も関連遺構である。

周辺遺構との関係：北6mにUH-20があるが、UHD-14との近接関係から共存しない。

## UH-19

位置：H-I-54・55区

軸方向：N-75°-W

規模：3.3×3.2m

柱間数：2×2

確認柱穴数 主：7 内部付属：3 外部付属：3

柱穴の検出状況：北辺の中間柱がない7本柱のほぼ正方形の建物。掘り差し柱と差し込み柱の組み合わせによる高床の倉庫と思われる。外側のSP-21・22・24のいずれかが階段施設の柱穴だろう。SP-22は北辺の中間柱かもしれない。

付属遺構：北東5mのUHD-13の付属倉庫。

周辺遺構との関係：今回の調査区の最も北に位置する。

## UH-20

位置：J-K-48・49区

軸方向：N-32°-W

規模：3.3×3.0m

柱間数：2×1

確認柱穴数 主：6 外部付属：1

柱穴の検出状況：掘り差し柱と差し込み柱の組み合わせによる6本柱のほぼ正方形の建物。高床の倉庫と思われる。SPとUHD-13のHPの組み合わせで調査中認定した。

付属遺構：所属する家屋は不明。

周辺遺構との関係：UHD-14とは同じ軸方向だが1m以下と隣接しており、同時存在はしない。南6mに同じ軸方向のUH-18がある。

## UH-27

位置：K-22・23区

軸方向：N-51°-E

規模：4.9×2.7m

柱間数：3×1

確認柱穴数 主：8 内部付属：3 外部付属：約10

柱穴の検出状況：8本の掘り差し柱で構成される長方形の建物。倉庫としては大振りで、高床にはならないと思われる。東から南東にかけての外のSPには直線的に並び、柵や干し場を形成している可能性もある。

付属遺構：北8mのUHD-41、東6mのUHD-26、南6mのUHD-37と所属する可能性のある家屋が三方にあり、断定しえない。あるいは西側に広がる畑に関するある時期の共同の倉庫の建物であろうか。

周辺遺構との関係：UHDとの位置関係は上記のとおり。

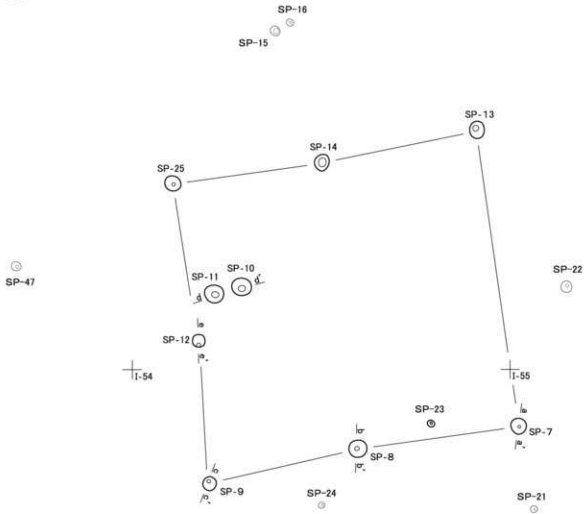
## UH-29

位置：R-S-25区

軸方向：N-32°-W



UH - 19



SP-7  
a a' 14.40



SP-8  
b b' 14.40



SP-9  
c c' 14.40



SP-10-11  
d d' 14.40



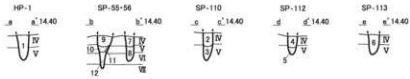
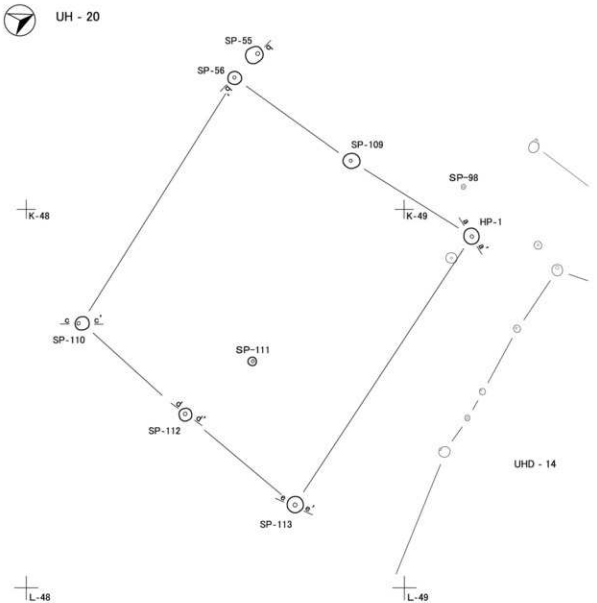
SP-12  
e e' 14.40



調査 番号	調査 項目	調査 名称	立地 位置	調査 時期	調査方法(調査方法)				調査結果(調査結果)		調査結果の状況	
					調査 方法	調査 器具	調査 時間	調査 場所	調査 結果	調査 結果	調査 結果	調査 結果
UH-19	1	SP-7 観測	観測	2018	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測
	2	SP-8 観測	観測	2018	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測
	3	SP-9 観測	観測	2018	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測
	4	SP-10 観測	観測	2018	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測
	5	SP-11 観測	観測	2018	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測
	6	SP-12 観測	観測	2018	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測
	7	SP-13 観測	観測	2018	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測
	8	SP-14 観測	観測	2018	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測
	9	SP-23 観測	観測	2018	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測
	10	SP-25 観測	観測	2018	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測	観測

0 1m  
0:14.40

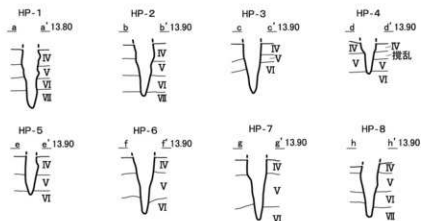
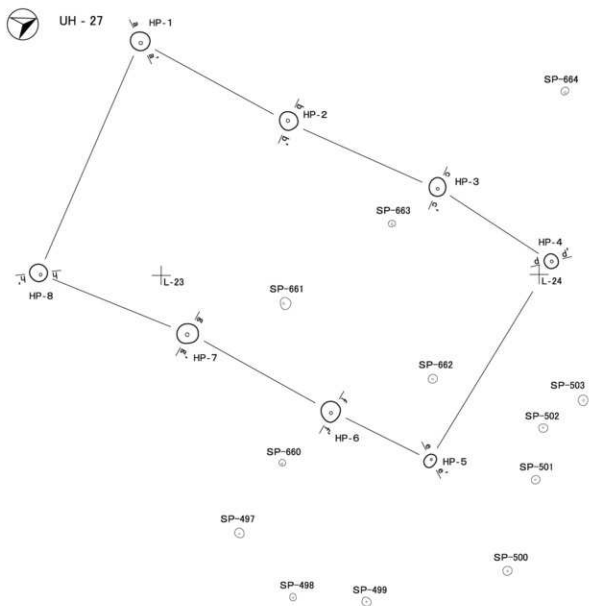
図IV-70 UH - 19



遺構番号	断面図番号	層位名称	主体層	所在層	層厚	調査地質学調査結果				調査地質学調査結果		その他の調査結果		備考
						野内土質	野外地質	マンデル	磁気性	磁気性	種類	割合	種類	
UH-20	SP-110 層1	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
	SP-110 層2	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
	SP-110 層3	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
	SP-110 層4	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
	SP-110 層5	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
	SP-110 層6	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
	SP-110 層7	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
	SP-110 層8	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
	SP-110 層9	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
	SP-110 層10	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...



図IV-71 UH-20

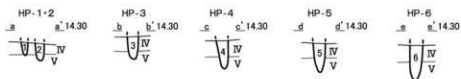
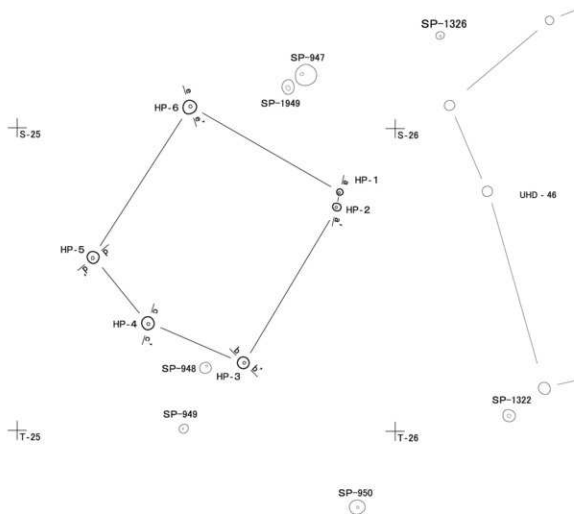


图IV-72 UH-27





UH - 29



遺構 番号	形状 番号	発見名称	主体層	所在層	層高	開口部コンクリート基礎の調査結果				開口部コンクリート基礎の調査結果		その周辺の調査結果		備 考	
						野井 土柱	土 色	コンクリ 色	鉄筋 色	基礎 形状	基礎 高さ	基礎 幅	基礎 厚		
UH-29	1	HP-1	III	III	14.30	○	黄褐色	黄褐色	黄褐色	円筒形	14.30	1.0	1.0		
	2	HP-2	III	III	14.30	○	黄褐色	黄褐色	黄褐色	円筒形	14.30	1.0	1.0		
	3	HP-3	III	III	14.30	○	黄褐色	黄褐色	黄褐色	円筒形	14.30	1.0	1.0		
	4	HP-4	III	III	14.30	○	黄褐色	黄褐色	黄褐色	円筒形	14.30	1.0	1.0		
	5	HP-5	III	III	14.30	○	黄褐色	黄褐色	黄褐色	円筒形	14.30	1.0	1.0		



図IV-73 UH - 29

規 模：2.15×1.9m

柱間数：1×1

確認柱穴数 主：4 壁列補助：2 外部付属：3

柱穴の検出状況：主柱4本と補助柱2本の計6本の差し込み柱からなる正方形の小建物。倉庫や熊檻のような用途が考えられる。SP-948・949は階段等の施設であろう。

付属遺構：北東5mのUHD-45か西南西6.5mのUHD-24の所属であろう。

周辺遺構との関係：UHD-46とは近接関係にあり、共存しない。

UH-30

位 置：Q-23・24、R-24区

軸方向：N-60°-E

規 模：3.5×3.2m

柱間数：2×1

確認柱穴数 主：6 外部付属：3

柱穴の検出状況：掘立柱6本柱で構成されたほぼ正方形の建物。やや大型だが、高床の倉庫と思われる。東西南の三方向にあるSP各1本のいずれかが階段施設の柱穴だろう。

付属遺構：北西8mのUHD-26か南2.5mのUHD-24の所属であろう。

周辺遺構との関係：西側のUHD-25とは近接関係にあり、共存しない。

UH-32

位 置：N-41・42、O-42区

軸方向：N-36°-W

規 模：2.9×2.9m

柱間数：2×1

確認柱穴数 主：6 内部付属：2

柱穴の検出状況：掘立柱4・掘り差し柱1・差し込み柱3の混在による6本柱で構成されたほぼ正方形の建物。高床の倉庫と思われる。SPの組み合わせで調査中認定した。外部周辺にはほかにSPはない。

付属遺構：東11mのUHD-21が最も近い家屋で、これに所属すると想定する。その中間6mあたりにある8本柱の組み合わせUH-58も関連施設であろう。

周辺遺構との関係：他に関わりそうな遺構はない。南8mにUH-57がある。

UH-33

位 置：J-40・41区

軸方向：N-51°-E

規 模：2.0×1.2m

柱間数：1×1

確認柱穴数 主：4 外部付属：1

柱穴の検出状況：掘り差し柱5本で構成された長方形の極小建物。物置きなどの倉庫的施設であろう。SPの組み合わせで調査中認定した。外の1本は補助柱か。周辺に関わりそうなSPはない。

付属遺構：南5mにあるUHD-49の付属であろう。

周辺遺構との関係：他に関わりそうな遺構はない。

UH-34

位 置：D-43・44、E-44区

軸方向：N-80°-E

規 模：2.8×2.9m

柱間数：2×1

確認柱穴数 主：4 内部付属：1 外部付属：1

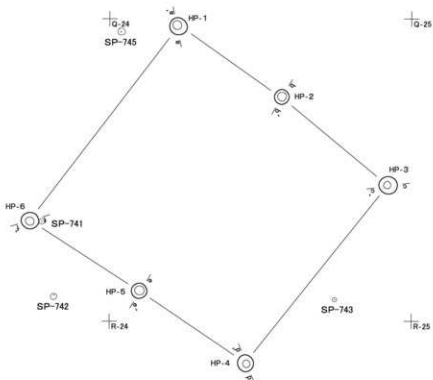
柱穴の検出状況：掘立柱を4本確認した。HP-1と3が角柱であれば、北東・北西の角が確認できなかったが、正方形の高床の倉庫を想定できる建物となる。周辺にSPは少ない。

付属遺構：北西の調査範囲外に所属する家屋があると思われる。

周辺遺構との関係：北東6mにUH-35がある。



UH - 30



UH-30						
区画	用途	用途	用途	用途	用途	用途
用途	用途	用途	用途	用途	用途	用途
---	---	---	---	---	---	---

遺構番号	区画番号	層位名称	主体層	認定層	層別	地盤の性状				地盤の強度				その他	
						野面	性状	色名	含水率	粘着性	剪断性	粘着性	剪断性	種類	注記
UH-30	1	1	IV	IV	IV	野面	粘着	赤褐色	100%	粘着性	弱	粘着性	弱	粘着性	弱
	3	VI	VI	野面	粘着	赤褐色	100%	粘着性	弱	粘着性	弱	粘着性	弱		
														4	VII
	5	VIII	VIII	野面	粘着	赤褐色	100%	粘着性	弱	粘着性	弱	粘着性	弱		
														6	IX
	7	X	X	野面	粘着	赤褐色	100%	粘着性	弱	粘着性	弱	粘着性	弱		
														8	XI
	9	XII	XII	野面	粘着	赤褐色	100%	粘着性	弱	粘着性	弱	粘着性	弱		
														10	XIII
	11	XIV	XIV	野面	粘着	赤褐色	100%	粘着性	弱	粘着性	弱	粘着性	弱		
														12	XV
	13	XVI	XVI	野面	粘着	赤褐色	100%	粘着性	弱	粘着性	弱	粘着性	弱		
														14	XVII
	15	XVIII	XVIII	野面	粘着	赤褐色	100%	粘着性	弱	粘着性	弱	粘着性	弱		
														16	XIX

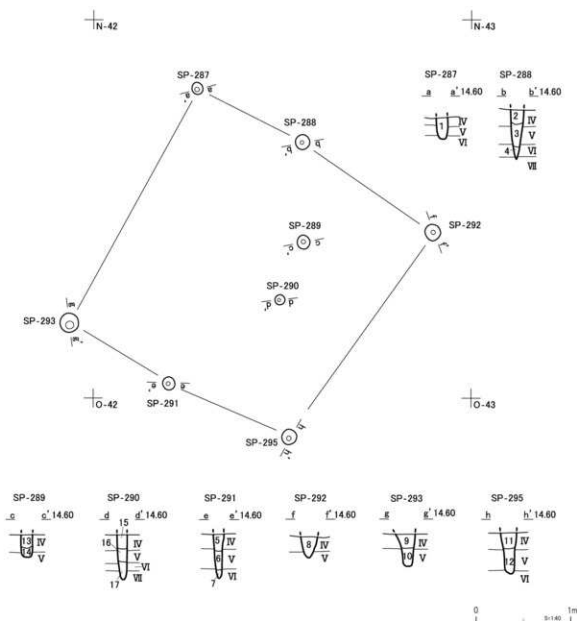


図IV-74 UH-30



UH - 32

SP-278



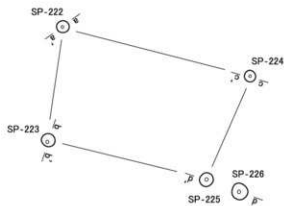
調査 番号	調査 名称	調査名称	主体種	現在種	種別	野の 土質	そのほかモニタリング項目(必要時)			調査結果(調査日)		そのほかの調査結果	
							実地での調査 項目	実施日	実施者	種類	調査 結果	種類	調査 結果
1	SP-287	SP-287	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
2	SP-288	SP-288	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
3	SP-289	SP-289	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
4	SP-290	SP-290	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
5	SP-291	SP-291	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
6	SP-292	SP-292	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
7	SP-293	SP-293	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
8	SP-295	SP-295	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
9	SP-295	SP-295	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
10	SP-295	SP-295	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
11	SP-295	SP-295	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
12	SP-295	SP-295	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
13	SP-295	SP-295	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
14	SP-295	SP-295	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
15	SP-295	SP-295	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
16	SP-295	SP-295	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥
17	SP-295	SP-295	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥	野鳥

図IV-75 UH-32



UH - 33

J-41



K-41

SP-255

SP-254

SP-256

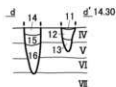
SP-257

SP-222

SP-223

SP-224

SP-226-225



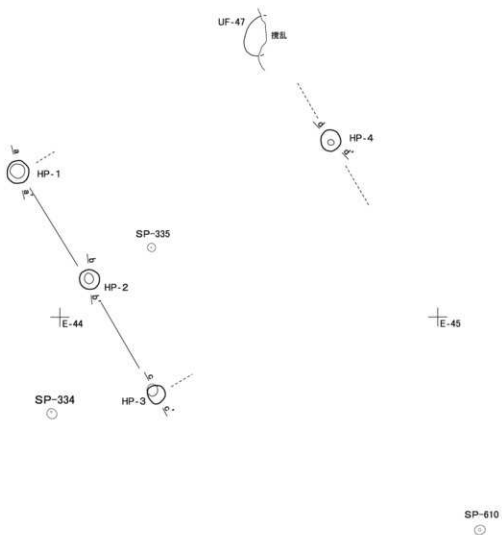
遺構番号	層位番号	層位名称	主体層	所在層	構造	開口部(1/2)の土質(土質調査)				開口部(1/2)の土質(土質調査)				そのほかの土質				
						野面土質	土質	土質	土質	野面土質	土質	土質	土質	種類	所在層	備考		
UH-33	2	SP-222 層1	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	
	3	SP-222 層2	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	
	4	SP-222 層3	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	
	5	SP-222 層4	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	
	6	SP-222 層5	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	
	7	SP-222 層6	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質
	8	SP-222 層7	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質
	9	SP-222 層8	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質
	10	SP-222 層9	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質
	11	SP-222 層10	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質
	12	SP-222 層11	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質
	13	SP-222 層12	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質
	14	SP-222 層13	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質
	15	SP-222 層14	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質
	16	SP-222 層15	土層	IV	土層	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質	土質



図IV-76 UH-33



UH - 34



調査 番号	詳細 調査 番号	層位名称	主体層	所在層	層厚	層の厚さ(センチメートル)換算(2m未満)				層(換算)の含水率		そのほかの調査結果	
						野外 土質	全 色名	全 色名	含水率 %	調査 層	調査 層	調査 層	調査 層
UH-34	1	1層1	砂	IV	0.50	砂	砂	砂	12.0	14.30	14.30		
	2	1層2	砂	IV	0.50	砂	砂	砂	12.0	14.30	14.30		
	3	2層1	砂	IV	0.50	砂	砂	砂	12.0	14.30	14.30		
	4	2層2	砂	IV	0.50	砂	砂	砂	12.0	14.30	14.30		



図IV-77 UH - 34

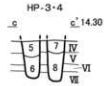
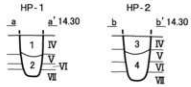


UH - 35

E-46

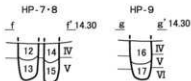
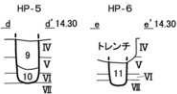
E-47

UH-35						
調査年度	調査区画	調査位置	調査内容	調査結果	調査者	備考
—	—	—	—	—	—	—



F-46

F-47



SP-390



遺構番号	発見位置	発見名称	立地	所在	層位	形状・構造・内容				材質		年代		備考
						形状	構造	内容	色	質	種類	所在	層位	
UH-35	1	HP-1 層1	土	北東	IV	円形	浅	土	黄褐色	土	土	IV	—	—
	2	HP-2 層1	土	北東	IV	円形	浅	土	黄褐色	土	土	IV	—	—
	3	HP-3 層1	土	北東	IV	円形	浅	土	黄褐色	土	土	IV	—	—
	4	HP-4 層1	土	北東	IV	円形	浅	土	黄褐色	土	土	IV	—	—
	5	HP-5 層1	土	北東	IV	円形	浅	土	黄褐色	土	土	IV	—	—
	6	HP-6 層1	土	北東	IV	円形	浅	土	黄褐色	土	土	IV	—	—
	7	HP-7 層1	土	北東	IV	円形	浅	土	黄褐色	土	土	IV	—	—
	8	HP-8 層1	土	北東	IV	円形	浅	土	黄褐色	土	土	IV	—	—
	9	HP-9 層1	土	北東	IV	円形	浅	土	黄褐色	土	土	IV	—	—
	10	HP-9 層2	土	北東	V	円形	浅	土	黄褐色	土	土	V	—	—
	11	HP-9 層3	土	北東	VI	円形	浅	土	黄褐色	土	土	VI	—	—
	12	HP-7-8 層1	土	北東	IV	円形	浅	土	黄褐色	土	土	IV	—	—
	13	HP-7-8 層2	土	北東	V	円形	浅	土	黄褐色	土	土	V	—	—
	14	HP-7-8 層3	土	北東	VI	円形	浅	土	黄褐色	土	土	VI	—	—
	15	HP-7-8 層4	土	北東	—	円形	浅	土	黄褐色	土	土	—	—	—

図IV-78 UH-35

#### UH-35

位置：E・F-46・47区

軸方向：N-70° - E

規模：3.60×2.75m

柱間数：2×1

確認柱穴数 主：6 壁列補助：2 外部付属：2

柱穴の検出状況：9本の掘立柱が確認された。6本柱の長方形建物で、2本は角の補助柱、西側の1本は付属施設柱と判定した。やや離れた東や南にSPのまとまりがあり、柵や干し場を形成している可能性もある。

付属遺構：北西の調査範囲外に所属する家屋があると思われる。

周辺遺構との関係：南西6mにUH-34がある。

#### UH-39

位置：N・O-21・22区

軸方向：N-18° - E

規模：4.95×3.60m

柱間数：2×2

確認柱穴数 主：7 壁列補助：1 内部付属：1 外部付属：7以上

柱穴の検出状況：差し込み柱8本で構成された、歪みのある長方形建物。炉がないため家屋扱いしなかったが、倉庫としては大き過ぎる規模かもしれない。北西長辺に間柱が確認できなかった。南東長辺はSP-556・555・HP-4・3で、南西短辺はHP-6・SP-550・556で構成。調査時の歪みを図上で補い、SPを主柱に取り込んだ。内部のSP-549は中心の補助柱であろう。

外部周辺は建物やSPの密な地帯で、付属施設を断定するのは難しい。北から東にかけてのSP-524から535への約7mは直線的に配置され、柵列とみえる。

付属遺構：大きさや位置・軸方向からは、UHD-40と関係がありそうである。

周辺遺構との関係：西にあるUHD-37とは西角がわずかに重複する。東に重複してある送り場UA-9は、北にあるUHD-26かUHD-37の所属とみられる。

#### UH-42

位置：L・M-29・30区

軸方向：N-5° - E

規模：2.7×2.9m

柱間数：2×2

確認柱穴数 主：7 内部付属：1 外部付属：2

柱穴の検出状況：6本の掘立柱と1本の置き柱からなる正方形の高床の倉庫だろう。1本の置き柱は東角の柱HP-8だが、東辺には掘立柱の間柱HP-5があり、さらに中央の差し込みの補助柱HP-4が配置されているので、構造上は成り立っている。外部のSP-1111か1112が階段施設の柱であろう。

付属遺構：不明。集落のある時期の共同倉庫か。

周辺遺構との関係：周辺は建物やSPの希薄地帯で、最も近い家屋は南西10.5mにあるUHD-41である。

#### UH-47

位置：T・U-25・26区

軸方向：N-66° - W

規模：3.9×(推定3.7)m

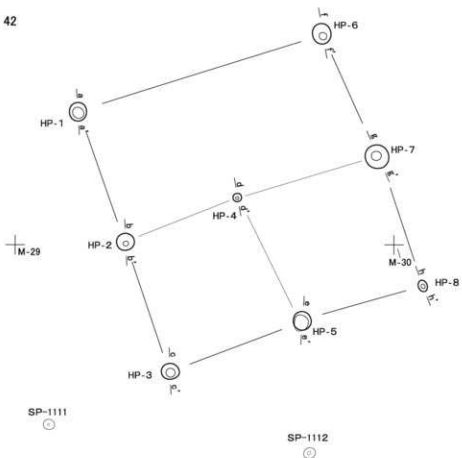
柱間数：2×(推定2)

確認柱穴数 主：6

柱穴の検出状況：9本柱の正方形大型倉庫とみられる。南東側は調査区外で未調査。6本の掘り差し柱・差し込み柱が整然と並んでいる。2本には脇からの補強差し込み杭跡も見られる。SPの並びから調査中に認定した建物である。



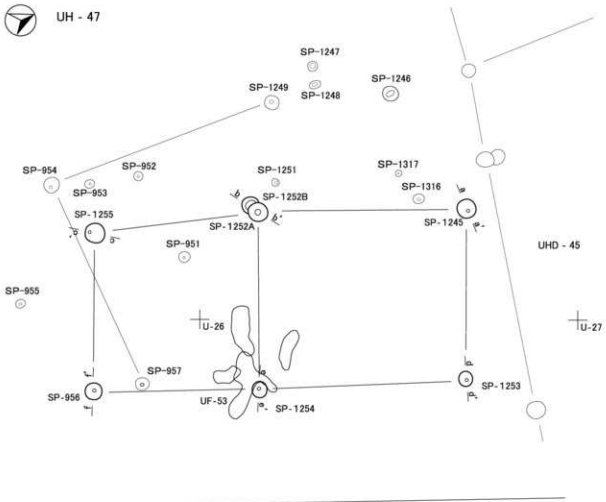




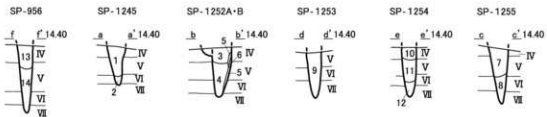
区画番号	断面番号	断面名称	主体種	所在種	種別	開口部コンクリート基礎(開口部)				開口部コンクリート基礎(開口部)		そのほかの基礎		備	考	
						野上土台	中央コンクリート基礎	基礎性	基礎性	種類	断面	種類	所在種			
UH-42	1	HP-1 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		
	2	HP-1 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		
	3	HP-2 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		
	4	HP-2 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		
	5	HP-3 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		
	6	HP-3 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		
	7	HP-4 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		
	8	HP-4 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		
	9	HP-5 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		
	10	HP-5 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		
	11	HP-6 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		
	12	HP-6 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		
	13	HP-7 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		
	14	HP-7 橋上	鉄骨	石橋	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎	基礎		



図IV-80 UH - 42



調査区外



遺構番号	調査区番号	層位名称	主体層	深出層	層別	地質・地中環境調査結果				種類	遺構形状	その別の調査結果		備考		
						野外土質	発見の物品	地中電位	地中電阻			種類	所在層			
UH-47	1	SP-1249層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	
	2	SP-1249層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	
	3	SP-1249層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	
	4	SP-1249層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	
	5	SP-1249層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	
	6	SP-1249層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	
	7	SP-1249層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	
	8	SP-1249層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	
	9	SP-1249層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	
	10	SP-1249層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	
	11	SP-1249層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	
	12	SP-1249層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	
	13	SP-1249層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	
	14	SP-956層	遺構	土層	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	



図IV-81 UH-47

**付属遺構：**調査範囲外にある家屋に所属するものとみられる。中央部に重なって炭化物を広く伴う焼土UF-53がある。地鎮のような意味のある焼土であろうか

**周辺遺構との関係：**UHD-45とはほぼ接しており、共存はしない。北西4mのUHD-46とも規模が不釣り合いで軸方向もずれており共存はしないだろう。

#### UH-51

**位置：**P・Q-31・32区

**軸方向：**N-50°-E

**規模：**4.2×2.6m

**柱間数：**3×1

**確認柱穴数 主：8 壁列補助：4 内部付属：断定不能 外部付属：2+多数**

**柱穴の検出状況：**掘立柱8本が主柱の長方形建物。やや大きめの倉庫機能の建物であろう。4本の補助柱のうち2本は掘立柱、他のSPは差し込み柱である。南西短辺の外のSP-1368・1370で入口様の張り出しが設けられているものとみられる。

**出土遺物等：**棒状の鉄製品が1点出土。

**付属遺構：**南5mのUHD-43か東7mのUHD-53、どちらかの所属であろう。

**周辺遺構との関係：**周辺は建物とSPの密集地である。東はUHD-50と重複、北西3mにはUHD-52があり、この両者とは共存しない。

#### UH-54

**位置：**O・P-33・34区

**軸方向：**N-87°-E

**規模：**3.1×2.7m

**柱間数：**2×1

**確認柱穴数 主：6**

**柱穴の検出状況：**6本の掘立柱・掘り差し柱で構築された方形の高床の倉庫だろう。SPの組み合わせで調査中認定した。他に周辺にはSPもない。

**付属遺構：**北6.5mのUHD-56、南4.5mのUHD-52が近くの家屋で、軸方向でも無理はない。どちらも小家屋のため所属倉庫としては大きい、どちらかの所属になるとと思われる。

**周辺遺構との関係：**西2mにUA-17、東4mにUA-19と、東西を大規模な送り場に挟まれている。共存は不明。

#### UH-57

**位置：**N・O-39区

**軸方向：**N-20°-W

**規模：**1.6×1.35m

**柱間数：**1×1

**確認柱穴数 主：4 外部付属：2**

**柱穴の検出状況：**小型の掘立柱4本で構築された、熊檻のような正方形の小規模建物。SP4本からなり、調査後図上で認定した。2本の外部SPは階段施設の杭であろう。周辺に他のSPはない。

**付属遺構：**付属家屋が想定できない。

**周辺遺構との関係：**近い家屋は擦文期の竪穴UHP-17で東約5mにある。

#### UH-58

**位置：**O-43・44、P-44区

**軸方向：**N-59°-E

**規模：**1.0×0.8m

**柱間数：**1×1

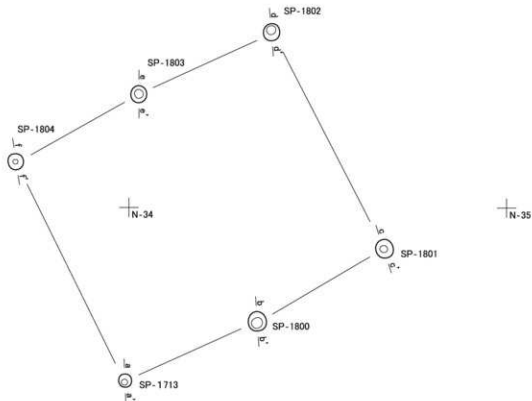
**確認柱穴数 主：4 外部付属：4**

**柱穴の検出状況：**小さい方は4本の差し込み柱で構成される、熊檻のような正方形の小規模建物。大きい方は差し込み柱1本と小型の掘立柱3本からなり、前者の建物を取り囲むようにある長方形建築。ともにSPとしていたものから調査後図上で認定した。前者が主で後者が補強の役割で斜め方向に立





UH - 54



SP-1713



SP-1800



SP-1801



SP-1802



SP-1803



SP-1804



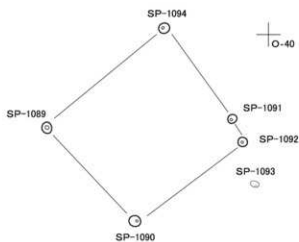
調査 番号	観測 点 番号	観測名称	主体部	所在部	部材	観測ポイントの位置(2005年度)				測り高値(2005年度)		その他の観測値			
						野外 土性	野面 土性	マンセル 色名	鉛垂性 角度	照度	照度	観測 回数	所在部	備 考	
UH-54	1	SP-1800 観測	地盤	円盤	鉄板	野面土	野面土	照度	照度	10000/1	照	照	20	—	—
	2	SP-1803 観測	地盤	円盤	鉄板	野面土	野面土	照度	照度	10000/1	照	照	20	—	—
	3	SP-1801 観測	地盤	円盤	鉄板	野面土	野面土	照度	照度	10000/1	照	照	20	—	—
	4	SP-1802 観測	地盤	円盤	鉄板	野面土	野面土	照度	照度	10000/1	照	照	20	—	—
	5	SP-1804 観測	地盤	円盤	鉄板	野面土	野面土	照度	照度	10000/1	照	照	20	—	—
	6	SP-1713 観測	地盤	円盤	鉄板	野面土	野面土	照度	照度	10000/1	照	照	20	—	—



図IV-83 UH - 54



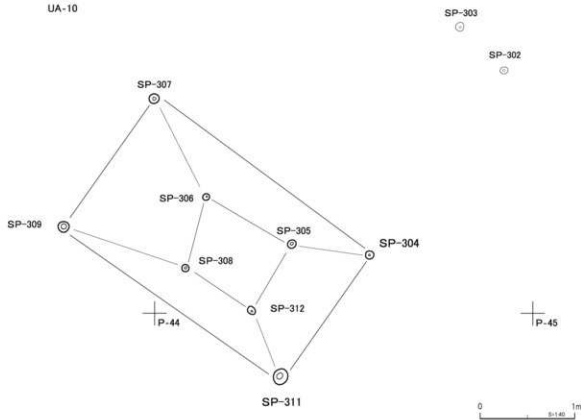
UH - 57



UH - 58



UA-10



図IV - 84 UH - 57・58

てた柱との見方が妥当かもしれない。

付属遺構：北東2.5mのUHD-21に所属すると思われる。

周辺遺構との関係：同じくUHD-21に所属するとみられる倉庫UH-32は南西6mにある。

UH-59

位置：L-47区

軸方向：N-79°-W

規模：1.0×0.95m または 2.3×1.55m

柱間数：1×1 または 1×1の入れ子

確認柱穴数 主：4 内部付属：4

柱穴の検出状況：4本の差し込み柱で構成される、熊檻のような正方形の小規模建物。SPとしていたものから調査後図上で認定した。

付属遺構：北北西4mのUHD-14に所属する。

周辺遺構との関係：同じくUHD-14に所属する倉庫UH-18は南西2mにある。

UH-61

位置：P・Q-28・29区

軸方向：N-62°-E

規模：2.6×2.0m

柱間数：2×1

確認柱穴数 主：5 壁列補助：1 外部付属：3

柱穴の検出状況：太い掘立柱5本で構築された方形の高床の倉庫だろう。北辺列外のSP-1273はさらに大きな掘立柱で、別の構築物の柱の可能性もある。外東側のSP-1274・1280は階段施設の柱とみられる。SPとしていたものから調査後図上で認定した。

付属遺構：南東4mにあるUHD-44の所属倉庫であろう。

周辺遺構との関係：倉庫様の建物となりそうなSPの配置が、周辺には多数みられる。

UH-62

位置：I・J-23区

軸方向：N-18°-E

規模：1.4×1.2m

柱間数：1×1

確認柱穴数 主：4

柱穴の検出状況：4本の差し込み柱で構成される、熊檻のような正方形の小規模建物。SPとしていたものから調査後図上で認定した。

付属遺構：北5.5mのUHD-28か北東8mのUHD-41に所属するのであろう。

周辺遺構との関係：西側に小規模送り場UA-6と鍾石66点の集積US-8がある。所属するUHDに由来するものであろう。その西側は建物やSPのない空白平坦地である。

UH-63

位置：M-15・16、N-15区

軸方向：N-16°-W

規模：2.3×2.5m

柱間数：1×1

確認柱穴数 主：4 外部付属：5

柱穴の検出状況：平成18年度報告の柱33本を整理し、UHD-1・UH-63・杭列とその他に分離。4本の主柱で構成された正方形の高床倉庫と認定した。外のHSPは補助柱とみられ、HSP-35は階段施設の杭であろう。

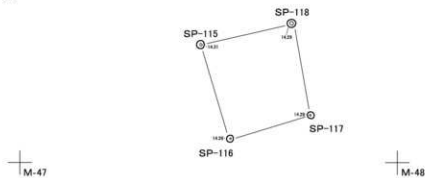
付属遺構：UHD-1に所属するものである。

(三浦)

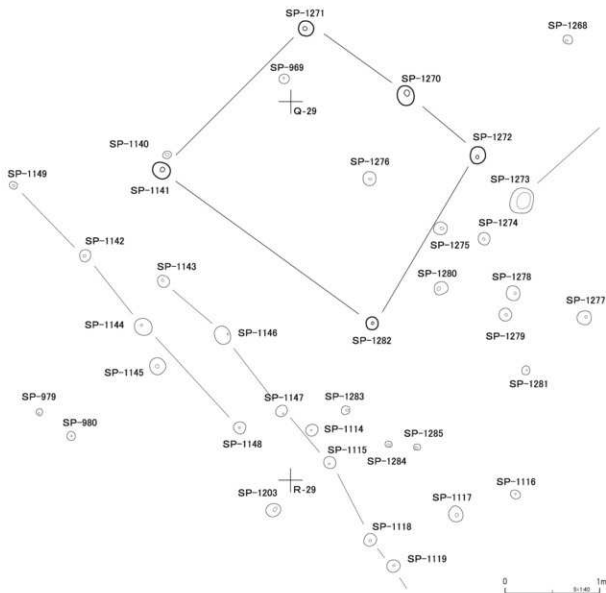




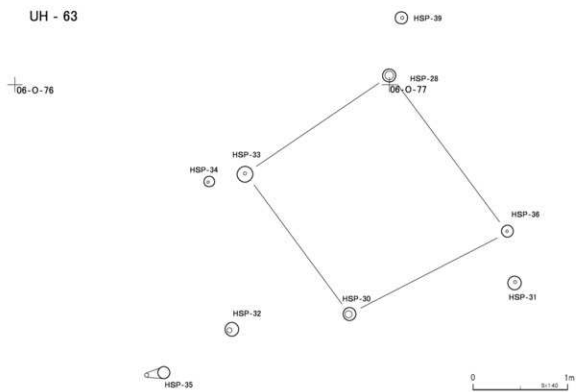
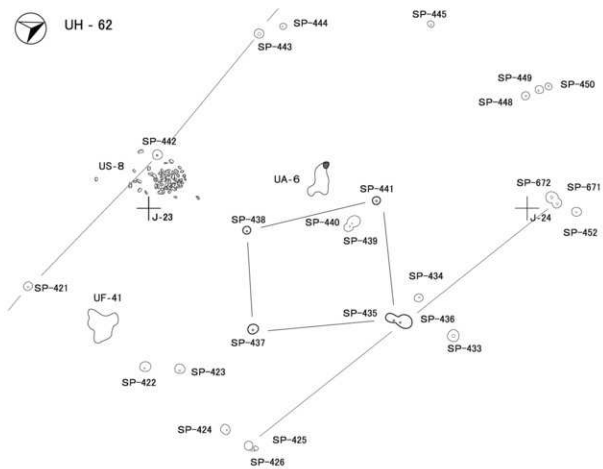
UH - 59



UH - 61



図IV-85 UH - 59・61



图IV-86 UH-62·63

## 3. 墓坑 (図IV-87 表IV-6 図版17)

GP-1

位置 G・H-25区

規模 1.30×0.22 / 1.20×0.24 / 0.07 m 平面形態 長楕円形

**確認・調査** V層調査中、青磁の皿が出土した。周辺を精査したところ、黒褐色土がみられ、青磁皿にかかるようトレンチを設け掘り下げたところ、坑底面と壁の立ち上がりを確認し遺構と判断した。他に小刀や漆塗碗（塗膜）も出土し墓坑と考える。人骨やこれが土壌化した白色土はみられなかったが、副葬品の位置から、頭部は南東方向と推測する。

**埋土** 埋土は1層で、Ⅲ・V層主体の黒褐色土である。

**底面・壁** 底面は概して平坦で北西側が若干低く、壁はやや開口気味に立ち上がる。

**遺物出土状況** 埋土から同安室系の青磁皿、小刀、漆塗碗が出土した。

**時期** 出土遺物から擦文文化期終末～アイヌ文化期と考える。 (広田)

## 4. 土坑 (図IV-87 表IV-6)

UP-4

位置 R・S-38・39区

規模 1.32×1.00 / 0.81×0.47 / 0.25 m 平面形態 楕円形

**確認・調査** III層調査中、II層の堆積がみられ、これを除去しトレンチを掘り下げて断面を確認し、土坑と判断した。

**覆土** 覆土はIII層主体の黒色土で、二つに細分した。

**底面・壁** 底面には段がみられ2か所に分かれ、壁は曲線的な立ち上がりである。

**遺物出土状況** 遺物は出土していない。

**時期** 層位や周辺の遺構等からアイヌ文化期と推測する。 (広田)

## 5. 灰集中 (図IV-88～97 表IV-7・8 図版17～20)

動かされた「灰」と伴に廃棄されたとみられる焼土・炭化物・動物遺存体・遺物などの集合17か所を、「送り場」としてUAを付しここで扱う。大小さまざまで、所属家屋がある程度推定できるものもある。大型のものは現代の耕作で掘削攪乱されているものが多い。UA-21を除くほとんどの灰や焼土から、獣魚骨・カワシンジュガイ殻・クルミやコナラの堅果殻・ヒエ属やブドウ属の炭化種子が検出されている。

UA-5

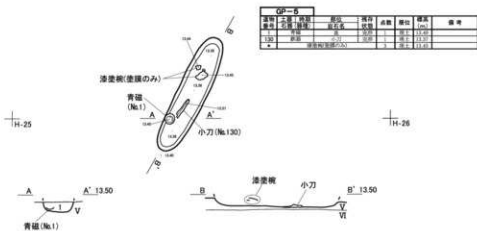
位置 F-25・26区

軸方向：N-0°-W

規模：主要部 3.06×1.37m

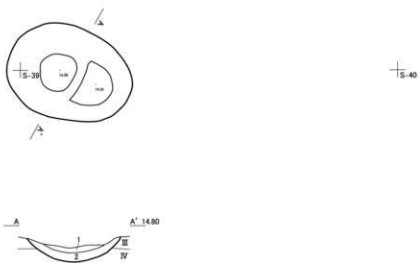
**遺構概要**：厚い灰層と炭化物集中・焼土からなる大規模な送り場である。主体は広範囲の灰層であるが、小規模の炭化物集中がこの灰層の上下や周囲に数多く置かれている。さらにその周辺に小規模焼土が置かれた状況である。また、部分的な魚骨集中もあり、灰層や炭化物集中には骨片・炭化物・カワシンジュガイの貝殻の点在が顕著である。炭化コメ2粒も検出されている。同定されているものに魚骨ではサケ・イトウ・コイ科・サメ鱗板、獣骨ではシカ・クマ・ウサギ・ネズミ、種子等で300粒を超えるヒエ属やブドウ属・スモモ・クルミなどがある。

**出土遺物等**：上記自然遺物のほか、灰層や周囲の3か所で、完成の鍍小札8枚が出土した。そのうち



GP-1						
品名	材質	形状	数量	単位	備考	
漆塗機	土	漆塗機	1	個		
小刀	土	小刀	1	個		
青磁	土	青磁	1	個		
* 遺物(No.1)						

遺物番号	出土層	層位名称	主体層	所在層	層別	野村工務 土質				野村工務 土質		野村工務 土質		備考
						野村工務 土質	野村工務 土質	野村工務 土質	野村工務 土質	野村工務 土質	野村工務 土質	野村工務 土質	野村工務 土質	
GP-1	1	層位1層	第V層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	



遺物番号	出土層	層位名称	主体層	所在層	層別	野村工務 土質				野村工務 土質		野村工務 土質		備考
						野村工務 土質	野村工務 土質	野村工務 土質	野村工務 土質	野村工務 土質	野村工務 土質	野村工務 土質	野村工務 土質	
GP-4	1	層位1層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	
	2	層位2層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	第IV層	



図IV-87 GP-1・UP-4

1か所では5枚が並べられた状態であった。

**周辺遺構との関係**：最も近い家屋はUHD-28であるが、出土品の小札と同じ小札の集中的な出土状況やその集中区の分布（遺物の小札の項参照）から、その元となるであろうUHD-41（南東12m）との関係が深いと考えられる。小札集中区ABCとUS-5でUHD-41を取り囲むような位置関係となっている。

#### UA-6

**位置**：I・J-23区

**軸方向**：N-65° -W

**規模**：主要部 0,40×0,18m

**遺構概要**：小規模な灰の集積と少量置かれた焼土からなる小規模な送り場。灰の周辺にはサケやニジンの骨片やカワシンジュガイや巻貝の殻・クルミ堅果殻片がみられた。

**出土遺物等**：上記自然遺物のほか、灰の1m南で鎌の刃部片が出土した。

**周辺遺構との関係**：南東に隣接してUH-62がある。これが所属するとみられるUHD-28か41に由来する送り場であろう。

#### UA-7

**位置**：L-22区

**軸方向**：N-36° -W

**規模**：主要部 0,86×0,53m

**遺構概要**：微小炭化物が散在するⅢ層の方形範囲の上に灰が置かれている。灰の端には焼土も置かれている。部分的には炭化物片やカワシンジュガイの貝殻もある。

**出土遺物等**：上記自然遺物のほか、焼土の上部に薄板状の鉄製品があった。H-34区などに分布していた鋸留板物甲の破片とみられる。

**周辺遺構との関係**：UA-8ともども南4mにあるUHD-37に所属する送り場であろう。

#### UA-8

**位置**：M-22区

**軸方向**：N-82° -W

**規模**：主要部 0,87×0,81m

**遺構概要**：微小炭化物が散在するⅢ層の円形範囲の上に主に灰が、部分的に獣魚骨片集中がみられ、骨片やカワシンジュガイの貝殻もある。灰の上には炭化材が残されている。

**出土遺物等**：上記自然遺物のほか、灰層から小鉄片や漆膜片が検出されている。

**周辺遺構との関係**：UA-7ともども南2mにあるUHD-37に所属する送り場であろう。

#### UA-9

**位置**：N・O-22区

**軸方向**：N-43° -W

**規模**：範囲 3,27×1,45m

**遺構概要**：北西-南東に長い、微小炭化物が散在するⅢ層の範囲の上に、灰・焼土・炭化物集中が接するように数か所ずつまとまって置かれている。獣魚骨片も検出された。

**出土遺物等**：灰層から鉄製針が1点出土している。カワシンジュガイの貝殻は全体に分布している。

**周辺遺構との関係**：UH-39の東隅に半分以上かかるが、無関係と思われる。周囲の家屋UHD-25・26・36・37・40 いずれかに所属する送り場であろう。

#### UA-10

**位置**：O-44区

**軸方向**：N-61° -W

**規模**：推定 4,5×(3,3) m

**遺構概要**：小規模な薄い灰の集積である。灰には部分的に骨片や炭化物が含まれている。



F-26



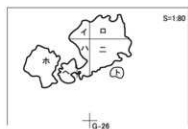
残土



残土



G-26



フローテーション採取分布図



遺構 番号	経緯 座標	層位 名称	層厚	砂・粘土・シルト(長径200未満)				礫(長径200以上)		その他の埋作物		備 考
				野外 含率	全体的含率	粘着性	堅密度	種類	割合 %	種類	現在量	
UA-5	1	底層	*	*	灰質 100%	*	*	*	*	炭化物	*	両層に炭化物が認めらる
	2	底層	*	*	灰質 100%	*	*	*	*		*	
	3	炭化物層	*	*	*	*	*	*	*		*	

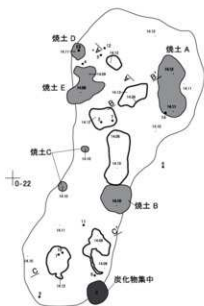


図IV-88 UA-5(1)









遺構 番号	形状 (縦横)	時期	層位	構造	埋蔵 状態	埋蔵 深さ	埋蔵 位置	備考
1	坑土	---	---	---	---	15.12	中央部	1510
2	坑土	---	---	---	---	15.14	中央部	炭化物集中
3	坑土	---	---	---	---	15.12	中央部	---
4	坑土	---	---	---	---	15.12	中央部	---
5	坑土	---	---	---	---	15.12	中央部	---
6	坑土	---	---	---	---	15.12	中央部	---
7	坑土	---	---	---	---	15.12	中央部	---
8	坑土	---	---	---	---	15.12	中央部	---
9	坑土	---	---	---	---	15.12	中央部	---
10	坑土	---	---	---	---	15.14	中央部	---
11	坑土	---	---	---	---	15.11	中央部	---
12	坑土	---	---	---	---	15.12	中央部	---
13	坑土	---	---	---	---	15.12	中央部	---
14	坑土	---	---	---	---	15.11	中央部	---
15	坑土	---	---	---	---	15.12	中央部	---
16	坑土	---	---	---	---	15.11	中央部	---
---	炭化物集中	---	---	---	---	---	中央部	---



遺構 番号	形状 番号	層位 名称	時期	埋(長)1m以下(長径2m未満)			埋(長)2m以上		【その他】所在層		備考		
				形状 番号	埋蔵 深さ	埋蔵 位置	形状 番号	埋蔵 深さ	形状 番号	埋蔵 位置			
UA-9	1	坑土	---	全体形不定	円形	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置		
												色名	埋蔵深さ
	2	坑土	---	---	円形	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置
	3	坑土	---	---	円形	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置		
	4	坑土	---	---	円形	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置		
	5	坑土	---	---	円形	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置		
	6	坑土	---	---	円形	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置		
	7	坑土	---	---	円形	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置		



G-44



遺構 番号	形状 番号	層位 名称	時期	埋(長)1m以下(長径2m未満)			埋(長)2m以上		【その他】所在層		備考
				形状 番号	埋蔵 深さ	埋蔵 位置	形状 番号	埋蔵 深さ	形状 番号	埋蔵 位置	
UA-10	1	坑土	---	円形	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置	埋蔵深さ	埋蔵位置	



図IV-91 UA-9・10

**出土遺物等**：自然遺物だけで、製品等はない。

**周辺遺構との関係**：最も近い家屋は東5.5mのUHD-21で、これに所属するものと思われる。北隣にはUF-47がある。

UA-11

**位置**：Q-26区

**軸方向**：N-40°-W

**規模**：範囲 0.19×0.14m

**遺構概要**：一塊の灰が置かれただけの微小な遺構である。カワシンジュガイの貝殻が1点併存している。

**出土遺物等**：自然遺物だけで、製品等はない。

**周辺遺構との関係**：最も近い家屋は東6mのUHD-46で、これに所属するものと思われる。

UA-12

**位置**：E-27・28、F-27区

**軸方向**：N-41°-W

**規模**：推定 1.74×(0.85)m

**遺構概要**：現代の耕作畝間で大きく掘削攪乱されているが、灰の点在が確認できた。ほぼ東西に入る幅90cmの畝間に分断されて2列になっているが、中規模の送り場と考え、範囲を推定した。カワシンジュガイの貝殻も点在する。

**出土遺物等**：自然遺物だけで、製品等はない。

**周辺遺構との関係**：北東9mにUA-13、南8mにUA-5、南西4mにUF-39・42が存在する。

周辺には建物やSPが無く、UA-13同様UHD-41あたりの時期のコタンに対応する送り場であろう。

UA-13

**位置**：G-29区

**軸方向**：N-0°-W

**規模**：推定 (1.85)×(1.55)m

**遺構概要**：現代の耕作畝間で大きく掘削攪乱されているが、灰の広がりや焼土の点在が確認できた。ほぼ東西に入る幅50cmの畝間に分断されて灰部分と焼土列になっている。灰と焼土が別置きされた中規模の送り場と考え、範囲を推定した。灰には部分的にシカ・クマなど骨片やカワシンジュガイやホタテの貝殻・炭化物が含まれている。

**出土遺物等**：自然遺物だけで、製品等はない。

**周辺遺構との関係**：UHD-41とは小札集中区C（遺物の小札の項 参照）を挟んで、北東約12mの距離にある。南西9mにはUA-12が存在する。UA-12ともどもUHD-41あたりの時期のコタンに対応する送り場ではあるまいか。

UA-14

**位置**：J-26、K-26・27区

**軸方向**：N-32°-E

**規模**：主要部 推定 (1.80)×(1.55)m

**遺構概要**：現代の耕作畝間で大きく掘削攪乱されているが、厚めの灰の広がりが残っていた。ほぼ東西に入る幅80cmの畝間に分断されて2列にみられることから、中規模の送り場と考え、範囲を推定した。灰には部分的にシカやサケ骨片やカワシンジュガイの貝殻・炭化物が含まれているほか、下記の各種遺物が物送りされていた。

**出土遺物等**：灰を取り上げ水洗したところ、元豊通寶・銅製の鉾・鉄製針・小鉄片・ガラス玉が検出された。



↑ Q-28

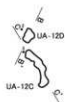
UA-11							
遺構	土層	時期	形状	積層	点別	高さ	備考
1	表層	前期	長方形	初期	表層	1.10m	—
2	中層	前期	長方形	初期	表層	1.10m	—



遺構番号	土層	時期	形状	積層	砂-粘シルト(長径2m未満)			礫(長径2cm以上)		その他の遺存物		備考						
					野外土性	色名	サンピロ比色法	粘着性	堅固度	種類	含有率%		種類	存在量				
UA-11	1	前期	*	*	表層(10%)	黄褐色	10	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*



UA-12							
遺構	土層	時期	形状	積層	点別	高さ	備考
1	表層	前期	長方形	初期	表層	1.390	—
2	中層	前期	長方形	初期	表層	1.390	—

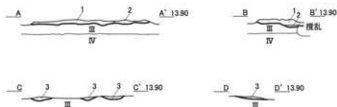


↑ F-28

遺構番号	土層	時期	形状	積層	砂-粘シルト(長径2m未満)			礫(長径2cm以上)		その他の遺存物		備考
					野外土性	色名	サンピロ比色法	粘着性	堅固度	種類	含有率%	
UA-12	1	前期	*	*	表層(10%)	黄褐色	10	*	*	*	*	表層に遺構跡点
UA-12	2	前期	*	*	表層(10%)	黄褐色	10	*	*	*	*	表層に遺構跡点



UA-13							
遺構	土層	時期	形状	積層	点別	高さ	備考
1	表層	前期	長方形	初期	表層	1.390	—
2	中層	前期	長方形	初期	表層	1.390	—
3	表層	前期	長方形	初期	表層	1.390	—
4	中層	前期	長方形	初期	表層	1.390	—



↑ H-30

遺構番号	土層	時期	形状	積層	砂-粘シルト(長径2m未満)			礫(長径2cm以上)		その他の遺存物		備考
					野外土性	色名	サンピロ比色法	粘着性	堅固度	種類	含有率%	
UA-13	1	前期	*	*	表層(10%)	黄褐色	10	*	*	*	*	表層に遺構跡点
UA-13	2	前期	*	*	表層(10%)	黄褐色	10	*	*	*	*	表層に遺構跡点
UA-13	3	前期	*	*	表層(10%)	黄褐色	10	*	*	*	*	表層に遺構跡点

0 1m  
0.140

図IV-92 UA-11・12・13

周辺遺構との関係：UHD-41の東北壁際から内部に重なって存在した。家屋廃棄後儀礼に対応する送り場であろうか。

UA-15

位置：N-31区

軸方向：N-78° -W

規模：範囲 0.74×0.18m

遺構概要：小規模の炭化物集中の上に少量の灰が1か所載っていた。UA-16と似た状況である。

出土遺物等：自然遺物だけで、製品等はない。

周辺遺構との関係：東5mにあるUHD-52に所属するものとみられる。

UA-16

位置：N・O-31区

軸方向：N-70° -E

規模：範囲 0.57×0.21m

遺構概要：小規模の炭化物集中の上に少量の灰が3か所載っていた。灰の上と周囲には獣骨やカワシンジュガイの貝殻も微量だが確認できた。

出土遺物等：自然遺物だけで、製品等はない。

周辺遺構との関係：同じく東2mにあるUHD-52に所属するものとみられる。

UA-17

位置：L・M-33区

軸方向：N-2° -W

規模：推定 (3.4) × (2.2) m

遺構概要：現代の耕作畝間で大きく掘削攪乱されているが、厚めの灰と骨片の混在した土の広がりか3か所残っていた。ほぼ東西に入る幅60cmの畝間に分断されて3列にみられることから、大きな規模の送り場と考え、範囲を推定した。魚骨集中が残っている部分もある。2.5mほど西に小規模な焼土集積もある。

出土遺物等：自然遺物だけで、製品等はない。

周辺遺構との関係：家屋に所属する送り場ではなく、コタンに対応した規模の送り場であろう。UHD-41か53の時期とみられる。

UA-18

位置：K-33区

軸方向：N-81° -W

規模：範囲 0.82×0.26m

遺構概要：ごく小規模な灰の集積。南側は耕作で掘削攪乱を受けている可能性がある。

出土遺物等：出土していない。

周辺遺構との関係：北東5mにあるUHD-56に所属するものとみられる。

UA-19

位置：O-34・35、P-34区

軸方向：N-82° -W

規模：灰 範囲推定 (3.5) × (2.6) m

遺構概要：現代の耕作畝間で大きく掘削攪乱されているが、薄い灰の散らばりが残っていた。ほぼ東西に入る幅1m45cmの畝間に分断されて2列にみられることから、大きな規模の送り場と考え、範囲を推定した。灰には部分的に獣骨集中やカワシンジュガイの貝殻が含まれている。南東～南に離れて焼土の集積もある。

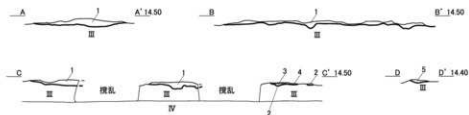
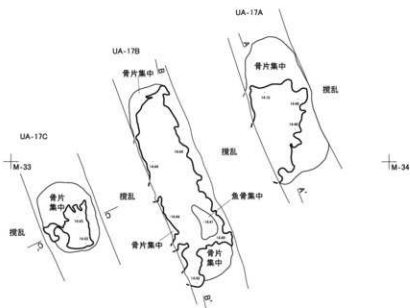
出土遺物等：自然遺物だけで、製品等はない。

周辺遺構との関係：南東8.5mにUHD-53、南10mにUHD-50、このいずれかに所属するか、U





遺構番号	断面図番号	層位名称	層厚	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)		その他の混在物		備考	
				全体の含率		粘着性	堅固度	種類	混在割合%	種類	混在量		
				砂	粘土・シルト								色名
UA-17	1	灰層	*	*	灰白～灰黄	337/1	*	*	*	*	灰層	少量	
	2	灰層	*	*	黄褐色	137/1	*	*	*	*	灰層	少量	
	3	灰層	*	*	黄褐色	337/2	*	*	*	*	骨片	中量	
	4	灰層	*	*	灰白～灰黄	337/1	*	*	*	*	骨片	少量	灰層に混在している
	5	焼土	*	*	黄褐色	137/1	*	*	*	*	---	---	

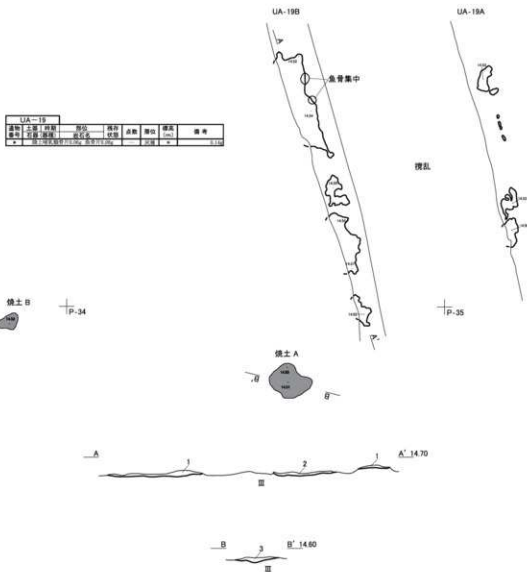


遺構番号	断面図番号	層位名称	層厚	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)		その他の混在物		備考	
				全体の含率		粘着性	堅固度	種類	混在割合%	種類	混在量		
				砂	粘土・シルト								色名
UA-18	1	灰層	*	*	灰白色	337/1	*	*	*	*	灰層	少量	*

↑ M-34



図IV-94 UA-17・18



UA-19							
遺構	土層	時期	形状	構造	用途	規模	備考
1	遺構	前期	長方形	柱礎	住居	約3m	
2	遺構	前期	長方形	柱礎	住居	約3m	
3	遺構	前期	長方形	柱礎	住居	約3m	
4	遺構	前期	長方形	柱礎	住居	約3m	

遺構番号	経過遺構番号	層位名称	種類	砂・粘土・シルト・(層厚20cm未満)				礫(層厚20cm以上)			その他の注目物		備考
				全体の心内容				種類	割合	割合	種類	所在	
			砂の土性	色名	サンセル	腐食度	堅固度	種類	割合	割合	種類	所在	
1	1	遺構	*	*	灰白	○	○	*	*	*	柱礎	遺跡	
2	2	遺構	*	*	灰白	○	○	*	*	*	柱礎	遺跡	
3	3	遺構	*	*	灰白	○	○	*	*	*	柱礎	遺跡	
4	4	遺構	*	*	灰白	○	○	*	*	*	柱礎	遺跡	
UA-19		遺構	*	*	灰白	○	○	*	*	*	柱礎	遺跡	
		遺構	*	*	灰白	○	○	*	*	*	柱礎	遺跡	



図IV-95 UA-19

HD-53の時期あたりのコタンに対応した送り場であろう。

#### UA-20

位置：A；S-39区 B；R-38区 軸方向：A；N-51° -E B；N-58° -W

規模：A；1.99×1.75m B；1.20×0.83m

遺構概要：サケ・ウグイ・コイ科などの魚骨片や炭化物の混在した土の広がりの上層に、灰が載せられて形成されている中型の送り場。約2m離れた東西2か所に分かれ、東のAは骨片・炭化物混合層に灰がやや外寄りに被さる。灰にも微量の骨片・炭化物が混じっている。Bは楕円形の骨片・炭化物混合層の上に少量の灰が置かれている。Aでは灰の上にカワシンジュガイの貝殻が置かれていた。ネズミなどの小獣骨も混在していた。

出土遺物等：A・Bとも自然遺物だけで、製品等はない。

周辺遺構との関係：A・Bの間にUP-4が存在するが、関係は不明。最も近い家屋は南南西10mのUHD-55だが、この家屋との間には幾筋ものSPの直線的配置がみられ、柵列などが存在した可能性がある。南東の調査範囲外に所属する家屋があるかもしれない。

#### UA-21

位置：灰；Q-40区 UHP-17窪み；P・Q-40~42区 軸方向：灰；N-52° -W

規模：灰；推定 (0.58) × (0.43) m 全範囲 6.0×4.3m

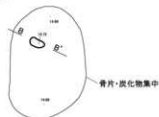
遺構概要：擦文期堅穴UHP-17が埋まってゆき、浅鉢状に窪んだ状態になった時期、送りの対象として灰・焼土・炭化物（燃焼物）と金属製品がこの窪みに置かれ、送り場が形成された。灰の規模は小さく、窪みの南隅付近の窪み肩部に置かれている。焼土は窪み南西辺からやや内側の斜面に3か所に分けておかれており、炭化物は窪み東隅から中央部にかけて広く分布している。灰・焼土・炭化物集中に重なりがないのが特徴である。動植物遺体が含まれない物送り場である。

出土遺物等：送り場に対応する遺物は4点の金属製品である。マキリや板状鉄製品・銅製装具は、灰・焼土・炭化物集中と続く広がりの中、焼土と炭化物集中の間の空間にあり、南東辺からは中央に向かってマキリ・板状鉄製品・銅製装具と検出されている。鍬先の破損品は炭化物範囲の中ほどに置かれていた。

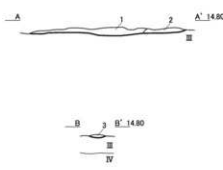
周辺遺構との関係：最も近い家屋は東6mのUHD-22。次は北東11mのUHD-21と南16mのUHD-55。これらのいずれかにまつわるものか。周辺家屋のありかたから、15世紀後半から16世紀中ごろの所産とみられる。

(三浦)





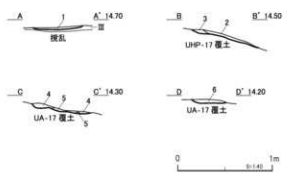
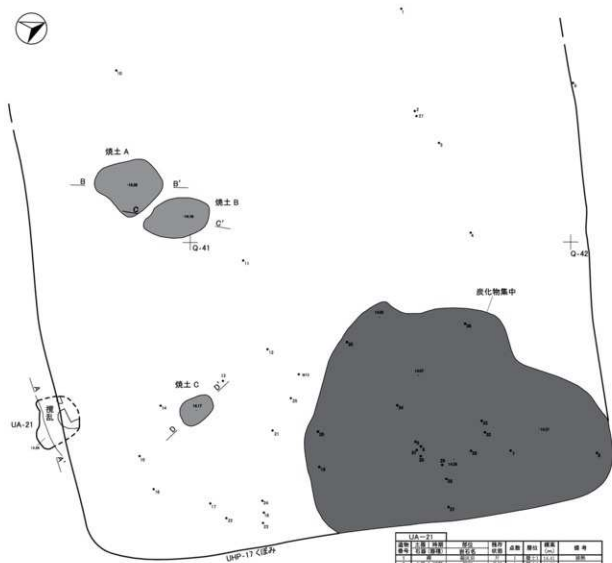
遺物番号		土層	種類	形状	検出位置	単位	高さ	備考
1	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
2	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
3	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
4	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
5	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
6	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
7	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
8	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
9	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
10	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
11	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
12	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
13	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
14	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
15	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
16	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
17	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
18	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
19	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
20	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
21	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
22	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
23	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
24	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
25	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
26	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
27	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
28	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
29	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
30	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
31	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
32	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
33	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
34	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
35	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
36	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
37	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
38	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
39	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
40	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
41	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
42	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
43	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
44	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
45	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
46	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
47	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
48	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
49	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
50	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
51	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
52	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
53	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
54	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
55	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
56	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
57	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
58	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
59	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
60	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
61	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
62	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
63	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
64	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
65	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
66	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
67	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
68	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
69	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
70	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
71	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
72	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
73	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
74	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
75	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
76	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
77	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
78	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
79	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
80	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
81	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
82	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
83	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
84	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
85	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
86	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
87	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
88	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
89	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
90	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
91	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
92	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
93	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
94	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
95	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
96	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
97	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
98	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
99	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	
100	骨	1	骨	骨片	1	1	11.00	



遺構番号	用途	位置	種類	形状・土性		材料		堅固度	構造		その他	備考
				色	質感	種類	高さ					
UA-20	1	北東	壁	赤褐色	粘土質	土	1.5m	1	1	1	1	
	2	北東	壁	赤褐色	粘土質	土	1.5m	1	1	1	1	
	3	北東	壁	赤褐色	粘土質	土	1.5m	1	1	1	1	



図IV-96 UA-20



UA-21										
深さ	層位	種類	色名	粘着性	炭化率	炭粒	炭層	炭層	備考	備考
1	表層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
2	1層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
3	2層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
4	3層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
5	4層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
6	5層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
7	6層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
8	7層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
9	8層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
10	9層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
11	10層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
12	11層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
13	12層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
14	13層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
15	14層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
16	15層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
17	16層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
18	17層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
19	18層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
20	19層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
21	20層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
22	21層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
23	22層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
24	23層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
25	24層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
26	25層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
27	26層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
28	27層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
29	28層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
30	29層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
31	30層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
32	31層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
33	32層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
34	33層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
35	34層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
36	35層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
37	36層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
38	37層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
39	38層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
40	39層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
41	40層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
42	41層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
43	42層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
44	43層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
45	44層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
46	45層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
47	46層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
48	47層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
49	48層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
50	49層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
51	50層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
52	51層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
53	52層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
54	53層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
55	54層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
56	55層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
57	56層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
58	57層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
59	58層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
60	59層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
61	60層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
62	61層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
63	62層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
64	63層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
65	64層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
66	65層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
67	66層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
68	67層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
69	68層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
70	69層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
71	70層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
72	71層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
73	72層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
74	73層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
75	74層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
76	75層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
77	76層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
78	77層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
79	78層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
80	79層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
81	80層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
82	81層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
83	82層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
84	83層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
85	84層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
86	85層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
87	86層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
88	87層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
89	88層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
90	89層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
91	90層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
92	91層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
93	92層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
94	93層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
95	94層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
96	95層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
97	96層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
98	97層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
99	98層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
100	99層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
101	100層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
102	101層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
103	102層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
104	103層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
105	104層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
106	105層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
107	106層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
108	107層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
109	108層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
110	109層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
111	110層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
112	111層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
113	112層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
114	113層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
115	114層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
116	115層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
117	116層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
118	117層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
119	118層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
120	119層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
121	120層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
122	121層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
123	122層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
124	123層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
125	124層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
126	125層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
127	126層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
128	127層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
129	128層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
130	129層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
131	130層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
132	131層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
133	132層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
134	133層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
135	134層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
136	135層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
137	136層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
138	137層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
139	138層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
140	139層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
141	140層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
142	141層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
143	142層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
144	143層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
145	144層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
146	145層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
147	146層	焼土	褐色	粘	0	0	0	0	UA-21	焼土
148	147層	焼土	褐色	粘	0	0	0			

## 6. 焼土 (図IV-103~110 表IV-12)

焼土はUF-15~63の49か所を調査し、これらは表IV-12にまとめた。これらのうち、周囲の柱穴・杭穴の位置関係から住居跡等の遺構に関連すると考えられるものが、UF-31 (UHD-16)、UF-47 (UH-34)、UF-53 (UH-47)、UF-34 (US-7)、UF-44 (長方形の柱穴・杭穴の配置の中央)、UF-41 (UH-62近く、UA-8・US-8) である。 (未光)

## 7. 遺物集中 (図IV-101 表IV-9 図版21)

## (1) 土器集中

III層で3か所確認し、出土範囲を記録し取り上げた。

## UPS-1

位置 H-49区

規模 0.72×0.46 m 0.23×0.17 m 0.13×0.09 m

遺物 VI群の続縄文文化期後半の深鉢1個体を復原した。

## UPS-2

位置 J-45区

規模 (0.36)×0.44 m 0.12×0.09 m

遺物 VII群擦文文化期後期の甕1個体を復原した。

## UPS-3

位置 H-35区

規模 0.70×0.48 m

遺物出土状況 VI群の続縄文時代後半の片口土器1個体を復原した。 (広田)

## (2) フレイク集中 (図IV-101 表IV-9)

## UFC-1

位置 U-32区

規模 0.20×0.16 m

確認・調査 包含層調査中、III層でフレイクがまとまってみられ、範囲を記録し取り上げた。

遺物出土状況 U・Rフレイク5点、フレイク34点が出土した。

時期 出土遺物等から縄文時代晩期と推測する。 (越田)

## (3) 礫集中・方割礫 (図IV-98~100 表IV-10 図版21・22)

## US-5

位置 N-50区

規模 0.73×0.45 m

確認・調査 III層調査中に礫がまとまって出土し、記録し取り上げた。

遺物出土状況 礫20点で、亜円礫状が多く、砂岩、泥岩や火山礫凝灰岩等がみられる。

時期 層位や周辺遺構の時期等からアイヌ文化期と推測する。

## US-6

位置 K・L-46区

規模 0.78×0.21 m 集中部分 0.28×0.21 m

**確認・調査** Ⅲ層調査中に磔のまとまりを確認し、出土状況を記録し取り上げた。

**遺物出土状況** たたき石3点、磔12点で、垂門磔状が多く、安山岩、泥岩、凝灰岩等がある。

**時期** 層位や周辺の遺構の時期等からアイヌ文化期と推測する。

US-7

**位置** H-43区

**規模** 0.91×0.65 m

**確認・調査** Ⅲ層調査中に磔のまとまりを確認し、出土状況等を記録し取り上げた。

**遺物出土状況** 加工痕のある磔1点、磔27点で、垂門磔状が多く、泥岩、砂岩、凝灰岩等である。

**時期** 層位や周辺の遺構の時期等からアイヌ文化期と推測する。

US-8

**位置** I-22・23区

**規模** 1.12×0.54 m **集中部分** 0.51×0.36 m

**確認・調査** Ⅲ層で磔のまとまりがみられ、出土状況を記録し取り上げた。

**遺物出土状況** 使用痕のある磔2点、磔70点が出土した。垂門磔状が多く、泥岩、砂岩、火山礫凝灰岩、片麻岩等がみられる。

**時期** 層位や周辺の遺構の時期等からアイヌ文化期と推測する。

US-9

**位置** R-23区

**規模** 1.65×1.41 m **集中部分** 0.59×0.41 m

**確認・調査** Ⅲ層調査中に磔等のまとまりを確認し、出土状況を記録し取り上げた。

**遺物出土状況** 使用痕のある磔4点、加工痕のある磔1点、磔254点、チャート製のフレイク21点が出土した。垂門磔状が多く、砂岩、泥岩、火山礫凝灰岩がある。さらに磔の下部から鉄製品の鎌、目釘も出土した。

**時期** 層位や周辺の遺構の時期等からアイヌ文化期と推測する。

US-10

**位置** G-20区

**規模** 2.84×2.76 m **集中部分** 0.54×0.44 m

**確認・調査** Ⅲ層調査中に磔のまとまりを確認し、出土状況を記録し取り上げた。

**遺物出土状況** 台石3点、使用痕のある磔1点、磔33点が出土した。垂門磔状が多く、砂岩、泥岩、チャート、安山岩がみられる。

**時期** 層位や周辺の遺構の時期等からアイヌ文化期と推測する。

US-11

**位置** K-20区

**規模** 0.30×0.20 m

**確認・調査** Ⅲ層調査中に磔のまとまりを確認したので、記録し取り上げた。

**遺物出土状況** 磔5点が出土し、垂門磔状で全て片麻岩である。

**時期** 層位や周辺の遺構の時期等からアイヌ文化期と推測する。

US-12

**位置** F-35区

**規模** 0.18×0.11 m



US-5						
遺構 番号	土層・階層 番号	種類	形状 記号名	構造 状態	面積 ㎡	備考
1	1	溝	溝	1	1.00	
2	1	溝	溝	1	1.00	
3	1	溝	溝	1	1.00	
4	1	溝	溝	1	1.00	
5	1	溝	溝	1	1.00	
6	1	溝	溝	1	1.00	
7	1	溝	溝	1	1.00	
8	1	溝	溝	1	1.00	
9	1	溝	溝	1	1.00	
10	1	溝	溝	1	1.00	
11	1	溝	溝	1	1.00	
12	1	溝	溝	1	1.00	
13	1	溝	溝	1	1.00	
14	1	溝	溝	1	1.00	
15	1	溝	溝	1	1.00	
16	1	溝	溝	1	1.00	
17	1	溝	溝	1	1.00	
18	1	溝	溝	1	1.00	
19	1	溝	溝	1	1.00	
20	1	溝	溝	1	1.00	

US-6						
遺構 番号	土層・階層 番号	種類	形状 記号名	構造 状態	面積 ㎡	備考
1	1	溝	溝	1	1.00	
2	1	溝	溝	1	1.00	
3	1	溝	溝	1	1.00	
4	1	溝	溝	1	1.00	
5	1	溝	溝	1	1.00	
6	1	溝	溝	1	1.00	
7	1	溝	溝	1	1.00	
8	1	溝	溝	1	1.00	
9	1	溝	溝	1	1.00	
10	1	溝	溝	1	1.00	
11	1	溝	溝	1	1.00	
12	1	溝	溝	1	1.00	
13	1	溝	溝	1	1.00	
14	1	溝	溝	1	1.00	



US-7						
遺構 番号	土層・階層 番号	種類	形状 記号名	構造 状態	面積 ㎡	備考
1	1	溝	溝	1	1.00	
2	1	溝	溝	1	1.00	
3	1	溝	溝	1	1.00	
4	1	溝	溝	1	1.00	
5	1	溝	溝	1	1.00	
6	1	溝	溝	1	1.00	
7	1	溝	溝	1	1.00	
8	1	溝	溝	1	1.00	
9	1	溝	溝	1	1.00	
10	1	溝	溝	1	1.00	
11	1	溝	溝	1	1.00	
12	1	溝	溝	1	1.00	
13	1	溝	溝	1	1.00	
14	1	溝	溝	1	1.00	
15	1	溝	溝	1	1.00	
16	1	溝	溝	1	1.00	
17	1	溝	溝	1	1.00	
18	1	溝	溝	1	1.00	
19	1	溝	溝	1	1.00	
20	1	溝	溝	1	1.00	
21	1	溝	溝	1	1.00	
22	1	溝	溝	1	1.00	
23	1	溝	溝	1	1.00	
24	1	溝	溝	1	1.00	
25	1	溝	溝	1	1.00	



US-10						
遺構 番号	土層・階層 番号	種類	形状 記号名	構造 状態	面積 ㎡	備考
1	1	溝	溝	1	1.00	
2	1	溝	溝	1	1.00	
3	1	溝	溝	1	1.00	
4	1	溝	溝	1	1.00	
5	1	溝	溝	1	1.00	



US-11						
遺構 番号	土層・階層 番号	種類	形状 記号名	構造 状態	面積 ㎡	備考
1	1	溝	溝	1	1.00	
2	1	溝	溝	1	1.00	
3	1	溝	溝	1	1.00	
4	1	溝	溝	1	1.00	

方割線

0 1m  
1:25

図IV-98 US-5・6・7・11・12・方割線





**確認・調査** Ⅲ層調査中に礫のまとまりを確認し、出土状況を記録し取り上げた。

**遺物出土状況** 礫3点が出土し、垂円礫状で全て片麻岩である。

**時期** 層位や周辺の遺構の時期等からアイヌ文化期と推測する。

US-13

**位置** K・L-26区

**規模** 1.00×0.72 m

**確認・調査** Ⅲ層調査中に礫のまとまりを確認し、出土状況を記録し取り上げた。

**遺物出土状況** 礫52点が出土した。破片が多く、砂岩、泥岩、凝灰岩、火山礫凝灰岩がみられる。

**時期** 層位や周辺の遺構の時期等からアイヌ文化期と推測する。

**方割礫**

**位置** R・S-26区

**規模** 0.98×0.32 m

**確認・調査** Ⅲ層調査中に礫片のまとまりがみられ、出土状況を記録した。

**遺物出土状況** 同一個体と考える礫片21点が出土した。

**時期** 層位や周辺の遺構の時期等からアイヌ文化期と推測する。 (広田)

#### (4) 貝殻集中・骨片集中 (図Ⅳ-101・102 表Ⅳ-9 図版23)

**貝殻集中1**

**位置** L-18・19区

**規模** 2.48×1.90 m **炭化物集中** 0.59×0.48 m

**確認・調査** Ⅲ層調査中、カワシンジュ貝が集中しているのを確認し、出土状況を記録し取り上げた。

**遺物出土状況** カワシンジュガイ、骨片、たつき石1点、礫8点、小札1点が出土した。カワシンジュガイは殻皮のみ残るものが多い。

**時期** 層位や周辺の遺構の時期等からアイヌ文化期と考える。

**骨片集中**

**位置** T・U-33区

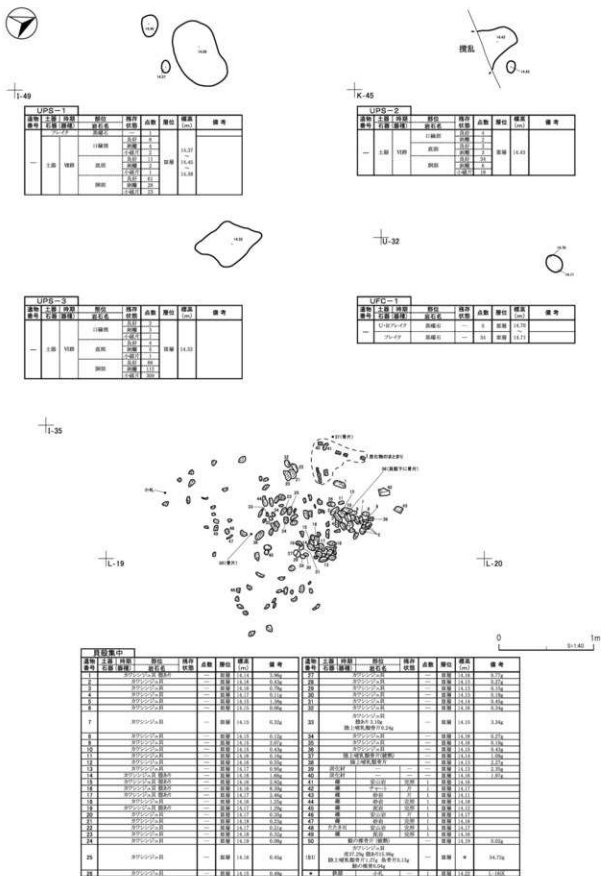
**規模** 1.64×(1.00) m **集中部分** 1.18×(0.69) m

**確認・調査** Ⅲ層調査中に骨片の集中がみられ、範囲を記録し土壌ごと取り上げ水洗浮遊選別を行った。

**遺物出土状況** 骨片、炭化種子、堅果等の微細な自然遺物が出土した。

**時期** 層位や周辺の遺構の時期等からアイヌ文化期と推測する。 (広田)





図IV-101 UPS-1・2・3、UFC-1、貝殻集中

## 8. 烟跡 (図Ⅳ-102 表Ⅳ-11 図版22)

位置 J・K-16・17区

標高 14.4~14.5m

規模 (4.0) × (3.5) m

長軸方向 N-10° -E

**確認・調査** J・K-16・17区において、平成18(2006)年度調査区との境界付近で検出された、緩い直線状の盛り上がりや窪みの連続からなる遺構である。

平成18(2006)年度に調査された道跡UR-1の続きを検出する目的で、H・I-15・16区、J・K-16・17区とその周辺を調査したが、平成18(2006)年度調査区との接線は測量のずれや残土置きなどの関連工事等によって、幅1m前後削取攪乱されていることが分かった。道跡も平成20(2008)年度調査区側からは検出されなかった。

だが、J・K-16・17区で攪乱を挟んで平成18(2006)年度調査区から延びるような方向で上記の凹凸状遺構が数条検出された。ただ、18ライン以北やJライン以西の周辺のI黒層(III層)調査は既に進行してきていて、この遺構の続き・広がりを確認するには至らなかった。

当初は数条の道跡(道の分岐)なども考えたが、周囲のHライン~Mラインにかけての20ラインまではほとんど柱穴・杭穴も検出されず、平坦面が広く残る状況にあることから、この平坦面に緩い凹凸のある状態を想定した。凹凸の高低差は小さいものの、ほぼ規則的な並びから「畝立ての烟跡」と考えたい。5本の畝がかるうじて確認されたと認識する。

図Ⅳ-1を見れば明らかのように、この遺構のある位置から東側7mほどの東から北へは、ほぼ一直線に柱穴・杭穴が皆無か散在の空間が続く。この空間にも烟が広がっていた可能性は高い。柱穴・杭穴の疎密の境界にある杭穴は、烟と居住域を分ける境界杭・柵列となる可能性もある。

また、この烟跡に近い西側の平地住居(チセ)UHD-38に、この遺跡で確認されている唯一の入口小屋(セム)が付随していることも、セムと農作業との密接な関係でみると極めて示唆に富んでいる。

遺跡内にはこのような空間を他にも見付けることができ、烟に利用されていた空間は他にもあったものと推定される。また、この付近の道跡UR-1については、畝間の一部ではなかったかとの指摘もできよう。

**遺物** なし

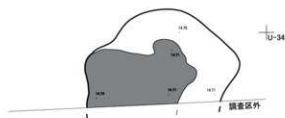
**時期** 千歳市域でのアイヌ文化期の烟跡の発見は、キウス5遺跡に次ぐ例となる。集落と一体化、いわゆるコタン内の烟の発見として重要な位置付けとなろう。(三浦)

## 9. 柱穴・杭穴 (図Ⅳ-103~111 表Ⅳ-14 図版24・25)

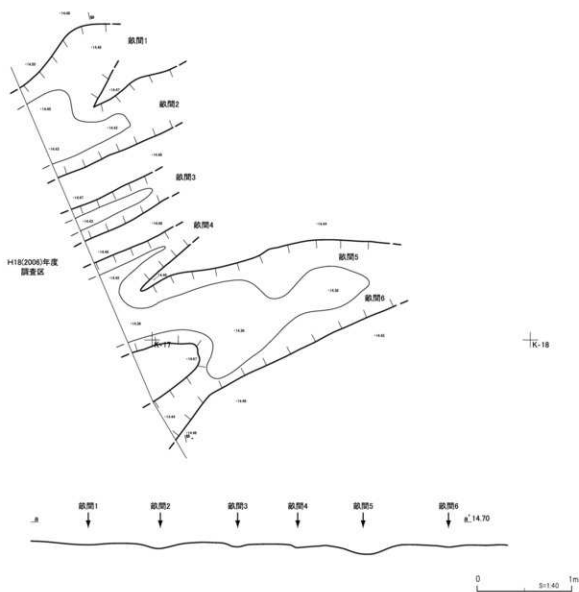
現地調査時点で、平地住居跡(UHD)・建物跡(UH)の構造柱や所属柱と認定せずに検出した柱穴・杭穴がSP-1~1954である。ただ、このNo.を付した後に、調査中や調査後図面上でUHD所属・UH構造および所属を認定した柱穴もある。そのため、SP-1~1954の報告は2.(1)UHDと2.(3)UHにも、それぞれの遺構に構造柱・内外の付属構造として分割して存在する。ただし、整理中の認定や分割であったものは図面上の不備が多く、当項の対応図である図Ⅳ-103~110と、当該遺構図の両者を使って理解していただきたい。また、付属遺構に分割された以外にも、所属不明の柵・柵・杭列などの構造物とみられる図面上の配列も多く、配列を読めない散在した大小の柱穴・杭穴もある。これらをこの項で一括整理しておく。なお、調査はほぼすべてのSPを半截し径と深さ・傾きなどを記録し、断面と掘り上げの写真を撮影した。一部は断面図も作成してある。以下、直線的な配列を主体に、所属や配列が捉えられるSPをその役割ごとにまとめておく。



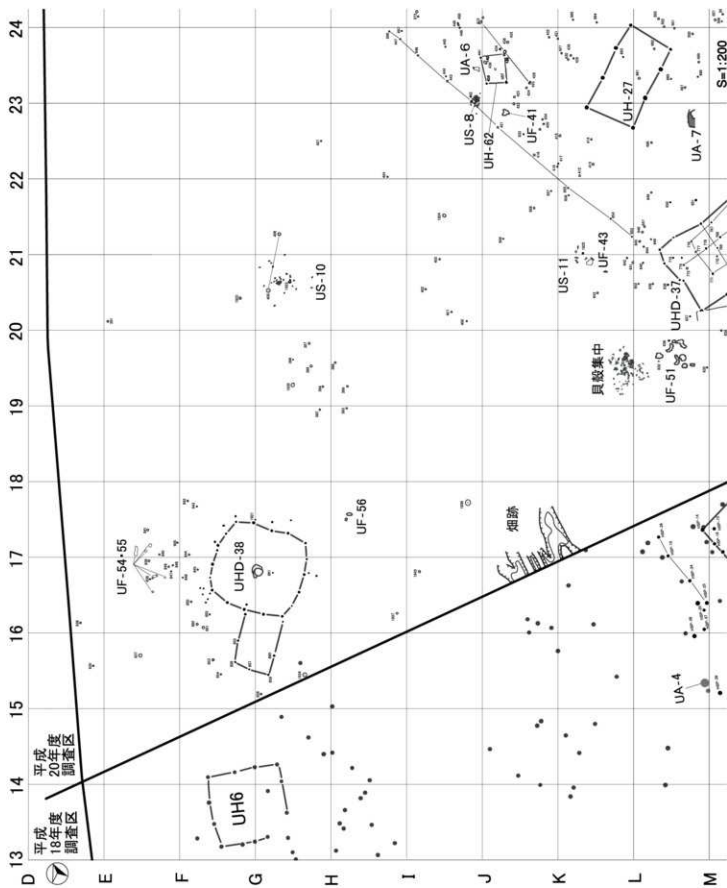
骨片集中



畑跡



図IV-102 骨片集中、畑跡



図IV-103 SP(1)



図IV-104 SP(2)

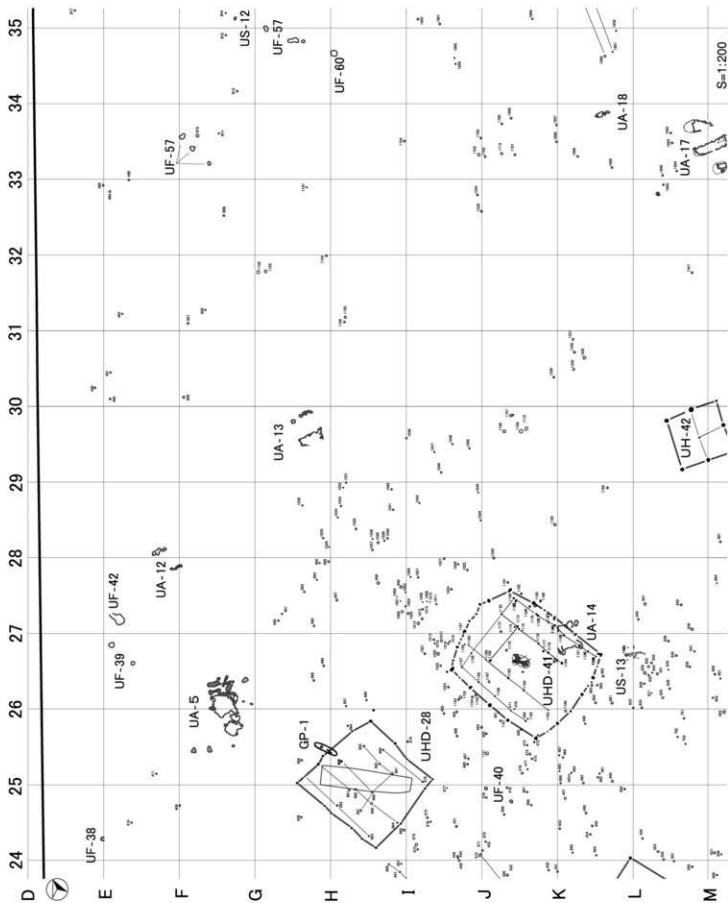
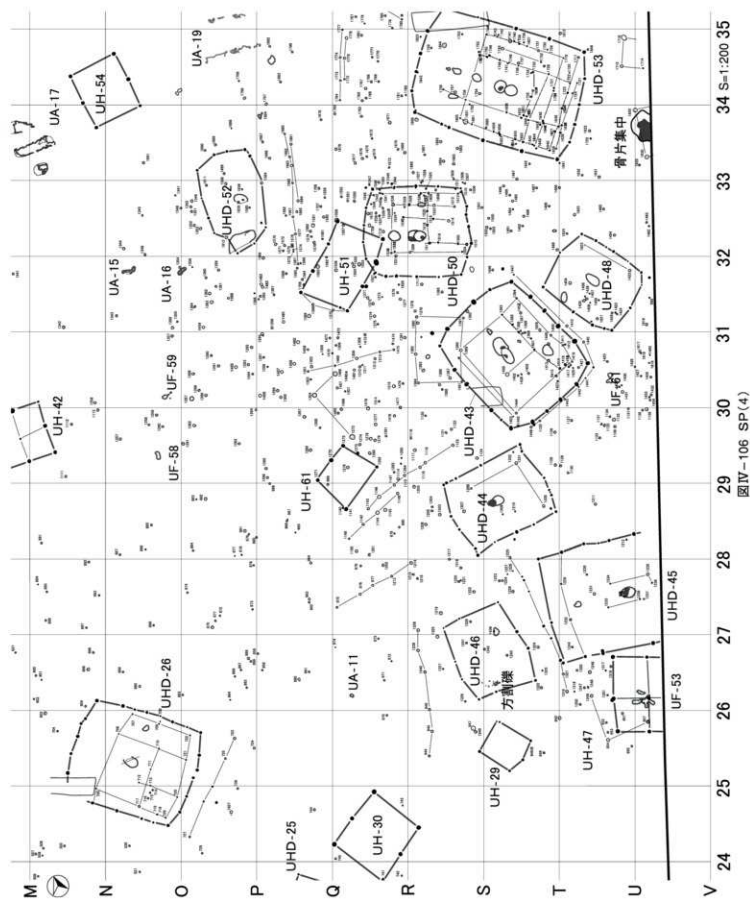
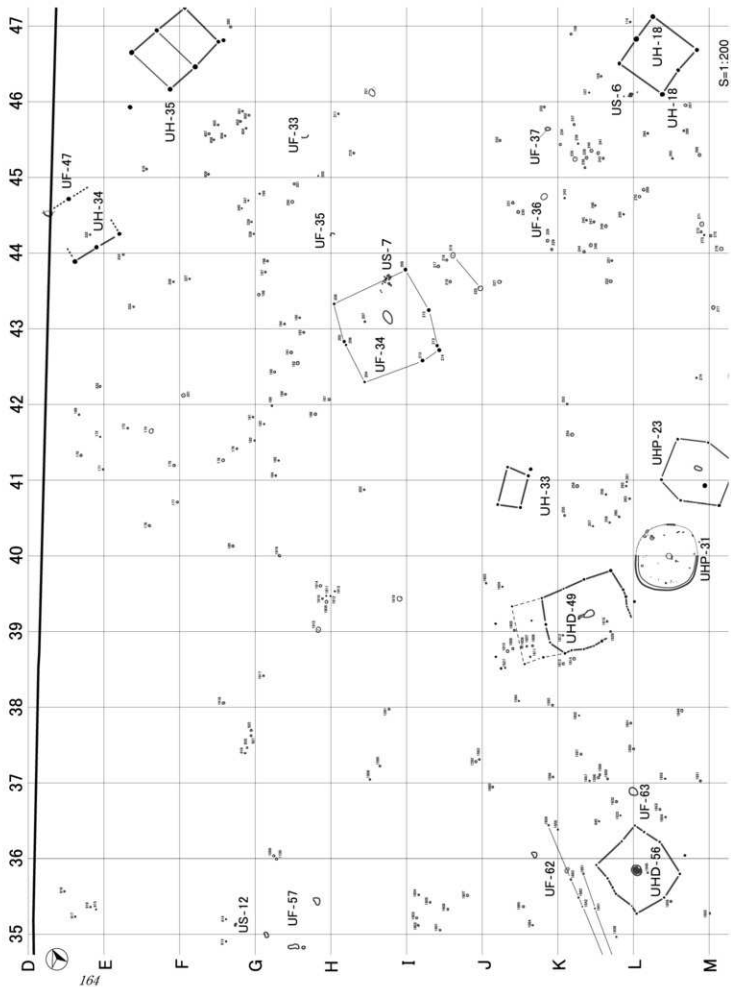


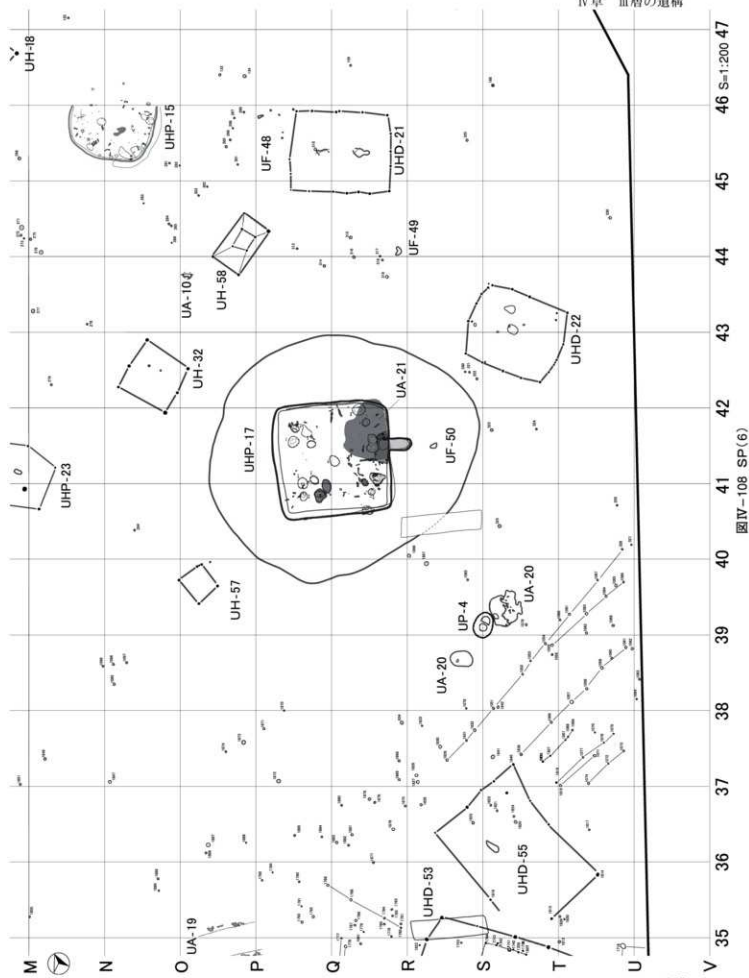
圖 IV-105 SP (3)



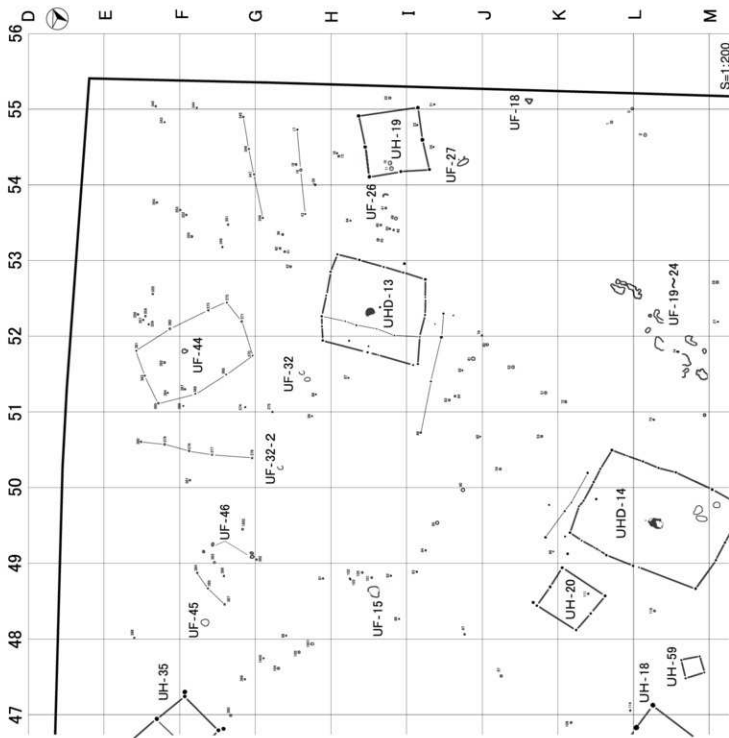


圖IV-107 SP(5)

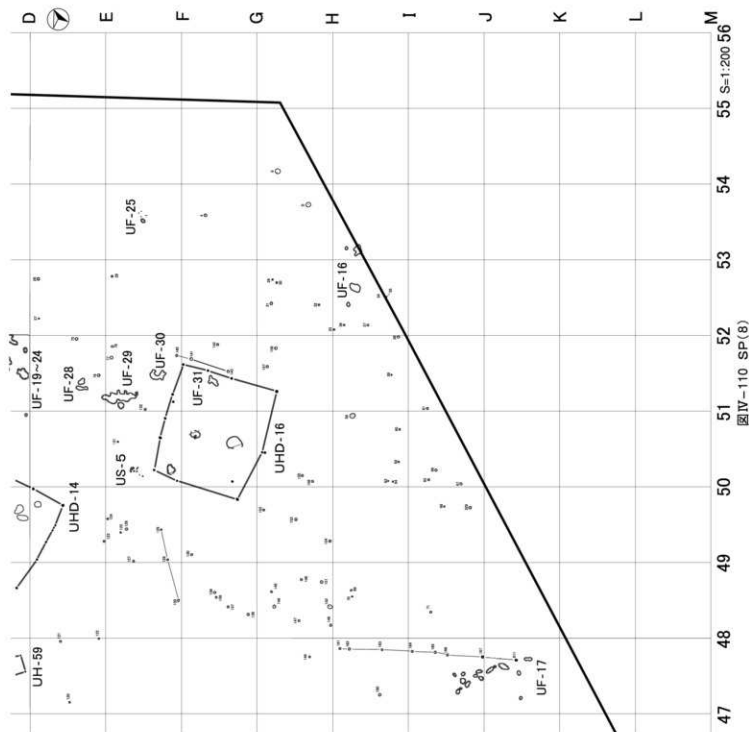




図IV-108 SP(6)



圖IV-109 SP(7)



#### 平地住居（UHD）候補：

- ① H・I-42・43区にあるSP-204～209・212～215で正方形を構成する。南北辺の中間が確認できないが、2×2間の建物を想定できる。内部中央北寄りにUF-34、北辺内部に鍾石25個の集積US-7があり、これを炉と所属遺構とみれば、平地住居跡が成立する可能性が高い。
- ② E・F-51・52区にあるSP-360・361・363・365・368～373で3×2間の長方形建物を想定できる。中央ややはずれに小規模な焼土UF-44があり、これを炉とすれば平地住居跡となる。

#### UHD・UHの構造柱・構造補助柱：

UHD-24にSP-1928、UHD-25にSP-740、UHD-36にSP-786・788・789、UHD-37にSP-632・762、UHD-38の入口小屋にSP-855～857・859・860、UHD-40にSP-588～590・800・810、UHD-41にSP-480・481・1185・1197、UHD-43にSP-1445、UHD-45にSP-1229・1232、UHD-48にSP-1622、UHD-50にSP-1515、UHD-52にSP-1584のほか、1353・1359・1569・1570に構造柱の可能性あり。UHD-53にSP-1641・1666・1843・1846、UHD-55にSP-1840。

UH-19はSP-7～9・12～14・25で構成。UH-20はSP-56・109・110・112・113で構成。UH-32にSP-287・288・291～293・295、UH-33にSP-222～226、UH-39にSP-550・555・556、UH-47はSP-956・1245・1252～1255で構成。UH-51にSP-1558・1563・1706、UH-54はSP-1713・1800～1804で構成。UH-57はSP-1089～1091・1094で構成。UH-58はSP-305・306・308・312で構成。UH-59はSP-115～118で構成。UH-61はSP-1140・1141・1270～1272・1282で構成。UH-62はSP-435・437・438・441で構成。

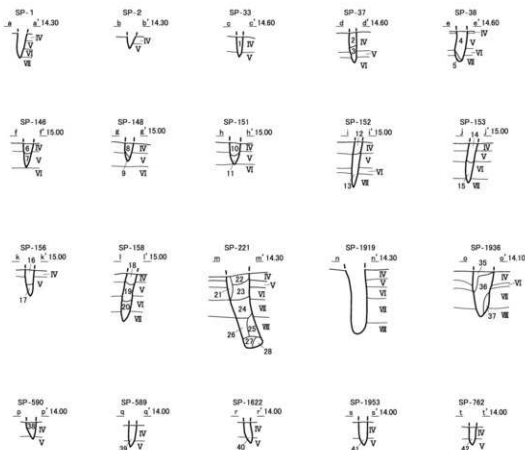
#### UHD・UHの内部構造：

明瞭な床構造と捉えられるものに、UHD-26のSP-705～722・729、UHD-41のSP-469～471・1156～1160・1162～1180・1183・1184・1187～1192・1194・1199、UH-53の1634～1640・1643～1661・1717～1724・1726～1734・1736～1759・1805・1807・1845がある。炉を囲む構造が認められるものに、UHD-28のSP-678・680～683・685・687～694、UHD-36のSP-782・783・791～799・801～809、UHD-37の763～778、UHD-45のSP-1230・1231・1233～1238、UHD-50の1504・1505・1510～1514・1516～1520・1522～1525・1528～1543・1548・1549・1589・1709・1710・1810がある。

他に内部構造を担うとみられるものに、UHD-21のSP-310、UHD-25のSP-746～751、UHD-40のSP-579～587、UHD-44のSP-1207～1210・1310～1332、UHD-46のSP-1241～1243・1233～1238、UHD-48のSP-1404～1409・1422・1423・1435・1436・1621・1623、UH-49のSP-1612・1615・1628、UHD-52のSP-1499・1585・1586・1811・1812・1835・1836、UHD-55のSP-1820～1822・1824・1825、UHD-56のSP-1948、UH-27のSP-661～663、UH-32のSP-289・290、UH-39のSP-549がある。

#### UHD・UHの外部付属施設：

UHDに所属するのは入口施設や建物補強、棚・柵等の施設である。UHD-16のSP-140・141・143、UHD-21のSP-313～319、UHD-22のSP-280・321～324、UHD-28のSP-670・677・679・986、UHD-37のSP-637・638、UHD-38のSP-392～399・1935と838～854・858・905、UHD-40のSP-591・592、UHD-41外周のSP-984・985や1154・1155・1161・472や1181・1182・1186や1018・1091・1022、UHD-43外周のSP-1410・1440・1447や1125・1441～1443・1146、UHD-45のSP-1244、UHD-49のSP-1605～1611・1613・1614・1627、UHD-50の



遺構 番号	断面 記号	層位 番号	土体種	遺構種	材料	SP-粘土・シルト(表層2m未満)						SP-砂層(2m以上)		その他 遺構物	備 考	
						野外土性	土質 分類 名称	土質 分類 記号	土質 分類 記号	土質 分類 記号	土質 分類 記号	土質 分類 記号	土質 分類 記号			土質 分類 記号
一般的G土	*	層1	砂層	砂層	砂層	粘土 質土	粘土 質土	粘土 質土	粘土 質土	粘土 質土	粘土 質土	粘土 質土	粘土 質土	粘土 質土		
SP-22		1	層1	砂層	砂層	*	*	砂層	SP22-1	*	*	砂層	*			
		2	層2	砂層	砂層	*	*	砂層	SP22-2	*	*	砂層	*			
		3	層3	砂層	砂層	*	*	砂層	SP22-3	*	*	砂層	*			
		4	層4	砂層	砂層	*	*	砂層	SP22-4	*	*	砂層	*			
SP-26		1	層1	砂層・砂層	砂層	*	*	砂層	SP26-1	*	*	砂層	*			
SP-148		1	層1	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP148-1	砂層	砂層	砂層	砂層			
		2	層2	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP148-2	砂層	砂層	砂層	砂層			
		3	層3	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP148-3	砂層	砂層	砂層	砂層			
SP-151		11	層11	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP151-11	砂層	砂層	砂層	砂層			
SP-152		13	層13	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP152-13	砂層	砂層	砂層	砂層			
SP-153		15	層15	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP153-15	砂層	砂層	砂層	砂層			
SP-156		16	層16	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP156-16	砂層	砂層	砂層	砂層			
SP-158		18	層18	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP158-18	砂層	砂層	砂層	砂層			
SP-221		21	層21	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP221-21	砂層	砂層	砂層	砂層			
		22	層22	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP221-22	砂層	砂層	砂層	砂層			
		23	層23	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP221-23	砂層	砂層	砂層	砂層			
		24	層24	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP221-24	砂層	砂層	砂層	砂層			
		25	層25	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP221-25	砂層	砂層	砂層	砂層			
		26	層26	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP221-26	砂層	砂層	砂層	砂層			
		27	層27	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP221-27	砂層	砂層	砂層	砂層			
		28	層28	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP221-28	砂層	砂層	砂層	砂層			
SP-1919		30	層30	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP1919-30	砂層	砂層	砂層	砂層			
SP-1936		35	層35	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP1936-35	砂層	砂層	砂層	砂層			
		36	層36	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP1936-36	砂層	砂層	砂層	砂層			
SP-590		38	層38	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP590-38	砂層	砂層	砂層	砂層			
SP-589		39	層39	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP589-39	砂層	砂層	砂層	砂層			
SP-1822		40	層40	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP1822-40	砂層	砂層	砂層	砂層			
SP-1953		41	層41	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP1953-41	砂層	砂層	砂層	砂層			
SP-762		42	層42	砂層	砂層	砂層	砂層	砂層	SP762-42	砂層	砂層	砂層	砂層			



図IV-111 SP土層断面

S P-1500~1503と1506~1509・1526・1527や1544~1547や1521・1620・1711、UHD-53のS P-1632・1642・1662・1665や1760・1761・1823のほか1633・1725や1813、UHD-56のS P-1856がある。UHD-49のS P-1605と1611は家屋拡張に関わる可能性がある。

UHに所属するのは主に入口施設や補強で、高床の場合は階段や梯子設置の組合せになる。高床倉庫では、UH-18のS P-114・267、UH-19のS P-21・22・24、UH-20のS P-55、UH-29のS P-948・949、UH-30のS P-742・743・745、UH-42のS P-1111・1112、UH-57のS P-1292・1293、UH-61のS P-1274・1280、UH-62のS P-433・434がある。他はUH-27のS P-501・503・504、UH-34のS P-334、UH-35のS P-390、UH-58の補強S P-300・307・309・311がある。

**柵・柵・杭列**：住居域の境界を示すものとみられる柵列は、比較的他遺構との重複が少ない部分で次の4例を認定した。

- ① Q・R・S-47区でS P-161~167・611の8本が9m以上連なりUHD-21の東境界となる。
- ② R・S-21区でS P-821~823・825・828の5本が約5m連なり、UHD-24の西境界となる。
- ③ O-24・25区でS P-723・725・727と外部HPの5本が約6m連なり、UHD-26の南東境界となる。
- ④ S・T-26区とS-27区でS P-1225・1321と外部HP計9本が約7m連なり、UHD-45の西境界となる。

また、H-23区から南へL-21区まで17m以上連なるS P-696・447・446・444・443・442・421・418・655・654・653・645の12本は居住域と畑域の境界柵列であろう。

**複数条の杭列が並列し干し場を形成するとみられるもの**：次の6例。

- ① UHD-55の北から東にかけてのR-37、S-37・38、T-37~40区に、14.5~2.3mの略東西方向の7条の杭列がある。S P-1829・1831・1832・1051~1054・1081・1087・328、S P-1055・1083~1086、S P-1839・1066・1057~1061、S P-1838・1837・1067~1069、S P-1819・1073・1076・1075、S P-1818・1071、S P-1074・1072・1073の7条で、コタンのある時期の集約的な干し場とみられる。
- ② J-36区とK-34~36区にまたがるUHD-56の西側、南北方向長さ約8mのS P-1859・1863・1862・1942・1898とS P-1858・1861・1941・1897の2条が接するように設けられている。この家屋に所属するものであろう。
- ③ N・O-22・23区とP-23区にまたがるUHD-26の南側あるいはUHD-37の東側に、東西方向長さ7.2~4mの3条の杭列がある。S P-524・525・527・534・535とS P-529・533・757・759とS P-526・537・758で、北にS P-522と532や523と531を使った短い列が並列する可能性もある。UHD-26かUHD-37の所属とみられる。
- ④ UHD-44南西側のQ-28・29区に、東西方向長さ3.5~2.6mの2条の杭列がある。S P-1142・1144・1148・1149とS P-1143・1146・1147・1115で、UHD-44に付属するものだろう。
- ⑤ P-32・33区のUHD-52の南東側、略南北方向長さ約5mのS P-1577・1685・1583・1682・1680とS P-1684・1683・1681の2条が接して設けられている。この家に所属するものであろう。
- ⑥ Q-34区でUHD-53の北西側地に当たる場所に、略南北方向長さ3.7mでS P-1764・1773・1774・1777とS P-1772・1775・1776の2条が接して設けられている。この家に所属するとみられる。

他に遺構と関連するとみられる配列は、H-48区の焼土UF-15に近接するSP-91・102・103・101・92・93やSP-96・93・94・95の列。太い柱SP-405と406が集石US-10に絡む例がある。E・F-50区のSP-376~380列は、北東側に前述したUHD候補②があり、これが家屋とすればこの南西側の境界を形成する。他遺構との関係が捉えきれないが、配列が認められる例にF-54区ほかのSP-345~348、F-48区のSP-384・385・387、Q-35区ほかのSP-1784・1788・1789、P・Q-30区のSP-1301・1469・1309・1313・1475、Q-29区のSP-1466・1479・1477、Q-27区のSP-975~977・1213・1214などがある。R-25・26区のSP-944~946・1240・1238・1328の列は6本すべてが差し込みではない方法で立てられている。

**倉庫建築(DH)になりそうなもの：**U-33区のSP-1630・1920は大型の掘立柱、T-32区のSP-1715・1716は太い掘り差し柱である。ともに調査区東界付近で検出されており、調査区外に同様の柱が配置されている建物跡と思われる。P・Q-29・30区のSP-1273・1304・1486は掘立柱、P-30・Q-29・30のSP-1273・1304・1468は大型の掘立柱、T・U-25・26区のSP-954・957・1249は大型柱である。3か所とも3本の柱で直角が構成されており、もう1本の角を置き柱と想定すれば建物が成立すると考えられる。R-30・31区のSP-1384・1382・1380・1391・1390・1451の6本で2×1の建物が構成される。並びはいいが、UHD-43と重複したため建物候補扱いとした。

**建物構成にならない太い柱：**検出孔径で20cm以上を測る柱穴が散在している。SPの密度が疎の部分での存在もあるので整理しておく。Q-50区のSP-59、G-39区のSP-1915、R-34区のSP-1844などは掘立や掘り差しの単独1本柱である。SP-59はUHD-16の北東延長線上にある。SP-1844はUHD-53内部にあるが、住居構造との関係はない。

傾きのある単独の大型柱も確認された。H-46区のSP-221は検出孔径30cm以上で、南西に30°以上傾いている。H-39区のSP-1919は西に大きく傾いて前出のSP-1915に向いているようにみえる。R-33区のSP-1931は北東に大きく傾いている。前出のSP-1844と同じくUHD-53内部にあるが、傾きがあるためUHD-53の住居構造やSP-1844とは関係ないものと思われる。

I-43区のSP-219・220は、掘り差し柱2本が2.2mの距離で並んでおり、位置は前述したUHD候補①の東2.5mにある。

UHD-38の南~北東には、前述したSP-405・406の組み合わせのほか、SP-1934・1935・1936といった掘立あるいは掘り差しの太柱が一辺10m以上の大きな三角形を形成して存在する。大三角形の中央には焼土UF-56があり、I-17区のSP-1936は畑跡に最も近い柱穴である。地鎮など祭祀的な意味合いの施設とも考えられる。

**その他の配列など：**J・K-44・45区などにあるSP-228~252・269・270の27本のSPは建物となる配列と内外部の構造になる可能性がある。小規模だが焼土UF-36・37とも関わりがある。

N-35区~Q-35区とO・P-36区、F-41区からG-41~43区にかけて、G-27区からH-28区にかけての3地域では、SP10本以上が弧状に配列されたように見える。

その他、小杭穴の集合した状況や2~5本の小規模な杭の配列など、幣棚を想起させる部分は、ほぼ調査区全域にみられる。SPや他遺構の疎密や、それらの関係性から読み取られるべき遺構としておく。

(三浦)

表Ⅳ-1 UHD一覧

通称名	図	図版	グリッド	軸方向	規模(m)		柱間数		積算仕六数		備考
					主壁	入口小間	主壁	入口小間	主	要列補助	
UHD-01	IV-2	--	L-M-N, P-18, M-19DK	N-17°-W	7.9×5.3	--	3(1.3)	9	1	6	--
UHD-03	IV-3	3	R-1, M-14, O-14, K21-20DK	N-41°-W	3.5×5.0	--	4×4	14	3	7	7以上
UHD-04	IV-4	3	R-1, M-14, O-14, K21-20DK	N-41°-W	3.5×5.0	--	4×4	14	3	7	7以上
UHD-16	IV-7-8	3	R-1, M-14, O-14, K21-20DK	N-46°-W	5.1×6.0	--	3×4	11	1	2	7以上
UHD-21	IV-9-10	4	F-Q, 41-43DK	N-65°-W	5.2×4.2	--	4×4	15	4	4	4以上
UHD-22	IV-11-12	4	R-S-T, 42-43DK	N-47°-W	5.1×4.2	--	4×3	14	4	4	左
UHD-24	IV-13-14	4	R-S, 22-21DK	N-49°-W	6.05×4.65	--	4×3	14	7	4	10以上
UHD-25	IV-15-16	4	F-Q, 22-20DK	N-36°-E	5.1×4.6	--	4×2	11	4	7	3~7
UHD-26	IV-17-18	4	R-S, 22-20DK	N-49°-W	5.1×4.6	--	4×2	11	4	7	3~7
UHD-28	IV-19-23	5	G-H-I, 24-25DK, O-21-23DK	N-23°-W	5.3×5.0	--	3×3	1(18)	6	14	10以上
UHD-36	IV-21-23	6	N-O-P, 19-20DK	N-67°-W	5.0×4.15	--	3×4	14	2	10以上	8以上
UHD-37	IV-24-25	6	L-M-N, 20-21, M-22DK	N-81°-E	7.4×4.9	--	3×3	12	3	23	10以上
UHD-38	IV-26-27	7	F-G, 18-16-17DK	N-26°-E	4.5×4.8	3.0×2.0	4×4, 2×2	18	1	2	30以上
UHD-40	IV-28-29	7	O-P-Q, 19-20DK	N-65°-W	6.5×4.95	--	4×3	13	1	7以上	10以上
UHD-41	IV-30-32	7	1-20-21, J-K, 22-20-27DK	N-36°-E	4.4	--	4×4	16	16以上	27	多数
UHD-42	IV-33-34	7	1-20-21, J-K, 22-20-27DK	N-36°-E	4.4	--	4×4	16	16以上	27	多数
UHD-44	IV-36-37	8	R-S, 26-20DK, 39-11DK	N-87°-E	5.3×4.0	--	4×3	12	7	3以上	7
UHD-45	IV-38-39	8	S-T-U, 26-27-20DK	N-86°-W	(横)5.7×5.6	--	(横)2(1)×3	10	1	10以上	8以上
UHD-46	IV-40-41	9	R-S, 26-27DK	N-2°-W	4.5×3.75	--	3×2	10	左	5	約10
UHD-48	IV-42-43	9	S-T-U, 31, T-32DK	N-32°-E	4.7×3.8	--	4×2	11	2	11~14	7以上
UHD-49	IV-44-45	10	J-K, 38-39DK	N-89°-W	4.5×3.3	--	3×3	11	4	3	18
UHD-50	IV-46-48	10	G-H, 31-32DK	N-69°-E	3.7×4.1	--	3×3	11	2	3	多数
UHD-52	IV-50-51	10	G-H, 31-32DK	N-69°-E	3.7×4.1	--	3×3	11	2	3	多数
UHD-53	IV-51-52	10	R-S, 33-34, S-T-33-34DK	N-48°-W	4.8×4.1	--	4×5	18	1	7	多数
UHD-55	IV-53-54	11	R-S-T, 35-36, S-37DK	N-16°-W	(横)4(1)×5.4	--	(横)2(1)×3	9	1	7	8以上
UHD-56	IV-55-56	--	K-L, 35-36DK	N-27°-W	3.7×4.0	--	2×2	8	1	3	10以上
UHD-60	IV-57	--	O-19, P-18-19-20, Q-19-20DK	N-88°-W	7.7×4.6	--	4×2	11	3	2	10以上

表Ⅳ-2 UH一覧

通称名	図	図版	グリッド	軸方向	規模(m)	柱間数		積算仕六数		備考	
						主壁	入口小間	主	要列補助		内
UH-08	IV-60	--	N-46, T-46-47DK	N-52°-W	3.9×3.05	--	3×1	7	1	3	--
UH-10	IV-70	--	S-41, 54-55DK	N-27°-W	3.3×3.2	--	2×2	7	1	3	--
UH-20	IV-71	15	P-K, 48-49DK	N-32°-W	3.3×3.2	--	2×1	6	1	1	--
UH-27	IV-72	15	K-L, 22-23DK	N-51°-E	3.1×2.9	--	3×1	8	1	3	約10
UH-28	IV-73	--	R-S, 25DK	N-32°-E	2.15×1.9	--	1×1	4	2	3	--
UH-32	IV-74	--	Q-23-24, R-24DK	N-69°-E	3.5×2.9	--	2×1	6	1	3	--
UH-35	IV-75	16	N-41, O-42DK	N-36°-W	2.9×2.9	--	2×1	6	1	2	--
UH-36	IV-76	16	N-41, O-42DK	N-36°-W	2.9×2.9	--	2×1	6	1	2	--
UH-38	IV-77	16	D-40-44, E-44DK	N-80°-E	2.8×2.9	--	3×1	4	1	1	--
UH-35	IV-78	16	F-F, 40-41DK	N-70°-E	3.60×2.75	--	2×1	4	2	1	--
UH-39	IV-79	--	N-O, 21-22DK	N-18°-E	4.95×3.60	--	2×2	7	1	1	7以上
UH-42	IV-80	16	L-M, 29-30DK	N-8°-E	2.7×2.9	--	2×2	7	1	2	--
UH-47	IV-81	--	T-U, 25-26DK	N-69°-W	3.9×(横)3.7	--	2×(横)2(1)	6	1	2	--
UH-51	IV-82	--	P-Q, 31-32DK	N-59°-E	3.2×2.9	--	3×1	8	4	新元工壁	2~多数
UH-52	IV-83	16	R-S, 33-34DK	N-48°-W	4.8×4.1	--	4×5	18	1	7	多数
UH-57	IV-85	16	N-O, 26-27DK	N-50°-W	1.6×1.55	--	1×1	2	1	2	--
UH-58	IV-84	--	O-43-44, P-44DK	N-59°-E	1.6×1.55	--	1×1	2	1	2	--
UH-59	IV-85	--	I-1DK	N-79°-W	1.0×0.95	並付仕2.3×1.55	1×1	並付仕1×10入付	4	1	--
UH-61	IV-86	--	P-Q, 28-29DK	N-62°-E	2.6×2.0	--	2×1	5	1	1	--
UH-62	IV-87	--	R-1DK	N-18°-E	2.3×2.2	--	1×1	2	1	1	--
UH-63	IV-88	--	R-1P-18AN, N-18DK	N-18°-W	2.3×2.2	--	1×1	2	1	1	--



表IV-3 UHD・炉跡・灰集中他一覧

遺構名	付属遺構名	種別	図	図様	断面				主な出土遺物	備考	
					平面	断面	縦深さ	底面			
UHD-13	HF-1	地床空 積土	IV-3-4	3	積り層	—	0.47	10.36	0.05	—	—
					積り層	—	0.98	0.56	0.08	—	—
					積り層	—	0.89	0.44	0.05	—	—
UHD-14	HF-1	地床空 積土	IV-5-6	3	不整形	—	0.78	0.66	0.02	煉瓦1周	炭化材付片?
					積り層	—	0.06	0.04	—	—	—
					積り層	—	0.09	0.04	0.03	—	—
	炭化物集中	炭化物集中1	積り層	—	0.85	0.60	—	—	—		
		炭化物集中2	積り層	—	0.58	0.29	—	—	—		
		炭化物集中3	円形	—	0.35	0.30	—	—	—		
UHD-16	HF-1	地床空 積土	IV-7-8	3	積り層	—	0.50	10.34	0.02	—	—
					積り層	—	0.23	0.14	0.02	—	—
					積り層	—	0.83	10.56	0.08	—	—
UHD-21	HF-1	地床空 積土	IV-9-10	4	不整形??	—	0.80	10.13	0.01	—	—
					長楕円形	—	0.26	0.05	—	—	—
UHD-22	HF-1	地床空 積土	IV-11-12	4	不整形積り層	—	0.81	10.44	0.03	—	—
					積り層	—	0.85	0.35	0.14	—	—
UHD-24	HF-1	地床空 積土	IV-13-14	5	不整形積り層	—	0.14	0.14	0.04	—	—
					積り層	—	0.65	0.48	0.08	—	—
UHD-25	HF-1	地床空 積土	IV-15-16	5	積り層	—	0.51	0.40	0.08	—	—
					積り層	—	10.68	10.49	0.10	—	—
UHD-26	HF-1	地床空 積土	IV-17-18	5	不整形積り層	—	0.49	0.25	—	—	—
					積り層	—	0.29	0.25	0.04	—	—
UHD-36	HF-1	地床空 積土	IV-21~23	6	積り層	—	0.45	0.31	—	—	煉
					積り層	—	0.48	0.43	0.08/0.16	—	—
UHD-37	HF-1	地床空 積土	IV-24-25	6	円形	—	0.25	0.11	—	—	—
					不整形積り層	—	0.11	0.08	—	—	HF-1周辺
					円形	—	0.15	0.13	—	—	—
					円形	—	0.38	0.34	—	—	—
					不整形積り層	—	0.20	0.10	—	—	—
					不整形	—	0.13	0.09	—	—	左縁部の北東側部分
					不整形	—	0.75	0.21	—	—	—
					不整形積り層	—	0.33	0.24	—	—	—
UHD-38	HF-1	地床空 積土	IV-26-27	6	積り層	—	0.30	0.20	—	—	自然遺物
					積り層	—	0.70	0.54	0.08	—	—
UHD-40	HF-1	地床空 積土	IV-28-29	7	円形	—	0.08	0.08	—	—	左縁外
					積り層	—	0.41	0.33	0.09	—	左縁外
					積り層	—	1.00	0.59	0.18	—	炭化材付片?
UHD-41	HF-1	地床空 積土	IV-30~32	7	積り層	—	1.01	0.51	0.13	—	—
					不整形	—	0.21	0.53	0.05	—	—
UHD-43	HF-1	地床空 積土	IV-33~35	8	積り層	—	0.13	0.10	—	—	—
					反円形	—	1.57	0.68	0.20	—	—
					積り層	—	0.91	0.60	0.18	—	—
					楕円形	—	0.88	10.83	0.16	—	—
					不整形積り層	—	0.30	0.14	0.08	—	—
	HF-2	積土	不整形積り層	—	0.28	0.15	0.03	—	—		
			不整形積り層	—	0.28	0.15	0.03	—	—		
			不整形積り層	—	0.31	0.20	0.03	—	—		
			積り層	—	0.19	0.10	—	—	—		
			積り層	—	0.10	0.07	—	—	—		
UHD-44	HF-1	地床空 積土	IV-36-37	8	積り層	—	0.62	0.53	—	—	左縁外
					積り層	—	0.21	0.20	—	—	左縁外
UHD-45	HF-1	地床空 積土	IV-38-39	9	円形	—	0.05	0.05	—	—	—
					積り層	—	0.61	0.49	0.12	—	右縁
UHD-46	HF-1	地床空 積土	IV-40-41	9	不整形積り層	—	0.49	0.41	0.06	—	—
					積り層	—	0.88	0.55	0.28	—	—
UHD-48	HF-1	地床空 積土	IV-42-43	9	積り層	—	0.75	0.55	0.18	—	—
					積り層	—	0.63	0.50	0.08	—	—
UHD-49	HF-1	地床空 積土	IV-44-45	9	不整形積り層	—	0.38	0.28	0.02	—	—
					積り層	—	0.41	0.29	0.02	—	—
UHD-50	HF-1	地床空 積土	IV-46~48	10	積り層	—	0.83	0.45	0.08	—	—
					積り層	—	0.55	0.30	—	—	左縁外
					積り層	—	0.20	0.11	—	—	—
					積り層??	—	0.89	10.33	0.03	—	—
					積り層	—	0.10	0.05	0.02	—	—
UHD-52	HF-1	地床空 積土	IV-49-50	10	不整形積り層	—	0.93	0.58	0.16	—	—
					積り層	—	0.64	0.58	0.14	—	—
UHD-53	HF-1	地床空 積土	IV-51-52	11	積り層	—	0.53	0.55	0.18	—	—
					積り層	—	0.40	0.19	0.03	—	—
UHD-55	HF-1	地床空 積土	IV-53-54	11	積り層	—	0.24	0.18	0.06	—	—
					積り層	—	0.60	0.53	—	—	—
UHD-56	HF-1	地床空 積土	IV-55-56	11	積り層	—	0.40	0.21	—	—	—
					積り層	—	0.29	0.20	—	—	左縁外
UHD-58	HF-1	地床空 積土	IV-59-60	11	積り層	—	0.70	10.30	0.11	—	—
					積り層	—	0.13	0.08	0.02	—	—
UHD-59	HF-1	地床空 積土	IV-61-62	11	反円形	—	1.23	0.66	0.16	—	—
					積り層	—	0.60	0.58	0.12	—	—
UHD-60	HF-1	地床空 積土	IV-63-64	11	不整形積り層	—	0.17	0.21	0.04	—	—
					円形	—	0.65	0.60	0.18	—	—
UHD-61	HF-1	地床空 積土	IV-65-66	11	不整形積り層	—	0.48	0.29	0.02	—	—
					不整形積り層	—	0.23	0.15	0.03	—	—
UHD-62	HF-1	地床空 積土	IV-67-68	11	積り層	—	0.60	0.40	—	—	—
					積り層	—	0.51	0.24	—	—	—
UHD-63	HF-1	地床空 積土	IV-69-70	11	長楕円形	—	0.83	0.53	0.04	—	—
					積り層	—	0.59	0.50	0.05	—	—
UHD-64	HF-1	地床空 積土	IV-71-72	11	不整形積り層	—	0.40	0.38	0.06	—	—
					積り層	—	0.40	0.38	0.06	—	—

表Ⅳ-4 堅穴住居跡 UHP一覽

遺構名	期	図番	グリッド	平面位置	幅 員 (m)						材質・構造	主要出土遺物			備考
					縦断線		横断線		最大深	位置		種類	数量		
					長径	短径	長径	短径							
UHP-15	IV-18-40	12	M-N-45-46区	横穴形	4.32	4.28	4.42	0.90	0.17	焼酎甕・土瓶・柱穴・板瓦・土師土器・土師土器・土師土器・土師土器	焼酎土師 フラインク 甕	—	土師土師 フラインク 甕		
UHP-17	IV-41-48	13	F-C-40-42区 東-北区	横穴形 土壇	6.30	6.70	6.20	0.56	0.61	土師土師 (横穴・土壇) 土師土師 土師土師	焼酎土師 土師土師	—	土師土師 土師土師 土師土師		
UHP-23	IV-47	14	L-M-49-54区	—	11.43	13.52	10.74	0.80	0.98	土師土師 土師土師	—	—	土師土師 土師土師		
UHP-21	IV-68		L-M-302区	横穴形	11.40	13.30	13.20	0.60	0.11	焼酎甕・土瓶・柱穴・板瓦・土師土器・土師土器・土師土器	—	—	土師土師 土師土師		

表Ⅳ-5 堅穴住居跡 UHP付属遺構一覽

遺構名	付属遺構名	種類	期	図番	跡跡	幅 員 (m)						主な出土遺物	備考			
						跡跡		縦断線		横断線				最大深		
						平面	断面	長径	短径	長径	短径					
UHP-15	HP-1	地床跡	IV-18-40	12	堅土中壁土	横穴形	—	0.47	0.40	—	—	0.04	—			
	HP-5	土壇				横穴形	—	0.47	0.37	0.38	0.23	0.22	—	—	—	—
	HP-1	土壇				円形	丸	0.11	—	0.03	—	0.08	—	—	—	—
	HP-2	土壇				円形	丸	0.11	—	0.04	0.15	—	—	—	—	—
	HP-3	土壇				横穴形	丸	0.22	0.16	0.13	0.08	0.02	—	—	—	—
	HP-4	柱穴・柱穴				円形	丸	0.10	—	0.04	0.13	—	—	—	—	—
	HP-6	土壇				横穴形	横丸	0.20	0.17	0.10	0.09	0.13	—	—	—	—
	HP-7	土壇				円形	丸	0.11	—	0.02	0.25	—	—	—	—	—
	HP-8	土壇				円形	横丸	0.16	—	0.06	0.10	—	—	—	—	—
	HP-9	土壇				円形	横丸	0.16	0.14	0.09	0.16	—	—	—	—	—
UHP-15	1	壁土上げ土	IV-18-40	13	壁土中壁土	土壇	—	0.90	0.20	—	—	0.04	—	—		
	2	土壇				横穴形	—	0.40	0.29	—	—	—	—	—	—	
	3	土壇				横穴形	—	0.18	0.13	—	—	—	—	—	—	
	4	土壇				不整形	—	0.87	0.44	—	—	—	—	—	—	
	5	土壇				不整形の横穴形	—	0.49	0.56	—	—	—	—	—	—	
	6	土壇				横穴形	—	0.22	0.18	—	—	—	—	—	—	
	7	土壇				不整形の横穴形	—	0.44	0.29	—	—	—	—	—	—	
	8	土壇				不整形	—	0.16	0.09	—	—	—	—	—	—	
	9	土壇				不整形	—	0.24	0.19	—	—	—	—	—	—	
	10	土壇				不整形	—	0.72	0.33	—	—	—	—	—	—	
UHP-17	1	壁土上げ土	IV-41-48	13	壁土中壁土	土壇	—	1.13	0.64	1.08	0.38	0.10	—	—		
	2	土壇				円形	—	0.42	0.38	—	—	0.08	—	—	—	
	3	土壇				不整形	—	0.42	0.30	—	—	0.10	—	—	—	
	4	土壇				不整形	—	1.78	1.66	—	—	0.12	—	—	—	
	5	土壇				円形	—	0.21	0.27	0.36	0.36	0.12	—	—	—	
	6	土壇				横穴形	—	0.60	0.30	0.48	0.30	0.12	—	—	—	
	7	土壇				横穴形	—	0.60	0.48	—	—	0.08	—	—	—	
	8	土壇				横穴形	半	0.41	0.37	0.32	0.48	—	—	—	—	
	9	土壇				横穴形	横丸	0.44	0.38	0.21	0.21	0.44	—	—	—	
	10	土壇				横穴形	横丸	0.49	0.37	0.18	0.17	0.47	—	—	—	
UHP-17	1	壁土上げ土	IV-41-48	13	壁土中壁土	土壇	—	0.30	0.19	0.03	—	—	—	—		
	2	土壇				横穴形	—	0.47	0.37	0.42	0.02	0.04	—	—	—	
	3	土壇				横穴形	—	0.30	0.30	0.42	0.36	0.03	—	—	—	
	4	土壇				横穴形	—	0.39	0.21	0.23	0.21	0.17	—	—	—	
	5	土壇				横穴形	—	0.37	0.30	0.18	0.18	0.19	—	—	—	
	6	土壇				横穴形	—	0.68	0.41	0.41	0.27	0.10	—	—	—	
	7	土壇				不整形の横穴形	—	0.71	0.69	—	—	0.02	—	—	—	
	8	土壇				不整形	—	0.69	0.54	0.42	0.38	0.14	—	—	—	
	9	土壇				横穴形	—	14.3	13.0	—	—	0.23	—	—	—	
	UHP-23	1				地床跡	IV-47	14	壁土中壁土	横穴形	—	0.41	0.22	—	—	0.04
2		土壇	円形	丸	0.09	—				0.04	0.16	—	—	—	—	
3		土壇	円形	丸	0.11	—				0.04	0.16	—	—	—	—	
4		土壇	円形	丸	0.10	—				0.03	0.40	—	—	—	—	
5		土壇	円形	丸	0.07	—				0.02	0.17	—	—	—	—	
6		土壇	円形	丸	0.06	—				0.03	0.32	—	—	—	—	
7		土壇	円形	丸	0.11	—				0.04	0.31	—	—	—	—	
8		土壇	横穴形	丸	0.19	0.18				0.05	0.31	—	—	—	—	
9		土壇	横穴形	—	0.13	0.28				—	—	0.03	—	—	—	
10		土壇	横穴形	丸	0.13	—				0.03	0.32	—	—	—	—	
UHP-23	1	地床跡	IV-47	14	壁土中壁土	横穴形	—	0.07	0.02	—	—	0.15	—	—		
	2	土壇				横穴形	丸	0.07	0.02	0.24	—	—	—	—	—	
	3	土壇				横穴形	丸	0.06	0.02	0.14	—	—	—	—	—	
	4	土壇				横穴形	丸	0.07	0.02	0.14	—	—	—	—	—	
	5	土壇				横穴形	丸	0.11	0.04	0.14	—	—	—	—	—	
	6	土壇				横穴形	丸	0.11	—	0.04	0.31	—	—	—	—	
	7	土壇				横穴形	丸	0.19	0.18	0.05	0.31	—	—	—	—	
	8	土壇				横穴形	丸	0.13	0.28	—	—	0.03	—	—	—	
	9	土壇				横穴形	丸	0.13	—	0.03	0.32	—	—	—	—	
	10	土壇				横穴形	丸	0.07	0.02	0.15	—	—	—	—	—	
UHP-21	1	地床跡	IV-68	14	壁土中壁土	横穴形	—	0.22	0.14	—	—	—	—	—		
	2	土壇				横穴形	—	0.28	0.24	—	—	—	—	—	—	
	3	土壇				不整形の横穴形	—	0.15	0.08	—	—	—	—	—	—	
	4	土壇				横穴形	—	0.13	0.09	—	—	—	—	—	—	

表IV-6 GP・UP-一覧

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)				付属遺構	主な出土遺物	備考
					幅	長さ	高さ	深さ			
					幅	長さ	高さ	深さ			
GP-1	IV-87	17	G・H-25区	長楕円形	1.30	0.22	1.20	0.24	0.07	—	青磁皿・小刀 漆塗碗(笠取のみ)
UP-4		—	K・S-38・39区	楕円形	1.32	1.00	0.81	0.47	0.25	—	瓦直面 2ヶ所

表IV-7 UA-一覧

遺構名	図	図版	グリッド	軸方向	規模 (m)	範囲	備考
					主要部		
UA-5	IV-88~89	17	F-25・26区	N-0° -W	3.06×1.37	—	
UA-6	IV-89	—	I・J-23区	N-65° -W	0.40×0.18	—	
UA-7	IV-90	18	L-22区	N-36° -W	0.86×0.53	—	
UA-8			M-22区	N-82° -W	0.87×0.81	—	
UA-9	IV-91	18	N・O-22区	N-43° -W	—	3.27×1.45	
UA-10			O-44区	N-61° -W	—	推定4.5×(3.3)	
UA-11	IV-92	18	Q-26区	N-40° -W	—	0.19×0.14	
UA-12			E-27・28, F-27区	N-41° -W	—	推定1.74×(0.85)	
UA-13	IV-93	—	G-29区	N-0° -W	—	推定(1.85)×(1.55)	
UA-14			J-26, K-26・27区	N-32° -E	推定(1.80)×(1.55)	—	
UA-15	IV-94	—	N-31区	N-78° -W	—	0.74×0.18	
UA-16			N・O-31区	N-70° -E	—	0.57×0.21	
UA-17	IV-94	19	L・M-33区	N-2° -W	—	推定(3.4)×(2.2)	
UA-18			K-33区	N-81° -W	—	0.82×0.26	
UA-19	IV-95	—	O-34・35, P-34区	N-82° -W	—	推定(3.5)×(2.6)	
UA-20	A	IV-96	20	S-39区	N-51° -E	—	1.99×1.75
	B			R-38区	N-58° -W	—	1.20×0.83
UA-21	灰	IV-97	—	Q-40区	N-52° -W	推定(0.58)×(0.43)	6.0×4.3
	UHP-17C(仮)			P・Q-40~42区	—	—	

表IV-8 UA詳細一覧

選標名	区	区画	ブツド	建屋 層位	種別	平面形状			主な 出土遺物	備 考						
						長さ	短径	深み								
UA-5	IV-08-09	17	F-20-20K	第層	汎用中	UA-5A	不整形	1.72	1.12	0.08						
						UA-5B	不整形	0.89	0.79	0.05						
						UA-5C	楕円形	0.58	0.52	*						
						楕円形	0.11	0.09	*							
						楕円形	0.20	0.20	0.01							
					高層の瓦中	楕円形	0.30	0.30	0.01							
						方形	0.10	0.10	*							
						不整形	0.12	0.09	0.05							
						正方形	0.31	0.31	0.05							
						不整形正方形	0.66	0.66	0.05							
					礎石	不整形正方形	0.27	0.26	0.03							
						不整形	0.51	0.51	*							
						楕円形	0.72	0.73	*							
						不整形	0.42	0.42	*							
						不整形	0.46	0.46	*							
自然遺物	楕円形	0.11	0.12	*												
	不整形	0.66	0.66	*												
	不整形	0.21	0.19	*												
	長楕円形	0.27	0.18	*												
	不整形	0.65	0.36	*												
	方形	0.11	0.19	*												
	楕円形	0.36	0.18	*												
	楕円形	0.31	0.16	*												
	楕円形	0.36	0.61	*												
	楕円形	0.12	0.02	*												
UA-6	IV-08	-	1-1 J-23K	第層	汎用中	不整形	0.38	0.22	0.03							
						正方形	0.12	0.09	0.02							
					礎石	正方形	0.07	0.06	0.02							
UA-7	IV-30	-	L-23K	第層	汎用中	不整形	0.72	0.68	0.04							
						U12	1.02	1.02	*							
						楕円形	1.25	1.02	*							
UA-8	IV-30	-	M-23K	第層	汎用中	不整形	0.72	0.64	0.06							
						不整形正方形	0.60	0.76	*							
						楕円形	0.26	0.18	*							
UA-9	IV-31	18	N-O-23K	第層	汎用中	長楕円形	3.12	1.88	0.29							
						楕円形	0.47	0.12	0.04							
						正方形	0.64	0.64	*							
						不整形正方形	0.27	0.30	0.08							
						長楕円形	0.58	0.38	*							
						楕円形	0.31	0.25	0.02							
						不整形	0.68	0.59	0.08							
						自然遺物	楕円形	0.05	0.02	*						
							楕円形	0.20	0.20	*						
							楕円形	0.61	0.61	*						
							楕円形	0.18	0.18	*						
							楕円形	0.42	0.18	*						
						UA-10	IV-31	-	O-44K	第層	汎用中	楕円形	0.68	0.42	0.06	
												楕円形	0.08	0.08	0.02	
												楕円形	0.08	0.10	0.02	
UA-11	IV-32	-	Q-26K	第層	汎用中	楕円形	0.19	0.13	0.03							
						楕円形	0.42	0.18	0.03							
						楕円形	0.14	0.11	0.01							
UA-12	IV-32	18	E-27-28, F-27K	第層	汎用中	UA-12A	不整形	0.52	0.31	0.07						
						UA-12B	不整形正方形	0.31	0.31	0.04						
						UA-12C	不整形	0.42	0.18	0.03						
UA-13	IV-32	18	G-29K	第層	汎用中	UA-13D	不整形正方形	0.14	0.11	0.01						
						不整形	1.28	0.78	0.28							
						楕円形	0.20	0.28	0.03							
UA-14	IV-33	18	J-28, K-28-27K	第層	汎用中	UA-13E	楕円形	0.56	0.34	0.05						
						UA-13F	楕円形	0.81	0.50	0.06						
						UA-13G	楕円形	0.29	0.18	0.02						
UA-15	IV-33	-	N-31K	第層	汎用中	UA-13H	不整形	1.30	0.80	0.24						
						UA-13I	不整形	0.23	0.18	*						
						楕円形	0.18	0.12	0.02							
UA-16	IV-33	-	N-O-31K	第層	汎用中	楕円形	0.68	0.41	*							
						不整形	0.50	0.39	0.02							
						不整形正方形	0.20	0.20	*							
UA-17	IV-34	18	L-M-33K	第層	汎用中	UA-17A	不整形	1.08	0.65	0.18						
						楕円形	0.62	0.28	0.04							
						長楕円形	3.18	1.82	0.27							
						不整形正方形	0.26	0.26	*							
						不整形	0.66	0.52	*							
UA-18	IV-34	-	K-33K	第層	汎用中	UA-17B	不整形	0.62	0.42	*						
						不整形	0.68	0.48	*							
						不整形	0.50	0.31	0.03							
UA-19	IV-35	18	O-34-35, P-34K	第層	汎用中	UA-17C	楕円形	0.70	0.30	0.02						
						楕円形	0.20	0.18	0.02							
						不整形	0.20	0.20	0.05							
UA-20	IV-36	20	R-36, S-36K	第層	汎用中	—	1.92	0.20	0.03							
						UA-18A	不整形長方形	0.38	0.14	0.03						
						不整形	0.32	0.18	0.03							
						不整形	0.20	0.10	0.01							
						不整形	3.04	0.31	0.07							
						不整形長方形	1.23	0.20	0.07							
						不整形	0.34	0.22	*							
						不整形正方形	0.68	0.22	0.04							
						不整形	0.35	0.19	0.02							
						楕円形	0.11	0.10	*							
UA-21	IV-37	18	P-Q-16-12K	第層	礎石	UA-18B	不整形正方形	0.29	0.19	0.02						
						楕円形	0.01	0.01	0.01							
						楕円形	0.16	0.12	0.02							
						不整形正方形	0.20	0.20	0.02							
						不整形	0.17	0.19	0.03							
UA-22	IV-37	18	R-36, S-36K	第層	汎用中	UA-18C	不整形	1.74	1.19	0.39						
						不整形正方形	0.20	0.21	0.02							
						正方形(段状築地)	楕円形	1.61	0.80	—						
						UA-18D	長楕円形	0.18	0.09	0.02						
						正方形(段状築地)	楕円形	1.20	0.62	—						
UA-23	IV-37	18	T-37-17 U-37K	第層	汎用中	U37-17 (柱木の根跡)	正方形	0.80	0.80	—						
						不整形	0.24	0.20	0.02							
						不整形正方形	0.20	0.20	0.02							
						楕円形	0.72	0.62	0.02							
						楕円形	0.20	0.42	0.02							

表IV-9 遺物集中一覧

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	規模 (m)		主な出土遺物	備考
					長径	短径		
UPS-1	IV-101	21	H-49区	III層	0.72	0.46	VII群土器	
0.23					0.17			
0.13			0.09					
UPS-2		J-45区	III層	(0.36)	0.44	VI群土器		
UPS-3	H-32区	III層	0.70	0.48	VI群土器			
UFC-1	—	U-32区	III層	0.20	0.16	U・Rフレイク フレイク		
貝殻集中	23	L-18・19区	III層	2.48	1.90	カリシソジュガイ 骨片 たたき石 礎 数箇(小札)	炭化材 炭化物集中(0.59×0.48)	
骨片集中	IV-102	—	T・U-33区	III層	1.64	(1.00)	?	
					集中部分	1.18	(0.69)	

表IV-10 礎集中・方割礎一覧

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位	規模 (m)			主な出土遺物	備考
					範囲	長径	短径		
US-5	IV-98	21	N-50区	III層	全体	0.73	0.45	礎	
US-6			K・L-46区	III層	全体	0.78	0.21	たたき石 礎	
US-7			H-43区	III層	集中部分	0.28	0.21	礎	
US-8	IV-99	22	I-22・23区	III層	全体	1.12	0.54	加工痕のある礎 礎	
			集中部分	0.51	0.36				
US-9	IV-100	R-23区	III層	全体	1.65	1.41	フレイク 使用・加工痕のある礎 礎 鉄線 目釘		
					集中部分	0.59	0.41		
US-10	IV-99	—	G-20区	III層	全体	2.84	2.76	台石 礎	
			集中部分	0.54	0.44	使用・加工痕のある礎			
US-11	IV-98	—	K-20区	III層	全体	0.30	0.20	礎	近くにUF-43(炭化材を伴う)
US-12	22	F-35区	III層	全体	0.18	0.11	礎	近くにUF-57-1・2	
US-13	IV-99	—	K・L-26区	III層	全体	1.00	0.72	礎	
方割礎	IV-98	—	R・S-26区	III層	全体	0.98	0.32	礎 (片) 同一個体	

表IV-11 燧跡・畝間一覧

遺構名	図	図版	グリッド	標高 (m)	長軸方向	規模 (m)			備考
						長さ	幅	深さ	
燧跡	IV-102	22	J・K-16・17区	14.4 ~14.5	N-10° -E	(4.0) × (3.5)			
畝間			グリッド	平面形態	底面	規模 (m)			備考
						長さ	幅	深さ	
畝間1			J-16IK	曲線的な溝状	平坦面あり	(1.10)	0.77	0.04	畝間1とつながる
畝間2			J-16・17IK	やや直線的な溝状	平坦面あり	(1.62)	0.63	0.07	畝間2とつながる
畝間3			J-16・17IK	直線的な溝状	平坦面あり	(1.00)	0.38	0.05	
畝間4			J-16・17IK	やや直線的な溝状	平坦面あり	(1.01)	0.46	0.05	畝間5とつながる
畝間5			J・K-16・17IK	曲線的な溝状	平坦面あり	(2.96)	0.78	0.06	畝間4・6とつながる
畝間6			J・K-17IK	曲線的な溝状	平坦面あり	(2.96)	0.47	0.03	畝間5とつながる

表Ⅳ-12 焼土UF一覧(1)

通称名	グッド	焼結層位 (級熟層)	平面形状	焼土 色調	厚 尺 (mm)			主な 出土遺物	備考	
					長径	短径	最大厚			
UF-15	H-48E	級熟	不整形	褐色 (7.5)24(4)	0.60	0.58	0.07	溝		
UF-16	1	Q-52E	級熟	横円形	12.4-褐色 (7.5)28(4)	0.27	0.16	0.02	刀手 使用痕の付く溝	
	2	Q-52E	級熟	横円形	12.4-褐色 (7.5)28(4)	0.60	0.39	0.04		
	3	Q-53E	級熟	不整形	暗褐色 (7.5)27(2)	0.62	0.45	0.01		
	4	Q-53E	級熟	横円形	暗褐色 (7.5)27(2)	0.16	0.13	0.01		
UF-17	1	R-47E	級熟	横円形	褐色 (7.5)22(2)	0.23	0.19	*	焼土のブロック含む	
	2	R-47E	級熟	横円形	褐色 (7.5)22(2)	0.24	0.07	*	焼土のブロック含む	
	3	R-47E	級熟	横円形	褐色 (7.5)22(2)	0.19	0.11	*	焼土のブロック含む	
	4	R-47E	級熟	横円形	暗褐色 (7.5)23(2)	0.20	0.16	*	焼土のブロック含む	
	5	R-47E	級熟	不整形 円形	2.5-黄褐色 (10)24(2)	0.27	0.20	*	焼土のブロック含む	
	6	R-47E	級熟	横円形	褐色 (10)24(2)	0.34	0.20	*	焼土のブロック含む	
	7	R-47E	級熟	横円形	暗褐色 (10)23(2)	0.20	0.14	*	焼土のブロック含む	
	8	R-47E	級熟	不整形	暗褐色 (10)22(2)	0.24	0.17	*	—	
	9	R-47E	級熟	不整形 横円形	暗褐色 (10)23(2)	0.32	0.16	*	焼土のブロック含む	
	10	S-47E	級熟	長横円形	暗褐色 (10)22(2)	0.44	0.17	*	焼土のブロック含む	
	11	S-47E	級熟	円形	暗褐色 (10)23(2)	0.12	0.10	*	焼土のブロック含む	
	12	S-47E	級熟	不整形	暗褐色 (10)23(2)	0.60	0.27	*	焼土のブロック含む	
	13	S-47E	級熟	横円形	暗褐色 (10)22(2)	0.26	0.10	*	焼土のブロック含む	
	14	S-47E	級熟	横円形	暗褐色 (7.5)22(2)	0.16	0.12	*	焼土のブロック含む	
	S-47E	級熟	不整形 長円形	暗褐色 (7.5)23(2)	0.40	0.17	*			
UF-18	J-58E	級熟	横円形?	*	0.163	0.32	0.13	—		
UF-19	1	K-52E	級熟	不整形	褐色 (7.5)28(2)	0.36	0.23	0.04	—	
	2	K-52E	級熟	不整形	褐色 (7.5)24(2)	0.78	0.49	0.01		
UF-20	K-L-52E	級熟	不整形	褐色 (7.5)28(2)	1.00	0.49	0.04	使用痕の付く溝		
UF-21	1	L-52E	級熟	不整形	2.5-黄褐色 (5)28(2)	0.793	0.40	0.03	溝	
	2	L-52E	級熟	円形	*	0.12	0.13	0.01		
	3	L-52E	級熟	横円形	*	0.29	0.20	0.03		
UF-22	L-51-52E	級熟	不整形 横円形?	褐色 (5)29(2)	0.643	0.36	0.03	溝		
UF-23	1	L-51E	級熟	不整形?	暗褐色 (5)29(2)	0.443	0.62	0.03	たがき石 使用痕の付く溝	
	2	L-51E	級熟	不整形?	褐色 (5)29(2)	0.443	0.39	0.02		
	炭化物集中	L-51E	級熟	不整形?	褐色 (5)29(2)	0.70	0.39	—		
UF-24	1	L-51E	級熟	不整形	褐色 (5)27(2)	0.68	0.68	0.09	—	
	炭化物集中	L-51E	級熟	横円形	*	0.14	0.12	*	—	
UF-25	N-53E	級熟	横円形	暗赤褐色 (2.5)23(2)	0.22	0.16	0.03	—	炭化物を含む	
UF-26	H-53E	級熟	横円形	褐色 (7.5)23(2)	0.25	0.163	0.05	—		
UF-27	I-54E	級熟	長横円形	褐色 (7.5)22(2)	0.63	0.25	0.02	溝	炭化物を含む	
UF-28	1	M-51E	級熟	不整形	12.4-褐色 (5)27(2)	0.40	0.27	0.04	溝	
	2	M-51E	級熟	横円形	12.4-褐色 (5)27(2)	0.60	0.21	0.02		
UF-29	1	M-N-51E	級熟	不整形	褐色 (5)27(2)	1.80	0.64	0.05	溝	
	2	N-51E	級熟	円形	*	0.32	0.30	*		
	3	N-51E	級熟	不整形 横円形	*	0.17	0.12	*		
UF-30	N-51E	級熟	不整形	暗褐色 (5)28(2)	0.83	0.55	0.04	—		
UF-31	O-51E	級熟	不整形	暗褐色 (5)29(2)	0.66	0.42	0.04	*		
UF-32	1	G-51E	級熟	横円形	褐色 (10)24(4)	0.30	0.20	0.06	—	
	2	G-51E	級熟	横円形	褐色 (10)24(4)	0.29	0.21	0.04		
UF-33	G-45E	級熟	横円形	暗褐色 (10)22(2)	0.38	0.103	0.04	—		
UF-34	H-43E	級熟	横円形	褐色 (7.5)24(4-6)	0.77	0.40	0.05	—		
UF-35	O-51-54E	級熟	横円形	2.5-黄褐色 (10)24(2)	0.223	0.143	0.03	—		
UF-36	J-44E	級熟	横円形	暗褐色 (7.5)23(2)	0.38	0.29	0.04	—		
UF-37	J-45E	級熟	横円形	暗褐色 (10)23(2)	0.28	0.17	0.02	—		
UF-38	D-24E	級熟	横円形	12.4-褐色 (7.5)27(4)	0.143	0.16	0.01	—		
UF-39	焼土	E-26E	級熟	円形	暗褐色 (7.5)28(2)	0.19	0.19	0.01	—	
	炭化物集中	E-26E	級熟	不整形 横円形	—	0.28	0.26	—		
UF-40	1	J-24E	級熟	横円形	黄褐色 (7.5)28(2)	0.13	0.13	*	—	
	2	J-24E	級熟	不整形 横円形	黄褐色 (7.5)28(2)	0.16	0.13	*		
UF-41	J-22E	級熟	不整形	暗赤褐色 (5)25(2)	0.38	0.33	0.05	—		
UF-42	E-27E	級熟	不整形 横円形	暗赤褐色 (5)25(2)	0.84	0.50	0.09	—		

表IV-12 焼土UF一覽(2)

遺構名	グッド	確認層位 (級熟層)	平面形跡	焼土 色調	規模 (m)			主な 出土遺物	備考	
					長さ	短径	最大深			
UF-43	焼土	K-200R	煎焼	不整な 片断	12.5J-褐色 (7.0YR7/4)	0.33	0.20	0.05	近CICUS-11 炭化材料等	
	炭化物集中	K-210R	煎焼	不整な 片断	12.5J-褐色 (7.0YR7/4)	0.10	0.09	---		
UF-44		F-510R	煎焼	不整な 片断	赤赤褐色 (7.5YR5/4)	0.30	0.23	0.04	---	
UF-45		E-405R	煎焼	不整な 片断	褐色 (7.5YR4/4)	0.42	0.30	0.05	---	
UF-46	1	F-495R	煎焼	円形	褐色 (7.5YR4/4)	0.12	0.10	0.01	---	
	2	F-495R	煎焼	楕円形	褐色 (7.5YR4/4)	0.18	0.10	0.01		
	3	F-495R	煎焼	楕円形	褐色 (7.5YR4/4)	0.20	0.14	0.01		
	4	F-495R	煎焼	楕円形	褐色 (7.5YR4/4)	0.16	0.10	0.03		
UF-47		O-440R	煎焼	楕円形?	褐色 (7.5YR4/6)	0.43	0.23	0.06	---	
UF-48		F-455R	煎焼	不整な 片断	暗褐色 (7.0YR3/3)	0.30	0.13	0.01	---	
UF-49		Q-415R	煎焼	不整な 片断	暗褐色 (7.5YR3/3)	0.45	0.30	0.01	---	
UF-50		R-410R	煎焼	不整な 片断	褐色 (7.5YR4/4)	0.28	0.23	0.04	---	
UF-51	炭化物集中	1	L-195R	煎焼	不整な 片断	12.5J-褐色 (7.5YR7/2)	0.33	0.27	0.05	---
		2	L-195R	煎焼	不整な 片断	*	0.33	0.30	*	
		L-195R	煎焼	不整な 片断	---	0.51	0.26	---		
		L-195R	煎焼	不整な 片断	---	0.27	0.22	---		
	炭化物集中	L-195R	煎焼	不整な 片断	---	0.27	0.13	---		
		L-195R	煎焼	不整な 片断	---	0.10	0.09	---		
		L-195R	煎焼	不整な 片断	*	0.54	0.45	*		
		L-195R	煎焼	不整な 片断	---	0.47	0.24	---		
UF-52	焼土	N-195R	煎焼	楕円形	12.5J-褐色 ~暗赤褐色 (7.5YR5/2)	0.48	0.37	0.04	---	
骨片集中	N-195R	煎焼	楕円形	---	0.63	0.42	---	---		
UF-53	炭化物集中	1	U-265R	煎焼	不整な 片断	---	0.72	0.47	0.03	小丸 (T-260R)
		2	U-265R	煎焼	長楕円形	赤褐色 (7.5YR4/2)	0.44	0.16	0.05	
		T-U-260R	煎焼	不整な 片断	---	0.52	0.20	---		
		U-265R	煎焼	不整な 片断	---	0.29	0.16	---		
		U-265R	煎焼	不整な 片断	---	0.26	0.11	---		
UF-54	1	E-145R	煎焼	長楕円形	暗褐色 (7.5YR3/3)	0.37	0.11	0.01	---	
2	E-145R	煎焼	楕円形	暗褐色 (7.5YR3/3)	0.12	0.09	0.01			
3	E-145R	煎焼	楕円形	暗褐色 (7.5YR3/3)	0.12	0.09	0.01			
UF-55	1	E-175R	煎焼	長楕円形	暗褐色 (7.5YR3/4)	0.32	0.18	0.01	---	
	2	E-175R	煎焼	楕円形	暗褐色 (7.5YR3/4)	0.13	0.12	0.01		
	3	E-175R	煎焼	楕円形	暗褐色 (7.5YR3/4)	0.19	0.15	0.01		
UF-56	1	H-175R	煎焼	長楕円形	暗褐色 (7.5YR3/3)	0.29	0.14	0.01	---	
	2	H-175R	煎焼	楕円形	暗褐色 (7.5YR3/3)	0.14	0.10	0.01		
UF-57	炭化物集中	1	F-34-350R	煎焼	楕円形	12.5J-褐色 ~12.5J-褐色 (7.5YR6/4-4/4)	0.30	0.20	0.02	近CICUS-12
		2	F-355R	煎焼	不整な 片断	12.5J-褐色 (7.5YR5/2)	0.38	0.34	*	
		3	F-335R	煎焼	不整な 片断	12.5J-褐色 (7.5YR5/4-4/3)	0.32	0.24	0.01	近CICUS-12
		4	F-335R	煎焼	不整な 片断	12.5J-褐色 (7.5YR5/4)	0.26	0.24	0.01	
		5	F-335R	煎焼	不整な 片断	12.5J-褐色 (7.5YR5/3)	0.19	0.14	0.01	---
		6	G-345R	煎焼	不整な 片断	赤 (7.5YR5/2)	0.57	0.25	*	
		7	G-345R	煎焼	円形	12.5J-褐色 (7.5YR5/2)	0.16	0.16	0.01	---
UF-58		N-295R	煎焼	不整な 片断	12.5J-褐色 (7.5YR5/2)	0.42	0.22	0.05	---	
UF-59	炭層中	1	N-300R	煎焼	不整な 片断	12.5J-褐色 (7.5YR5/2)	0.29	0.20	0.07	---
		2	N-300R	煎焼	楕円形	赤赤褐色 (7.5YR5/2)	0.07	0.03	0.04	
		3	N-300R	煎焼	楕円形	赤赤褐色 (7.5YR5/2)	0.06	0.06	0.02	
UF-60		H-345R	煎焼	楕円形	12.5J-褐色 ~12.5J-褐色 (7.5YR6/4-4/4)	0.35	0.32	0.10	---	
UF-61	1	T-305R	煎焼	不整な 片断	暗褐色 (7.5YR3/3)	0.31	0.24	0.04	---	
	2	T-305R	煎焼	不整な 片断	暗褐色 (7.5YR3/3)	0.25	0.21	0.03		
UF-62	炭層中	1	J-365R	煎焼	不整な 片断	12.5J-暗褐色 (7.5YR4/4)	0.33	0.24	0.02	---
		2	K-365R	煎焼	不整な 片断	暗 褐色 (7.5YR4/4)	0.30	0.18	0.01	
UF-63		K-L-365R	煎焼	楕円形	12.5J-暗褐色 (7.5YR4/4)	0.30	0.38	0.04	---	





表Ⅳ-13 UH・UH柱穴・杭穴(3)

遺構名称	図面	断面図	形式	位置	長さ(m)	直径(m)	埋戻し	埋戻し高さ	最大深さ	主筋	出上蓋物	備考
UH2-24HP-13	4	第1-10-14	UH	A	0.15	0.05	埋戻し	0.43	0.43	—	—	—
UH2-24HP-14												
UH2-24HP-15												
UH2-24HP-16												
UH2-24HP-17												
UH2-24HP-18												
UH2-24HP-19												
UH2-24HP-20												
UH2-24HP-21												
UH2-24HP-22												
UH2-24HP-23												
UH2-24HP-24												
UH2-24HP-25												
UH2-24HP-26												
UH2-24HP-27												
UH2-24HP-28												
UH2-24HP-29												
UH2-24HP-30												
UH2-24HP-31												
UH2-24HP-32												
UH2-24HP-33												
UH2-24HP-34												
UH2-24HP-35												
UH2-24HP-36												
UH2-24HP-37												
UH2-24HP-38												
UH2-24HP-39												
UH2-24HP-40												
UH2-24HP-41												
UH2-24HP-42												
UH2-24HP-43												
UH2-24HP-44												
UH2-24HP-45												
UH2-24HP-46												
UH2-24HP-47												
UH2-24HP-48												
UH2-24HP-49												
UH2-24HP-50												
UH2-24HP-51												
UH2-24HP-52												
UH2-24HP-53												
UH2-24HP-54												
UH2-24HP-55												
UH2-24HP-56												
UH2-24HP-57												
UH2-24HP-58												
UH2-24HP-59												
UH2-24HP-60												
UH2-24HP-61												
UH2-24HP-62												
UH2-24HP-63												
UH2-24HP-64												
UH2-24HP-65												
UH2-24HP-66												
UH2-24HP-67												
UH2-24HP-68												
UH2-24HP-69												
UH2-24HP-70												
UH2-24HP-71												
UH2-24HP-72												
UH2-24HP-73												
UH2-24HP-74												
UH2-24HP-75												
UH2-24HP-76												
UH2-24HP-77												
UH2-24HP-78												
UH2-24HP-79												
UH2-24HP-80												
UH2-24HP-81												
UH2-24HP-82												
UH2-24HP-83												
UH2-24HP-84												
UH2-24HP-85												
UH2-24HP-86												
UH2-24HP-87												
UH2-24HP-88												
UH2-24HP-89												
UH2-24HP-90												
UH2-24HP-91												
UH2-24HP-92												
UH2-24HP-93												
UH2-24HP-94												
UH2-24HP-95												
UH2-24HP-96												
UH2-24HP-97												
UH2-24HP-98												
UH2-24HP-99												
UH2-24HP-100												

表Ⅳ-13 UH・UH柱穴・杭穴(4)

遺構名称	図面	断面図	形式	位置	長さ(m)	直径(m)	埋戻し	埋戻し高さ	最大深さ	主筋	出上蓋物	備考
UH2-24HP-9	6	第1-10-20	UH	A	0.10	0.05	埋戻し	0.24	0.24	—	—	—
UH2-24HP-10												
UH2-24HP-11												
UH2-24HP-12												
UH2-24HP-13												
UH2-24HP-14												
UH2-24HP-15												
UH2-24HP-16												
UH2-24HP-17												
UH2-24HP-18												
UH2-24HP-19												
UH2-24HP-20												
UH2-24HP-21												
UH2-24HP-22												
UH2-24HP-23												
UH2-24HP-24												
UH2-24HP-25												
UH2-24HP-26												
UH2-24HP-27												
UH2-24HP-28												
UH2-24HP-29												
UH2-24HP-30												
UH2-24HP-31												
UH2-24HP-32												
UH2-24HP-33												
UH2-24HP-34												
UH2-24HP-35												
UH2-24HP-36												
UH2-24HP-37												
UH2-24HP-38												
UH2-24HP-39												
UH2-24HP-40												
UH2-24HP-41												
UH2-24HP-42												
UH2-24HP-43												
UH2-24HP-44												
UH2-24HP-45												
UH2-24HP-46												
UH2-24HP-47												
UH2-24HP-48												
UH2-24HP-49												
UH2-24HP-50												
UH2-24HP-51												
UH2-24HP-52												
UH2-24HP-53												
UH2-24HP-54												
UH2-24HP-55												
UH2-24HP-56												
UH2-24HP-57												
UH2-24HP-58												
UH2-24HP-59												
UH2-24HP-60												
UH2-24HP-61												
UH2-24HP-62												
UH2-24HP-63												
UH2-24HP-64												
UH2-24HP-65												
UH2-24HP-66												
UH2-24HP-67												
UH2-24HP-68												
UH2-24HP-69												
UH2-24HP-70												
UH2-24HP-71												
UH2-24HP-72												
UH2-24HP-73												
UH2-24HP-74												
UH2-24HP-75												
UH2-24HP-76												
UH2-24HP-77												
UH2-24HP-78												
UH2-24HP-79												
UH2-24HP-80												
UH2-24HP-81												
UH2-24HP-82												
UH2-24HP-83												
UH2-24HP-84												
UH2-24HP-85												
UH2-24HP-86												
UH2-24HP-87												
UH2-24HP-88												
UH2-24HP-89												
UH2-24HP-90												
UH2-24HP-91												
UH2-24HP-92												
UH2-24HP-93												
UH2-24HP-94												
UH2-24HP-95												
UH2-24HP-96												
UH2-24HP-97												
UH2-24HP-98												
UH2-24HP-99												
UH2-24HP-100												

表Ⅳ-13 UH D·UH柱穴・桩穴(5)

選擇名	區	區別	型式	埋置深度(m)	基礎高度(m)	基礎埋置深度(m)	基礎寬度(m)	基礎縱向長度(m)	主筋出上蓋脚	備考
UH0-31HP-15	6	第1-21-22	UH0-31HP-15	1.00	0.11	0.89	0.38	—	—	—
UH0-41HP-6			1.00	0.11	0.89	0.46	—	—	—	—
UH0-51HP-7			1.00	0.11	0.89	0.55	—	—	—	—
UH0-61HP-17			1.00	0.11	0.89	0.64	—	—	—	—
UH0-71HP-18			1.00	0.11	0.89	0.73	—	—	—	—
UH0-81HP-20			1.00	0.09	0.91	0.11	—	—	—	—
UH0-91HP-21			1.00	0.09	0.91	0.20	—	—	—	—
UH0-10HP-22			1.00	0.09	0.91	0.09	—	—	—	—
UH0-11HP-23			1.00	0.11	0.89	0.30	—	—	—	—
UH0-12HP-24			1.00	0.09	0.91	0.11	—	—	—	—
UH0-13HP-25			1.00	0.11	0.89	0.40	—	—	—	—
UH0-14HP-26			1.00	0.11	0.89	0.49	—	—	—	—
UH0-15HP-27			1.00	0.11	0.89	0.58	—	—	—	—
UH0-16HP-28			1.00	0.11	0.89	0.67	—	—	—	—
UH0-17HP-29			1.00	0.11	0.89	0.76	—	—	—	—
UH0-18HP-30			1.00	0.11	0.89	0.85	—	—	—	—
UH0-19HP-31			1.00	0.11	0.89	0.94	—	—	—	—
UH0-20HP-32			1.00	0.11	0.89	1.03	—	—	—	—
UH0-21HP-33			1.00	0.11	0.89	1.12	—	—	—	—
UH0-22HP-34			1.00	0.11	0.89	1.21	—	—	—	—
UH0-23HP-35			1.00	0.11	0.89	1.30	—	—	—	—
UH0-24HP-36	1.00	0.11	0.89	1.39	—	—	—	—		
UH0-25HP-37	1.00	0.11	0.89	1.48	—	—	—	—		
UH0-26HP-38	1.00	0.11	0.89	1.57	—	—	—	—		
UH0-27HP-39	1.00	0.11	0.89	1.66	—	—	—	—		
UH0-28HP-40	1.00	0.11	0.89	1.75	—	—	—	—		
UH0-29HP-41	1.00	0.11	0.89	1.84	—	—	—	—		
UH0-30HP-42	1.00	0.11	0.89	1.93	—	—	—	—		
UH0-31HP-43	1.00	0.11	0.89	2.02	—	—	—	—		
UH0-32HP-44	1.00	0.11	0.89	2.11	—	—	—	—		
UH0-33HP-45	1.00	0.11	0.89	2.20	—	—	—	—		
UH0-34HP-46	1.00	0.11	0.89	2.29	—	—	—	—		
UH0-35HP-47	1.00	0.11	0.89	2.38	—	—	—	—		
UH0-36HP-48	1.00	0.11	0.89	2.47	—	—	—	—		
UH0-37HP-49	1.00	0.11	0.89	2.56	—	—	—	—		
UH0-38HP-50	1.00	0.11	0.89	2.65	—	—	—	—		
UH0-39HP-51	1.00	0.11	0.89	2.74	—	—	—	—		
UH0-40HP-52	1.00	0.11	0.89	2.83	—	—	—	—		
UH0-41HP-53	1.00	0.11	0.89	2.92	—	—	—	—		
UH0-42HP-54	1.00	0.11	0.89	3.01	—	—	—	—		
UH0-43HP-55	1.00	0.11	0.89	3.10	—	—	—	—		
UH0-44HP-56	1.00	0.11	0.89	3.19	—	—	—	—		
UH0-45HP-57	1.00	0.11	0.89	3.28	—	—	—	—		
UH0-46HP-58	1.00	0.11	0.89	3.37	—	—	—	—		
UH0-47HP-59	1.00	0.11	0.89	3.46	—	—	—	—		
UH0-48HP-60	1.00	0.11	0.89	3.55	—	—	—	—		
UH0-49HP-61	1.00	0.11	0.89	3.64	—	—	—	—		
UH0-50HP-62	1.00	0.11	0.89	3.73	—	—	—	—		
UH0-51HP-63	1.00	0.11	0.89	3.82	—	—	—	—		
UH0-52HP-64	1.00	0.11	0.89	3.91	—	—	—	—		
UH0-53HP-65	1.00	0.11	0.89	4.00	—	—	—	—		
UH0-54HP-66	1.00	0.11	0.89	4.09	—	—	—	—		
UH0-55HP-67	1.00	0.11	0.89	4.18	—	—	—	—		
UH0-56HP-68	1.00	0.11	0.89	4.27	—	—	—	—		
UH0-57HP-69	1.00	0.11	0.89	4.36	—	—	—	—		
UH0-58HP-70	1.00	0.11	0.89	4.45	—	—	—	—		
UH0-59HP-71	1.00	0.11	0.89	4.54	—	—	—	—		
UH0-60HP-72	1.00	0.11	0.89	4.63	—	—	—	—		
UH0-61HP-73	1.00	0.11	0.89	4.72	—	—	—	—		
UH0-62HP-74	1.00	0.11	0.89	4.81	—	—	—	—		
UH0-63HP-75	1.00	0.11	0.89	4.90	—	—	—	—		
UH0-64HP-76	1.00	0.11	0.89	4.99	—	—	—	—		
UH0-65HP-77	1.00	0.11	0.89	5.08	—	—	—	—		
UH0-66HP-78	1.00	0.11	0.89	5.17	—	—	—	—		
UH0-67HP-79	1.00	0.11	0.89	5.26	—	—	—	—		
UH0-68HP-80	1.00	0.11	0.89	5.35	—	—	—	—		
UH0-69HP-81	1.00	0.11	0.89	5.44	—	—	—	—		
UH0-70HP-82	1.00	0.11	0.89	5.53	—	—	—	—		
UH0-71HP-83	1.00	0.11	0.89	5.62	—	—	—	—		
UH0-72HP-84	1.00	0.11	0.89	5.71	—	—	—	—		
UH0-73HP-85	1.00	0.11	0.89	5.80	—	—	—	—		
UH0-74HP-86	1.00	0.11	0.89	5.89	—	—	—	—		
UH0-75HP-87	1.00	0.11	0.89	5.98	—	—	—	—		
UH0-76HP-88	1.00	0.11	0.89	6.07	—	—	—	—		
UH0-77HP-89	1.00	0.11	0.89	6.16	—	—	—	—		
UH0-78HP-90	1.00	0.11	0.89	6.25	—	—	—	—		
UH0-79HP-91	1.00	0.11	0.89	6.34	—	—	—	—		
UH0-80HP-92	1.00	0.11	0.89	6.43	—	—	—	—		
UH0-81HP-93	1.00	0.11	0.89	6.52	—	—	—	—		
UH0-82HP-94	1.00	0.11	0.89	6.61	—	—	—	—		
UH0-83HP-95	1.00	0.11	0.89	6.70	—	—	—	—		
UH0-84HP-96	1.00	0.11	0.89	6.79	—	—	—	—		
UH0-85HP-97	1.00	0.11	0.89	6.88	—	—	—	—		
UH0-86HP-98	1.00	0.11	0.89	6.97	—	—	—	—		
UH0-87HP-99	1.00	0.11	0.89	7.06	—	—	—	—		
UH0-88HP-100	1.00	0.11	0.89	7.15	—	—	—	—		
UH0-89HP-101	1.00	0.11	0.89	7.24	—	—	—	—		
UH0-90HP-102	1.00	0.11	0.89	7.33	—	—	—	—		
UH0-91HP-103	1.00	0.11	0.89	7.42	—	—	—	—		
UH0-92HP-104	1.00	0.11	0.89	7.51	—	—	—	—		
UH0-93HP-105	1.00	0.11	0.89	7.60	—	—	—	—		
UH0-94HP-106	1.00	0.11	0.89	7.69	—	—	—	—		
UH0-95HP-107	1.00	0.11	0.89	7.78	—	—	—	—		
UH0-96HP-108	1.00	0.11	0.89	7.87	—	—	—	—		
UH0-97HP-109	1.00	0.11	0.89	7.96	—	—	—	—		
UH0-98HP-110	1.00	0.11	0.89	8.05	—	—	—	—		
UH0-99HP-111	1.00	0.11	0.89	8.14	—	—	—	—		
UH0-100HP-112	1.00	0.11	0.89	8.23	—	—	—	—		
UH0-101HP-113	1.00	0.11	0.89	8.32	—	—	—	—		
UH0-102HP-114	1.00	0.11	0.89	8.41	—	—	—	—		
UH0-103HP-115	1.00	0.11	0.89	8.50	—	—	—	—		
UH0-104HP-116	1.00	0.11	0.89	8.59	—	—	—	—		
UH0-105HP-117	1.00	0.11	0.89	8.68	—	—	—	—		
UH0-106HP-118	1.00	0.11	0.89	8.77	—	—	—	—		
UH0-107HP-119	1.00	0.11	0.89	8.86	—	—	—	—		
UH0-108HP-120	1.00	0.11	0.89	8.95	—	—	—	—		
UH0-109HP-121	1.00	0.11	0.89	9.04	—	—	—	—		
UH0-110HP-122	1.00	0.11	0.89	9.13	—	—	—	—		
UH0-111HP-123	1.00	0.11	0.89	9.22	—	—	—	—		
UH0-112HP-124	1.00	0.11	0.89	9.31	—	—	—	—		
UH0-113HP-125	1.00	0.11	0.89	9.40	—	—	—	—		
UH0-114HP-126	1.00	0.11	0.89	9.49	—	—	—	—		
UH0-115HP-127	1.00	0.11	0.89	9.58	—	—	—	—		
UH0-116HP-128	1.00	0.11	0.89	9.67	—	—	—	—		
UH0-117HP-129	1.00	0.11	0.89	9.76	—	—	—	—		
UH0-118HP-130	1.00	0.11	0.89	9.85	—	—	—	—		
UH0-119HP-131	1.00	0.11	0.89	9.94	—	—	—	—		
UH0-120HP-132	1.00	0.11	0.89	10.03	—	—	—	—		
UH0-121HP-133	1.00	0.11	0.89	10.12	—	—	—	—		
UH0-122HP-134	1.00	0.11	0.89	10.21	—	—	—	—		
UH0-123HP-135	1.00	0.11	0.89	10.30	—	—	—	—		
UH0-124HP-136	1.00	0.11	0.89	10.39	—	—	—	—		
UH0-125HP-137	1.00	0.11	0.89	10.48	—	—	—	—		
UH0-126HP-138	1.00	0.11	0.89	10.57	—	—	—	—		
UH0-127HP-139	1.00	0.11	0.89	10.66	—	—	—	—		
UH0-128HP-140	1.00	0.11	0.89	10.75	—	—	—	—		
UH0-129HP-141	1.00	0.11	0.89	10.84	—	—	—	—		
UH0-130HP-142	1.00	0.11	0.89	10.93	—	—	—	—		
UH0-131HP-143	1.00	0.11	0.89	11.02	—	—	—	—		
UH0-132HP-144	1.00	0.11	0.89	11.11	—	—	—	—		
UH0-133HP-145	1.00	0.11	0.89	11.20	—	—	—	—		
UH0-134HP-146	1.00	0.11	0.89	11.29	—	—	—	—		
UH0-135HP-147	1.00	0.11	0.89	11.38	—	—	—	—		
UH0-136HP-148	1.00	0.11	0.89	11.47	—	—	—	—		
UH0-137HP-149	1.00	0.11	0.89	11.56	—	—	—	—		
UH0-138HP-150	1.00	0.11	0.89	11.65	—	—	—	—		
UH0-139HP-151	1.00	0.11	0.89	11.74	—	—	—	—		
UH0-140HP-152	1.00	0.11	0.89	11.83	—	—	—	—		
UH0-141HP-153	1.00	0.11	0.89	11.92	—	—	—	—		
UH0-142HP-154	1.00	0.11	0.89	12.01	—	—	—	—		
UH0-143HP-155	1.00	0.11	0.89	12.10	—	—	—	—		
UH0-144HP-156	1.00	0.11	0.89	12.19	—	—	—	—		
UH0-145HP-157	1.00	0.11	0.89	12.28	—	—	—	—		
UH0-146HP-158	1.00	0.11	0.89	12.37	—	—	—	—		
UH0-147HP-159	1.00	0.11	0.89	12.46	—	—	—	—		
UH0-148HP-160	1.00	0.11	0.89	12.55	—	—	—	—		
UH0-149HP-161	1.00	0.11	0.89	12.64	—	—	—	—		
UH0-150HP-162	1.00	0.11	0.89	12.73	—	—	—	—		
UH0-151HP-163	1.00	0.11	0.89	12.82	—	—	—	—		
UH0-152HP-164	1.00	0.11	0.89	12.91	—	—	—	—		
UH0-153HP-165	1.00	0.11	0.89	13.00	—	—	—	—		
UH0-154HP-166	1.00	0.11	0.89	13.09	—	—				

表Ⅳ-13 UH D・UH柱穴・杭穴 (7)

遺構名称	原 部材	断面	埋 置 (m)		主 筋	主 筋 出 上 面 筋 節	備 考
			上部	長さ			
UH D-42-HP-18	φ	180	φ	0.15	0.02	0.53	—
UH D-42-HP-17	φ	180	φ	0.08	0.01	0.88	—
UH D-42-HP-16	φ	180	φ	0.08	0.01	0.88	—
UH D-42-HP-5	φ	180	φ	0.09	0.02	0.18	—
UH D-42-HP-4	φ	180	φ	0.13	0.03	0.16	—
UH D-42-HP-6	φ	180	φ	0.11	0.02	0.29	—
UH D-42-HP-7	φ	180	φ	0.11	0.03	0.09	—
UH D-42-HP-8	φ	180	φ	0.08	0.02	0.13	—
UH D-42-HP-9	φ	180	φ	0.08	0.02	0.15	—
UH D-42-HP-1	φ	180	φ	0.11	0.02	0.38	—
UH D-42-HP-2	φ	180	φ	0.11	0.03	0.11	—
UH D-42-HP-3	φ	180	φ	0.13	0.03	0.30	—
UH D-42-HP-4	φ	180	φ	0.11	0.03	0.11	—
UH D-42-HP-5	φ	180	φ	0.11	0.03	0.11	—
UH D-42-HP-6	φ	180	φ	0.11	0.03	0.11	—
UH D-42-HP-7	φ	180	φ	0.13	0.03	0.25	—
UH D-42-HP-8	φ	180	φ	0.13	0.03	0.18	—
UH D-42-HP-9	φ	180	φ	0.13	0.03	0.25	—
UH D-42-HP-10	φ	180	φ	0.14	0.02	0.30	—
UH D-42-HP-11	φ	180	φ	0.11	0.03	0.35	—
UH D-42-HP-12	φ	180	φ	0.11	0.03	0.35	—
UH D-42-HP-13	φ	180	φ	0.15	0.03	0.35	—
UH D-42-HP-14	φ	180	φ	0.11	0.02	0.43	—
UH D-42-HP-15	φ	180	φ	0.11	0.02	0.43	—
UH D-42-HP-16	φ	180	φ	0.11	0.02	0.35	—
UH D-42-HP-17	φ	180	φ	0.09	0.02	0.35	—
UH D-42-HP-18	φ	180	φ	0.08	0.02	0.15	—
UH D-42-HP-19	φ	180	φ	0.15	0.03	0.20	—
UH D-42-HP-20	φ	180	φ	0.11	0.03	0.35	—
UH D-42-HP-21	φ	180	φ	0.11	0.03	0.35	—
UH D-42-HP-22	φ	180	φ	0.13	0.03	0.19	—
UH D-42-HP-23	φ	180	φ	0.09	0.02	0.23	—
UH D-42-HP-4	φ	180	φ	0.11	0.02	0.45	—
UH D-42-HP-5	φ	180	φ	0.11	0.03	0.35	—
UH D-42-HP-6	φ	180	φ	0.11	0.02	0.38	—
UH D-42-HP-7	φ	180	φ	0.11	0.02	0.38	—
UH D-42-HP-8	φ	180	φ	0.11	0.02	0.38	—
UH D-42-HP-9	φ	180	φ	0.13	0.02	0.35	—
UH D-42-HP-10	φ	180	φ	0.15	0.11	—	—
UH D-42-HP-11	φ	180	φ	0.15	0.02	0.30	—
UH D-42-HP-12	φ	180	φ	0.15	0.03	0.31	—
UH D-42-HP-13	φ	180	φ	0.15	0.03	0.31	—
UH D-42-HP-14	φ	180	φ	0.15	0.03	0.31	—
UH D-42-HP-15	φ	180	φ	0.15	0.03	0.31	—
UH D-42-HP-16	φ	180	φ	0.15	0.03	0.31	—
UH D-42-HP-17	φ	180	φ	0.15	0.03	0.31	—
UH D-42-HP-18	φ	180	φ	0.15	0.03	0.31	—
UH D-42-HP-19	φ	180	φ	0.15	0.03	0.31	—
UH D-42-HP-20	φ	180	φ	0.15	0.03	0.31	—
UH D-42-HP-21	φ	180	φ	0.15	0.03	0.31	—
UH D-42-HP-22	φ	180	φ	0.15	0.03	0.31	—
UH D-42-HP-23	φ	180	φ	0.15	0.03	0.31	—
UH D-50-HP-7A	φ	180	φ	0.19	0.02	0.30	—
UH D-50-HP-8A	φ	180	φ	0.19	0.02	0.31	—
UH D-50-HP-9A	φ	180	φ	0.19	0.02	0.31	—
UH D-50-HP-10A	φ	180	φ	0.19	0.02	0.31	—
UH D-50-HP-11A	φ	180	φ	0.19	0.02	0.31	—
UH D-50-HP-12A	φ	180	φ	0.19	0.02	0.31	—

表Ⅳ-13 UH D・UH柱穴・杭穴 (8)

遺構名称	原 部材	断面	埋 置 (m)		主 筋	主 筋 出 上 面 筋 節	備 考
			上部	長さ			
UH D-52-HP-13A	φ	180	φ	0.08	0.04	0.15	—
UH D-52-HP-13B	φ	180	φ	0.08	0.04	0.15	—
UH D-52-HP-14	φ	180	φ	0.11	0.04	0.45	—
UH D-52-HP-15	φ	180	φ	0.14	0.04	0.18	—
UH D-52-HP-16	φ	180	φ	0.14	0.04	0.18	—
UH D-52-HP-17	φ	180	φ	0.13	0.02	0.42	—
UH D-52-HP-18	φ	180	φ	0.17	0.03	0.45	—
UH D-52-HP-19	φ	180	φ	0.09	0.02	0.31	—
UH D-52-HP-20	φ	180	φ	0.13	0.03	0.34	—
UH D-52-HP-21A	φ	180	φ	0.13	0.03	0.48	—
UH D-52-HP-21B	φ	180	φ	0.09	0.04	0.28	—
UH D-52-HP-2	φ	180	φ	0.13	0.03	0.39	—
UH D-52-HP-3	φ	180	φ	0.13	0.03	0.45	—
UH D-52-HP-4	φ	180	φ	0.14	0.02	0.13	—
UH D-52-HP-5	φ	180	φ	0.14	0.02	0.13	—
UH D-52-HP-6	φ	180	φ	0.12	0.02	0.29	—
UH D-52-HP-7	φ	180	φ	0.09	0.02	0.18	—
UH D-52-HP-8	φ	180	φ	0.10	0.02	0.29	—
UH D-52-HP-9	φ	180	φ	0.10	0.02	0.29	—
UH D-52-HP-10	φ	180	φ	0.09	0.02	0.30	—
UH D-52-HP-11	φ	180	φ	0.10	0.03	0.30	—
UH D-52-HP-12	φ	180	φ	0.08	0.01	0.13	—
UH D-52-HP-13A	φ	180	φ	0.13	0.04	0.35	—
UH D-52-HP-13B	φ	180	φ	0.13	0.04	0.35	—
UH D-52-HP-2	φ	180	φ	0.13	0.04	0.20	—
UH D-52-HP-3	φ	180	φ	0.13	0.04	0.41	—
UH D-52-HP-4	φ	180	φ	0.14	0.04	0.60	—
UH D-52-HP-5	φ	180	φ	0.13	0.04	0.31	—
UH D-52-HP-6	φ	180	φ	0.13	0.04	0.48	—
UH D-52-HP-7	φ	180	φ	0.13	0.04	0.48	—
UH D-52-HP-8	φ	180	φ	0.13	0.03	0.44	—
UH D-52-HP-9	φ	180	φ	0.13	0.03	0.48	—
UH D-52-HP-10	φ	180	φ	0.13	0.03	0.48	—
UH D-52-HP-11	φ	180	φ	0.16	0.03	0.51	—
UH D-52-HP-12	φ	180	φ	0.16	0.03	0.51	—
UH D-52-HP-13	φ	180	φ	0.16	0.04	0.52 (0.30)	—
UH D-52-HP-14	φ	180	φ	0.16	0.04	0.50	—
UH D-52-HP-15	φ	180	φ	0.14	0.04	0.43	—
UH D-52-HP-16	φ	180	φ	0.14	0.04	0.43	—
UH D-52-HP-17	φ	180	φ	0.08	0.03	0.08	—
UH D-52-HP-18	φ	180	φ	0.10	0.03	0.33	—
UH D-52-HP-19	φ	180	φ	0.10	0.03	0.33	—
UH D-52-HP-20	φ	180	φ	0.08	0.02	0.13	—
UH D-52-HP-21	φ	180	φ	0.10	0.03	0.33	—
UH D-52-HP-22	φ	180	φ	0.09	0.02	0.14	—
UH D-52-HP-23	φ	180	φ	0.11	0.02	0.18	—
UH D-52-HP-4	φ	180	φ	0.10	0.03	0.13	—
UH D-52-HP-5	φ	180	φ	0.10	0.03	0.13	—
UH D-52-HP-6	φ	180	φ	0.10	0.03	0.13	—
UH D-52-HP-7	φ	180	φ	0.10	0.03	0.13	—
UH D-52-HP-8	φ	180	φ	0.10	0.03	0.13	—
UH D-52-HP-9	φ	180	φ	0.10	0.03	0.13	—
UH D-52-HP-10	φ	180	φ	0.10	0.03	0.13	—
UH D-52-HP-11	φ	180	φ	0.10	0.03	0.13	—
UH D-52-HP-12	φ	180	φ	0.10	0.03	0.13	—
UH D-52-HP-13	φ	180	φ	0.09	0.02	0.03	—
UH D-52-HP-14	φ	180	φ	0.09	0.02	0.03	—







表IV-14 柱穴・杭穴一覧(5)

調査区	柱穴	位置	径	深	土質	備考
F-01	1	1	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-02	2	2	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-03	3	3	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-04	4	4	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-05	5	5	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-06	6	6	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-07	7	7	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-08	8	8	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-09	9	9	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-10	10	10	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-11	11	11	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-12	12	12	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-13	13	13	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-14	14	14	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-15	15	15	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-16	16	16	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-17	17	17	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-18	18	18	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-19	19	19	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-20	20	20	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-21	21	21	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-22	22	22	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-23	23	23	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-24	24	24	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-25	25	25	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-26	26	26	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-27	27	27	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-28	28	28	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-29	29	29	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-30	30	30	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-31	31	31	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-32	32	32	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-33	33	33	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-34	34	34	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-35	35	35	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-36	36	36	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-37	37	37	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-38	38	38	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-39	39	39	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-40	40	40	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-41	41	41	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-42	42	42	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-43	43	43	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-44	44	44	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-45	45	45	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-46	46	46	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-47	47	47	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-48	48	48	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-49	49	49	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-50	50	50	φ100	1.0	硬質粘土層	

表IV-14 柱穴・杭穴一覧(6)

調査区	柱穴	位置	径	深	土質	備考
F-51	51	51	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-52	52	52	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-53	53	53	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-54	54	54	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-55	55	55	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-56	56	56	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-57	57	57	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-58	58	58	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-59	59	59	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-60	60	60	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-61	61	61	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-62	62	62	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-63	63	63	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-64	64	64	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-65	65	65	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-66	66	66	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-67	67	67	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-68	68	68	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-69	69	69	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-70	70	70	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-71	71	71	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-72	72	72	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-73	73	73	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-74	74	74	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-75	75	75	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-76	76	76	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-77	77	77	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-78	78	78	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-79	79	79	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-80	80	80	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-81	81	81	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-82	82	82	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-83	83	83	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-84	84	84	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-85	85	85	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-86	86	86	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-87	87	87	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-88	88	88	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-89	89	89	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-90	90	90	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-91	91	91	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-92	92	92	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-93	93	93	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-94	94	94	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-95	95	95	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-96	96	96	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-97	97	97	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-98	98	98	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-99	99	99	φ100	1.0	硬質粘土層	
F-100	100	100	φ100	1.0	硬質粘土層	









表IV-14 柱穴・杭穴一覧(13)

調査年度	調査種別	調査箇所	調査内容	調査結果	調査方法	調査者
1991	調査	1-1	調査	調査	調査	調査
1992	調査	1-2	調査	調査	調査	調査
1993	調査	1-3	調査	調査	調査	調査
1994	調査	1-4	調査	調査	調査	調査
1995	調査	1-5	調査	調査	調査	調査
1996	調査	1-6	調査	調査	調査	調査
1997	調査	1-7	調査	調査	調査	調査
1998	調査	1-8	調査	調査	調査	調査
1999	調査	1-9	調査	調査	調査	調査
2000	調査	1-10	調査	調査	調査	調査
2001	調査	1-11	調査	調査	調査	調査
2002	調査	1-12	調査	調査	調査	調査
2003	調査	1-13	調査	調査	調査	調査
2004	調査	1-14	調査	調査	調査	調査
2005	調査	1-15	調査	調査	調査	調査
2006	調査	1-16	調査	調査	調査	調査
2007	調査	1-17	調査	調査	調査	調査
2008	調査	1-18	調査	調査	調査	調査
2009	調査	1-19	調査	調査	調査	調査
2010	調査	1-20	調査	調査	調査	調査
2011	調査	1-21	調査	調査	調査	調査
2012	調査	1-22	調査	調査	調査	調査
2013	調査	1-23	調査	調査	調査	調査
2014	調査	1-24	調査	調査	調査	調査
2015	調査	1-25	調査	調査	調査	調査
2016	調査	1-26	調査	調査	調査	調査
2017	調査	1-27	調査	調査	調査	調査
2018	調査	1-28	調査	調査	調査	調査
2019	調査	1-29	調査	調査	調査	調査
2020	調査	1-30	調査	調査	調査	調査

表IV-14 柱穴・杭穴一覧(14)

調査年度	調査種別	調査箇所	調査内容	調査結果	調査方法	調査者
1991	調査	2-1	調査	調査	調査	調査
1992	調査	2-2	調査	調査	調査	調査
1993	調査	2-3	調査	調査	調査	調査
1994	調査	2-4	調査	調査	調査	調査
1995	調査	2-5	調査	調査	調査	調査
1996	調査	2-6	調査	調査	調査	調査
1997	調査	2-7	調査	調査	調査	調査
1998	調査	2-8	調査	調査	調査	調査
1999	調査	2-9	調査	調査	調査	調査
2000	調査	2-10	調査	調査	調査	調査
2001	調査	2-11	調査	調査	調査	調査
2002	調査	2-12	調査	調査	調査	調査
2003	調査	2-13	調査	調査	調査	調査
2004	調査	2-14	調査	調査	調査	調査
2005	調査	2-15	調査	調査	調査	調査
2006	調査	2-16	調査	調査	調査	調査
2007	調査	2-17	調査	調査	調査	調査
2008	調査	2-18	調査	調査	調査	調査
2009	調査	2-19	調査	調査	調査	調査
2010	調査	2-20	調査	調査	調査	調査
2011	調査	2-21	調査	調査	調査	調査
2012	調査	2-22	調査	調査	調査	調査
2013	調査	2-23	調査	調査	調査	調査
2014	調査	2-24	調査	調査	調査	調査
2015	調査	2-25	調査	調査	調査	調査
2016	調査	2-26	調査	調査	調査	調査
2017	調査	2-27	調査	調査	調査	調査
2018	調査	2-28	調査	調査	調査	調査
2019	調査	2-29	調査	調査	調査	調査
2020	調査	2-30	調査	調査	調査	調査





表 IV - 14 柱穴・杭穴一覧 (19)

調査年度	調査箇所	調査内容	調査結果	調査者
2014	3-1	...	...	...
2014	3-2	...	...	...
2014	3-3	...	...	...
2014	3-4	...	...	...
2014	3-5	...	...	...
2014	3-6	...	...	...
2014	3-7	...	...	...
2014	3-8	...	...	...
2014	3-9	...	...	...
2014	3-10	...	...	...
2014	3-11	...	...	...
2014	3-12	...	...	...
2014	3-13	...	...	...
2014	3-14	...	...	...
2014	3-15	...	...	...
2014	3-16	...	...	...
2014	3-17	...	...	...
2014	3-18	...	...	...
2014	3-19	...	...	...
2014	3-20	...	...	...
2014	3-21	...	...	...
2014	3-22	...	...	...
2014	3-23	...	...	...
2014	3-24	...	...	...
2014	3-25	...	...	...
2014	3-26	...	...	...
2014	3-27	...	...	...
2014	3-28	...	...	...
2014	3-29	...	...	...
2014	3-30	...	...	...
2014	3-31	...	...	...
2014	3-32	...	...	...
2014	3-33	...	...	...
2014	3-34	...	...	...
2014	3-35	...	...	...
2014	3-36	...	...	...
2014	3-37	...	...	...
2014	3-38	...	...	...
2014	3-39	...	...	...
2014	3-40	...	...	...
2014	3-41	...	...	...
2014	3-42	...	...	...
2014	3-43	...	...	...
2014	3-44	...	...	...
2014	3-45	...	...	...
2014	3-46	...	...	...
2014	3-47	...	...	...
2014	3-48	...	...	...
2014	3-49	...	...	...
2014	3-50	...	...	...
2014	3-51	...	...	...
2014	3-52	...	...	...
2014	3-53	...	...	...
2014	3-54	...	...	...
2014	3-55	...	...	...
2014	3-56	...	...	...
2014	3-57	...	...	...
2014	3-58	...	...	...
2014	3-59	...	...	...
2014	3-60	...	...	...
2014	3-61	...	...	...
2014	3-62	...	...	...
2014	3-63	...	...	...
2014	3-64	...	...	...
2014	3-65	...	...	...
2014	3-66	...	...	...
2014	3-67	...	...	...
2014	3-68	...	...	...
2014	3-69	...	...	...
2014	3-70	...	...	...
2014	3-71	...	...	...
2014	3-72	...	...	...
2014	3-73	...	...	...
2014	3-74	...	...	...
2014	3-75	...	...	...
2014	3-76	...	...	...
2014	3-77	...	...	...
2014	3-78	...	...	...
2014	3-79	...	...	...
2014	3-80	...	...	...
2014	3-81	...	...	...
2014	3-82	...	...	...
2014	3-83	...	...	...
2014	3-84	...	...	...
2014	3-85	...	...	...
2014	3-86	...	...	...
2014	3-87	...	...	...
2014	3-88	...	...	...
2014	3-89	...	...	...
2014	3-90	...	...	...
2014	3-91	...	...	...
2014	3-92	...	...	...
2014	3-93	...	...	...
2014	3-94	...	...	...
2014	3-95	...	...	...
2014	3-96	...	...	...
2014	3-97	...	...	...
2014	3-98	...	...	...
2014	3-99	...	...	...
2014	3-100	...	...	...

表 IV - 14 柱穴・杭穴一覧 (20)

調査年度	調査箇所	調査内容	調査結果	調査者
2014	3-101	...	...	...
2014	3-102	...	...	...
2014	3-103	...	...	...
2014	3-104	...	...	...
2014	3-105	...	...	...
2014	3-106	...	...	...
2014	3-107	...	...	...
2014	3-108	...	...	...
2014	3-109	...	...	...
2014	3-110	...	...	...
2014	3-111	...	...	...
2014	3-112	...	...	...
2014	3-113	...	...	...
2014	3-114	...	...	...
2014	3-115	...	...	...
2014	3-116	...	...	...
2014	3-117	...	...	...
2014	3-118	...	...	...
2014	3-119	...	...	...
2014	3-120	...	...	...
2014	3-121	...	...	...
2014	3-122	...	...	...
2014	3-123	...	...	...
2014	3-124	...	...	...
2014	3-125	...	...	...
2014	3-126	...	...	...
2014	3-127	...	...	...
2014	3-128	...	...	...
2014	3-129	...	...	...
2014	3-130	...	...	...
2014	3-131	...	...	...
2014	3-132	...	...	...
2014	3-133	...	...	...
2014	3-134	...	...	...
2014	3-135	...	...	...
2014	3-136	...	...	...
2014	3-137	...	...	...
2014	3-138	...	...	...
2014	3-139	...	...	...
2014	3-140	...	...	...
2014	3-141	...	...	...
2014	3-142	...	...	...
2014	3-143	...	...	...
2014	3-144	...	...	...
2014	3-145	...	...	...
2014	3-146	...	...	...
2014	3-147	...	...	...
2014	3-148	...	...	...
2014	3-149	...	...	...
2014	3-150	...	...	...
2014	3-151	...	...	...
2014	3-152	...	...	...
2014	3-153	...	...	...
2014	3-154	...	...	...
2014	3-155	...	...	...
2014	3-156	...	...	...
2014	3-157	...	...	...
2014	3-158	...	...	...
2014	3-159	...	...	...
2014	3-160	...	...	...
2014	3-161	...	...	...
2014	3-162	...	...	...
2014	3-163	...	...	...
2014	3-164	...	...	...
2014	3-165	...	...	...
2014	3-166	...	...	...
2014	3-167	...	...	...
2014	3-168	...	...	...
2014	3-169	...	...	...
2014	3-170	...	...	...
2014	3-171	...	...	...
2014	3-172	...	...	...
2014	3-173	...	...	...
2014	3-174	...	...	...
2014	3-175	...	...	...
2014	3-176	...	...	...
2014	3-177	...	...	...
2014	3-178	...	...	...
2014	3-179	...	...	...
2014	3-180	...	...	...
2014	3-181	...	...	...
2014	3-182	...	...	...
2014	3-183	...	...	...
2014	3-184	...	...	...
2014	3-185	...	...	...
2014	3-186	...	...	...
2014	3-187	...	...	...
2014	3-188	...	...	...
2014	3-189	...	...	...
2014	3-190	...	...	...
2014	3-191	...	...	...
2014	3-192	...	...	...
2014	3-193	...	...	...
2014	3-194	...	...	...
2014	3-195	...	...	...
2014	3-196	...	...	...
2014	3-197	...	...	...
2014	3-198	...	...	...
2014	3-199	...	...	...
2014	3-200	...	...	...







## V章 V・VI層の遺構

### 1. 概要 (図V-1)

V層は、平成18(2006)年度調査区に接する、南側部分、東西数字ライン、13~26・27を調査した。調査した遺構はTピット2基(TP-1・2)、焼土10か所(LF-63~72)、石斧集中1か所で、時期は縄文時代と考える。

### 2. Tピット (図V-2 表V-1 図版26)

#### TP-1

位置 L-20区 規模 1.48×1.22 / 0.87×0.41 / 1.50 m

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた、東側を掘り下げ断面を確認したところ、坑底と壁の立ち上がりがみられたので、遺構と判断した。深さからTピットである。

覆土は、Ⅲ・V層主体の黒色土とⅦ層主体の黄褐色土があり、坑底面は曲線的に中央がくぼみ、壁は直立気味に立ち上がる。

付属遺構 坑底面では先端部が尖る小杭穴を3か所確認した。覆土は黒色土主体である。

時期 縄文時代晩期以前である。

#### TP-2

位置 F・G-26区 規模 1.20×0.90 / 0.98×0.37 / 1.50m

確認・調査 包含層調査中、VI層で黒色土がみられた、東側を掘り下げ断面を確認したところ、坑底と壁の立ち上がりがみられたので、遺構と判断した。深さからTピットである。

土層断面は記録していないが、覆土はⅢ・V層主体の黒色土とⅦ層主体の黄褐色土で、坑底面は概して平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

付属遺構 坑底面で先端部が尖る小杭穴を2か所確認した。覆土は黒色土主体である。

時期 縄文時代晩期以前である。

### 3. 焼土 (表V-2)

焼土は表V-2にまとめた。V層が被熱し赤褐色系の色調を呈するものが多い。縄文時代晩期後半以前と判断する。

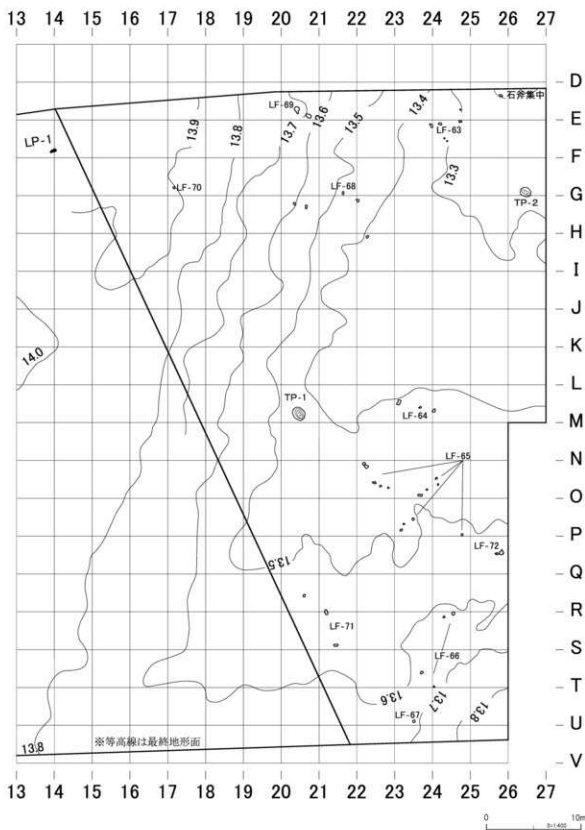
### 4. 石斧集中 (図V-2 表V-3)

位置 D-25区 規模 0.37×0.20 / - m

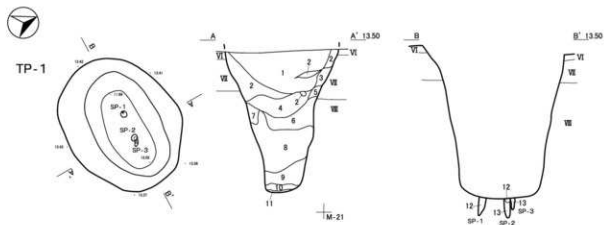
確認・調査 包含層調査中、風倒木痕Ⅶ層で磨製石斧の未製品が5点まとまって出土した。

時期 縄文時代と考える。

(広田)

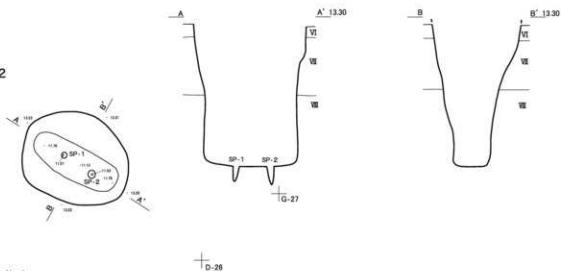


図V-1 V層 遺構位置図



遺構番号	種類	位置	土質層	所在層	構造	計測方法		調査者	調査年度	調査場所	土質の調査結果		備考	
						野外地	掘削				種類	調査層		
TP-1	1	礎石基礎	V層	—	基礎	野外地	掘削	赤土	1970.11	中	掘	赤土層	—	—
	2	礎石基礎	VI層・VII層	V層	基礎	掘削	掘削	赤土	1970.12	中	掘	赤土層	—	—
	3	礎石基礎	VI層・VII層	V層	基礎	掘削	掘削	赤土	1970.12	中	掘	赤土層	—	—
	4	礎石基礎	V層	VII層	基礎	掘削	掘削	赤土	1970.11	中	掘	赤土層	—	—
	5	礎石基礎	VII層	—	基礎	掘削	掘削	赤土	1970.14	中	掘	赤土層	—	—
	6	礎石基礎	VI層・VII層	V層	基礎	掘削	掘削	赤土	1970.12	中	掘	赤土層	—	—
	7	礎石基礎	VI層・VII層	V層	基礎	掘削	掘削	赤土	1970.12	中	掘	赤土層	—	—
	8	礎石基礎	VII層	—	基礎	掘削	掘削	赤土	1970.12	中	掘	赤土層	—	—
	9	礎石基礎	V層	VII層・VIII層	基礎	掘削	掘削	赤土	1970.11	中	掘	赤土層	—	—
	10	礎石基礎	VII層	—	基礎	掘削	掘削	赤土	1970.14	中	掘	赤土層	—	—
	11	礎石基礎	V層	—	基礎	掘削	掘削	赤土	1970.11	中	掘	赤土層	—	—
TP-1-1	礎石基礎	V層	VII層	基礎	掘削	掘削	赤土	1970.12	中	掘	赤土層	—	—	
TP-1-2	礎石基礎	V層	VII層	基礎	掘削	掘削	赤土	1970.12	中	掘	赤土層	—	—	
TP-1-3	礎石基礎	V層	VII層	基礎	掘削	掘削	赤土	1970.14	中	掘	赤土層	—	—	

TP-2



石斧集中



図V-2 TP・石斧集中

表V-2 焼土一覽

遺構名	グリッド	確認層位 (被熱層)	平面形態	焼土 色調	規模 (m)			主な出土遺物	備考	
					長径	短径	最大厚			
LF-63	1	D-24K	V層	円形	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	0.13	0.13	0.01	—	
	2	E-24K	V層	不整な楕円形	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	0.32	0.36	0.01	—	
	3	E-24K	V層	不整な楕円形	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	0.37	0.48	0.05	—	
	4	E-23-24K	V層	楕円形	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	0.46	0.23	0.02	—	
	5	E-24K	V層	円形	暗赤褐色 (2.5YR4/6)	0.25	0.11	0.05	—	
	6	E-24K	V層	円形	暗赤褐色 (5YR3/3)	0.14	0.11	0.05	—	
LF-64	1	L-23K	V層	不整な楕円形	暗赤褐色 (5YR3/3)	0.57	0.34	0.003	—	
	2	L-23K	V層	不整な楕円形	暗赤褐色 (5YR3/3)	0.29	0.18	0.003	—	
	3	L-23-24K	V層	不整な楕円形	暗赤褐色 (2.5YR4/6)	0.34	0.33	0.01	—	
	4	M-24K	V層	不整な楕円形	赤褐色 (2.5YR4/6)	0.31	0.19	0.06	—	
LF-65	1	N-22K	*	双円形	にぶい褐～褐色 (7.5YR5/4～7/4)	0.73	0.40	0.05	—	
	2	N-22K	*	不整な楕円形	褐色 (7.5YR7/4)	0.40	0.23	0.003	—	
	3	N-22K	*	不整な楕円形	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	0.24	0.18	0.003	—	
	4	N-22K	*	不整な円形	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	0.18	0.16	0.003	—	
	5	N-24K	V1層	楕円形	暗赤褐色 (5YR3/3)	0.27	0.17	0.03	—	
	6	N-24K	V1層	楕円形	暗赤褐色 (5YR3/3)	0.15	0.15	0.003	—	
	7	N-23K	V～V1層	不整な楕円形	赤褐色 (2.5YR4/6)	0.18	0.17	0.05	—	
	8	N-23K	V1層	双円形	暗赤褐色 (5YR3/3)	0.50	0.24	0.003	—	
	9	O-23K	V～V1層	隅丸方形	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	0.29	0.25	0.01	—	
	10	O-23K	V層	楕円形	にぶい赤褐 ～暗赤褐色 (5YR4/4～3/3)	0.19	0.15	0.01	—	
	11	O-23K	V層	楕円形	にぶい赤褐色 (5YR3/3～4/4)	0.31	0.19	0.01	—	
	12	O-24K	V層	楕円形	にぶい赤褐 ～暗赤褐色 (5YR4/4～3/3)	0.25	0.20	0.01	—	
LF-66	1	R-24K	V層	不整な楕円形	にぶい赤褐 ～暗赤褐色 (5YR4/4～3/3)	0.36	0.30	0.005	—	
	2	R-24K	V層	不整な楕円形	にぶい赤褐 ～暗赤褐色 (5YR4/4～3/3)	0.24	0.18	0.005	—	
	3	S-23K	V層	不整な楕円形	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	0.34	0.25	0.006	—	
	4	S-24K	V1層	楕円形	暗赤褐色 (5YR3/3)	0.19	0.14	0.01	—	
LF-67	T-23K	V層	円形	にぶい赤褐色 (2.5YR5/8～4/3)	0.27	0.24	0.04	—		
LF-68	1	H-22K	V層	楕円形	明赤褐 ～赤褐色 (0.5YR5/1～1/6)	0.34	0.22	0.02	—	
	2	G-21-22K	V層	不整な楕円形	暗～赤褐色 (5YR6/6～4/6)	0.35	0.27	0.01	—	
	3	F-21K	V層	楕円形	赤褐色 (5YR4/6)	0.33	0.18	0.02	—	
	4	G-20K	V層	双円形	明赤褐 ～赤褐色 (5YR5/6～4/6)	0.40	0.20	0.10	—	
	5	G-20K	V層	楕円形	明赤褐 ～赤褐色 (5YR5/6～4/6)	0.32	0.22	0.04	—	
LF-69	1	D-20K	V層	楕円形	明赤褐色 (5YR5/6)	0.62	0.38	0.005	—	
	2	D-20K	V層	不整な楕円形	暗赤褐色 (5YR3/3)	0.78	0.52	0.003	—	
LF-70	F-17K	V層	円形	明赤褐～ にぶい赤褐色 (2.5YR5/6～4/3)	0.25	0.21	0.03	—	炭化材 土層サンプル採取	
LF-71	1	Q-20K	V層	楕円形	にぶい赤褐色 (5YR4/3)	0.48	0.24	0.005	—	
	2	Q-R-21K	V層	双円形	にぶい赤褐色 (5YR4/3)	0.56	0.32	0.05	—	
	3	R-21K	V層	双円形	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	0.48	0.24	0.005	—	
LF-72	1	P-25K	*	不整な円形	にぶい褐色 (5YR7/4)	0.46	0.45	0.003	—	炭化材
	2	P-25K	*	楕円形	褐色 (2.5YR7/8)	0.30	0.20	*	—	炭化材

表V-1 TP一覽

遺構名	図	図版	グリッド	平面形態	規模 (m)				付属遺構	主な出土遺物	備考	
					確認面		底面					最大深
					長径	短径	長径	短径				
TP-1	V-2	26	L-20区	楕円形	1.48	1.22	0.87	0.41	1.50	小柱穴 3φ45	—	
SP-1				円形	0.07		—		0.20	断面形態:尖		
SP-2				円形	0.07		0.03		0.20	断面形態:丸		
SP-3				不整な楕円形	0.07		—		0.12	断面形態:尖		
TP-2	V-2	26	F・G -26区	隅丸長方形	1.20	0.96	0.98	0.37	1.50	小柱穴 2φ45	—	
SP-1				円形	0.06		—		0.16	断面形態:尖		
SP-2				円形	0.06		—		0.19	断面形態:尖		

表V-3 石斧集中

遺構名	図	グリッド	確認層位	規模 (m)		出土遺物	備考				
				長径	短径						
石斧集中	V-2	D-25区	FⅦ層	0.37	0.20	磨製石斧未製品					
				遺物種別 / 層位		F層	小計	合計	小計	備考	
				種別	器種	残存状態					
				礫石器	磨製石斧未製品	完形	5	5	5	5	
						半完形			0		
						半形			0		
片			0								
合計			5	5	5						
遺物番号	土器	時期	部位	残存状態	点数	層位	標高 (m)	備考			
	石器(器種)		岩石名								
1	磨製石斧未製品	緑色泥岩	完形	1	1	F層	13.43				
2	磨製石斧未製品	緑色泥岩	完形	1	1	F層	13.42				
3	磨製石斧未製品	緑色泥岩	完形	1	1	F層	13.39				
4	磨製石斧未製品	緑色泥岩	完形	1	1	F層	13.41				
5	磨製石斧未製品	緑色泥岩	完形	1	1	F層	13.27				

## VI章 遺構・包含層出土の遺物

### 1. 概要

遺構出土の遺物点数は、表VI-1～7にまとめた。遺構出土土器で4個体復原できた。竪穴住居跡UHP-17から擦文土器1個体、土器集中3か所から縄文土器2個体、擦文土器1個体である。石器は、縄文時代の磨製石斧集中出土の石斧未製品を5点掲載した。

包含層出土の遺物は、出土分布図(図VI-1～13)、出土点数表(表VI-8・9)を掲載した。土器はVII群土器9個体を復原した。破片土器は、I群・II群・III群・IV群・V群の縄文土器とVII群の擦文土器を掲載した。最も出土が多いのは、擦文土器である。また、掲載していないが、近世と判断される肥前系と備前系の陶磁器がある。

石器は、石鏃、石槍・ナイフ、つまみ付きナイフ、スクレイパー、磨製石斧、砥石、たたき石、石製品がある。

また、住居の炉跡や灰集中にみられた自然遺物は、大きなものはそのまま取り上げ、微細なものは土壌ごと取り上げ水洗浮遊選別法により遺物を回収した(表VI-27～29 IX章2節 参照)。

### 2. 土器・石器等

#### (1) 復原土器

遺構出土(図VI-14 図版27)

1・2・3は土器集中出土で、4はUHP-17出土である。

1は強く外反する口縁部からすぼまり、頸部がわずかにくぼみ、曲線的に底部へとすぼまる器形で、口縁部には矢羽状の刻みと平行する複数の沈線文がみられ、胴部中～下位には同心円状の押捺がある貼付閉鎖帯がめぐる。擦文文化期後半と判断する。2は直立気味の口縁部で、胴部から直線的に底部へ至る器形で、口縁部には横方向と縦方向の菱形の微隆起線文が、その間は横走する縄文である。胴部より下位は縞縄文が間隔をあけずに施される。縄文時代後半の後北A式と考える。3は、直立気味の口縁部で、胴部から直線的に底部へいたる器形で、口縁部～胴部中位は円形と曲線的な微隆起線文と三角列点文、縄文が施され、胴部下位～底部は縞縄文である、接合しない片口部の破片があり(図VI-16-9)、縄文時代後半の後北C<sub>2</sub>・D式の片口土器と考える。4は強く外反する口縁部で、胴部は曲線的に膨らむ器形で、口縁部は調整により横方向に段がみられ、胴部はタテミガキである。擦文時代後期と考える。

包含層出土(図VI-15 図版28・29)

1は胴部が直立気味の器形で、沈線文と刻文、同心円状の押捺がある貼付閉鎖帯が施される。2は口縁部が外反し、胴部はゆるやかな曲線の器形で、器面調整はヘラミガキで、口縁部近くは横位、これより下位は縦方向である。3は開き気味の胴部から曲線的に底部へすぼまる器形で、ヘラミガキがみられる。4は直立気味の胴部から底部へすぼまる器形で、調整は縦方向である。5は大きく開く胴部から底部へと直線的にすぼまる器形で、タテミガキである。6～8は底部で、6は指頭圧痕、7はヨコナデ、8はミガキがみられる。9は小型で直線的な器形である。

1～9は擦文時代後期と判断する。

## (2) 破片土器

### 遺構出土 (図VI-16 図版29)

1・2はタテミガキが施される擦文土器で、UHD-14には伴わない。3～6はUHP-15出土で、3は口縁部で矢羽根状の刺突文が施される。4は底部近くである。5は底部でヨコナデがみられる。6は沈線文と刻文が施される。7・8はUA-21出土で、7は矢羽根状の刻み、刺突文が施され、8はタテハケがみられる。下位の擦文文化期後半の竪穴住居跡UHP-17の遺物と考える。9はUPS-3出土の片口の破片で、復原土器(図VI-14-3)と同一個体で、続縄文時代後半の後北C・D式である。10～12は柱穴・杭穴出土で、10は外面が摩耗し、11は矢羽根状の刺突文、12は沈線文、刺突文が施される。擦文時代後期である。

### 包含層出土 (図VI-17・18 図版29・30)

1・2は然糸文が施され、I群b類の東銅路Ⅳ式で、3は横走気味の条で、節がみられず、II群a類の綱文式と判断する。4は円形刺突文があり、III群b類の北筒式と考える。5は羽状縄文と貼付が、6はLR縄文がみられ、III群b類と判断する。7はナデによる凹状の無文帯と鋸歯状の沈線文、刺突文が施され、8はRL縄文と沈線文、9は胴部下位～底部で沈線文、縄文、刺突文がみられ、7～9はV群c類と判断する。

10は口唇部直下の外面に同心円状の押捺がある貼付開統帯がみられる。11は刺突文が複数施される。12は刺突文と沈線文がみられる。13は口縁部の外反が明瞭で、14は口縁部に直立気味で、ともに刺突文と沈線文が施される。15はナデ調整による沈線文がみられる。16はヘラミガキ調整で、17はナデにより幅広い凹状のへこみがある。18は底部で、タテハケとヨコナデがみられる。19・20は同心円状の押捺が施された貼付開統帯がある。21・22は平行する沈線文が施される。23の胴部上位は沈線文、下位はミガキ調整である。24・25は沈線文の間に刺突文が複数施される。

10～25は擦文時代後期である。

## (3) 石器等

### 遺構出土

#### ・石斧集中 (図VI-19 図版30)

1～5は石斧集中出土の磨製石斧未製品である。1は厚みがあり敲打痕が多数みられる。2は表面左側縁と、裏面右側縁に大きな剥落痕がみられる。3が素材の形状を残し、側面の一部に加工がみられる。4は完成品に近いもので、使用により鈍くなった刃部を再生しようとしたものかもしれない。5は厚みがあり、表面は上下両端部から、裏面は周囲に剥落痕が、側面と下端面に敲打痕が観察される。

### 包含層出土

#### ・剥片石器 (図VI-20 図版31)

1～7は石鏃で、1～4は無茎、5～7は有茎である。1は基部の内湾が顕著で、2は細身で平基である。3は二等辺三角形を呈し、4は腹面に剥離面を残す。5は細身で薄く、6は先端部、基部、逆刺が尖る形態、7は先端部側の両側縁が曲線的で、基部のそれは直線的である。8・9は石槍・ナイフに分類した。8は左右非対称で、9は側縁が曲線である。10・11はつまみ付きナイフで、10は背腹両面に規則的な素材の剥離面を残し、11はつまみ部の挟りが不明瞭である。12はラウンドスクレイパーで擦文文化期のもものと判断する。13～15は縦長剥片を素材とするスクレイパーで、13は背面に剥離痕が多数みられ、14は背面右側縁が曲線的で刃部を有し、15は背面両側縁に二次調整が施される。







表VI-3 UA出土石器点数表

遺構名		UA-2		UA-5		UA-6		UA-7		UA-8		UA-14		UA-20		UA-21		合計		
分類	遺物種別 / 層位	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計			
剥片石器	破埋																			
	スクレイパー																			
	剥片石器 合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1		
礫石器	たたく石																			
	たたく石																			
	礫石器 合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1		
自然礫	使用痕の あみ礫	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	加工痕の あみ礫	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	礫	片	1	1	3	3	1	1	4	4	2	2	1	1	2	2	3	3	31	31
	自然礫 合計		1	3	3	3	1	1	4	4	2	2	1	1	2	2	3	3	31	31
	合計		1	3	3	3	1	1	4	4	2	2	1	1	2	2	3	3	33	33

表VI-4 US出土石器点数表

遺構名		US-5		US-6		US-7		US-8		US-9		US-10		US-11		US-12		US-13		合計	
分類	遺物種別 / 層位	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計		
剥片石器	破埋																				
	フレイクチップ							21	21												
	剥片石器 合計	0	0	0	0	0	0	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
礫石器	たたく石																				
	たたく石			3	3																
	台石・ 石皿											3	3								
自然礫	使用痕の あみ礫	片	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	加工痕の あみ礫	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	礫	片	17	17	3	3	23	23	54	54	67	67	16	16	2	2	1	1	2	2	
	自然礫 合計		17	17	3	3	23	23	54	54	67	67	16	16	2	2	1	1	2	2	
	合計		20	20	13	13	26	26	72	72	236	236	33	33	5	5	2	2	3	3	32

表VI-5 UF・貝殻集中出土石器点数表

遺構名		UF-15		UF-16		UF-20		UF-21		UF-22		UF-24		UF-27		UF-28		UF-29		合計
分類	遺物種別 / 層位	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	
礫石器	たたく石																			
	たたく石	1	1									1	1							
	礫石器 合計	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
自然礫	使用痕の あみ礫	片	0	0	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	加工痕の あみ礫	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	礫	片	36	36	5	5	16	16	4	4	1	1	50	50	2	2	1	1	6	6
	自然礫 合計		36	36	5	5	17	17	4	4	1	1	50	50	2	2	1	1	6	6
	合計		37	37	5	5	17	17	4	4	1	1	51	51	2	2	1	1	6	6

表VI-6 UPS・UFC出土石器点数表

遺構名		UPS-1		UFC-1		合計
分類	遺物種別 / 層位	数量	小計	数量	小計	
剥片石器	破埋					
	UFCフレイク フレイクチップ	1	1	3	3	4
	剥片石器 合計	1	1	3	3	4
合計		1	1	3	3	4

表VI-7 SP出土石器点数表

遺構名		SP-238		SP-362		SP-895		SP-849		SP-1319		SP-1457		SP-1483		SP-1885		SP-1784		合計	
分類	遺物種別 / 層位	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計	数量	小計		
剥片石器	破埋																				
	スクレイパー																				
	剥片石器 合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自然礫	使用痕の あみ礫	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	加工痕の あみ礫	片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	礫	片	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	自然礫 合計		3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	合計		3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

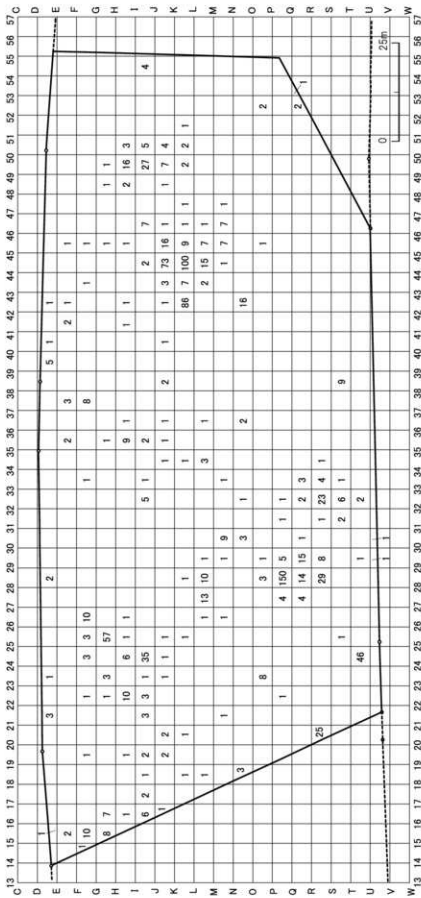
表VI-8 包含層出土土器点数表(1)

遺物種別 / 層位		I層	V層	VI層	H層 (掘り上げ土層)	I層 (擾乱)	その他 (表探)	合計	
時期	部位								残存状態
I群	複数部位							0	
	口縁部	良好	小計	2	小計	小計	小計	小計	2
		剝離							0
		磨耗	0	4	0	0	0	0	4
		小破片		2					2
	底部	良好	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0
		剝離							0
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0
		小破片	0	0	0	0	0	0	0
	胴部	良好	小計	24	小計	小計	小計	小計	24
		剝離		10					10
		磨耗	0	41	0	0	0	0	41
		小破片	0	7	0	0	0	0	7
	不明 その他	良好	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0
		剝離							0
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0
小破片		0	0	0	0	0	0	0	
小計		0	45	0	0	0	0	45	
II群	複数部位							0	
	口縁部	良好	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0
		剝離							0
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0
		小破片							0
	底部	良好	小計	2	小計	小計	小計	小計	2
		剝離							0
		磨耗	0	2	0	0	0	0	2
		小破片							0
	胴部	良好	小計	28	小計	1	小計	小計	29
		剝離		14					14
		磨耗	0	47	1	0	0	0	48
		小破片	0	5	0	0	0	0	5
	不明 その他	良好	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0
		剝離							0
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0
小破片		0	0	0	0	0	0	0	
小計		0	49	1	0	0	0	50	
III群	複数部位							0	
	口縁部	良好	小計	4	小計	小計	小計	小計	4
		剝離							0
		磨耗	0	5	0	0	0	0	5
		小破片	1						1
	底部	良好	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0
		剝離							0
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0
		小破片	0	0	0	0	0	0	0
	胴部	良好	小計	14	小計	1	小計	小計	15
		剝離		65					65
		磨耗	65	144	1	0	0	0	145
		小破片	0	65	0	0	0	0	65
	不明 その他	良好	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0
		剝離							0
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0
小破片		0	0	0	0	0	0	0	
小計		149	1	0	0	0	0	150	
IV群	複数部位							0	
	口縁部	良好	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0
		剝離							0
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0
		小破片							0
	底部	良好	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0
		剝離							0
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0
		小破片	0	0	0	0	0	0	0
	胴部	良好	小計	5	小計	小計	小計	小計	5
		剝離							0
		磨耗	5	0	0	0	0	0	5
		小破片	0	0	0	0	0	0	0
	不明 その他	良好	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0
		剝離							0
		磨耗	0	0	0	0	0	0	0
小破片		0	0	0	0	0	0	0	
小計		5	0	0	0	0	0	5	

表VI-8 包含層出土土器点数表(2)

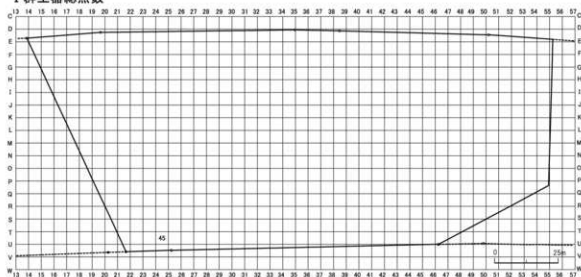
遺物種別 / 層位		III層		V層		VI層		H層 (掘り上げ土層)		I層 (擾乱)		その他 (表採)		合計		
時期	部位	保存状態														
甕群	複数部位		4										4			
	口縁部	良好	66	小計		小計		小計		小計		小計	66	小計		
		剝離	10										10			
		磨耗 小破片	78		0		0		0		0		0	78		
	底部	良好	34	小計		小計		小計		小計		小計	34	小計		
		剝離	12										12			
		磨耗 小破片	46		0		0		0		0		0	46		
	胴部	良好	382	小計		小計		小計		小計	1	小計	383	小計		
		剝離	138										138			
		磨耗 小破片	167	687	1	1		0		0	1		0	689		
	不明 その他	良好		小計		小計		小計		小計		小計	0	小計		
		剝離											0			
		磨耗											0			
		小破片											0			
	小計		815		1		0		0		1		0		817	
未分類	複数部位												0			
	口縁部	良好	2	小計		小計		小計		小計		小計	2	小計		
		剝離	1										1			
		磨耗 小破片	3		0		0		0		0		0	3		
	底部	良好		小計	1	小計		小計		小計		小計	1	小計		
		剝離											0			
		磨耗 小破片	0		1		0		0		0		0	1		
	胴部	良好	22	小計	7	小計		小計		小計		小計	29	小計		
		剝離	16		1								17			
		磨耗 小破片	7	45	1	9		0		0		0	8	54		
	不明 その他	良好		小計		小計		小計		小計		小計	0	小計		
		剝離											0			
		磨耗											0			
		小破片		0		0		0		0		0	0	0		
	小計		48		10		0		0		0		0		58	
陶磁器	複数部位								1				1			
	口縁部	良好		小計		小計		小計		小計		小計	2	小計	2	小計
		剝離											0		0	
		磨耗 小破片	0		0		0		0		0		2	0	2	
	底部	良好		小計		小計		小計		小計		小計	1	小計	1	小計
		剝離											0		0	
		磨耗 小破片	0		0		0		0		0		1	0	1	
	胴部	良好		小計		小計		小計		小計		小計	0	小計	0	小計
		剝離											0		0	
		磨耗 小破片	0		0		0		0		0		0	0	0	
	不明 その他	良好		小計		小計		小計		小計		小計	0	小計	0	小計
		剝離											0		0	
		磨耗											0		0	
		小破片		0		0		0		0		0	0	0	0	
	小計		0		0		0		1		0		3		4	
合計		1,017		106		1		1		1		3		1,129		

## 土器総点数 N67→20点 表探→1点

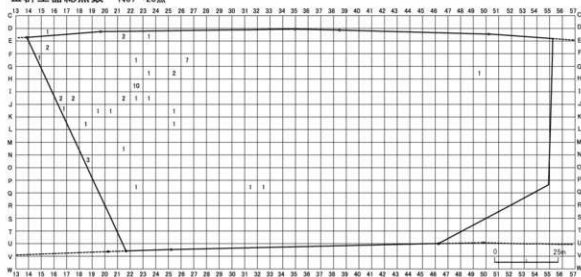


図VI-1 土器分布図(1)

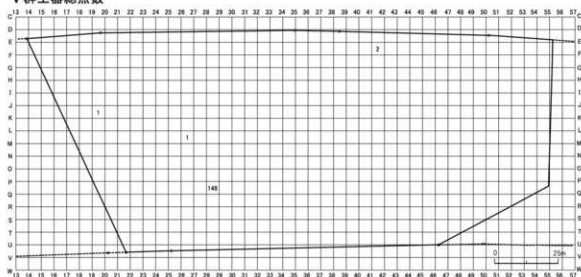
## I 群土器総点数



## III 群土器総点数 N67-20点

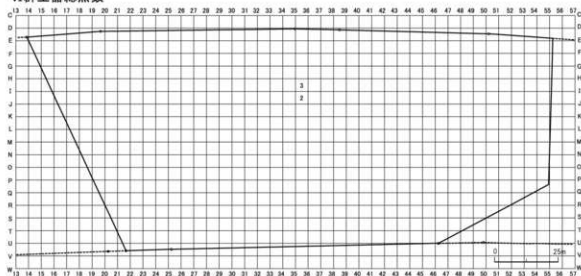


## V 群土器総点数

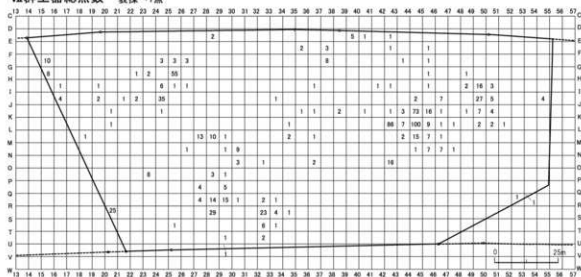


図VI-2 土器分布図(2)

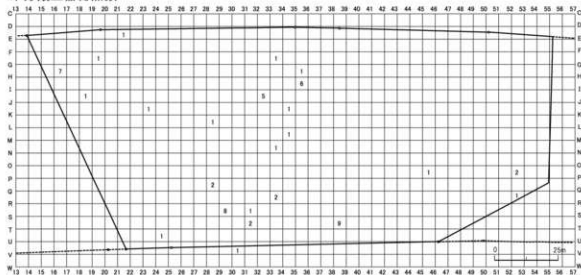
### VI群土器総点数



### VII群土器総点数 表探→1点



### 未分類土器総点数

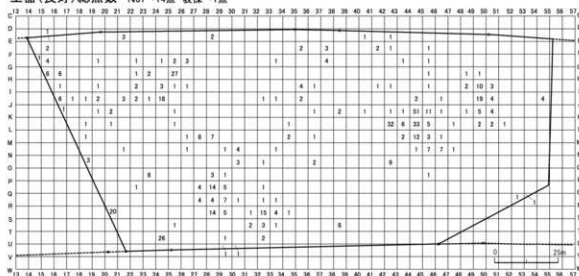


図VI-3 土器分布図(3)

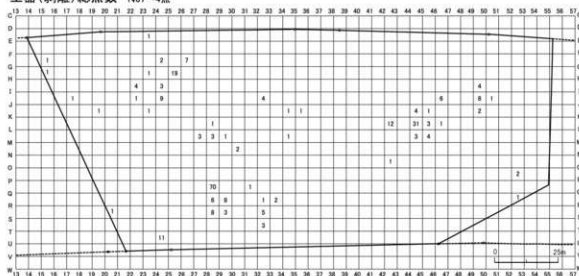




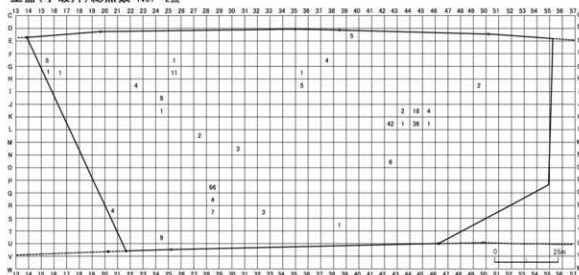
土器(良好)総点数 N67-14点 表掘-1点



土器(剥離)総点数 N67-4点



土器(小破片)総点数 N67-2点

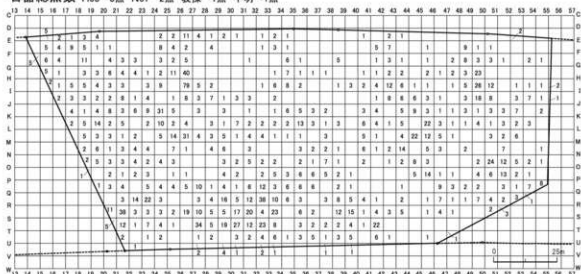


図VI-5 土器分布図(5)

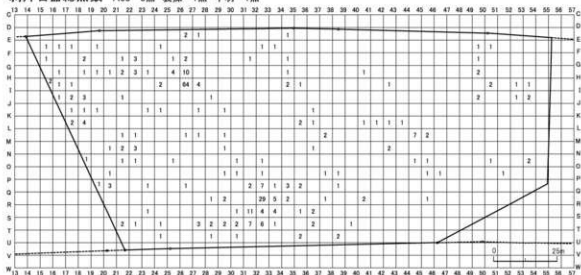
表VI-9 包含層出土石器類点数表

遺物種別 / 階位		III層		V層		VI層		VII層		黒部木炭 (F層)		機軸層 (I層)		その他		合計		
種別	器種	残存状態																
製片石器類	石鏃	突形	14	小計	10	小計	1	小計		小計		小計		小計	24	小計		
		溝突形	7		7										0	0	0	44
		半形	4	25	1	18	1	1		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	石鏃・ナイフ	突形		小計	2	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0	小計	0
		溝突形														0	0	0
		半形	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0
	つまみ付きナイフ	突形		小計	2	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0	小計	0
		溝突形														0	0	0
		半形		0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	スクレイパー	突形	4	小計	1	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	3	小計	0
		溝突形	2		1	1										0	0	0
		半形	1	8	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	0
	U・Rフレイク	片	1	7	3	1										1		11
	石鏃			1														1
	フレイク・チップ			251	23													274
磨石				1													1	
製片石器類合計			293	51	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	345	
礫石器類	磨製石斧	突形	1	小計	2	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0	小計	0
		溝突形	2	7	1	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	24	0
		半形	4	14												0	18	24
	磨製石斧未製品	突形		小計		小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0	小計	0
		溝突形			0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		半形														0	0	0
	磨製石斧原石	突形		小計		小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0	小計	0
		溝突形			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		半形			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	たたき石	突形	5	小計		小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	5	小計	0
		溝突形	3													3		0
		半形	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	11	0
	礫石	突形		小計		小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0	小計	0
		溝突形	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	0
		半形	0													0	0	0
台石・石皿	突形		小計		小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	0	小計	0	
	溝突形	4	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	
	半形														0	0	0	
礫石器類(石鏃)合計			31	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	
石製品	磨粉	突形	1	小計		小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	1	小計	0
		溝突形														0	0	0
		半形		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	石製品	突形	2	小計		小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	2	小計	0
		溝突形														0	0	0
半形		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	
石製品合計			3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
自然礫	使用痕のある礫	突形	6	小計		小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	6	小計	0
		片	20	26	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	27	0
	加工痕のある礫	突形	1	小計		小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	小計	1	小計	0
		片	8	9	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	10	0
	礫	突形	738	小計	31	小計	1	小計	1	小計	1	小計	1	小計	小計	771	小計	0
片	952	1,630	67	98	9	10	1	1	1	1	1	1	1	0	970	1,741	0	
自然礫合計			1,665	100	10	10	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1,778	
合計			1,992	171	12	12	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	2,178	

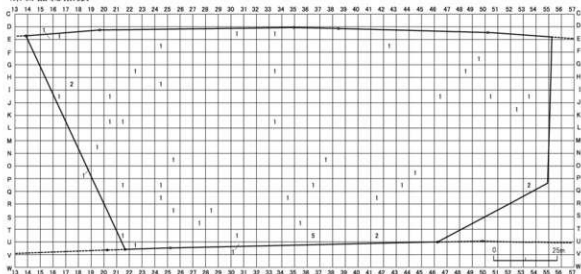
石器総点数 H58→3点 N67→2点 表探→1点 不明→1点



剥片石器総点数 H58→3点 表探→1点 不明→1点

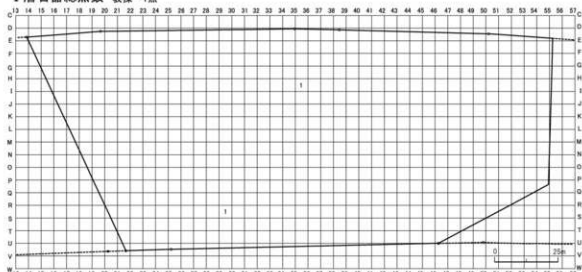


礫石器総点数

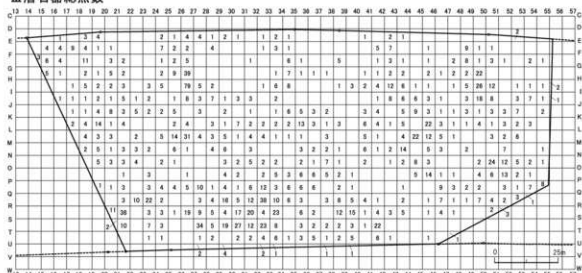


図VI-6 石器分布図(1)

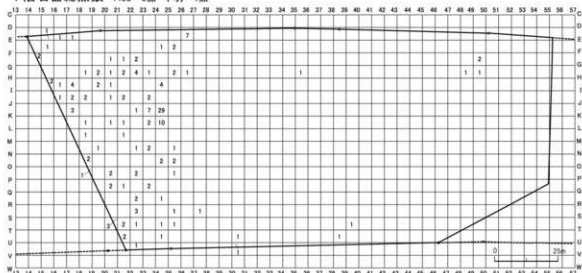
## I 層石器総点数 表探→1点



## III 層石器総点数

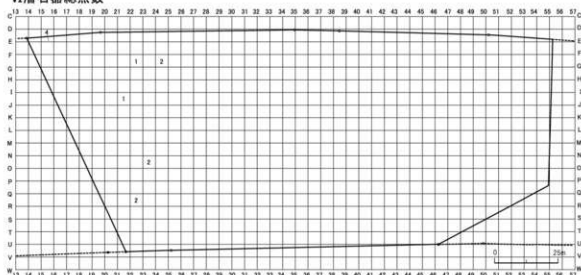


## V 層石器総点数 H56→3点 不明→1点

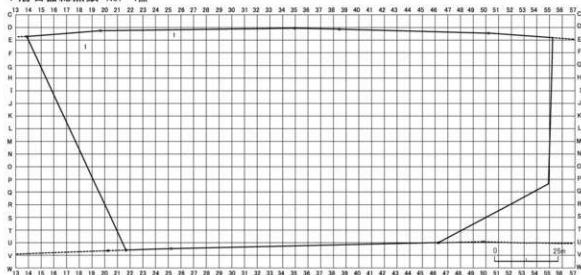


図VI-7 石器分布図(2)

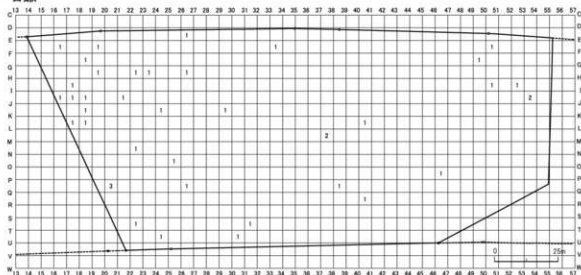
### VI層石器総点数



### F層石器総点数 N67-1点

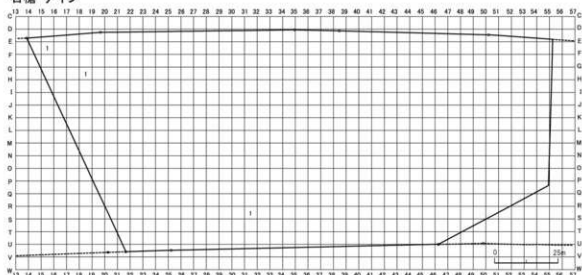


### 石鏃

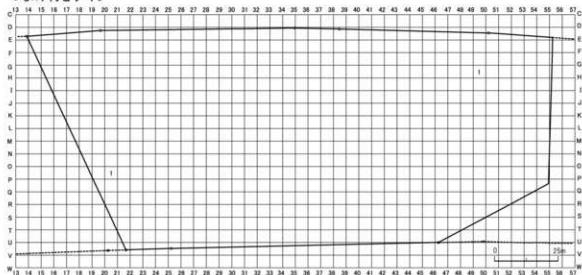


図VI-8 石器分布図(3)

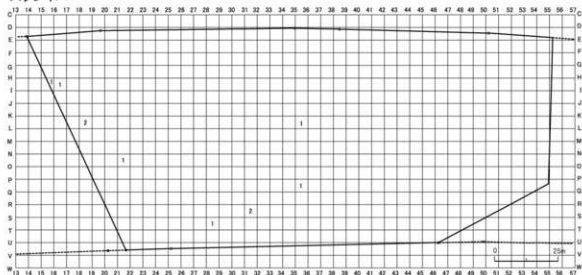
## 石槍・ナイフ



## つまみ付きナイフ

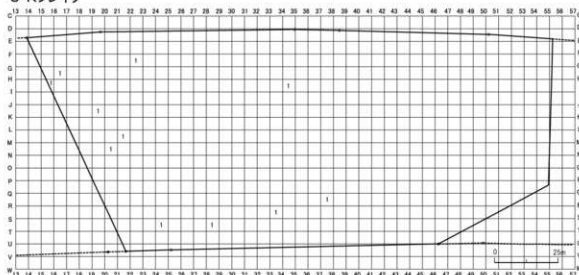


## スクレイパー

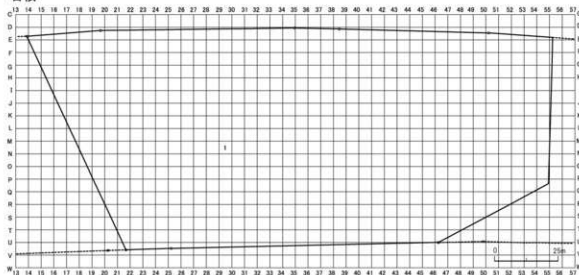


図VI-9 石器分布図(4)

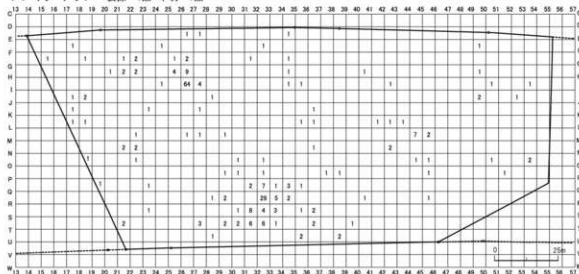
### U・Rフレイク



### 石核

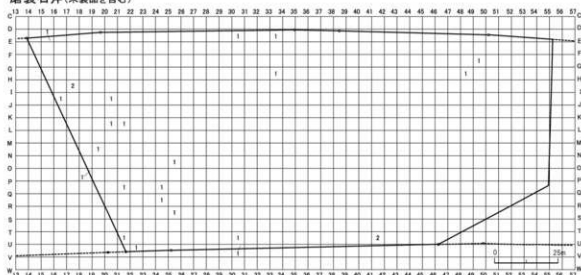


### フレイク・チップ 表層→1点 不明→1点

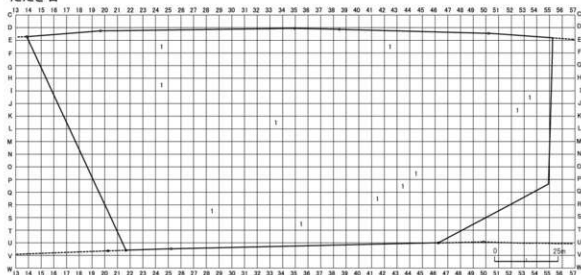


図VI-10 石器分布図(5)

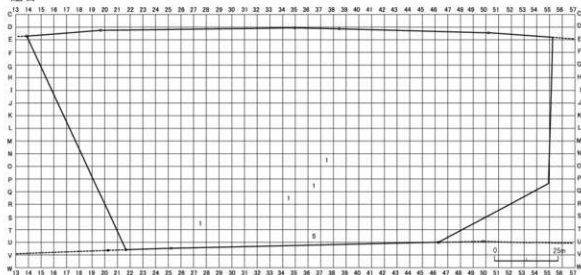
## 磨製石斧(未製品を含む)



## たたき石



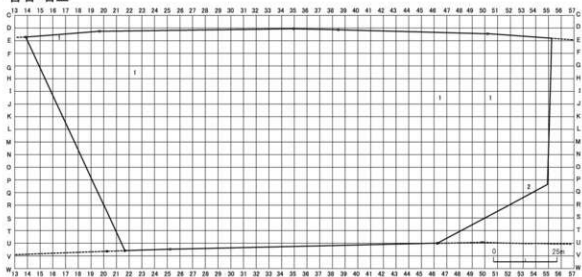
## 砥石



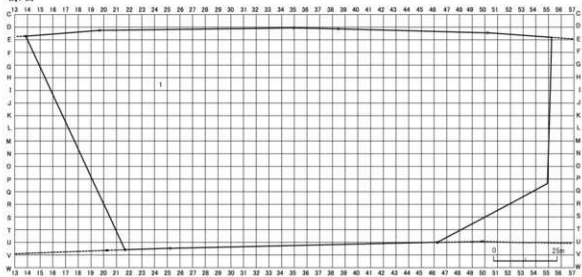
図VI-11 石器分布図(6)



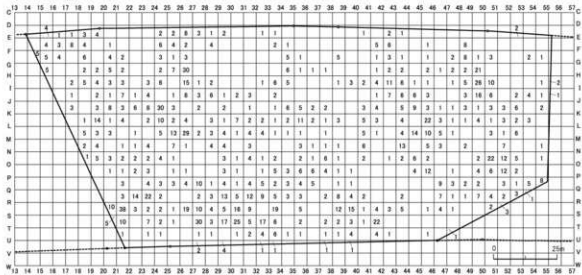
台石・石皿



原石

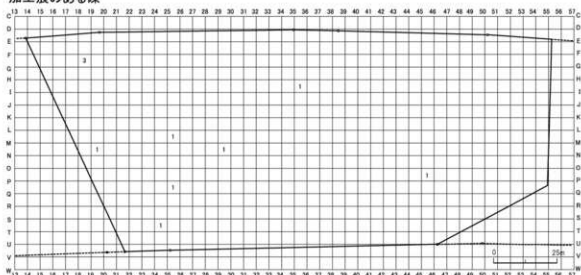


礫 N67→1点

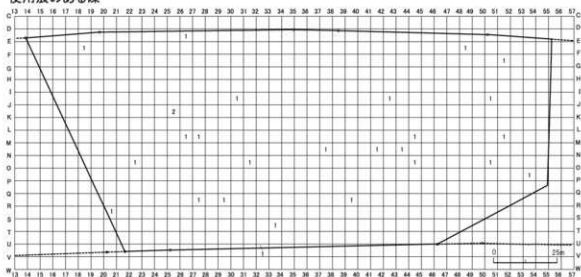


图VI-12 石器分布图(7)

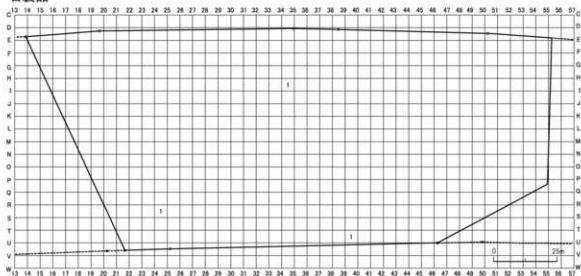
## 加工痕のある礫



## 使用痕のある礫



## 石製品



図VI-13 石器分布図(8)